

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

日韓両言語の授受表現における対照研究

朴 用萬

2013年度

# 目次

目次.....	i
第1章 序論.....	1
1.1 本論文の研究対象.....	1
1.1.1 研究対象そのⅠ.....	3
1.1.2 研究対象そのⅡ.....	4
1.1.3 研究対象そのⅢ.....	5
1.1.4 研究対象そのⅣ.....	6
1.2 本論文の目的と意義および研究方法.....	7
1.3 本論文の構成.....	8
第2章 「授受表現」における「ニ格」「에게 ege 格」の表示と対象物の移動について.....	10
2.1 はじめに.....	10
2.2 先行研究.....	11
2.2.1 Shibatani(1994).....	13
2.2.2 三宅(1996).....	18
2.2.3 加賀(1997).....	22
2.2.4 山田(2004).....	26
2.2.5 2.2節のまとめ.....	29
2.3 「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」構文における「ニ格」と「에게 ege 格」の表示について.....	30
2.3.1 日本語の授受表現.....	30
2.3.2 「에게 ege 格」表示の問題.....	32
2.3.2.1 主動詞が「作成・入手動詞」の場合.....	33
2.3.2.2 主動詞が「状態変化を引き起こす他動詞」の場合.....	35
2.3.2.3 「持ち主の授受表現」における「에게 ege 格」の表示.....	36
2.3.3 「～てやる(あげる)／くれる」と「～어 주다 eo juda」の省略可能性.....	39
2.3.4 2.3節のまとめ.....	44
2.4 「移動」に関する韓国語と日本語の比較.....	45
2.4.1 「～어 주다 eo juda」文と「～てやる／くれる」文における「移動」.....	48
2.4.2 「～어 주다 eo juda」文と「～てあげる／くれる」文の構造.....	50
2.4.3 着点の「에게 ege」と受益者の「に」.....	54
2.4.4 「話し手」または「聞き手」が受益行為を認識しているかどうかで見られる違い.....	55
2.5 おわりに.....	61
第3章 授受表現とアスペクト性について.....	64

3.1	はじめに.....	64
3.2	先行研究.....	68
3.2.1	山田(1997).....	68
3.2.1.1	テイルの表す意味による制限.....	68
3.2.1.1.1	継続を表すテイルとベネファクティブ.....	68
3.2.1.1.2	事態が複数回生起するテイルとベネファクティブ.....	69
3.2.1.1.3	結果残存的用法のテイルとベネファクティブ.....	69
3.2.1.1.4	テイルの状態用法とベネファクティブ.....	69
3.2.1.2	行為の対象の人称による制限.....	70
3.2.1.2.1	テクレル.....	70
3.2.1.2.2	テヤル.....	71
3.2.2	高見・久野(2002).....	72
3.2.3	澤田(2005).....	74
3.2.3.1	先行研究における分析法.....	74
3.2.3.2	澤田(2005)における分析法.....	75
3.2.3.3	「～ていてくれる」と「～てくれている」の相違点.....	76
3.3	韓国語のアスペクト形式.....	78
3.3.1	「～고 있다 go issda」.....	78
3.3.2	「～아 있다 a issda」.....	80
3.3.3	日本語との比較(安 2003).....	82
3.4	「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」.....	84
3.4.1	事実観察.....	84
3.4.1.1	「～ていてくれる（あげる）」が「～어 주다 eo juda（てあげる／くれる）」になる場合.....	84
3.4.1.2	「～어 주다 eo juda」が無視される場合.....	85
3.4.1.3	他の表現形式で解釈する場合.....	86
3.4.1.4	対応関係があると思われる場合.....	86
3.4.2	「アスペクト性」による制限.....	88
3.4.2.1	動詞の「現在単純形」の表わすアスペクト的な意味.....	88
3.4.2.2	「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「動作継続」を表わす場合.....	92
3.4.2.3	「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「結果継続」を表わす場合.....	93
3.4.2.4	「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「持続」を表わす場合.....	94
3.4.2.5	「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「単純状態」と「心理状態」を表わす場合.....	97
3.4.3	「授受動詞」の性質による制限.....	98
3.4.3.1	動作の完了と対象物の移動.....	99
3.4.3.2	持続.....	102

3.4.4	3.4節のまとめ.....	104
3.5	「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」.....	105
3.5.1	事実観察.....	105
3.5.1.1	「～てくれて/あげている」が「～어 주고 있다 eo jugo issda (～てくれて/あげている)」に対応する場合.....	105
3.5.1.2	「～てくれて/あげている」が「～어 주다 eo juda(～てくれる/あげる)」に対応する場合.....	106
3.5.1.3	「～てくれて/あげている」が「～어 주었다 eo ju-eosdda (～てくれた/あげた)になる場合.....	107
3.5.1.4	「～て{くれて/あげて}이{る/た}」が「～어 주곤했다 eo jugonhaessda (～てくれたりした)」などになる場合.....	107
3.5.1.5	「～てくれる/あげる」を訳さない場合.....	108
3.5.1.6	3.5.1節のまとめ.....	109
3.5.2	アスペクトの性質の違い.....	109
3.5.2.1	動詞の「現在単純形」と「動作継続」.....	110
3.5.2.2	「～어 주고 있다 eo jugo issda(～てくれて/あげている)」と「結果継続」.....	111
3.5.2.3	持続、維持、静止動作.....	113
3.5.2.4	「単純状態」動詞と「心理状態」動詞.....	114
3.5.2.5	3.5.2節のまとめ.....	115
3.5.3	授受動詞の性質による違い.....	116
3.5.4	「～어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件.....	118
3.5.4.1	目の前の現象.....	119
3.5.4.2	繰り返しの動作[習慣].....	120
3.5.5	3.5節のまとめ.....	121
3.6	おわりに.....	122
第4章	「授受表現」における非恩恵的な用法について.....	126
4.1	はじめに.....	126
4.2	先行研究.....	128
4.2.1	日本語の場合.....	128
4.2.1.1	松下(1930).....	128
4.2.1.2	豊田(1974).....	129
4.2.1.2.1	「やりもらい」の基本的用法.....	129
4.2.1.2.2	意志を表す補助動詞「やる」.....	132
4.2.1.2.3	方向を表す補助動詞「やる」.....	133
4.2.1.3	山田(2004).....	134
4.2.1.3.1	非恩恵型テヤル.....	134
4.2.1.3.1.1	意志を表すモダリティと非恩恵型テヤル.....	134

4.2.1.3.1.2	受影者の存在による分類.....	136
4.2.1.3.2	非恩恵型テクレル .....	137
4.2.1.3.2.1	遠心的非恩恵型テクレル.....	137
4.2.1.3.2.2	求心的非恩恵型テクレル.....	139
4.2.2	韓国語の場合 .....	141
4.2.2.1	イム パルヨン(林八龍).....	141
4.2.2.2	ファン スンファ(黄順花).....	144
4.2.2.2.1	恩恵を与えるためにする動作ではないテヤリ態.....	145
4.2.2.2.2	恩恵を与えるためにする動作ではないシテクレ態 .....	147
4.2.2.2.3	授受動詞と寄與態 .....	148
4.2.2.3	その他の研究 .....	150
4.2.2.3.1	バン ウンギユ(방운규).....	150
4.2.2.3.2	ク ヒョンジョン(구현정).....	151
4.2.2.3.3	ホ グァンス(호광수).....	152
4.2.2.3.4	モク ジョンス(睦正洙).....	153
4.2.3	4.2節のまとめ.....	154
4.3	与え手 [話し手] に関わる非恩恵用法.....	155
4.3.1	強い意志 .....	155
4.3.2	否定の命令形.....	157
4.3.3	非難の意を表わす用法 .....	159
4.3.3.1	非難の意を表わす用法.....	159
4.3.3.2	アイロニー的用法.....	161
4.4	受け手 [聞き手] に関わる非恩恵.....	163
4.4.1	強調.....	163
4.4.2	「配慮・気配り」と「事態改善のための条件」 .....	164
4.4.2.1	「テヤル/テアゲル」と「~어 주다 eo juda」の配慮・気配り .....	165
4.4.2.1.1	事態改善のための条件.....	165
4.4.2.1.2	instructional language (説明言語) .....	166
4.4.2.2	「~てくれる」の配慮.....	172
4.4.2.2.1	「~ても結構だ」「~て (も) いい」「~といい」などの許可を表す文と結 合した「テクレル」 .....	172
4.4.2.2.2	依頼の「~てくれる (くださる) よう」 .....	175
4.4.3	その他.....	176
4.4.3.1	共感 (第三者から見た恩恵) .....	176
4.4.3.2	丁寧な依頼.....	177
4.4.3.3	被害を与えたり迷惑をかける場面 .....	178
4.4.4	4.4節のまとめ.....	179

4.5	日本語と韓国語の対応関係がずれる場合 .....	180
4.5.1	動詞自体の方向性の意味の有無 .....	180
4.6	おわりに .....	182
第5章	「授受表現」における視点と意志性について .....	185
5.1	はじめに .....	185
5.2	視点 .....	187
5.3	「意志性」に関する先行研究 .....	194
5.3.1	「意志性」の定義 .....	194
5.3.2	堀口(1987) .....	196
5.3.2.1	意志動詞・無意志動詞の定義から見た「くれる」 .....	196
5.3.2.2	助詞・助動詞との結合 .....	198
5.3.2.2.1	可能形 .....	198
5.3.2.3	補助動詞との結合 .....	199
5.3.2.3.1	授受動詞との結合 .....	199
5.3.2.3.2	「みる・みせる・おく」との結合 .....	199
5.4	「やる／くれる」と「주다 juda」の意志性 .....	201
5.4.1	「～う／よう」 .....	201
5.4.2	「命令形」 .....	203
5.4.3	「否定の命令形」 .....	206
5.4.4	「～たい／たがる」 .....	210
5.4.5	「可能形」 .....	213
5.4.6	「～なければならない／なければいけない」 .....	221
5.4.7	「～てみる」 .....	223
5.5	おわりに .....	225
第6章	まとめと結論 .....	228
	参考文献 .....	238
	用例出典 .....	246

# 第1章 序論

## 1.1 本論文の研究対象

物をあげたりもらったり、行為をしてあげたりしてもらったりすることは、人間の言語生活を営んでいく中で欠かせない行為である。それを言語化したものを我々は一般に、「授受表現<sup>1</sup>」と呼ぶ。本論文は日本語と韓国語の「授受表現」を対象とした比較対照研究である。

- (1) a. 太郎が花子にプレゼントをあげた。
- b. 太郎が僕にプレゼントをくれた。
- c. 太郎が花子にプレゼントをもらった。

(1)は授受表現の典型的な例であり、「あげる(やる)」「くれる」「もらう」を使うことによって、「プレゼント」という対象物が誰かから誰かに移動することを表わす。(1a)では、「太郎」から「花子」に「プレゼント」が移動していることが明示されており、(1b)は「太郎」から「僕」に、(1c)においては、「花子」から「太郎」に「プレゼント」という対象物が移動したことを意味している。さて、(1)の文は、「授受動詞」が本動詞として用いられ、物の移動を表わしているが、次のように、「あげる(やる)」「くれる」「もらう」が補助動詞化され、行為の授受の意味として用いられる場合もある。

- (2) a. 太郎が花子にプレゼントを買ってあげた。
- b. 太郎が僕にプレゼントを買ってくれた。
- c. 太郎が花子にプレゼントを買ってもらった。

(2)の各文も授受表現であり、「プレゼント」という対象物の移動だけではなく、「買う」という行為までが移動することを見て取ることができる。(2)は恩恵や対象物の受け手である「二格名詞句」が現われる文であるが、次の(3)のように、「二格名詞句」が現われない、恩恵用法として用いられる文もある。

- (3) a. 太郎が花子のために笑ってやった。
- b. 太郎が僕の代わりに走ってくれた。

---

<sup>1</sup> 「授受表現」の他にも「やりもらい表現」「受給表現」「受益構文」などの用語で呼ばれているが、ここでは、授受表現という用語を使うことにする。ただし、それらの用語における文法的・意味的な大差はない。

c. ちょうどその時、雨が止んでくれた。

一方、韓国語にも日本語と同様な用法が存在する。(1)～(3)を韓国語にすると、以下の(4)～(6)のようになる。

- (4) a. 타로가 하나코에게 선물을 주었다.  
taloga hanako-ege seonmul-eul ju-eossda  
(太郎が 花子に プレゼントを あげた)  
b. 타로가 나에게 선물을 주었다.  
taloga na-ege seonmul-eul ju-eossda  
(太郎が 僕に プレゼントを くれた)  
c. 타로가 하나코에게 선물을 받았다.  
taloga hanako-ege seonmul-eul bad-assda  
(太郎が 花子に プレゼントを もらった)

(4)の各文は、(1)と完全に対応している。ただし、(1a)および(1b)のように、日本語は「やる」と「くれる」を使い分けるのに対し、韓国語の(4a)(4b)では、そのような区別が見られない。「주다 juda<sup>2</sup>」という動詞が「やる」と「くれる」両方の役割を担当しているのである。(1c)に当たる(4c)は「받다 badda」という動詞が用いられており、日本語との対応関係を見せている。次は、上記の(2)の文に当たる韓国語の文である。韓国語においても、日本語と同様に、本動詞を補助動詞にすることができるのであり、(2)(3)の文は各々次の(5)(6)の文のように表わすことができる。

- (5) a. 타로가 하나코에게 선물을 사 주었다.  
taloga hanako-ege seonmul-eul sa ju-eossda  
(太郎が 花子に プレゼントを 買って やった)  
b. 타로가 나에게 선물을 사 주었다.  
taloga na-ege seonmul-eul sa ju-eossda  
(太郎が 僕に プレゼントを 買って やった)  
c. \*타로가 하나코에게 선물을 사 받았다.  
taloga hanako-ege seonmul-eul sa bad-assda  
(太郎が 花子に プレゼントを 買ってもらった)  
(6) a. 타로가 하나코를 위해 웃어 주었다.  
taloga hanakoleul wihae us-eo ju-eossda  
(太郎が 花子の ために 笑って やった)

<sup>2</sup> 韓国語のローマ字表記は「文化観光部第2000-8版」に従う。 [http://urimal.cs.pusan.ac.kr/urimal\\_new/](http://urimal.cs.pusan.ac.kr/urimal_new/)



- b. 타로가 나 대신 뛰어 주었다.  
 taloga na daesin ttwi-eo ju-eosdda  
 (太郎が 私の代わりに 走ってくれた)
- c. 마침 그 때, 비가 그쳐 주었다.  
 machim geu ttae, biga geuchyeo ju-eosdda  
 (ちょうど その時、雨が 止んでくれた)

(5ab) (6ab)のように、日本語の「テヤル」と「テクレル」は「주다 juda」が補助動詞化した「~어 주다 eo juda」という構文で表わすことができる。ここで注目すべきところは、韓国語には(5c)のように日本語の「テモラウ」に当たる表現が欠けているということである。つまり、本動詞の「받다 badda」は補助動詞としては用いることができないということである<sup>34</sup>。それゆえ、(1c) (2c)と(4c) (5c)のような「(て) もらう」と「~어 받다 eo badda」の対応関係は本論文における研究対象としては省くことにする。ということで、本論文の主な研究対象は「やる／くれる」と「주다 juda」の比較対照になるわけである。

上記の(1)~(6)の各文は、「授受動詞」である「やる／くれる」と「주다 juda」の基本的な用法であり、これらの動詞は「やる／くれる」の区別を除くと広い対応関係を見せていると言うことができる。

### 1.1.1 研究対象その I

前述のように、「やる／くれる」と「주다 juda」は多くの場面で対応関係を見せている。例えば、以下のような文における日・韓の解釈上の違いはない。

- (7) a. 太郎は 花子に 料理を 作ってあげた (くれた)。  
 b. 타로는 하나코에게 요리를 만들어 주었다.  
 taloneun hanako-ege yolileul mandeul-eo ju-eosdda

(7)は与え手の「太郎」から受け手の「花子」に、対象物の「料理」が移動することを意味し、「『花子』のために作った」ということで「恩恵」も伴う文である。(7)の文に用いられた「作る」「만들다 mandeulda」はいわゆる「作成・入手動詞」で、「作成・入手」された対象物が移動するために「ニ格」と「에게 ege 格」が付与される。第2章ではまず、このような授受表現における「ニ格」「에게 ege 格」の表示の問題についての考察を行う。

3 一部の動詞は「~어 받다 eo badda」の形態を持っているものもある。例えば「이어받다 i-eobadda(継いでもらう)」「물려받다 mullyeobadda(継いでもらう)」「넘겨받다 neomgyeobadda(渡してもらう)」「건네받다 geonnebadda(渡してもらう)」「(파일 등을) 내려받다(pa-il deung-eul) naelyeo badda(ファイルなどをダウンロードしてもらう)」などが挙げられるが、生産性に乏しく、韓国語においては、「~てもらう」に当たる「~어 받다 eo badda」は存在しないものとして認識されているのが一般的である。

4 「~てもらう」と「~어 받다 eo badda」を比較した研究としては、キム ミンス(金珉秀)(2003)などが挙げられる。

「ニ格」と「에게 ege 格」が表示される動詞類を分類し、それが日本語と韓国語でどう違うを見せているかについて述べる。二番目に、上記の(7)は日・韓両言語で一致性を示しているが、次のような打消しの文ができるかどうかにおいては差が出るということについて考察する<sup>5</sup>。

- (8) a. 太郎は 花子に 料理を 作ってあげたが、まだ わたしていない。  
 b. \*타로는 하나코에게 요리를 만들어 주었으나, 아직 전해주지 않았다.  
 taloneun hanako-ege yolileul mandeul-eo ju-eoss-euna, ajig jeonhaejuji anh-assda

(8a)の日本語は、発話時に、太郎によって作られた料理が花子のところに移動しなくてもいいが、(8b)の韓国語の文では、必ず料理が移動していなければならない(ハンギョンア(韓京娥)2008)。第2章では、このような授受表現における「対象物の移動」に関しての日・韓両言語の違いは何によるものかについて考察する。

### 1.1.2 研究対象そのII

ところで、「授受表現」を表わす文には次のように、アスペクト性を表わす日本語の「～ている」と韓国語の「～아/고 있다 a/go issda」が付くことがある。それにはアスペクト標識が「授受動詞」に前接する(9)(10)のような形式と、「授受動詞」に後接する(11)(12)のような形式とが存在する。

- (9) a. 太郎は 花子の そばに 座っていてくれた。  
 b. 타로는 하나코 옆에 앉아 있어 주었다.  
 taloneun hanako yeop-e anj-a iss-eo ju-eosssda  
 (10) a. 太郎は 花子を 待っていてくれた。  
 b. ??타로는 하나코를 기다리고 있어 주었다.  
 taloneun hanakoleul gidaligo iss-eo ju-eosssda

(9)(10)は「～ている」「～아/고 있다 a/go issda」に「授受動詞」の「やる／くれる」「주다 juda」がそれぞれ前接した形の文であるが、(9)のように、日・韓で対応関係を見せる場合もあれば、(10)のように日・韓両言語が対応しない場合もある。

- (11) a. 太郎は 人びとに 食べ物を 配ってやっていた。  
 b. 타로는 사람들에게 음식을 나누어 주고 있었다.  
 taloneun salamdeul-ege eumsig-eul nanu-eo jugo iss-eosssda

<sup>5</sup> ハンギョンア(韓京娥)(2008)を参照のこと。

- (12) a. 太郎は もう 学校の 正門に 来てくれていた。  
 b. \*타로는 벌써 학교 정문에 와 주고 있었다.  
 taloneun beolsseo haggyo jeongmun-e wa jugo iss-eossda

アスペクト標識が「授受動詞」に後接する(11)(12)も(9)(10)と同様、日・韓の対応関係において差が見られる。その背景については第3章で考察する。特に、両言語の「アスペクト性の違い」と「授受表現の違い」の観点から検討していく。

### 1.1.3 研究対象そのⅢ

一般に「授受表現」を表わす文には恩恵の意味が伴い、「話し手(与え手)」や「聞き手(受け手)」が何らかの「利益」を被るのだが、以下のような文にはそのような恩恵や利益が見られない、一見授受表現とは程遠いと思われる文が存在する。

- (13) a. こんどこそ合格してやる!  
 b. 秋刀魚は3枚におろしてやります。  
 c. よくもそんなことをしてくれたな。  
 d. 何かあったら、いつでも言ってくれていい。

(井島 1999)

(13a)～(13d)は利益や恩恵とは無関係に思われる、「授受表現」の「非恩恵的な用法」の典型例である。(13a)は一般的に「テヤル」の「強い意志」を表わす用法であり<sup>6</sup>、(13b)はいわゆる説明言語(instructional language)として最近よく使われる用法である<sup>7</sup>。(13c)は「テクレル」を使って、「不利益」を被ったことを非難する用法であり<sup>8</sup>、(13d)は、相手の悩みや相談事を迷惑に思わないというニュアンスを伴う、いわゆる「配慮・気配り<sup>9</sup>の『テクレル』」の用法である。このような「テヤル/テクレル」のいわゆる「非恩恵的な用法」については第4章で考察する。先行研究では、「テヤル」と「テクレル」を個別的に分類しているが、本研究では、「話し手[与え手]に関わる用法」と「聞き手[受け手]に関わる用法」とに分けて考察を行う。その結果を、韓国語に照らし合わせ、比較的な観点から考察するのであるが、例えば、次のような対応関係においてずれが生じる原因などを究明する。(13)の各文を韓国語にすると次の(14)のようになる。

<sup>6</sup> 豊田(1974)、山田(2004)などを参照のこと。

<sup>7</sup> 村田(1994)、井島(1999)などを参照のこと。

<sup>8</sup> ファン スンファ(黄順花)(1991)、山田(2004)などを参照のこと。

<sup>9</sup> 「配慮・気配り」という用語は井島(1999)の用語であるが、井島は主に「テヤル」に関する「配慮・気配り」用法について述べている。

- (14) a. 이번에야 말로 합격해 주마!  
 ibeon-e-ya mallo habgyeoghae juma  
 (今度こそ 合格してやる)
- b. 콩치를 세 조각으로 잘라 줍니다.  
 kkongchileul se jogag-eulo jalla jubnida  
 (秋刀魚を 3枚に おろして やります)
- c. \*잘도 그런 일을 해 주었군.  
 jaldo geuleon il-eul hae ju-eossgun  
 (よくも そんなことを してやったな)
- d. \*무슨 일 있으면 언제든지 얘기해 줘도 돼.  
 museun il iss-eumyeon eonjedeunji yaegihae jwodo dwae  
 (何か あったら いつでも 言っ て やっ て い い)

(14a) (14b) は日本語と対応関係を見せているが、(14c) (14d) の韓国語文は非文になっている。 (14) のような違いが生じる原因を、「話し手 [与え手] に関わる用法」と「聞き手 [受け手] に関わる用法」とに分けた分類と両言語の対応関係に基づいて考察する。

#### 1.1.4 研究対象そのIV

最後に「授受表現」における以下のような現象について考察する。

- (15) a. 太郎を 助けてやれ.  
 a'. 타로를 도와 줘.  
 taloleul do-wa jwo
- b. 僕を 助けてくれ.  
 b'. 나를 도와 줘.  
 naleul do-wa jwo

(15) は「命令」の場面で「やる」と「くれる」を用いることができるかどうかを表わした文である。(15ab)のように、「やる」も「くれる」も「命令形」を持って相手に「命令 (もしくは依頼)」することができる。(15a') (15b') は対応する韓国語の文であるが、日本語と同様な意味として用いることができる。ところが、次のような文においては「やる」と「くれる」とで、許容度における差が見られる。

- (16) a. 太郎を 助けてあげられる?  
 a'. 타로를 도와 줄 수 있어?  
 taloleul do-wa jul su iss-eo

- b. \*僕を 助けてくれられる?  
 b'. 나를 도와 줄 수 있어?  
 naleul do-wa jul su iss-eo
- (17) a. 太郎を 助けてあげたい?  
 a'. 타로를 도와 주고 싶어?  
 taloleul do-wa jugo sip-eo
- b. \*僕を 助けてくれたい?  
 b'. 나를 도와 주고 싶어?  
 naleul do-wa jugo sip-eo

(16ab)に示したように、「やる／くれる」の可能形における違いが出る反面、(16a')(16b')の韓国語ではそのような違いが見られない。同様に、(17ab)に見られるように「やる／くれる」の「願望形」が成立するかどうかで差が出るのに対し、(17a'b')の韓国語においてはそのような現象は見当たらない。(15)～(17)の差が生じる原因についての考察は第5章で行う。特に日本語が「やる／くれる」の区別で視点の差が生じるのに対し、韓国語はそのような区別がないということに基づいて、両言語の相違を分析する。さらに視点という観点に加えて、(15)～(17)のような対応関係の差を「意志性」の観点からも考察していく。

## 1.2 本論文の目的と意義および研究方法

本論文は、前述のI～IVで見られる諸現象を対象に、日本語と韓国語における「授受表現」の共通点と相違点を究明することを目的とする。今までの日・韓両言語の授受表現においては、一般に、視点の問題や敬語の問題、「～てもらう」構文の対応の問題などが重要視され、それについての研究がなされてきた。本論文では、一般に対応していると知られていた「やる(あげる)／くれる」と「주다 juda」の対応関係に、実は微妙なずれがあることに着目し、様々な言語形式における対応関係を調べ、そのずれの原因を明らかにすることを目指している。また、本論文で扱う諸現象は、授受表現だけではなく、格の問題やアスペクトの問題、恩恵に関わる認識の差、視点や意志性の差など、さまざまな要因と関わっている。したがって、本論文の考察は、日本語・韓国語の文法研究に貢献するだけではなく、日本語・韓国語教育の側面においても役立つことが期待される。

次に、本論文の研究方法について述べる。

本論文は、日本語と韓国語の言語資料を収集し、その対応関係を基にして一般的特性を調べ、その特性が生じる原因を探る記述的研究である。

本論文の用例は、主に日本語原作の小説と、それを翻訳した韓国語版の対訳小説から採取した。その他、検索エンジン(YahooやGoogleなど)を使ってネットから引用したものもあり、異論のないと思われる用例については作例で提示した。出典は本論文の末尾の参

考文献一覧に挙げてある。

### 1.3 本論文の構成

本論文は以下のように、全6章で構成されている。

- 1章 序論
- 2章 「授受表現」における「ニ格」「에게 ege 格」の表示と対象物の移動について
- 3章 「授受表現」とアスペクト性について
- 4章 「授受表現」の非恩恵的な用法について
- 5章 「授受表現」における視点と意志性について
- 6章 結論

各章ごとのさらに詳しい内容を以下にまとめておく。

**第1章**は、序論である。本論文の研究対象、本論文の目的と意義および研究方法、本論文の構成について述べる。

**第2章**では、日・韓両言語の「授受表現」における「ニ格」「에게 ege 格」の表示と対象物の移動に関して考察する。「格表示」については具体的に、「主動詞が作成・入手動詞」の場合と「移行動詞」、「状態変化を引き起こす他動詞」、「自動詞」、「持ち主授受表現」の場合とに分けて、その対応関係を調べる。さらに、「ニ格」「에게 ege 格」の付与に影響を与えると思われる「～てやる(あげる)/くれる」「～어 주다 eo juda」の省略可能性を調査し、「ニ格」と「에게 ege 格」がどこから付与されるかにおける日・韓両言語の違いについても考える。最後に「ニ格」と「에게 ege 格」と表示される名詞句への「対象物」の移動の違いについて、「物の移動」と「行為の移動」という観点から考察していく。

**第3章**では、「授受表現」におけるアスペクト性の表示について見ていく。「やる/くれる」と「주다 juda」には、日・韓両言語のアスペクト形式の一つである「～ている」と「～고/아 있다 go/a issda」が前接するか後接するかで二通りの形式が存在する。その成立可能性における日本語と韓国語の対応関係を関連する述語表現が表す「継続」「結果」「持続」「単純状態」などの意味に基づいて調べる。さらに、そこから出された結果が、両言語の「アスペクト性」と「授受表現の特徴」の違いという要因に影響されるものであるということについて述べる。

**第4章**では、「授受表現」のいわゆる「非恩恵的な用法」について考察する。一般に、授受表現というと利益や恩恵に関係すると思いがちであるが、例えば日本語では、「意志

を表わすテヤル」「配慮・気配りのテヤル」「アイロニー的なテクレル」などの用法が存在し、韓国語においては強調の「~어 주다 eo juda」という用法がそれに当たる。これらの用法に対して、本論文では、「与え手〔話し手〕に関わる用法」と「受け手〔聞き手〕に関わる用法」とに分類し、その分類法においても、既存の項目にさらに「配慮・気配りを表わすテクレル」「非難の意を表わすテクレル」「説明言語」などの項目を新たに提示して日本語と韓国語との比較を行う。

**第5章**では、視点と意志性の観点から「やる／くれる」と「주다 juda」を比較する。日本語が視点の違いによって「やる」と「くれる」とにその役割を分担しているところを韓国語では「주다 juda」一つが用いられている。そういう現象から、「よう／う形」「命令形」「可能形」「願望形」「授受動詞間の結合」などにおける日本語と韓国語の対応関係について考察する。特に、日本語が「やる」と「くれる」に分けられていることによって、意志性における違いはないかを調べ、それによって引き起こされる現象が「주다 juda」とどう対応しているかについて述べる。

**第6章**では、本論文のまとめと結論について記述する。

## 第 2 章 「授受表現」における「二格」「에게 ege 格」の表示

### と対象物の移動について

#### 2.1 はじめに

本章は日本語の「～てやる/あげる/くれる」文と、それに対応する韓国語の「～어/아 주다 eo/a juda」(以下、「～어 주다 eo juda」と表記する)文の対照研究である。この構文は、いわゆる「授受表現」の補助動詞用法の代表的なものであり、具体的に次の(1)(2)のようなもので現れる。

- (1) a. 花子は 太郎に 食事を 作ってあげた。  
b. 하나코는 타로에게 식사를 만들어 주었다.  
hanakkoneun talo-ege sigsaleul mandeul-eo ju-eossda.
- (2) a. 花子は 太郎に 歌を 歌ってあげた。  
b. 하나코는 타로에게 노래를 불러 주었다.  
hanakkoneun talo-ege nolaeleul bulleo ju-eossda.

(1)と(2)の文において、日本語の格助詞「に」と韓国語の「에게 ege」、「～てあげる」と「～어 주다 eo juda」とが対応している。両方とも主語である「花子」が「二格名詞句」の「太郎」に恩恵を与える表現である。日本語と韓国語という二つの異なる言語が、このように、酷似した動詞類や構文、格助詞などを持っているということは、実に興味深い現象であり、それこそ研究に値するものであると考えられる。

ところが、日・韓両言語の「授受表現」には次のように、「二格名詞句」が付与できない場合が存在する。

- (3) a. \*太郎が 花子に 学校に 行ってやった。  
b. \*타로가 하나코에게 학교에 가주었다.  
taloga hanako-ege haggyo-e gaju-eossda.

(3)は自動詞の「行く」と「가다 gada」が用いられた文であるが、(3a)(3b)の文が示すように、ともに「二格」と「에게 ege 格」を付与されたために、非文になっている。

一方、日本語では「二格名詞句」が付与できず、韓国語では「二格名詞句」が付与できる場合もある。



- (4) a. \*太郎が 花子に 服を 洗ってやった。  
 b. 타로가 하나코에게 옷을 빨아주었다.  
 taloga hanako-ege os-eul ppal-aju-eossda

本章では、このような違いが生じる背景を検討し、日本語と韓国語の「授受表現」の特徴を明らかにすることを試みる。まず、「二格名詞句」が生起できる場合とできない場合を「～てあげる／くれる」や「～어 주다 eo juda」で表現される授受表現の性質とそれに先行する主動詞の性質に基づいて提示する。それから、表面上では類似した構造を持っている(1a)と(1b)が、対象物の「移動」の観点からすると、実は、違う意味構造を持っているということを「話し手と聞き手の認識の有無」の観点から考察する。

本章の構成は以下の通りである。2.2 節では先行研究の概略と問題提起をする。2.3 節では「あげる／くれる」と「주다 juda」文の類似点と相違点を「移動」と「恩恵」の観点から考察する。2.4 節では「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」構文と「二格名詞句」の共起関係を調べ、2.5 節では「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」構文における「移動」の関係を「話し手と聞き手の認識の有無」という点に注目して見ていくことにする。

## 2.2 先行研究

「～てあげる(やる)／くれる」構文における研究としては、Shibatani(1994、1996)、三宅(1996)、加賀(1997)、山田(2004)などが挙げられる。一方、韓国語の研究としては、ソ ジョンス(서정수)(1978)、パク ヒョンイク(박형익)(1989)、ソン セモドル(손세모들)(1996)などがあり<sup>10</sup>、日韓対照研究としては、奥津(1979)、イム パルヨン(林八龍)(1980)、ハン ギョンア(韓京娥)(2008)などがある。

本節では「～てあげる(やる)／くれる」構文と「～어 주다 eo juda」構文を取り扱っている代表的な論文を取り上げ、どの様な方向で研究が進められているのかを概観するが、その前段階として、「～てあげる(やる)／くれる」構文と「～어 주다 eo juda」構文の本動詞の意味用法について見ていくことにする。

まず Shibatani(1999)では、「주다 juda」の意味を「所有 (possession)」「恩恵 (favor)」と捉え、これを批判したパク スンユン(박승운)(2003)では「주다 juda」の意味的属性は「伝達 (transfer)」であると定義している<sup>11</sup>。これらをまとめると、原型的な「주다 juda」の意味は「(伝達者)が所有している(伝達物)を(被伝達者)に伝達して恩恵を被ること」と定義できる。

<sup>10</sup> 従来の「주다 juda」は「奉仕」の意味として扱われてきたが(ソン グァンス(성광수)(1977)・キム ミョンヒ(김명희)(1984)など)、ソン セモドル(손세모들)(1996)などでは先行動詞の動作に対する「有益性」の判断を表す「受惠」という意味を基本機能としている。

<sup>11</sup> 文化観光部(2000)の資料で一番頻繁に使われてきた項目は「所有するように伝達する」の意味であって、全体の30%を示しているという。

奥津(1979)は、日本語と韓国語の授受動詞<sup>12</sup>の体系について述べ、日本語には視点に関わる「ヤル・アゲル・クレル・モラウ・サシアゲル・クダサル・イタダク」という七つの授受動詞があるのに対し、韓国語には視点とは関わりのない「주다(juda)・드리다(deulida)·받다(batta)」の三語体系に「주시다(jusida)·드리시다(deulisida)·받으시다(bad-eusida)」の三つを合わせて六語体系の授受動詞があるという。さらに日本語は「与え手主語か受け手主語か」「敬語か非敬語か」「身内へかよそものへか」によって上記の七つの動詞を使い分けているが、韓国語はその内「敬語か非敬語か」による使い分けがあるだけで、「与え手主語か受け手主語か」「身内へかよそものへか」にはほとんど影響されないと述べている。

ここで、先行研究から言われている韓国語と日本語の「授受動詞」の対応関係を大まかにまとめると、以下のようなものになるであろう。

韓国語	日本語
주다(juda)	くれる
주시다(jusida)	くださる
주다(juda)	やる
	あげる
드리다(deulida)	さしあげる
받다(batta)	もらう
	いただく

表1 韓国語・日本語の授受動詞 (イム パルヨン(林八龍)(2001)など)

表1は韓国語と日本語の授受動詞に関する対応関係を簡単に図示したものである。表1のように、敬語関係を除くと、韓国語の「주다 juda」動詞は日本語の「くれる」と「あげる(やる)」とに対応している。これらの動詞は、本動詞として使われた場合だけではなく、上記の(1)と(2)のように、補助動詞として用いられる際にもその対応関係が受け継がれている。以上のように、韓国語の「주다 juda」動詞は日本語の「あげる(やる)／くれる」に対応していることが見て取れる。しかし、上記の(1)～(4)の文から見られる構造の類似点や、その構造が表わす意味の違いが現れる条件や背景などに関して、未だに明らかにされていない部分があり、もっと詳しい研究が必要であると考えられる。

本節では、まず日本語の「二格」の表示とそれに伴う対象物の「移動」の問題を扱っている代表的な先行研究を紹介する。それを踏まえた上で、「～てあげる(やる)／くれる」構文と「～어 주다 eo juda」構文の比較を行うことにする。

<sup>12</sup> 韓国語では「授受動詞」という用語ではなく「授與動詞」という用語で呼ばれているが、ここでは「授受動詞」と統一する。

### 2.2.1 Shibatani(1994)

Shibatani(1994)は英語と日本語、韓国語の授受動詞構文に対して認知的観点からのアプローチを提案している。彼は人が授受の状況を認知する際に GIVE 構文のスキーマを用いると仮定している。その GIVE 構文のスキーマとは次のようなものである。

(5) The ‘give’ schema (for Japanese / Korean)

*Structure:* [NP<sub>1</sub> NP<sub>2</sub> NP<sub>3</sub> GIVE]

NP<sub>1</sub> = coded as a subject

NP<sub>2</sub> = coded as an indirect object

NP<sub>3</sub> = coded as a direct object

*Semantics:* NP<sub>1</sub> CAUSES NP<sub>2</sub> TO HAVE NP<sub>3</sub>; i.e.,

NP<sub>1</sub> = human agent, NP<sub>2</sub> = human goal, NP<sub>3</sub> = object theme

NP<sub>2</sub> = exercises potential possessive control over NP<sub>3</sub>,

NP<sub>1</sub> = creates the possessive situation on behalf of NP<sub>2</sub>.

Shibatani(1994)はこのスキーマの特徴を構造的な側面と意味的な側面とに分けて説明している。まず、構造的には三つの名詞句から成立する (NP<sub>1</sub>、NP<sub>2</sub>、NP<sub>3</sub>)。NP<sub>1</sub> は主語として表れ、NP<sub>2</sub> と NP<sub>3</sub> は、日本語では「～に～を」のパターンで、韓国語では「～에게 ege～를 leul」で各々現れる (英語では間接目的語と直接目的語)。意味的には、「NP<sub>1</sub>が NP<sub>2</sub>に NP<sub>3</sub> (なる物) を HAVE (所有) させる」ことを表わしていると分析する。Shibatani(1994)によると、授受表現のスキーマとしての ‘Give’ 構文はいくつかの方向から裏付けられると述べている。まず、日本語や韓国語を含む多くの言語において、Give 動詞が授受表現の中で用いられていること、二つ目は、授受表現は Give 構文と構造的に一致していること、三番目は、授受表現が Give 構文と関連して構文的な意味を表すということである。

Shibatani(1994)は、授受表現の意味的解釈のアンクルを用いて、Give スキーマの役割を検証しようとしている。まず授受表現の Thematic structures を検証するために、(5)を次の(6)に変更している。

(6) The GIVE-Schema

yaru/cuta ‘give’

$\langle a_a$	$g_a$	$th_a \rangle_a$	… thematic structure
SU	IO	DO	… functional structure
NP <sub>1</sub> -ga/ka	NP <sub>2</sub> -ni/ege	NP <sub>3</sub> -o/leul	… syntactic coding
(where a = agent, g = goal, th = theme)			



- 타로 가 하나코 에게 그 것 을 이야기 해 주었다  
 talo ga hanako ege geu geos eul i-yagi hae ju-eosdda  
 (11) 太郎 가 花子 に その こと を 話 して や っ た  
타로 가 하나코 에게 그 것 을 이야기 해 주 었다  
 talo ga hanako ege geu geos eul i-yagi hae ju-eosdda  
 < a<sub>1/2</sub> > < g<sub>1</sub> > < th<sub>1</sub> >

Shibatani(1994)は(9)と(11)を比較しながら、(9)と(10)の構造は異なっているが、表面的には「～てやる」と「～어 주다 eo juda」構文が三つの意味役割を持っているように見えると指摘する。

- (12) a. 買ってやる                      b. 話してやる  
       사 주다                                이야기해 주다  
       sa juda                                i-yagi hae juda  
       < a g th >                            < a g th >

しかし、(12)が間違っていることを次のような「敬語化 (Honorification)」を通して提示している。

- (13) a. 僕は先生に新聞を買ってさしあげた。  
       b. 僕は先生にそのことを話してさしあげた。  
 (14) a. \*僕は先生に新聞をお買いしてさしあげた。  
       b. 僕は先生にそのことをお話してさしあげた。  
 (15) a. \*僕は先生に新聞をお買した。  
       b. 僕は先生にそのことをお話した。

Shibatani(1994)は(13)のように敬語化することはできるが、(14)や(15)のようになると「買う」と「話す」で差が出ることを指摘している。彼は(15)の非対称関係は2項動詞「買う」と3項動詞「話す」が、着点(goal)を付与できるかどうかで説明できるが、(14)の非対称関係はそれだけでは説明がつかない。したがって、動詞が着点(goal)項を持てるか持てないかの問題ではなく、(12)の根本的な構造が異なっていることを指摘している。

以上のことを基にして、Shibatani(1994)は次の四点について議論を進めている。

- (16) 1) 主動詞が2項動詞の場合、その主題は補助動詞「やる(あげる)」と「사다 sada」の着点と関連付けられて解釈される。  
       例) 花子が太郎にりんごを買ってやった。  
       2) 主動詞が3項動詞の場合、(a)二つの着点が同時に名詞句に現れる

ことはできない、(b) 主動詞の主題対象はもっぱら主動詞の着点と関連付けられる。

例) a. \*太郎が次郎にそのことを花子に話してやった。

b. 太郎がそのことを花子に話してやった。

3) 主動詞が自動詞の場合、補助動詞と関連する着点は現れない。

例) (妻のことを考えて) 太郎は死んでやった。

4) 補助動詞の着点が明示的に現れない場合、主動詞の主題は補助動詞着点とかかわる必要はない。

例) (太郎に頼まれたので) 花子はりんごを買ってやった。

a. (Because she was asked to by Taro) Hanako bought him(=Taro) apples.

b. (Because she was asked to by Taro) Hanako bought apples for him (=Taro)

このように、Shibatani(1994)は「Give スキーマ」と「主題共有における制限 (a constraint on theme-sharing ; A theme cannot be associated with more than one goal)」を用いて、日本語と韓国語の授受表現に関する一般化を提示している。Shibatani(1994)の議論は、三宅(1996)や加賀(1997)の提示した動詞の種類(典型的に「作成動詞」)によるものではなく、状況の中で対象物の授受が行われているかどうかによる分析を行っている。

一方、Shibatani(1994)は以上のような分析に一見反するような次の例を認知的観点から解決しようとしている。

(17) a. 僕は 花子に ゴミを 捨ててやった。

b. 나는 하나코에게 쓰레기를 버려 주었다.

naneun hanako-ege sseulegileul beolyeo ju-eosdda

(17)に対して Shibatani(1994)は、(17)のことを描写することはできるが<sup>14</sup>、容認できない理由は「現実世界での正常な経験では奇妙であるから」であると述べている。

(18) a. 僕は 花子に 戸を 開けてやった。

b. 나는 하나코에게 문을 열어 주었다.

naneun hanako-ege mun-eul yeol-eo ju-eosdda

(19) a. \*僕は 花子に 戸を 閉めてやった。

b. \*나는 하나코에게 문을 닫아 주었다.

naneun hanako-ege mun-eul dad-a ju-eosdda

<sup>14</sup> この文が成立するのは、花子が受益者になる場合だけである。例えばゴミ集積人のように、ゴミを集めている人が人からゴミを捨ててもらふことを自分の「利益」と思うのであれば、正文になることもできる。

(18)に関しては、「戸が移動するわけではないのに、なぜ日本語も韓国語も許されるのか」という問いをなげかけ、この場合、戸を所有するのではなく戸を開けることによってできる通路を所有するという、状況の換喩法的解釈 (metonymic construal) ができるからであると説明している。これと似たような表現として

- (20) a. John read Hanako a book.  
 b. John が花子に本を読んでやった。  
 c. John 이 하나코에게 책을 읽어 주었다.  
 John i hanako-ege chaeg-eul ilg-eo ju-eosda

という例を出しているが、この場合も本が移動するのではなく、実際には本の内容が移動するという換喩の解釈をもって説明しようとしている。

ここで注目すべきところは、換喩 (metonymy) の度合いであると考えられる。すなわち、換喩の許す範囲をどう定義できるのかということである。次の例を見られたい。

- (21) a. \*?I sharpened Mary the pencil. }  
 b. ?\*I polished Mary the shoes. } (加賀 1997: 229)
- (22) a. 僕は Mary に鉛筆を削ってやった。  
 b. 僕は Mary に靴を磨いてやった。
- (23) a. 나는 Mary 에게 연필을 깎아 주었다.  
 (僕は Mary に 鉛筆を 削って やった)  
 naneun Mary ege yeonpil-eul kkakk-a ju-eosda  
 b. 나는 Mary 에게 구두를 닦아 주었다.  
 (僕は Mary に 靴を 磨いて やった)  
 naneun Maryege guduleul dakk-a ju-eosda  
 c. 나는 Mary 에게 불을 켜 주었다.  
 (僕は Mary に 電気を つけて やった)  
 naneun Maryege bul-eul kyeo ju-eosda  
 d. 나는 Mary 에게 옷을 빨아 주었다.  
 (僕は Mary に 服を 洗って やった)  
 naneun Maryege os-eul ppal-a ju-eosda

Shibatani(1994)も汎言語的な観点から、「換喩の度合いの差」について言及している。単純に言語や人の考えや経験・文化などの違いであるとされたらそれまでであるが、Give スキーマや主題の共有の概念といったきっちりした理論と比べると何か物足りないとの感じは否めない。

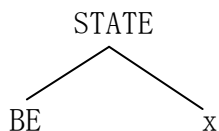
## 2.2.2 三宅(1996)

三宅(1996)は、次のような「派生的」なモデルを採用している。

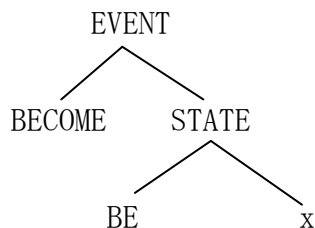
(24) 「語彙概念構造」⇒「項構造」⇒「統語構造」

三宅(1996)は、前二者が語彙部門の表示レベルであるのに対し、統語構造は統語部門に属すると述べ、語彙概念構造は語の概念的な意味を表示するレベルであって、基本的に語彙分解の方法に基づき、“CONTROL” [意思的制御]、“CAUSE” [使役]、“BECOME” [変化]、“ACT” [動作]、“ACT-ON” [働きかけ]、“MOVE” [移動]、等の意味素からなる階層的な構造を仮定している。そして「状態」や「状態変化」を表す動詞は次のように表されるという。

(25) 「状態」(“ある”等)

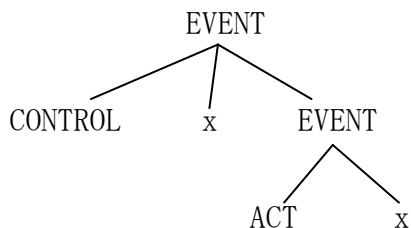


「状態変化」(“壊れる”等)

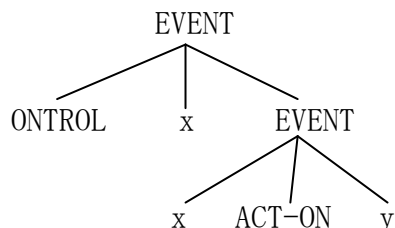


この語彙概念構造を用いて、三宅(1996)は問題の現象に非文法性を示した動詞を以下のように表示している。

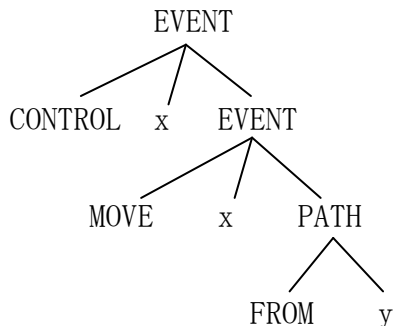
(26) 「動作」(“踊る”等)



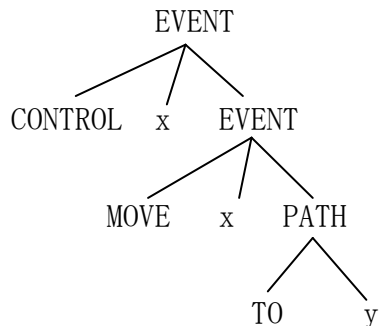
(27) 「働きかけ」(“殴る”等)



(28) 「移動」(“出る”等)

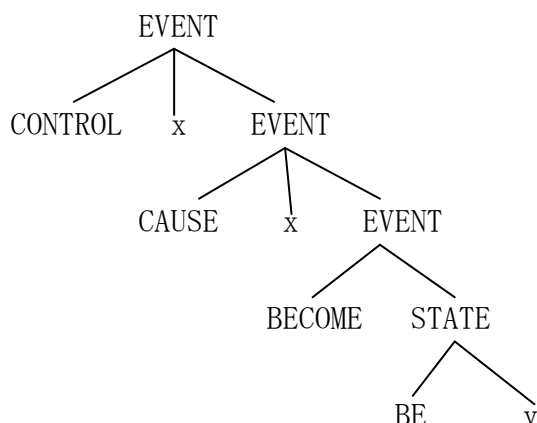


(29) 「移動」(“行く”等)





(30) 「対象変化」(“壊す”等)



三宅(1996)は、(30)で示された対象変化動詞は、問題の現象に適格であった作成動詞とはほぼ同様の意味構造をもつのであるが、金水(1994)や影山(1993b)では、対象変化動詞と作成の違いを“BECOME”の持つ項が二項か一項かという点に還元することを試みていると述べている。

(31) 「対象変化」 : [ … [EVENT y BECOME [STATE BE y]] ]

(32) 「作成動詞」 : [ … [EVENT BECOME [STATE BE y]] ]

(31)と(32)のような区別は直感的にはうなずけるものであるが、三宅(1996)の分析では、“BECOME”が一つの意味素でありながら、ある場合には二項をとり、ある場合には一項をとるということを意味しており、“BECOME”の解釈上、不適切であると述べられている。三宅(1996)では、“BECOME”は常に一項(“STATE”)をとる意味素と捉えられており、その点で、対象変化と作成において、上記の(30)の構造は基本的に共有され、その上で、対象変化と作成の違いを“BE”の持つ意味特性の違いに還元することが提案されている。

さらに、三宅(1996)は「状態」(“STATE”)を形成する意味素である“BE”には、項の存在を表す「存在」(“existential”)と項の属性を表す「叙述」(“predicative”)の二つがあると述べている。

(33) He is in Chicago. / 花瓶が机の上に置いてある → 「存在」

(34) He is in good shape. / 花瓶が粉々に壊してある → 「叙述」

この点に基づき、「対象変化」は“BE<sub>PRED.</sub>”を持ち、「作成」は“BE<sub>EXIST.</sub>”を持つと仮定している。

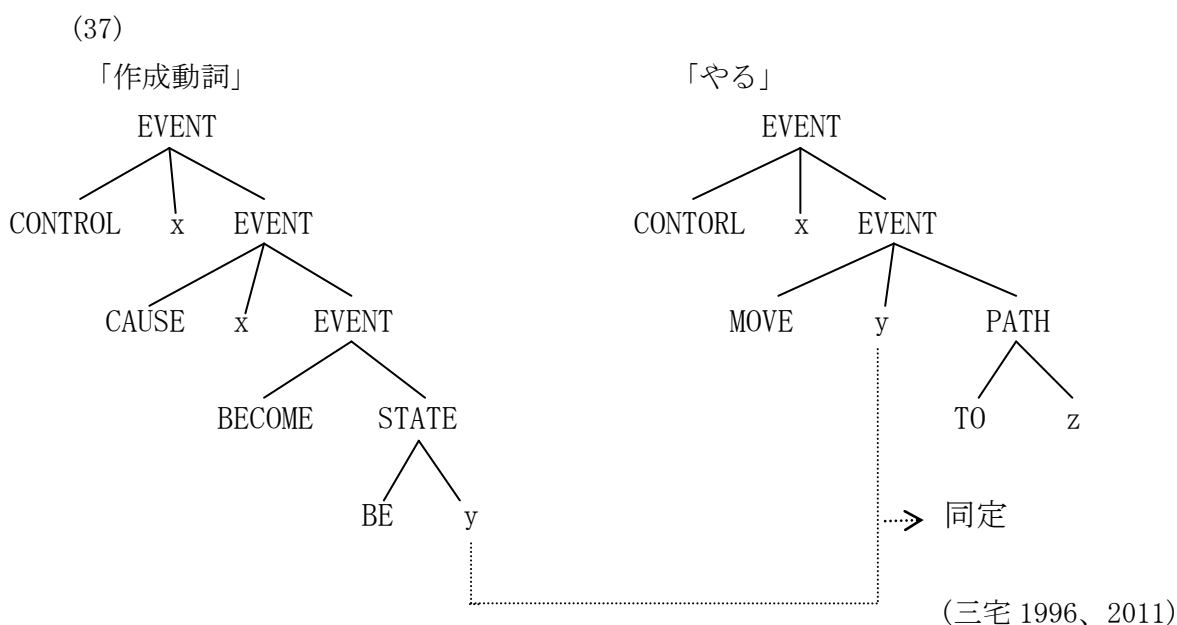
(35) 「対象変化」 : [ … [EVENT BECOME [STATE BE<sub>PRED.</sub> y]] ]

(36) 「作成」 : [… [EVENT BECOME [STATE BE<sub>EXIST</sub>.y]]]

したがって、「対象変化」は「項“y”が、ある属性になる」という事態を、「作成」は「項“y”が、存在するようになる」という事実を、それぞれ項“x”が引き起こすということを表わすとし、作成動詞が語彙概念構造において有する他の動詞と異なる特徴は、事態の最終状態において「項」が存在していることが表されるという点に求められると述べている。

これと関連して三宅(1996、2011)は、補助動詞構文において語彙概念構造自体が直接、合成されることはないにしても、補助動詞とその前接する動詞が統語構造において項を共有することがある場合、両者の語彙概念構造において、項の同定が行われる必要があると述べ、この項の同定の観点から、授受表現を見てみると、補助動詞「やる」の語彙概念構造の項の内、意志的な制御者である「x」と移動物である「y」は、前接する動詞の項と同定されなければならないと説明している

その授受表現における前接する動詞が作成動詞の場合、すなわち、「二格名詞句」が生起可能な場合について、以下のように分析している。



三宅(1996、2011)は、作成動詞の特徴について、「事態の最終的な状態において項が『存在する』という点である」と述べているが、それによると作成動詞の場合には、補助動詞「やる」の語彙概念構造における「MOVE」の項「y」と適切に同定され得る項が、前接する動詞の語彙概念構造において存在することになる。したがって(37)では適切に「y」が同定されることが表わされている。その結果、モノの移動が成立することになり、補助動詞「やる」は本動詞の場合とほぼ同様の語彙概念構造を維持できることになる。そのため「着点」名詞句の生起も可能になると分析している。

これに対し、前接する動詞が作成動詞以外の場合は、例えば(26)で示した「動作」動詞では、そもそも項“y”が存在しないこと、(27)の「働きかけ」動詞や(28)、(29)の「移動」動詞も“y”は、事態の最終状態において存在することを表すのではなく、補助動詞「やる」の項“y”と同定するには適切ではないと言えるので、“MOVE”の項“y”と適切に同定できる項の存在が含意されないと主張している。一方(30)の「対象変化」動詞は、一見適切な同定が可能であるかのように見えるが、「対象変化」は「作成」とは異なり、その最終状態が「叙述」であって、項の存在を積極的に示すものではないため、同定するには不適切であると見なしている。

以上のような観察で三宅(1996)は、授受表現において与格名詞句(二格名詞句)の生起を許すのは、作成動詞であるという一般化を出しているが、次のような、一見反例のように思われる例に対しては「構文的鑄形」という概念を導入して分析を試みている。

- (38) a. 花子は太郎に本を読んでやった。
- b. 牧師は新郎新婦に祝福の祈りを祈ってやった。
- c. 花子は太郎に『4月の雨』を歌ってやった。
- d. 花子は太郎にピアノを弾いてやった／フルートをふいてやった。

三宅(1996)によると、(38a)の「読む」と(38b)の「祈る」、(38c)の「歌う」は必ず「声」を出していなければならないということで、この「声」を一種の生産物であり、移動すると考えられないこともないとしている。(38d)のような楽器の演奏も、「音」を生産物として見なしている。

- (39) a. 花子は太郎に布団を敷いてやった。
- b. 花子は太郎にドアを開けてやった。

(39a)と(39b)の文における「敷く」や「開ける」という動詞は「作成動詞」とは見なしがたいのであるが、「布団を敷く」と「寝所」ができ、「ドアを開ける」と「通路」ができることで、これにもまた一種の生産物が生成されると見なしている。

三宅(1996)は上のような例は、特定の文脈に依存してはじめて適格性をを得るものであり、レキシコンに登録されている意味だけで、特定の文脈を参照しなくても成立する作成動詞の場合とは明らかにレベルが異なると述べ、それを解決するために、柴谷(1993)が提唱した「認知統語論」の中での「スキーマ<sup>15</sup>」という概念を用いて説明を試みている。このスキーマという概念を導入することによって、認知統語論が「話者がスキーマを用いて外界をいかに把握しているかを考え、問題となる表現の成立に関するゆれを、その

---

<sup>15</sup> ここで「スキーマ」とは「基本構文の原型的な文法特性をまとめあげた鑄型のようなものであり、話者にそれを通して外界の複雑な状況を把握し、それぞれのスキーマに適合する状況を、それぞれのスキーマの構造特性に依拠した形で表現せしめるもの」である(柴谷 1993 参照)。

表現が依拠するスキーマと把握されるべき状況との適合の度合いとして捉えようとする」と主張している内容を受け入れている。

三宅(1996)は、(37)において示したような語彙概念構造が、授受表現における「構文的鑄型」としての機能を有すると仮定し、この仮定に従えば、一見例外のように思われる(38)～(39)の例も先に述べた一般化に沿って分析が可能になると主張しているが、これは、特定の文脈を参照することにより、ある種の「生産物」が認められることから、「構文的鑄型」としての(37)に合致するようになると言えるからであるということである。

### 2.2.3 加賀(1997)

加賀(1997)は、Goldberg(1992、1995)の構文文法的アプローチと Shibatani(1994、1996)の認知論的なアプローチには、両者の仮定する意味構造が極めて類似している点と間接目的語の項が「受取手」ないし「所有者」と特徴付けられる点などの共通点が多いと述べている。しかし、そのように仮定すると、次のような両者に共通の問題が生じてしまうという。

- (40) a. The secretary wrote the boss a letter. Jackendoff(1990)  
b. 秘書は社長に手紙を書いてあげた。

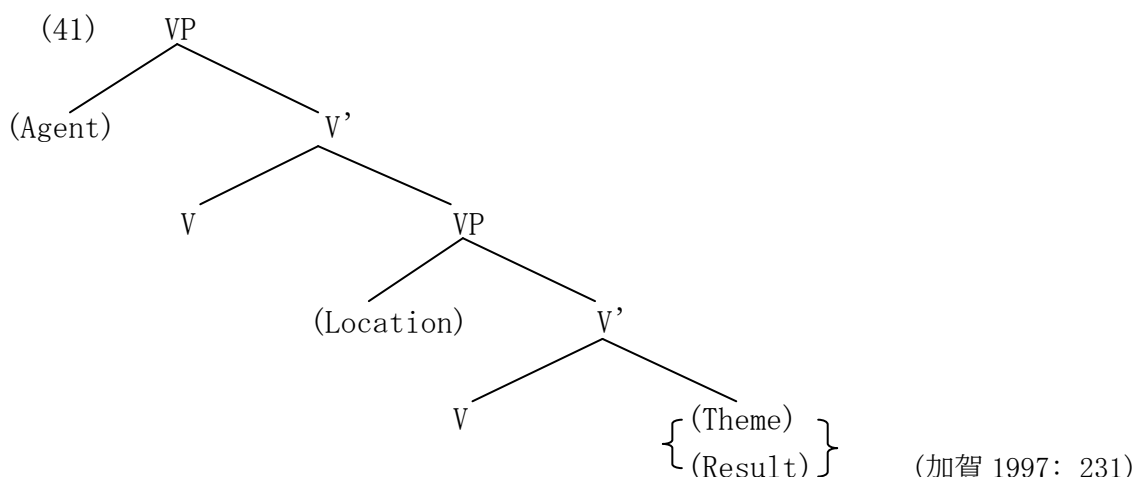
加賀(1997)は(40)の文の解釈に両義性があると主張する。一つは、手紙の(意図された)送り先が社長となる解釈で、もう一つは、社長の代わりに秘書がほかの誰かに手紙を書いたという解釈である。ここで後者の場合には、社長は「受益者」とは呼べても、手紙の「受取手」あるいは「所有者」とは呼ぶことができないと述べ、(40b)の日本語文においても同様に解釈できるとしている<sup>16</sup>。加賀(1997)は、この事実を挙げて、授受表現の間接目的語の項に「受取手」ないし「所有者」の意味を割り当てる Goldberg(1992、1995)と Shibatani(1994、1996)の仮定は条件として強力すぎるものであり、経験的事実と合致していないことを示すものであると述べている。

以上の理由で加賀(1997)は、生成統語論に基づく意味役割理論を提示し、それを用いて日英語の授受表現に関する事実の説明を行っている。

加賀(1997)は次のような意味役割構造を仮定する。

---

<sup>16</sup> (40)の文に対する韓国語の判断においても同様の結果が予測される。



加賀(1997)の(41)の構造は、基本的に Larson(1988)が提案した動詞句シェル(VP shell)の構造にしたがっている。さらに、Hale & Keyser(1993)の見解にしたがい、文法項の意味役割はそれが占める統語的位置によって決定されると仮定している。即ち、上位動詞句の指定辞の位置に現れる要素は「動作主」の役割を、下位動詞句の指定辞の要素は「場所」の意味役割を、そして下位動詞句の補部に現れる要素は「主題」あるいは「結果」の意味役割をもつと仮定しているのである。加賀(1997)によると、下位動詞の指定辞要素に割り当てられる「場所」の意味役割には、時空的場所ではなく、広い意味での「場所」と解釈できるものも含まれると考えている<sup>17</sup>。

加賀(1997)は、自らが仮定した(41)の意味役割構造に関連してもう一つ重要な仮定を行っている。それは次の(42)の文のような状態変化文の分析についてである。

- (42) a. The vase broke into pieces.      b. The baby fell asleep.

加賀(1997)は、従来の分析では(42)のような文は、次の(43)の文のように、位置変化文と並行的な意味役割パターンを有していると仮定されてきたことを述べている。言い換えると、主語と補語成分はそれぞれ「主題」および「場所(着点)」の意味役割をもつと考えられている(Jackendoff(1990)、Goldberg(1995)などを参照)。

- (43) a. The men went into the room.      b. The ripe fruit fell onto the ground.

加賀(1997)は(43a)の位置変化文と(43b)の状態変化文は異なる意味役割パターンをもつと分析する。すなわち、位置変化文に関しては、従来通り、移動する主体が「主題」であり、

<sup>17</sup> つまり、「着点(goal)」「起点(source)」「経路(path)」に加え、従来の文献で「受取手(recipient)」「受益者(beneficiary)」「所有者(possessor)」「経験者(experiencer)」などと呼び表されている意味役割はいずれも一定の抽象的意味において「場所」と解釈され、したがって、文法項として生ずる際には下位動詞句の指定辞の位置を占めると仮定している。

その移動先が「場所(着点)」であるのとらえるのに対し、状態変化文では、変化主体が「場所」の意味役割をもち、変化の結果的状态は「結果」の意味役割をもつと仮定している<sup>18</sup>。つまり、加賀(1997)の仮定の下では、位置変化動詞と状態変化文は次のような異なる意味役割のパターンをもつことになる。

- (44) a. The man went into the room. (位置変化自動詞文)  
「主題」 「場所」  
b. John sent Mary the package. (他動詞文)  
「動作主」 「場所」 「主題」
- (45) a. The vase broke into pieces. (状態変化の自動詞文)  
「場所」 「結果」  
b. John hammered the metal flat. (状態変化の他動詞文)  
「動作主」 「場所」 「結果」

加賀(1997)は、以上のことを踏まえて、日英語の授受表現を比較している。既に述べたように、彼は「受益者」を広い意味での「場所」として解釈している。したがって、文法項としての「受益者」は、彼が仮定した(41)の統語構造では、下位動詞句の指定辞の位置に生成されるという。上位動詞句の指定辞の位置に生ずる「動作主」が統語的な主語に対応するものと考えており、あとに残る下位動詞句の補部の位置には「主題」ないし「結果」の意味役割をもつ要素が生ずることができると述べている(加賀 1997: 234)。このことから、彼の立てた枠組の下では、授受表現において「受益者」と共起できる目的語は「主題」か「結果」の意味役割をもつものだけであることが予測できる。

以上のことをベースにして加賀(1997)は日本語の授受表現を分析している。

- (46) a. 花子は太郎に車を買ってやった。  
b. 花子は太郎にケーキを焼いてやった。
- (47) a. 僕は花子に戸を開けてやった。  
b. 僕は花子に布団を敷いてやった。  
c. 僕は花子に鉛筆を削ってやった。  
d. 僕は花子に靴を磨いてやった。

<sup>18</sup> この状態動詞文の分析は次のような考察を基にしている。

状態変化文の場合、変化主体はそれ自身がほかの場所に移動するわけではない。変化はその(領域)の中で生ずる質的な変化である。したがって、状態変化の主体は、「場所」を占めるものと定義される「主題」ではなく、「場所」そのものと分析するのがより適切にとらえ方であると考えられる。さらに、状態変化の主体を「場所」と分析し、「主題」としての位置変化主体と峻別することにより、Kaga(1995、1996)で示したように、場所表現前置現象(Locative Inversion)、描写述語表現(Depictive Predicate)、結果構文(Resultative Construction)などに関して、適切かつ簡潔な事実の説明が可能になるという利点を得られる(加賀 1997: 233)。

加賀(1997)は日本語が英語とは違って、(47)のような「状態変化動詞」が授受表現に生起できる理由を、「補助動詞「やる(あげる)」の働き」から求めようとしている。彼によると、(46)～(47)の各文から「やる」を取り除くと、次のように文の容認性が落ちるといふ。

- (48) a. ??花子は太郎に車を買った。  
b. ??花子は太郎にケーキを焼いた。  
c. ??僕は花子に戸を開けた。  
d. ??僕は花子に布団を敷いた。  
e. ?\*僕は花子に鉛筆を削った。  
f. ?\*僕は花子に靴を磨いた。

加賀(1997)は(48a)～(48f)が容認されにくい理由について、「日本語の受益構文(授受表現)が補助動詞『やる』を必要とするのに対し、英語の受益構文ではそれに相当するような要素は現れない」と述べている。この違いは、英語と日本語のパラメトリックな違いに起因しており、日本語では、方向性の意味をもつ「やる」という動詞要素を補うことによってはじめて与格の「～に」句を認可できると考えている。

加賀(1997)は以上のような違いを基にして、日本語の受益構文(授受表現)が次のような構成要素構造をもつと仮定している。

- (49) a. 花子は太郎に [車を買って] やった。  
b. 花子は太郎に [ケーキを焼いて] やった  
c. 僕は花子に [戸を開けて] やった。  
d. 僕は花子に [布団を敷いて] やった。  
e. 僕は花子に [鉛筆を削って] やった。  
f. 僕は花子に [靴を磨いて] やった。

加賀(1997)は、「やる」を三項述語とみる Shibatani(1994)の分析を基本的に引き継ぎ、(49)の与格として現れる「太郎/花子に」はいわゆる主動詞の項ではなく、「やる」と関係付けられる要素であると説明している。

加賀(1997)は与格の「～に」句が実際に可能になるのはどういふ場合かを調べ、例えば(49)と次の(50)の文法性を説明するために、次のような条件を設定している。

- ・日本語の受益与格構文は、(「～に」句に関して)「主題」要素が想定できる場合に成立する。

- (50) a. ?\*僕は花子に窓を磨いてやった。

- b. \*僕は花子に戸を閉めてやった。
- c. ?\*太郎は花子に水溜りを飛び越えてやった。
- d. \*僕は花子に市場へ行ってやった。

上記の条件は、Shibatani(1994)の「主動詞の主題項が、その主動詞の項として機能すると同時に、補助動詞『やる』が表わす授与行為の主題としても機能するとき、受益与格構文が成立する」という主張に基本的にしがっているが、加賀(1997)の条件が Shibatani(1994)と異なっているのは、主題要素は与格の「～に」句に対して主題の役割をもてばよく、主動詞に対しては必ずしも主題の役割をもたなくてもよいということである。これは、日本語の受益構文が主動詞と補助動詞というふたつの動詞成分を有しているために可能となる特性である(加賀 1997: 240)。彼は(49a)、(49b)では、「車」と「ケーキ」が「～に」句に対する主題と解釈できるし、(49c)では「削った鉛筆」が、(49d)では、「磨いた靴」がそれぞれ主題と解釈できるので、受益与格構文が成立すると主張する。また、(47a)と(47b)では「戸を開ける」行為や「布団を敷く」行為は、それぞれ「通路を作る」と「寝床を作る」という創造的行為として解釈することができる。そして、その創造的行為の所産としての「通路」と「寝床」を与格の「～に」句に対する「主題」要素とみることができるので、その受益構文も容認できると述べている。

最後に Shibatani(1994)が容認性の少しだけ落ちると判断している次の(51)のような受益構文は、(46)～(47)と(50)の文の中間的事例と見ている。

- (51) a. ?僕は花子に [窓を開けて] (通路を作って) やった。
- b. ?僕は花子に [布団を上げて] (スペースを作って) やった。

(51)の文に対して加賀(1997)は、次のように説明する。

主動詞が表わす行為を丸カッコ内に示したような創造行為として解釈することが可能である。しかし、慣用化された解釈をもつ(47a-b)などに比べると、この場合の解釈はより特定化されたコンテキストを念頭におく必要がある(Shibatani(1994)の議論を参照)。(加賀 1997:241)

そのために、(50)の文に対する容認性が落ちることになるということである。

#### 2.2.4 山田(2004)

山田(2004)は、「～てやる(あげる)／くれる」受益文における受益者の格表示(二格)の問題を考察している。彼は大會(1983)の次の例を出して、「二格」表示の許容度を検証している。



- (52) a. 太郎は花子に子守歌を{a. \*歌った/ b. 歌ってやった}。  
 b. 太郎は息子に家を{a. \*建てた/ b. 建ててやった}。 (大曾 1983)

山田 (2004) は、Shibatani(1994)や三宅 (1996) 、加賀 (1997) などの理論的な議論ではなく、アンケートを通して得られた結果を元に、動詞別の受益者の格表示に対する傾向性を調査している。彼は、基本的には上記の先行研究に従いつつ、「二格」表示ができるのは具体的な生産物があり、かつ先行動詞が「作成動詞」類の場合であると述べている。多くの先行研究で言われているように、その生産物の中には、以下のような、具体的な物の場合もあれば、抽象的な生産物も含まれる。

- (53) a. 僕は、子どもたちにセーターを編んでやった。  
 b. 僕は、子どもたちにクッキーを焼いてやった。  
 (54) a. 僕は、子どもたちに本を読んでやった。  
 b. 僕は、花子に布団を敷いてやった。  
 c. 太郎は、娘にダンスを踊ってやった。  
 d. 花子は、((暑そうにしている)太郎に窓を開けてやった)<sup>19</sup>。

(山田 2004: 89-90)<sup>20</sup>

(53a)や(53b)のセーターやクッキーは具体的な対象物であり、この場合の二格名詞句の表示は問題なく行われる。(54a)や(54b)においては、「本」や「布団」そのものが生産物になるわけではなく、「本の内容(または、声)」や「寝床」が動詞から作られる生産物として見なされる。一方、(54c)のダンスをすることや(54d)の窓を開けることによってできる生産物をどう捉えるかに関しては、学者によって意見が違うところが見られるが、山田 (2004)は、「踊ってやった」よりは目的語のある「ダンスを踊ってやった」の方が許容量が高かったことを指摘している<sup>21</sup>。

山田 (2004) は、このような生産物が含まれていない場合には、単なる動作動詞として、受益者を「二格」で表わすことができず、「ノタメに格」で表わさなければならないという先行研究の指摘に言及している。

- (55) 母は寒そうにしている太郎に {a. \*に/ b. のために} 窓を閉めてやった。

<sup>19</sup> (14d)に関して、Shibatani(1994)は「？」を、三宅(1996)と加賀(1997)は「\*」を付している。

<sup>20</sup> 山田 (2004) の調査によれば、(53ab)に対する許容量が最も高く、(54cd)に対しては、「？」や「\*」までは付けてはいないものの、具体的な生産物ある場合((53ab)よりは許容量が落ちるそうである。一方、抽象的な生産物がある場合((54ab))については何も言っていない。

<sup>21</sup> 三宅(1996)は、動作動詞であることを理由に「花子は太郎に踊ってやった」を「非文法的である」としている。

これに関する理論的な議論<sup>22</sup>には立ち入らず、山田（2004）は「ノタメに格」との関係について考えている。

- (56) a. 太郎は、娘のために子守歌を歌ってやった。  
b. 僕は、子どもたちのためにクッキーを焼いてやった。  
c. 花子は、（暑そうにしている）太郎のために窓を開けてやった。

これらの例に対して、「ノタメニ格」を用いても特に対比などの文脈を必要とせず、強調された印象を与えないので、(56a)および(56b)と(56c)の受益者は本来的に要求される名詞句ではないことになる」と述べ、その裏づけとして、受益者を主語にした次のような受身文が、中立的な意味を持ち得ないことを提示している。

- (57) a. #花子は、太郎に（よって）子守歌を歌われた。  
b. #太郎の息子は、太郎に（よって）家を建てられた。  
c. #子どもたちは、僕に（よって）クッキーを焼かれた。  
d. #太郎は、花子に（よって）窓を開けられた。  
e. #太郎の娘は、太郎に（よって）ダンスを踊られた。  
（山田 2004:92、「#」は迷惑受身としての解釈が可能であることを示す）

(57)の文に関して山田(2004)は、これらの例は一般的に能動文の項が主語になる直接受身文としては解釈できない点で、上記の(57a) (57c) (57d) および(56a) (56b) (56c)の「ニ格名詞句」も動詞の項ではないことを示すものであると述べている。さらに、彼は日本語には次のような例も（許容度の差は見られるが）存在することを指摘し、これは授受表現における受益者「ニ格」の表示が「動詞」からではなく、「～てやる（あげる）／くれる」から付与されるものであることの証拠になると書いている。

- (58) a. 太郎は、娘に子守歌を歌った。  
b. 僕は、子どもたちにクッキーを焼いた。  
c. 太郎は、息子に家を建てた。  
d. 太郎は、娘にダンスを踊った。  
e. 花子は、（暑そうにしている）太郎に窓を開けた。



（山田 2004:92、一部改変）

山田（2004）はこれに対し、（動詞によって差はあるが）いわゆる作成動詞は、ニ格目的語を動詞自体が必須項的に要求するとまではいかないまでも、要求していると認識されや

<sup>22</sup> Shibatani(1994)、三宅（1995）、加賀（1997）などを参照のこと。

すい性質を持つ、いわば 2.5 項動詞のような性質を持つものもあると、述べている<sup>23</sup>。しかしながら、「～に窓を開ける」と「～に窓を開けてやる」を比較した際の差の大きさについて、

作成動詞類の動詞の中に、授受表現で用いられることによって新たに「二格名詞句」が出現するタイプの動詞が存在することを示し、このような新たな「二格名詞句」の出現が見られる場合、「テヤル／クレル」は、新しい「二格名詞句」を取り、ヴォイス的な増項機能を持つと言える。(山田 2004: 93)

と述べ、「テモラウ」受益文の受益文の動作主を表わす「ラ格」との比較も行っている。

### 2.2.5 2.2 節のまとめ

2.2 節では、「授受表現」における「二格」助詞の付加に関する先行研究を概観した。まず、Shibatani(1994)は Give スキーマという理論を立てて動詞別の「二格」助詞の現れ方を考察している。二番目に検討したのは、三宅(1996)であるが、彼は語彙概念構造と Give スキーマを利用して「二格」助詞の付与とその「二格名詞句」に位置する「対象物」の移動に関して考察している。三番目としては加賀(1997)を検討したが、彼は意味役割構造(主題と場所)という理論を用いて、「二格」助詞の付与や抽象物の移動の有無などを英語と日本語、ドイツ語の比較を通して考察している。最後に、山田(2004)は主にアンケートの結果を元に「二格」助詞の付加される傾向を提示している。以上の内容をまとめると、以下の表 2 のようになる。まず、「二格」表示の問題であるが、多くの先行研究から指摘されてきたように典型的に「作成・入手」動詞類や「移行動詞」の場合「二格」助詞が表示されている。それから、「自動詞」類は「二格」表示ができないという点で意見で一致している。意見が分かれているのは、主動詞が対象変化を引き起こす動詞であるが、Shibatani(1994)や加賀(1997)は、一部の対象変化動詞において「二格」が付与されると主張しているのに対し、三宅(1996)は付与できない部類として分類している。2.5 項動詞を認めるかどうかに関しては、Shibatani(1994)では、敬語化不可能という理由で認められていないのに対し、アンケート調査を基した山田(2004)では、認められている。最後に、対象物の「移動」に関しては、直接の言及は見られなかったが、Shibatani(1994)では、Give スキーマの意味構造が、*Semantics: NP<sub>1</sub> CAUSES NP<sub>2</sub> TO HAVE NP<sub>3</sub>* のようになっており、NP<sub>2</sub> が NP<sub>3</sub> なる対象物を所有(have)するということが述べられている。三宅(1996)でも、作成動詞の場合には、補助動詞「やる」の語彙概念構造における「MOVE」の項「y」と適切に同定され得る項が、前接する動詞の語彙概念構造において存在することになる。したがって((37), p. 20)では適切に「y」が同定されることが表わされている。その結果、モノの移動が成立することになり、補助動詞「やる」は本動詞の場合とほぼ同様の語彙概念構造を維持できることになる。

<sup>23</sup> これに対して、Shibatani(1994)、三宅(1996)、加賀(1997)は「\*」を付けている。

研究	理論の背景	「ニ格」表示				授受動詞の省略可能性	対象物の移動
		作成・入手動詞類	移行動詞	対象変化動詞類	自動詞類		
		作る・買うなど	歌う・読むなど	削る・磨くなど	行く・来るなど		
Shibatani (1994)	Give スキーマ	✓	✓	△(一部可能) 日・英の喚愈の度合いの差	✗	✗ 敬語化不可能	✓ have
三宅 (1996)	語彙概念構造、give スキーマ	✓ 語彙概念構造「同定」	✓	✗ 対象変化動詞類は「叙述」	✗	言及なし	✓ exist
加賀 (1997)	意味役割構造(主題と場所)	✓ 主題と場所	✓	△(一部可能) 主題と場所	✗	✗ 理由言及なし	言及なし
山田 (2004)		✓	✓	言及なし	✗	✓	言及なし

表2 先行研究のまとめ

以下 2.3 節では、「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」構文における「ニ格」と「에게 ege 格」表示を、2.4 節では「ニ格」と「에게 ege 格」表示による対象物の移動について考察する。

## 2.3 「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」構文における「ニ格」と「에게 ege 格」の表示について

### 2.3.1 日本語の授受表現

三宅(1996)は、「ニ格表示」のできる動詞は典型的に「作成動詞」であるという一般化を提唱し<sup>24</sup>、以下のような例を挙げている。

- (59) a. 花子は太郎に夕食を作ってやった。  
 b. 花子は太郎にケーキを焼いてやった。  
 c. \*花子は太郎に踊ってやった/ゆっくり歩いてやった。 (動作動詞)  
 d. \*花子は太郎に神を信じてやった。 ((精神的)働きかけ動詞)  
 e. \*花子は太郎にドアをたたいてやった/テーブルを拭いてやった。

<sup>24</sup> Shibatani(1994)、加賀(1997)、山田(2004)などの多くの先行研究でも「ニ格」のできる動詞は基本的には「作成動詞」類であることを述べている。

((物理的)働きかけ動詞)

f. \*花子は太郎に部屋から出てやった/会社に行ってやった。 (移動動詞)

g. \*花子は太郎に靴を磨いてやった/ビールを冷やしてやった/  
髪を切ってやった。 (対象変化動詞)

(三宅 1996)

三宅(1996)はこの一般化を、作成動詞の語彙概念構造の特性と補助動詞構文における語彙概念構造の抽象化によって説明している。そして、一見反例と思われる以下のような例に対しては「スキーマ<sup>25</sup>」の概念を導入し、「語彙概念構造における特性が、特定の構文を成立させるスキーマとしての機能を持つことがある」と述べている。

- (60) a. 花子は太郎に本を読んでやった。 → 声を出していなければならないから  
b. 花子は太郎に布団を敷いてやった。 → 「寝床」ができる  
c. ?花子は太郎にドアを開けてやった。 → 「通路」ができる
- (61) a. 花子は太郎に鉛筆を削ってやった。 (加賀 1997)  
b. \*花子は太郎に服を洗濯してやった。

三宅(1996)は「『対象変化動詞』は、その最終状態が『叙述』で、項の存在を積極的に示すものではない」ということを理由に「ニ格表示」のできない項目として分類している。上記の(59c)の「動作動詞(歩く・踊るなど)」、(59d)、(59e)の「(精神的)働きかけ動詞(信じるなど)」および「(物理的)働きかけ動詞(叩く・拭くなど)」、(59f)の「移動動詞(出る・行くなど)」、(59g)の「対象変化他動詞(磨く・冷やす・切るなど)」の動詞も同じように、「ニ格表示」のできないグループに入っている。ところで、(61)の例に三宅の説明を当てはめると、(61a)においては「削られた鉛筆」がある種の「生産物」として認められることができると考えられるし<sup>26</sup>、(61b)の「洗濯した服」をも「スキーマ」として捉えれば、移動可能な場所が必要になり、自然に「ニ格表示」が行われる可能性も生じ得るものであると考えられるが、実際にはすわりの悪い文になっていて、三宅にとっては処理に困る例であると思われる。

一方、加賀(1997)は、英語(Goldberg1992、1995)と日本語(柴谷 1994、1996)の比較を行い、日本語の状態変化を引き起こす他動詞の場合「ニ格表示」が生じる場合もあると述べている。

<sup>25</sup> 辞書的な意味は、次のようなものである。

さまざまな物事に対して「その人が無意識のうちにしてしまう、ある決まったものの見方、考え方」を指す。スキーマは、ステレオタイプや偏見も含む、幅広い概念である。例えば、バスに乗ったとき、運転手が女性だと、一瞬はとして「女性が運転するのだ」と思うことがある。これは「バスの運転手は男性」というスキーマが、知らず知らずのうちに働くからだ。(Weblio 辞典) <http://www.weblio.jp>

本研究と直接の関わりのある「Give スキーマ」に関しては本章の 2.2.1 節、または Shibatani (1994)を参照のこと。

<sup>26</sup> 加賀(1997)を参照のこと。

- (62) a. \*I opened Mary the door. (僕はメアりに戸を開けてやった)  
 b. \*?I sharpened Mary the pencil. (僕はメアりに鉛筆を削ってやった)

しかし、以下のような例はなぜ「二格表示」ができるのか、あるいは、できないのかに関する説明はされていない。

- (63) a. 花子が僕に傘をさしてくれた。  
 b. 花子が(暑そうにしている)僕に窓を開けてくれた。  
 c. \*?花子が僕に電気をつけてくれた。  
 d. \*?花子が僕に服を洗ってくれた。

(63a)、(63b)は生産物もなければ、状態変化した対象が受益者に来るわけでもないにもかかわらず、二格表示が見られる<sup>27</sup>。加賀(1997)では(63c)、(63d)のような文について次のように述べている。

主動詞が表す行為を創造的な行為として解釈することが可能であるが、慣用化されたコンテクストを念頭におく必要があり、そのためにその分だけ容認性が落ちることになる。(加賀 1997: 241)

ところが、以下のような例に関しては説明のしようがないのではないかと考えられる。

- (64) a. 私がおじいさんに肩を揉んであげた。  
 b. ?私がおじいさんに背中をかいてあげた。(山田 2004 : 93-94)

(64a)と(64b)は「持ち主のテヤル/テクレル」構文における受益者の格を表示した文であるが、同じ構文にもかかわらず、文の判断は異なっているのが見て取れる。(64)の例は少なくともここで取り上げた先行研究では上手く取り扱えない例である。この文に対応する韓国語はどちらも適格である<sup>28</sup>。

### 2.3.2 「에게 ege 格」表示の問題

「주다 juda」文には、例えば、「철수가 영희에게 책을 주었다 cheolsuga yeonhui-ege chaeg-eul ju-eosda(チョルスが ヨンヒに 本を あげた)」のように、対象物の移動先を示す

<sup>27</sup> この例に関しては「やや引っかかる」と判断してくれた人もいるが、「彼は僕にドアを開けてくれた」がいいのであれば、これも行けそうだという人もいた。

<sup>28</sup> 2.3.2.3 節を参照のこと。

「에게 ege(ニ格助詞)格助詞」が現れる。「주다 juda」が補助動詞になった場合は、移動する対象物が、具体物だけではなく、抽象的な恩恵の移動にまで広がっていく。

本節では、「주다 juda」文が補助動詞として使われた際の「에게 ege 格」表示の条件について考える。まず、「주다 juda」の前に来る先行動詞（主動詞）の種類を分け、「에게 ege 格」の表示可否を調べる。例えば「作成・入手動詞」、「状態変化を引き起こす動詞」、「移動動詞を含む自動詞」などが「~어 주다 eo juda」構文の先行動詞になった場合の「에게 ege 格」表示と「持ち主の授受表現」での「에게 ege 格」表示に関して見ていくことにする。さらに、「에게 ege 格」と「~어 주다 eo juda」が同時に現れる際に発生する「対象物の移動」の現象について、日本語の「~てあげる(やる)/くれる」との比較の観点から考察し、両言語の「対象の移動」に関する認識の違いについても考えてみることにする。

### 2.3.2.1 主動詞が「作成・入手動詞」の場合

まず、主動詞が「作成・入手動詞」の場合の「에게 ege 格」の表示についてであるが、以下の例を見られたい。

- (65) a. 花子は 太郎に 夕食を 作ってやった。  
 a'. 하나코는 타로에게 저녁밥을 만들어 주었다.  
 hanakoneun talo-ege jeonyeogbab-eul mandeul-eo ju-eosdda
- b. 花子は 太郎に ケーキを 焼いてやった。  
 b'. 하나코는 타로에게 케익을 구워 주었다.  
 hanakoneun talo-ege ke-ig-eul gu-wo ju-eosdda
- c. 太郎は 花子に りんごを むいてやった。 (preparation)  
 c'. 타로는 하나코에게 사과를 꺾어 주었다.  
 taloneun hanako-ege sagwaleul kkakk-a ju-eosdda
- d. 太郎は 花子に 歌を 歌ってやった。 (performance)  
 d'. 타로는 하나코에게 노래를 불러 주었다.  
 taloneun hanako-ege nolaeleul bulleo ju-eosdda
- e. 太郎は 花子に 車を 買ってやった。 (available)  
 e'. 타로는 하나코에게 차를 사 주었다.  
 taloneun hanako-ege chaleul sa ju-eosdda
- (c~e の原文(英語)は Jackendoff1990:196)

(65)のような典型的な作成・入手動詞は「에게 ege 格」表示が可能である。このように「~어 주다 eo juda」文においても主動詞として作成・入手動詞が使われた場合は、「에게 ege 格」の表示が可能である。ここで、英語と韓国語の場合を参考として取り上げる。まず、「에게 ege」が表示できる「~어 주다 eo juda」構文である。

- (66) a. Susan made Francine a picture.  
 Susan 은 Francine 에게 그림을 그려 주었다.  
 Susaneun Francineege geulim-eul geulyeo ju-eosda.  
 (Susan は Francine に 絵を 描いてやった。)
- b. Enrico sang Helen a song.  
 Enrico 는 Helen 에게 노래를 불러 주었다.  
 Enriconeun Helenege nolaeleul bulleo ju-eosda  
 (Enrico は Helen に 歌を 歌ってやった。)
- c. Carol bought Walt a car.  
 Carol 은 Walt 에게 차를 사 주었다.  
 (Carol は Walt に 車を 買ってやった)  
 Caroleun Waltege chaleul sa ju-eosda.
- d. Beulah, peel me a grape!  
 Beulah, 나에게 포도 좀 까 줘!  
 (Beulah, 僕에 ぶどう을 む이て くれ)  
 Beulah, naege podo jom kka jwo!
- (67) a. Susan made a picture for Francine.  
 Susan 은 Francine 을 위해 그림을 그렸다.  
 Susaneun Francineeul wihae geulim-eul geulyeosda.  
 (Susan は Francine のために 絵を 描いた(描いてやった))
- b. Enrico sang a song for Helen.  
 Enrico 는 Helen 을 위해 노래를 불렀다.  
 Enriconeun Heleneeul wihae nolaeleul bulleosda.  
 (Enrico は Helen のために 歌を 歌った(歌ってやった))
- c. Carol bought a car for Walt.  
 Carol 은 Walt 를 위해 차를 샀다.  
 Caroleun Walt leul wihae chaleul sassda.  
 (Carol は Walt のために 車を  샀다(買ってやった))
- d. Beulah, peel a grape for me!  
 Beulah, (나를 위해) 포도 좀 까!  
 Beulah, (naleul wihae) podo jom kka!  
 (Beulah, (僕에 のために) ぶどう을 む이て (剥이て くれ!)

(66)과 (67)을 보아 알 수 있는 바와 같이, 주동사가 「作成動詞」類인 경우는 영어의 「二重目的語構文」、한국어의 「에게 ege ~어 주다 eo juda」構文、日本語의 「~に~てあげる/くれる」構文共に正文になっている。



### 2.3.2.2 主動詞が「状態変化を引き起こす他動詞」の場合

次に、主動詞が「状態変化を引き起こす動詞」の場合における「에게 ege 格」表示について見ることにするが、例えば以下のような文が挙げられる。

- (68) a. 花子が 僕に 鉛筆を 削ってくれた。  
a'. 하나코가 나에게 연필을 깎아 주었다.  
hanakkoga na-ege yeonpil-eul kkakk-a ju-eossda.  
b. \*花子が 僕に 服を 洗ってくれた。  
b'. 하나코가 나에게 옷을 빨아 주었다.  
hanakkoga na-ege os-eul ppal-a ju-eossda.

(68)は状態変化を引き起こす他動詞が主動詞として使われた文であるが、(68a) (68b)共に状態変化した物が想定される。日本語の(68a)は自然な文であり、(68b)は不自然な文になっている。一方、韓国語の(68a') (68b')は自然な文である。この違いはどこから来るものであろうか。おそらくこれは、文が表わす意味の違いであると考えられる<sup>29</sup>。例えば、日本語の(68b)は「洗濯された服」の授与までは含意せず、「洗濯してくれた」行為に対する恩恵や感謝の気持ちだけがあればいい。一方、韓国語の(68b')には「洗濯された服」が受取人である「僕」に移動したことまでを含意している。それは、次のような例からも見て取れる。

- (69) a. 私は ヨンヒに 本を 買ってあげたが、まだ渡していない。  
b. \*나는 영희에게 책을 사 주었지만, 아직 (전해) 주지 않았다.  
naneun yeonhui-ege chaeg-eul sa ju-eosjiman, ajig (jeonhae) juji anh-assda  
(ハン ギョンア 2008)

次は、物の移動が想定できない「状態変化を引き起こす他動詞」の場合である。

- (70) a. 花子が僕に戸を開けてくれた。  
b. \*花子が僕に電気をつけてくれた。  
c. \*太郎が花子に自転車を直してあげた／くれた。  
a'. 하나코가 나에게 문을 열어 주었다.  
hanakkoga na-ege mun-eul yeol-eo ju-eossda.  
(花子が 僕に 戸を 開けて やった)  
b'. 하나코가 나에게 불을 켜 주었다.  
hanakkoga na-ege bul-eul kyeo ju-eossda.  
(花子が 僕に 電気を つけて やった)

<sup>29</sup> Shibatani(1994)が提示している Give スキーマの概念と関連して出てきた「換愈」の概念とつながっていると思われる。

- c'. 타로가 하나코에게 자전거를 고쳐 주었다.  
 taloga hanako-ege jajeongeoleul gochyeo ju-eosdda  
 (太郎が 花子に 自転車を 直して やった)

ここで気になることは、なぜ(70a)の「戸を開けてできた通路」は生産物と見なされ<sup>30</sup>、(70b)の「電気をつけてからできた明るさ」や(70c)の「直された自転車」は広い意味の生産物として認められないかということである。日本語とは違って、韓国語の(70a')、(70b')の文における「通路」や「明るさ」「直された自転車」は、生産物と認識され、それらの移動先である「에게 ege 格」名詞句が表示できる<sup>31</sup>。

### 2.3.2.3 「持ち主の授受表現<sup>32</sup>」における「에게 ege 格」の表示

- (71) a. 僕はおじいさんに肩を揉んであげた。  
 b. 妹は僕に靴を磨いてくれた。 (Shibatani 1979: 304)  
 c. 弟は僕に背中をかいてくれた。 (山田 2004:93)

(71)の「持ち主の授受表現」は、「ニ格」を「ノタメニ格」で言い換えても問題はないから作成・入手動詞と類似した特徴を示すものと考えられる(山田 2004: 94)。このような「持ち主の授受表現」に対する許容度は実際の調査ではかなり低いものであり、受益者の「ニ格」を「ノ」に変えると自然な文になる。韓国語の場合は、「에게 ege」が表示された文においては日本語より許容範囲が広がったが、「에게 ege」を「의 ui(ノ)」に変えると許容度があがるということは日本語と共通するところである。それでは、韓国語の

<sup>30</sup> 三宅 (1996)、加賀 (1997) などを参照のこと。

<sup>31</sup> (70)の文は補助動詞の例であるが、韓国語においては以下のように、本動詞の「주다 juda」動詞が取れる「対象物」の種類が日本語に比べて比較的広い。

- i) a. 花子が 私に {本/\*感銘/\*喜び/\*信頼} を くれた。  
 b. 하나코가 나에게 {책/감명/기쁨/신뢰} 를 주었다.  
 hanakoga na-ege {chaeg/gammyeong/gippeum/sinloe}leul ju-eosdda

i)は対象物の種類が日・韓で違うことを示している。i b)の韓国語の文は、i a)の日本語の文に比べて、具体的対象物(本)と抽象的対象物(感銘/喜び/信頼など)を幅広くとることができる。しかも、i)は一般に「好ましい」名詞類であるが、韓国語は次のii)のように、「好ましくない」名詞類を取ることもできる。

- ii) a. 花子は 太郎に {\*打撃/\*被害/\*悲しみ/\*負担} を あげた。  
 b. 하나코는 타로에게 {타격/피해/슬픔/부담} 을 주었다.  
 hanakoneun talo-ege {tagyeog/pihae/seulpeum/budam} eul ju-eosdda

本動詞とその延長線上にある補助動詞においても、移動できる対象物なのかどうかを話者が判断し、「에게 ege 格」の表示が可能になるのではないかと考えられる。

<sup>32</sup> このような「テヤル/レル」受益文は、ニ格で表されている受益者が「を」格目的語の持ち主である特徴を持つため、「持ち主の授受表現」と仮称しておく。山田(2004)を参照のこと。

「持ち主の授受表現」にはどのような特徴があるのかを見ていくことにする。まず、前節の「状態変化を引き起こす他動詞」と同様に物の移動が想定できる場合から見ていく。

- (72) a. 하나코가 나에게 구두를 닦아 주었다.  
 hanakkoga na-ege guduleul dakk-a ju-eossda.  
 (花子が 僕に 靴を 磨いて やった)
- b. ??하나코가 나에게 책상을 닦아 주었다.  
 hanakkoga na-ege chaegsang-eul dakk-a ju-eossda.  
 (花子が 僕に 机を 拭いて やった)

(72a)は自然な文になり、(72b)はやや不自然な文になっている。(72a)(72b)共に物の移動が想定されるにもかかわらず、許容度の差が生じる理由は、(72a)では「磨かれた靴」の移動が可能になるのに対し、(72b)では「拭かれた机」が実際移動するのではなく、ある場所においてある「僕の机」を「拭いた」という恩恵の行為と「僕の机が綺麗ではない状態から、綺麗な状態になった」という対象の状態の変化だけを話者が認識しているからである。

次は、身体部分に関わる例であるが、まず、持ち主の関係を表す「의(ui)格(ノ格)」から見ることにする。

- (73) a. 하나코가 타로의 어깨를 주물러 주었다.  
 hanakkoga talo-eokkaeleul jumulleo ju-eossda.  
 (花子が 太郎の 肩を 揉んで やった)
- b. 하나코가 타로의 머리를 쓰다듬어 주었다.  
 hanakkoga talo-eomeolileul sseudadeum-eo ju-eossda  
 (花子が 太郎の 頭を 撫でて やった)
- c. 하나코가 타로의 등을 긁어 주었다.  
 hanakkoga talo-deung-eul geulg-eo ju-eossda  
 (花子が 太郎의 背中을 搔いて やった)
- d. 하나코가 타로의 머리를 깎아 주었다.  
 hanakkoga talo-meolileul kakka ju-eossda.  
 (花子が 太郎의 髪을 切って やった)

(73)は持ち主の関係を表す「의格(ノ格)」が入った例で、いずれも適格な文になる。

ところで、本動詞の「주다 juda」文の受益者を強調するために、「에게 ege 格」を「를 leul(を)格」に交替することができる。その現象は、補助動詞の「~어 주다 eo juda」構文になった際にも適用することができる<sup>33</sup>。

<sup>33</sup> このような「에게 ege」格から「를 leul」格に交替する現象は、授受表現の他にも使役構文や対象変化動詞構文などにも見られ、授受表現においては語順も比較的自由である。

- (74) a. 타로가 하나코를 어깨를 주물러 주었다.  
 taloga hanakko-luel eokkaeleul jumulleo ju-eosdda  
 (太郎が 花子を 肩を 揉んで やった)
- b. 타로가 하나코를 머리를 쓰다듬어 주었다.  
 taloga hanakko-luel meolileul sseudadeum-eo ju-eosdda  
 (太郎が 花子を 頭を 撫でて やった)
- c. 타로가 하나코를 등을 긁어 주었다.  
 taloga hanakko-luel deung-eul geulg-eo ju-eosdda  
 (太郎が 花子を 背中を 搔いて やった)
- d. 타로가 하나코를 머리를 깎아 주었다.  
 taloga hanakko-luel meolileul kakka ju-eosdda.  
 (太郎가 花子を 髪을 切って やった)

(74)は受益者が「를 leul 格」で表示された文であるが、いずれも適格な文になっている。それだけではなく、韓国語においては、次の(75)のように、「에게 ege 格」が表示される場合もある。

- (75) a. 하나코가 타로에게 어깨를 주물러 주었다.  
 hanakkoga talo-ege eokkaeleul jumulleo ju-eosdda.  
 (花子が 太郎に 肩을 揉んで やった)
- b. 하나코가 타로에게 머리를 쓰다듬어 주었다.  
 hanakkoga talo-ege meolileul sseudadeum-eo ju-eosdda.  
 (花子が 太郎に 頭을 撫でて やった)
- c. 하나코가 타로에게 등을 긁어 주었다.  
 hanakkoga talo-ege deung-eul geulg-eo ju-eosdda.  
 (花子が 太郎に 背中을 搔いて やった)
- d. 하나코가 타로에게 머리를 깎아 주었다.  
 hanakkoga talo-ege meolileul kakka ju-eosdda.  
 (花子が 太郎に 髪을 切って やった)

このようなことが可能な理由として考えられるのは、韓国語の授受表現では何らかの移動が想定され、その移動には移動する対象が付いてくるということである。受益者に向かっ

- i) 타로를 책을/책을 타로를 주었다      ii) \*太郎을 本을/本을 太郎을 やった。

このような現象は、授受動詞の二重他動構文において「에게 ege 格」から転移された「를 leul 格」が、意味的に対象の完全な受益者になることを示している。詳しくは(ウ ヒョンシク(우형식)1996)を参照のこと。

て移動する対象が想定できれば、その着点である場所が必要となり、「에게 ege 格」の表示が可能になるということである。持ち主の授受表現において受益者に向かってくる対象が想定できれば((72a))、その対象が受益者に移動するのが想定される。一方、身体部分に対する授受表現では、実際移動する対象を想定するのは難しいが、(73)～(75)では必ず主語と受益者との「接触」が想定され、その「接触」をある種の「移動」と捉えることができるのであれば、また、例えば肩を揉むことでできてくる(肩こりが解消された)状態が肩の所有者である「太郎」に直接伝わると想定できるのであれば、授受表現における「移動と受益」という条件が満たされ、「에게 ege 格」が表示できるのではないかと考えられる。

### 2.3.3 「～てやる(あげる)／くれる」と「～어 주다 eo juda」の省略可能性

- (76) a. 타로는 하나코를 {살렸다 / 살려 주었다}  
 taloneun hanakkoleul { sallyeossda/ sallyeo ju-eossda }  
 (太郎は 花子を {助けた/助けて やった})  
 b. 타로는 하나코에게 책을 {\*읽었다 / 읽어 주었다}  
 taloneun hanakko-ege chaeg-eul { \*ilg-eossda / ilg-eo ju-eossda }  
 (太郎は 花子に 本を {読んだ/読んで やった})

(76b)の文のように、二格名詞句が表示されると「～어 주다 eo juda」を省略することができない<sup>34</sup>。これは、「읽다 ilgda(読む)」、「만들다 mandeulda(作る)」などの動詞は2項動詞であって、一般には「二格名詞句」を付与できないからである。この場合、「二格名詞句」が付与されるためには、「～어 주다 eo juda」が付いた形にしないとイケない。

日本語の場合は、多くの先行研究において、判断のゆれが見られている。まず澤田(2007)は、日本語における「作成動詞」類が韓国語と同じように、作成・入手動詞が「2項動詞」として使われると主張し、次のような例を挙げている。

- (77) John built Mary a house. (澤田 2007)  
 (78) a. \*太郎は花子に家を建てた。  
 b. 太郎は花子に家を建ててあげた。 (澤田 2007)

日本語では、与格名詞句を実現するためには、前接動詞に「～てあげる」(「てくれる」)といった補助動詞を付けて形態的に複雑な述語として示す必要がある(岸本 2001、

<sup>34</sup> これは「二格」の受益者に対する恩恵を表しているもので、「～어 주다 eo juda」が省略されると文の表面に現れている「에게 ege」名詞句に対する項の支配関係上問題が生じるからである(リュウ シジョン(류시중)1991 参照)。一方、「ご飯をおごる」の「おごる」に当たる動詞「사다(sada)」(「彼女にプレゼントを買う」は不自然)や「手紙を書く」の「書く」(例えば「彼にメモを書いた」は不自然)などの一部の動詞は慣用的に本動詞だけで使われる場合もある。

澤田 2006、2007)。澤田(2007)は、「この形態的な違いは、両言語（日本語と英語）の構文が表わす『恩恵性』の所在の違いでもある」とし、「日本語の授受表現が表わす『恩恵性』は補助動詞『～てあげる』（「てくれる」）の語彙的意味によるものであるのに対し、英語の受益二重目的語構文が表わす『恩恵性』は、特定の語彙によるものではなく、二重目的語構文という構文的意味(Goldberg 1995)によるものである」と述べている。一方、山田(2004)は、以下の例を挙げて「補助動詞『テヤル』が付かない文は、かなりの差が見られるが、まったく許容されないわけではない」とこれらの文の成立可能性を述べている。

- (79) a. 太郎は、花子に子守歌を歌った。  
 b. 僕は、子どもたちにクッキーを焼いた。  
 c. 太郎は、息子に家を建てた。 (山田 2004:92-93、  
 d. 太郎は、娘にダンスを踊った。 一部改変)  
 e. 花子は、(暑そうにしている)太郎に窓を開けた。

山田(2004)は、「動詞によって差はあるが、一般的に言って、これらのいわゆる作成動詞は、二格目的語を動詞自体が必須的に要求するとまではいかないまでも、要求していると認識されやすい性質を持つ、いわば 2.5 項動詞のような性質を持つものもあることが見て取れる」と述べ、作成動詞類の動詞は動詞自体が二格を必要とする可能性を示唆している。これと関連のある研究としては、ハンギョンア(2008)、井上(2011)が挙げられる。まず、ハンギョンア(2008: 82)は、

- (80) (運転席で運転中の女の人に助手席の男の人が話しかけている。)  
 男：(紙袋を見て)ところで、これ、何？。  
 女：あ、気に入るかわからないけど、あなたに買ったのよ。  
 (81) (向かい合っている二人。スーザンが描いた絵を差し出しながら)  
 スーザン：ミカリンに約束どおりに絵を描きました。  
 (82) a. 私があなたにプレゼントを {買った/買ってあげた}。  
 b. 私がミカリンに絵を {描いた/描いてあげた}。

のような例を挙げ、(80)と(81)の文は、(82)の文から「～てあげる」が省略されていると述べている<sup>35</sup>。その反面、韓国語の「～어 주다 eo juda」が省略されると非文になり、2項動詞の場合、動詞だけでは（例えば「買う」「作る」など）、対象物の移動を表わすことができないと主張している。ハンギョンア(2008)はこのような違いが生じるのは「～てあげる/くれる」と「～어 주다 eo juda」文において「物の移動を表わしているか否か」という違いがあるからだとして述べている。

<sup>35</sup> これについてハンギョンア(2008)は、「2項動詞+～てあげる」文から「～てあげる」が省略しているのではなく、2項動詞が「に」格名詞句を発生させると考える見解もあるだろうと述べている。

ハン ギョンア(2008)を引用して日本語と韓国語、中国語の「動詞+授受動詞」を比較している井上(2011)は、

- (83) a. 私は 恋人に セーターを 編んだ。  
b. 私は 恋人に セーターを 編んでやった。 (生越 2002)
- (84) a. \*나는 애인에게 스웨터를 찼다.  
naneun ae-in-ege seu-weteoleul jjassda  
b. 나는 애인에게 스웨터를 짜 주었다.  
naneun ae-in-ege seu-weteoleul jja ju-eossda

のような例を挙げ、韓国語においては、「作成・入手」動詞類は「주다 juda(与える)」がないと受け手を表わす「에게 ege(ニ)格」をとることができないと述べている。例えば、「父親が子供に手紙を書いた」に当たる表現は「주다 juda(与える)」がなくても成立すると述べているが、その理由は、「手紙」には「受け手への」という意味が含まれているからである(生越 2002)。さらに「주다 juda(与える)」の付加を含め、韓国語では動詞句に明示的に移動の意味が含まれなければ「에게 ege 格」はとれないと付け加えている。一方、井上(2011)は次のような例を挙げ、

- (85) a. 花子は太郎に本を読んでやった。  
b. 花子は太郎に布団を敷いてやった。 (三宅 1996)
- (86) a. ?花子は太郎に本を読んだ。  
b. ?花子は太郎に布団を敷いた。 (井上 2011)

のような日本語においては、「『やる』の文法化が進んでいる分、作成動詞、入手動詞に授与動詞的な意味がある程度付与できるようになっているのかもしれない」とし、「やる」がつかない例文の可否については判断にゆれがみられ、これは日本語と韓国語の「V+授与動詞」の性質について考える際のポイントとなる点であると述べている。

以上のことをまとめると、次のようになる。

元々は「2項動詞」である日本語の作成動詞・入手動詞などの類の動詞は、時々「3項動詞」のような振る舞いをして「ニ格名詞句」付与することができる。例えば、「彼女に指輪を買った」「子供にケーキを作った」「親に家を建てた」「(あつそうにしている)彼に窓を開けた(山田 2004)」などが挙げられるが、文の正否に対する判断にゆれが見られ、「まったくいえない」から「普通に言える」まで実に幅広い。これは、日本語における「やる」の文法化が進んでいる分、作成動詞、入手動詞に授与動詞的な意味がある程度付与できるようになっているのかもしれない(井上 2011:47)。

それでは、日本語にだけ見られる、このような現象についてもう少し考えてみよう。次の例を見られたい。

- (87) a. 母が子供にお弁当を作った。  
 b. 母が子供にケーキを焼いた。  
 c. 太郎が花子にプレゼントを買った。  
 d. 太郎が親に家を建てた。
- (88) a. ?花子は太郎に本を読んだ。  
 b. ?彼が彼女に歌を歌った。  
 c. ?彼が彼女にダンスを踊った。  
 d. ?母が太郎に電気をつけた。
- (89) a. ??太郎が花子に鉛筆を削った。  
 b. ??太郎が花子に靴を磨いた。  
 c. ??太郎が花子に服を洗った。

(87)～(89)の例は、動詞から「二格」が付与されているかどうかをテストした結果である。(87)の文はいわゆる「作成・入手動詞類」で、(88)は「行為動詞」、(89)は「状態変化を引き起こすか少なくともそれを意図した他動詞」である。周知の通り、(87)～(89)の文は、「～てあげる／くれる」が補助動詞として使われると問題なく「二格」が付与される。それでは、これらの例文における判断のゆれはどこから来るのだろうか。以下、その理由を「『二格』の捉え方の違いによるもの」と「名詞の種類によるもの」「『授与者』と『受益者』の種類によるもの」とに分けて考えてみることにする。

#### ①「二格」の捉え方の違いによるもの

まず、(87)～(89)の文に使われた「二格」の捉え方であるが、一つは「着点」を表わし、もう一つはただの「受益者」を表わすという二つの考え方があると考えられる。一般に「あげる／くれる」が本動詞として使われた際に現れる「二格」は「着点」の読みが強い。それによって、当然、二格名詞句の受益者に向かって対象の物が移動するわけである。しかし、「あげる／くれる」動詞が補助動詞として使われた場合の「二格」は必ずしも着点の読みにはならず、利益（または不利益）の行為が移動する「受益者格」を表わす場合も考えることができる。そういうわけで、(87)～(89)の文に「あげる／くれる」を補助動詞としてつけると、対象の物が移動するに加えて受益者の「二格名詞句」に恩恵の行為が向かっていく。しかも対象のものが「二格名詞句」の受益者に届いても届かなくてもいいから具体的な対象物（例えば「お弁当」「ケーキ」「プレゼント」など）でも、抽象的な対象物（例えば「歌声」「ダンス」「電気」）でもいいわけである。その反面、「～てあげる／くれる」の付いていない(87)の例は、恩恵を受ける受益者の読みは生じず、「二格」が着点の読みが強くなる。本来、「作成・入手動詞」は何らかの物が生成されたり、できたりするだけで、移動とは関係を持たないはずであるが、「二格」を付与することによって、生成された対象の物が移動しやすくなるのではないかと考えられる。それに比べて、(88)の例がぎこちなく感じられるのは、「本の内容」や「歌声」「ダンス」などの抽象



的な対象物は「二格名詞句」に移動するという着点の読みが取れにくく、「二格名詞句」をただの受益者として捉えようとしても、「～てあげる／くれる」の不在のためできないからである。(89)の文に関しても、元々あった「鉛筆」や「靴」「服」が「削る」「磨く」「洗う」ことによって状態変化が起こるだけで、それが移動することはできないだけでなく、「～てあげる／くれる」がないため、受益者としての「二格」の付与もできないわけである。

日本語の母語話者において(87)～(89)の文の判断にゆれが見られるのは、「二格」助詞に対する認識の違いから来るものであり、「二格」をどこまで「受益者」として捉えられるかは個人の知識や背景などによって異なるものであると考えられる。これらのことは、日本語にだけ見られる現象で、同じ形式を持っている韓国語との比較の際の重要なポイントになる。例えば、韓国語においては、上記の(87)～(89)の例に対する判断が一貫して非文になっているが、それは、「二格」と「에게 ege 格」の付与のされ方の違いによると思われる。すなわち、日本語は作成動詞などの「動詞」から「二格」が与えられることもあるのに対し、韓国語では本動詞の意味が強く残っている(文法化が進んでいないともいえる)「～어 주다 eo juda」から与えられるという違いから来るものではないかと考えられる。

## ②名詞の種類によるもの

もう一つ考えられるのは、対象の物(名詞)によるものである。以下の例を見られたい。

- (90) a. 母親が子供にケーキを作った。  
b. ?父親が子供に犬小屋を作った。  
c. ?父親が子供に砂場を作った。
- (91) a. 太郎が花子にプレゼントを買った。  
b. ?太郎が花子に土地を買った。  
c. ?太郎が母親に米を買った。
- (92) a. 息子が親に家を建てた。  
b. ?父親が息子に本棚を組み立てた。  
c. ??父親が息子にプラモデルを組み立てた。
- (93) a. 太郎が花子に手紙を書いた。  
b. ??太郎が花子に論文を書いた。

(90)～(93)の文は、同じ動詞でも対象になる名詞の種類によって判断の違いが見られた例である。(90a)の「作る」や(91a)の「買う」、(92a)の「建てる」、(93a)の「書く」は比較的「正文」であるという判断が多かったが、このことから、対象になる名詞が変わることによって、文に対する判断が違ってくることを予測できる。これは、文法というよりはむしろ語用論に関わる問題であると考えられるが、インフォーマント調査では「その状況がぱっと浮かび上がるのとあまりその場面が浮かばない」という答えが多かった。たと

例えば、「同じ『買う』にしても『プレゼント』には人に渡すという認識が強く含意されている反面、『土地』や『米』はその認識が弱い」、「『書く』でも『手紙』は人へ送るもの」という認識が強い反面、『論文』はそうではない」という類である。「名詞」に「方向性」があるといえるかどうかは異論の余地のあるところではあるが、あたかも「名詞」が「方向性」を持っているかのような日本語の上記の(90)～(93)の例は興味深いものである。

### ③「授与者」と「受益者」の種類によるもの

最後は、「授与者」と「受益者」の種類によるものである。次の例を見られたい。

- (94) a. 太郎は花子に弁当を作った。
- b. \*太郎は先生に弁当をお作りした。
- c. 先生は学生に弁当をお作りになった。
- (95) a. 太郎は花子に本を読んだ。
- b. \*太郎は先生に本をお読みした。
- c. 先生は太郎に本をお読みになった。

(94)(95)は、「授与者」と「受益者」が違うことで文の成立に影響を与えることを示している。(94)は「太郎」が同等の「花子」に弁当を作ったり、本を読んだりすることは可能であるが、「太郎」が目上の先生に弁当をお作りしたり、本をお読みしたりはできない<sup>36</sup>。ところが、(94c)(95c)において、目上の「先生」が弁当をお作りになったり、本をお読みになることは可能である。

一方、もともと 3 項動詞である「話す」などが用いられた次の(96)のような文は(94)や(95)で見られるような制限は見当たらない。

- (96) a. 太郎は花子にそのことを話した。
- b. 太郎は先生にそのことをお話した。
- c. 先生は学生にそのことをお話になった。

これは、敬語の問題に限られるかもしれないが、(94)、(95)と(96)とで対比が見られることということは興味深いものである。

#### 2.3.4 2.3 節のまとめ

2.3 節では、「～てやる(あげる)／くれる」文と「～어 주다 eo juda」文における「ニ格」「에게 ege 格」助詞の現われ方を先行研究に照らし合わせて検証した。まず、「ニ格」「에게 ege 格」助詞が現われやすい動詞類は、「作成・入手動詞」と「移行動詞」で

<sup>36</sup> Shibatani(1994)を参照のこと。

あった。その動詞類からは、何らかの対象物（作成物）が生成され、「二格」「에게 ege」格名詞句に移動することが容易になるからである。一方、「対象変化を引き起こす他動詞類」や「持ち主授受表現」においては、日・韓の違いが見られた。それは「移動」に関する両言語の認識の違いからくるものでもあり、「～てやる(あげる)／くれる」文と「～어 주다 eo juda」文の基本的な構造の違いからくるものでもあると考えられる。ところで、日本語においては、いわゆる 2.5 項動詞と呼ばれる動詞類が存在するのだが、この動詞類が用いられると「～てやる(あげる)／くれる」がなくても、その動詞類から「二格」助詞が付与される。これについて、Shibatani(1994)は、敬語化ができないということで認めていないなど、多くの先行研究では非文として扱われているが、山田(2004)および本論文での調査では、広い範囲で用いられているのが確認できた。しかしながら、疑問文にした場合の不適合性の上昇や、名詞の種類による判断のゆれが見られる点、敬語化および謙讓語化が難しいこと、さらに、書き言葉としては用いられにくいということから総合的に考えると、まだ非文法的な要素を多く包含している表現であるということは否定できない。一方、韓国語における判断は一貫して非文法的であり、日本語のような問題は生じていない。これは、「二格」助詞が「～てやる(あげる)／くれる」からも、主動詞からも付与されるという日本語とは違って、「에게 ege 格」助詞はもっぱら「～어 주다 eo juda」から付与されることから起因すると考えられる。

## 2.4 「移動」に関する韓国語と日本語の比較

一般に「授受表現」には、「対象物の移動」に関わることがあるが、次のように、頼んでおいたことをしてくれたかどうかを尋ねる場面では、日・韓で差が見られる。

(97) (昨夜母に、「明日は給食がないから、お弁当を作ってくれ」という設定で、今朝お弁当を作ってくれたかどうかを確認する。)

- a. お弁当、作ってくれた?
- b. \*도시락, 만들어 주었어?  
dosilag, mandeul-eo ju-eoss-eo

(97)の例は、息子がお母さんにお弁当を作ってくれるよう頼んで、後にそれを作ってくれたかどうかを確認する場面である。この場合、日本語は(97a)のように正文になるが、韓国語の(97b)は非文になる<sup>37</sup>。(97)は受取人が話し手の場合で、お弁当を作るのは聞き手である。一方、受取人が第三者か聞き手で、お弁当を作るのが聞き手か第三者の場合は、韓国語の「～어 주다(eo juda)」も使うことができる。

<sup>37</sup> 「돈 보내 주었나? / 돈 보내 주었던가? (お金、送ってくれたっけ?)」のように、「話し手がお金を受け取ったことを忘れてしまったりして確認する場面では正文となる。

(98) (お弁当の受取人が第三者か聞き手の場合)

- a. 彼に お弁当 作ってあげた?  
b. 彼が お弁当 作ってくれた?  
c. 그에게 도시락 만들어 주었어?  
geu-ege dosilag mandeul-eo ju-eoss-eo  
d. 그가 도시락 만들어 주었어?  
geu ga dosilag mandeul-eo ju-eoss-eo

本節では、(97)と(98)のような判断の差が出る要因は何かを、「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」の意味特徴の違いから明らかにしたいと思う。

この点に関して、ハンギョンア(2008)は日本語の「～てあげる／くれる」と韓国語の「～어 주다 eo juda」の意味機能を比較し、補助動詞の意味的特徴である「移動」と「恩恵」という二つの面で考察している。ハンギョンア(2008: 81)は物の「移動」について日・韓で以下のような違いがあると述べている。

- (99) a. 私は ヨンヒに 本を 買ってあげたが、まだ渡していない。  
b. \*나는 영희에게 책을 사 주었지만, 아직 (전해) 주지 않았다.  
naneun yeonghui-ege chaeg-eul sa ju-eossjiman, ajig (jeonhae) juji anh-assda  
(100) a. 私は ヨンヒに 手袋を 編んであげたが、まだ渡していない。  
b. \*나는 영희에게 장갑을 짜 주었지만, 아직 (전해) 주지 않았다.  
naneun yeonghui-ege janggab-eul jja ju-eossjiman, ajig (jeonhae) juji anh-assda

ハンギョンア(2008)は(99a)と(100a)の「～てあげる」は「本」や「手袋」の移動がなくても適格な文となり、「恩恵」の意味のみを表すことができると述べている。「～てくれる」文においても以下の(101)のような例を挙げて、同様であることを述べている。

- (101) a. ヨンヒ가 私に {買って/作って}くれた かばん을 まだもらっていない。  
b. \*영희가 나에게 {사/만들어} 준 가방을 아직 받지 않았다.  
yeonghuiga na-ege {sa/mandeul-eo} jun gabang-eul ajig badji anh-assda

(ハンギョンア 2008:81、一部改変)

(101a)の「～てくれる」では、かばんの移動は表わされておらず、「恩恵」の意味のみを表わすことが可能であるため、後ろの「まだもらっていない」という内容と矛盾せず適格な文となると主張している。このようなことから、「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」は、物の移動を表しているか否かという違いがあり、この違いは、三つの言語現象に反映されていると述べている。その一つが「疑問文での振る舞いの差」である。

(102) (かばんの受取人が話し手の場合)

- a. かばんを作ってくれた. / かばん、作ってくれた?  
b. 가방을 만들어 주었다. / \*가방, 만들어 주었어?  
gabang-eul mandeul-eo ju-eossda. / gabang, mandeul-eo ju-eoss-eo

(ハンギョンア 2008:83)

ハンギョンア(2008)は、(102b)の「~어 주다 eo juda」にはかばんの移動が含まれていて、「~어 주다 eo juda」を使った場合、話し手はすでにかばんを受領しており、わざわざ聞き手に自分(話し手)にかばんをくれたかどうか問いかける必要はないと説明している。一方、(101a)の「~てくれる」は、かばんの移動が表されなくてもよく、「恩恵」のみを表すため、話し手は聞き手にかばんを作ったかどうかを聞いていることになり、適格となるということである。

その反面、(103)のように、話し手にとって第三者への対象の移動は未知の情報であり、かばんを渡したかどうか問いかけることに矛盾はないから、問いかけることが可能になると述べている。

(103) (かばんの受取人が第三者の場合)

영희에게 가방, 만들어 주었어? (ヨンヒに かばん、作ってあげた?)

yeonghui-ege gabang, mandeul-eo ju-eoss-eo (ハンギョンア 2008:81、一部改変)

ハンギョンア(2008)の以上のような議論は、「~어 주다 eo juda」文が本動詞の「주다 juda」文の「移動」の含意を受け継いでいるところを利用し、日本語の「あげる／くれる」文に比べて文法化が進んでいないという主張の裏づけの一つになっている。これらの「주다 juda」文と「移動」に関しては、多くの研究から認められている事実で、例えば、カンヒョンファ(강현화)(1998:54)は以下のような内容で「주다 juda」文と「移動」の関係について述べている。

- (104) a. 그가 나에게 선물을 주었다.  
geuga na-ege seonmul-eul ju-eossda  
(彼が 私に プレゼントを やった)  
b. 그는 나에게 용기를 주었다.  
geuneun na-ege yonggileul ju-eossda  
(彼は 私に 勇気を やった)

カンヒョンファ(1998)は「주다 juda」文には必ず具体物(あるいは抽象物)の移動が前提にされていて、授与者と受益者が存在すると述べている。例えば、(104a)においては「彼(source)」から「私(goal)」に向かったのプレゼントの移動が前提とされ、(104b)において

も「勇氣」という抽象物が「彼(source)」から「私(goal)」に移動するという。

同じように、目的語が抽象物である以下の(105)の例も同様、「노래(nore、うた)」や「시(si、詩)」などの抽象物が移動したことを想定できるということである。

(105) a. 연애 시절에 남편은 나에게 노래를 불러 주곤 했다.

(그 노래는 아직도 내 가슴에 남아 있다.) nolaeleul bulleo jugon haessda

(恋愛のとき 夫は 私に 歌を 歌って やったり していた)

(その歌は 未だに 私の 心に 残っている)

b. 학창 시절 그 선생님은 우리들에게 릴케의 시를 읽어 주시곤 했다.

(그 시 구절은 지금까지 내 머리에서 떠나질 않는다.) ilg-eo jusigon haessda

(学生時代、あの先生は 私たちに リルケの詩を 詠んで やったり していた)

(その詩句は 未だに 私の 頭の中から 離れていない)

(カン ヒョンファ 1998:54)

このように、韓国語の「주다(juda)」文は「具体物」や「抽象物」の「移動」が前提にされており、補助動詞形の「~어 주다 eo juda」文になっても「移動」の含意は強く残っている。

ところが、果たして「移動」の概念だけでこの現象を説明できるのであるだろうか。ハンギョンア(2008)では、「~てくれる」の例として「ヨンヒが私に買って/作ってくれたかばん」というように連体修飾形の例だけを挙げている。これについて、「恩恵」だけを表わすことが可能であるために後ろの「もらっていない」という内容と矛盾せず適格な文となると述べている。しかし、「買う」と「作る」という動詞の種類によっても差は出る(例えば、「買う」の場合はやや不自然)との判断もあり、以下のように、(99a)(100a)の形になるとさらに許容度が落ちているのはなぜであろうか。

(106) a. ?ヨンヒ가 私に かばん을 買ってくれた가, まだもらっていない。

b. \*영희가 나에게 가방을 사 주었으나, 아직 받지 않았다.

yeonghuiga na-ege gabang-eul sa ju-oss-euna, ajig badji anh-assda

確かに、日本語の「~てあげる/くれる」に比べて韓国語の「~어 주다 eo juda」の方が許容度が落ちるのであるが、(106a)の例で、日本語の「~てあげる」と「~てくれる」とでも許容度の差は出ることも否定できない。ということは、日本語の「~てあげる/くれる」にも移動の可能性は充分あり得ることではなかろうか。

#### 2.4.1 「~어 주다 eo juda」文と「~てやる/くれる」文における「移動」

本節では「~어 주다 eo juda」文と「~てあげる/くれる」文の構造を分析し、その類似点と相違点を見ていくことにする。また、その類似点や相違点が「対象物」や「恩恵」の

移動に影響があるのかを調べ、あるとしたら日本語と韓国語でどう違うのかを考察する。

- (107) a. 타로가 나에게 책을 사 주었다.  
b. 太郎が 私に 本を 買ってくれた。  
taloga na-ege chaeg-eul sa ju-eossda

(107)は「太郎が私に本を買ってくれた」という出来事を表わしているが、対象物である「本」の移動に関しては、韓国語と日本語とで以下のように異なっている。

- (108) \*타로가 나에게 책을 사 주었지만, 나는 아직 받지 않았다.  
taloga na-ege chaeg-eul sa ju-eossjiman, naneun ajig badji anh-assda  
(109) 太郎が 私に 本を買ってくれたが、まだ もらっていない。

すでに述べたように、韓国語では必ず「移動」を伴う<sup>38</sup>。ハンギョンア(2008)は、物の移動を表わしているか否かという違いが、以下のような言語現象を反映しているという。

まず、(一部の)2項動詞と結合する「~てあげる/くれる」と「~어 주다 eo juda」の省略可能性に差があると主張する(ハンギョンア 2008:82)。

- (110) (運転席で運転中の女の人に助手席の男と人が話しかけている)  
男：(紙袋を見て)ところで、これ、何。  
女：あ、気に入るか分からないけど、あなたに買ったのよ。 (= (80))  
(111) (向かい合っている二人。スーザンが描いた絵を差し出しながら)  
スーザン：ミリカンに約束どおりに絵を描きました。 (= (81))

ハンギョンア(2008)は(110)(111)について、「プレゼントや絵の移動を表わすのではなく、話し手が与える恩恵を意味し、省略可能となる」と述べている。一方韓国語は、

- (112) 내가 너에게 선물을 {\*샀다/사 주었다}.  
naega neo-ege seonmul-eul {\*sassedda/sa ju-eossda}  
(私が 君に プレゼントを {買った/買って やった})  
(113) {너/그}가 나에게 선물을 {\*샀다/사 주었다}.  
{neo/geu}ga na-ege seonmul-eul {\*sassedda/sa ju-eossda}  
{君/彼}가 私に プレゼントを {買った/買って やった}

のような例を挙げ、「2項動詞の「사다 sada (買う)」だけではプレゼントの移動を表わ

<sup>38</sup> 칸ヒョンファ(1998)、ハンギョンア(2008)、井上(2011)を参照のこと。

すことができない。よって、プレゼントの移動を表わす「~어 주다 eo juda」は省略不可能である」と述べている(ハンギョンア 2008:82)。

第二の言語現象として、「~てあげる(やる) / くれる」と「~어 주다 eo juda」の時制に差が生じると述べている。

(114) (プレゼントを渡しながら)

a. あなたに 買ってあげたのよ。

b. 너에게 사 주는 거야. (逐語訳: あなたに買ってあげるのよ。)

neo-ege sa juneun geo-ya (ハンギョンア 2008:83 一部改変)

(114b)の文の「~어 주다 eo juda」に対しては、「~어 주다 eo juda」がプレゼントの移動を表わすわけで、その移動は発話時に完了していないために非過去形の「주는 juneun (アゲル)」が用いられるという<sup>39</sup>。

第三の言語現象として、疑問文での振る舞いの差を指摘できると述べている<sup>40</sup>。

それでは、以上の三つの言語現象が実際、「移動」とどういう関わりを持っているのかについて詳しく見ていくことにする。

#### 2.4.2 「~어 주다 eo juda」文と「~てあげる / くれる」文の構造

本節では、「에게 ege」「に」格助詞の現れる(主に先行動詞が「作成・入手動詞」類の場合)の「~어 주다 eo juda」文と「~てあげる / くれる」文の構造の違いについて見ていくことにする。

(115) 하나코가 타로에게 도시락을 만들어 주었다.

hanakoga talo-ege dosilag-eul mandeul-eo ju-eosdda

(116) 花子が 太郎に お弁当を 作ってくれた。

まず、(115)の「에게 ege」と(116)の「に」はどこから付与されるのであろうか。可能性としては「만들다 mandeulda」と「주다 juda」(「作る」と「くれる」)のどっちかということになるが、その前に、(115)(116)の例における「~어 주다 eo juda」と「~てあげる / くれる」の性質を比べることにする。

(117) a. \*하나코가 타로에게 도시락을 만들었다.

hanakoga talo-ege dosilag-eul mandeul-eosdda

<sup>39</sup> しかし、必ずしもそうなるとは限らない。場合によっては、過去形の「주었다 ju-eosdda」が用いられないことはもちろん、現在形の「주는 juneun」にすることもできない。

<sup>40</sup> これについては、上記の(102)(103)に関する説明をご参照のこと(p. 47)。



- a'. 하나코가 타로에게 도시락을 만들어 주었다.  
hanakoga talo-ege dosilag-eul mandeul-eo ju-eosdda
- b. 花子が 太郎に お弁当を 作った。
- b'. 花子が 太郎に お弁当を 作ってあげた。

(117)において、「주다 juda」が付いている(117a')は文法的に正しいが、「주다 juda」の付かない(117)a は非文になっている。ということは、韓国語の「에게 ege」は「주다 juda」から付与されるものであることが予測できる。それに比べて、日本語の(117b) (117b')は共に正文になっているので、おそらく「作る」からでも「あげる」からでも「に」が付与され得る可能性が高い<sup>41</sup>。つまり、(117)を(118)のように表わすことができるであろう。

- (118) a. 하나코가 타로에게 [도시락을 만들어] 주었다.  
hanakoga talo-ege [dosilag-eul mandeul-eo] ju-eosdda
- b. 花子が [太郎に お弁当を 作って] くれた。

このような事実から、補助動詞として用いられた「~어 주다 eo juda」が本動詞の「주다 juda」と意味的に深く関連していることを見て取れる。これと関連してパク ソン옥(박선옥) (2005)は、ソ ジョンス(서정수) (1996)を引用し、以下のように述べている。

- (119) a. 아내가 사과를 꺾어 주었다.  
anaega sagwaleul kkakk-a ju-eosdda  
(家内が りんごを むいて やった)
- b. 아내가 나에게 사과를 꺾어서 주었다.  
anaega na-ege sagwaleul kkakk-aseo ju-eosdda  
(家内が 私に りんごを むいて やった)
- c. 아내가 나를 생각해서 사과를 꺾었다.  
anaega naleul saenggaghaeseo sagwaleul kkakk-assda  
(家内が 私のために りんごを むいた)

(119a)が(119b)のような意味であれば「주다 juda」は本動詞であるが、(119c)のような意味になると補助動詞になるとソ ジョンス(1996)は述べているが、(119c)では、先行する動詞の形態が副詞形の語尾「~어 eo」をとっているため、そのような二重的な意味を考えることができる。しかし、(119a)の文は、実際の発話で独立的

<sup>41</sup> これに対する判断には人、また「動詞」によって「ゆれ」が見られる。例えば、具体的な対象物が生成される「作成動詞」類では、比較的「正文」と判断する意見が多かったが、対象物があっても「状態変化を引き起こす動詞」類では、「非文」の判定が多く見られた。さらに、「目に見えるもの」(例えば、お弁当やお金、本など)と「目に見えない」もの(例えば、歌声や本の内容、電気など)とでの判断の違いも比較的大きかった。

に使用されることはない。我々は前後の文脈や状況から(119a)が(119b)と(119c)の中のどちらの意味で使われたかを判断することはそれほど難しいことではない。ただ、(119)の例を通して、補助動詞の「주다 juda」は本動詞として使われる同一形態の「주다 juda」と深く関わっていることが確認できる。(パク ソンオク 2005:208)

以上のように、補助動詞としての「~어 주다 eo juda」は本動詞の「주다 juda」と意味的に深いつながりを持っている。しかしながら、「~어 주다 eo juda」の先行動詞が「作成・入手」動詞類や一部の「状態変化を引き起こす他動詞」に限られるので、それ以外の動詞から上記のような二重の意味が生じることはほとんどない。

さらに、韓国語の「~에게 ~어 주다~ege ~eo juda」が対象物の「移動」と深く関わっていることは、以下のような「~를 위해 ~해 주다 ~leul wihae ~hae juda」と「~のために ~てあげる/くれる」の成立可否によっても裏付けられる。

- (120) a. ?하나코가 타로를 위해 시계를 사 주었다.  
 hanakoga taloleul wihae sigyeleul sa ju-eosdda  
 b. 彼女が 太郎のために 時計を 買ってあげた(くれた).
- (121) a. ?하나코가 타로를 위해 빵을 구워 주었다.  
 hanakoga taloleul wihae ppang-eul gu-wo ju-eosdda  
 b. 花子が 太郎のためにパンを 焼いてあげた(くれた).
- (122) a. 하나코가 타로를 위해 구두를 닦아 주었다.  
 hanakoga taloleul wihae guduleul dakk-a ju-eosdda  
 b. 花子が 太郎のために 靴を 磨いてあげた(くれた).
- (123) a. 하나코가 타로를 위해 학교에 가 주었다.  
 hanakoga taloleul wihae haggyo-e ga ju-eosdda  
 b. 花子が 太郎のために 学校に 行ってあげた(くれた).

(120)~(123)は「~를 위해 ~해 주다 ~leul wihae ~hae juda」文と「~のために~てあげる/くれる」文の主動詞として、それぞれ「入手動詞(120)」「作成動詞(121)」「状態変化を引き起こす他動詞(122)」「移動動詞(123)」が用いられた例であるが、(120)と(121)の文の正否の判断が(122)と(123)の例のそれに比べて少し落ちている。韓国語の母語話者の中でも判断のゆれがあるので、「非文とまでは言えないが、何かが引っ掛かる」「ちょっとおかしい」「何がおかしいかよく分からないが、とにかくおかしい」という判断が見られた。これは、行為に対する恩恵の意味を表わす「~를 위해 leul wihae(のために)」と「주다 juda」動詞の対象物の移動先を強く要求する性質とがぶつかった結果発生する現象であり、「作成・入手」動詞類における「~어 주다 eo juda」は、対象物の移動が伴う本動詞用法に近いものであることが影響するのではないかと考えられる。

一方、(122)と(123)の例は「~를 위해 leul wihae(のために)」と「~어 주다 eo juda」

の間とでそのような衝突が起こらないため、ただの行為の「恩恵」を表わす「~어 주다 eo juda」として問題なく結合できる。以下の例を見られたい。

- (124) a. このテディベアは元々直子が藻奈美のために作ってやったものだった。直子は裁縫が得意なのだ。 《秘密 72》
- b. 그 곰인형은 원래 모나미를 위해 만든 것으로, ….  
monamileul wihae mandeun  
(この テディベアは 元々 藻奈美のために 作った もので…) 《비밀 77》

(124)は、お母さんの「直子」が娘の「藻奈美」のために作ったテディベアについて夫と妻の会話であるが、日本語はただの行為の恩恵の意味だけで十分だから「~ために ~てあげる」が使われており、韓国語は「テディベアの移動」が関わっているので、「~어 주다 eo juda」を使うことができず、動詞「만들다 mandeul da(作る)」だけが用いられている。

- (125) a. 「…でも、これは個人情報だ。本来ならやってはいけないことを、僕はきみのためにしてあげようと言っている。…」 《少女 151》
- b. 「… 하면 안 되는 짓을 너를 위해 해준다 그 말이지. ….”  
neoleul wihae haejunda  
(やってはいけない ことを おまえのために して やる) 《소녀 162》

(125)は話し手の「私」が聞き手の「きみ」に対して何かをしてあげると言っている場面で、この場合は、対象物の移動と直接の関わりがないため、日本語も韓国語もそれぞれ「~ために ~してあげる」「~를 위해 ~해 주다~leul wihae ~hae juda」が使われても何の問題も生じない。

- (126) a. うるせえとかなんとか、言いましたよ。おまえのためにやってやったのに、なんで邪魔しにきたんだよって。……  
おまえのためにやってやったんだって、いったいどういうことなのよって、綾子ちゃんが言ったもんでね。 《理由 659》
- b. … 다 너를 위해서 하는 일인데, 왜 와서 방해하는 거야, 하면서. …  
neoleul wihaseo haneun  
(全て おまえのために やる ことなのに、なんで 来て 邪魔する んだよって)  
나를 위해서 한 일이라니, 대체 무슨 일을 했는데? 《이유 642》  
naleul wihaseo han  
(わたしの ために やったことって、一体 どういうことを やったんだ?)

(126)は話し手の「私」が聞き手の「おまえ」のために、「してあげた」ことを表わしてい

る場面であるが、日本語の例(126a)は「～ために～してやる」の形に、韓国語の例(126b)は「～를 위해～하다～leul wihae～hada(～ために～する)」の形になっている。このように、韓国語において、対象物の「移動」と直接関係を持たない文では、「～해 주다 hae juda(してやる)(125)」と「하다 hada(する)(126)」の両方許されるということがわかる。

### 2.4.3 着点の「에게 ege」と受益者の「に」

第二の日本語と韓国語の違いは、「～に～てあげる／くれる」文と「～에게 ege ～어 주다 eo juda」文に用いられている「に」と「～에게 ege」の違いである。

「に」と「에게 ege」の現れる授受表現において、主動詞が「作成・入手」動詞類の場合が一般的であるが、「に」と「에게 ege」の役割は日本語と韓国語とで少し異なっている。その現象は、元々は「2項動詞」のはずの「作る／買う」などの動詞が「3項動詞」のように「に」「에게 ege」を取れるか取れないかという対比を示す、以下のような例から見て取ることができる。

- (127) a. 花子が 太郎に お弁当を 作った。  
 b. \*하나코가 타로에게 도시락을 만들었다.  
 hanakoga talo-ege dosilag-eul mandeul-eosdda
- (128) a. 太郎が 花子に プレゼントを 買った。  
 b. \*타로가 하나코에게 선물을 샀다.  
 taloga hanako-ege seonmul-eul sassda

(127)と(128)は「作成・入手」動詞類が使われた例であるが、日本語は正文になっている反面、韓国語は非文になっている<sup>42</sup>。

- (129) a. ??太郎は 太郎に ダンスを 踊った。  
 b. \*하나코가 타로에게 춤을 추었다.  
 hanakoga talo-ege chum-eul chu-eosdda
- (130) a. ??太郎が 花子に 自転車を 直した。  
 b. \*타로가 하나코에게 자전거를 고쳤다.  
 taloga hanako-ege jajeongeoleul gochyeosdda

<sup>42</sup> (127)と(128)の日本語の例文に対しては、判断のゆれが見られているし、「2項動詞」の中でも一部の動詞に限られていることをお断りいただきたい。一方、韓国語においてはそのような判断のゆれは見られない。本論文 2.3.3 節を参照のこと。

(129)は行為動詞の「踊る(추다 chuda)」が、(130)は状態変化を引き起こす他動詞である「直す(고치다 gochida)」が使われた例であるが、日本語は非常に悪く、韓国語は非文になっている。

- (131) a. 太郎が 花子に 手紙を 書いた。  
 a'. 타로가 하나코에게 편지를 썼다.  
 taloga hanako-ege pyeonjileul sseossda (生越 2002)  
 b. ??太郎が 花子に 論文を 書いた。  
 b'. \*타로가 하나코에게 논문을 썼다.  
 taloga hanako-ege nonmun-eul sseossda

(131a)と(131a')において「書いた」ものは「手紙(편지 pyeonji)」で、「手紙(편지 pyeonji)」には「人に送るもの」という認識が強いため、日本語も韓国語も正文になっている。それに対して(131b)と(131b')の「論文」は「人に送るもの」という認識に欠けているため、日本語はすわりの悪い文になっており、韓国語は非文になっている。

以上のように、一部の動詞に限られてはいるが、日本語の「作成・入手」動詞類は「3項動詞」のように「二格」を付与できる場合があるのに対し、韓国語は慣用化された動詞(「편지를 쓰다 pyeonjileul sseuda(手紙を書く)」など)を除けば、動詞自体が「에게 ege」を付与することはできない。それは、「作成・入手」動詞類が使われた「～に～てあげる／くれる」文と「～에게 ege ～어 주다 eo juda」における「に」と「에게 ege」がどこから付与されたものなのか、また「に」と「에게 ege」の文法的な役割は何であるかを知るポイントになる。日本語の場合は「動詞」からも「二」が付与でき、韓国語は「주다 juda(あげる／くれる)」動詞のみから「에게 ege」が付与されるということは、「行為の恩恵だけでもよいか」(日本語)、「対象物の移動まで含まれていなければならないのか」(韓国語)の違いを決定できる指標にもなり得る。その理由は、日本語の「二」はただの行為の恩恵を受ける「受益者」としての意味を持っているのに対し、韓国語の「에게 ege」は、対象物が移動する「着点」の意味までを持っていなければならないからである。これは主動詞として「作成・入手」動詞類が用いられた「～어 주다 eo juda」文が、「補助動詞」という形をしているけれども、意味的に抽象化された「補助動詞」にはなっておらず、実は対象物の「移動」の意味を強く持っている「本動詞」用法に近い動詞として使われているということを示唆するものであると考えられる。

#### 2.4.4 「話し手」または「聞き手」が受益行為を認識しているかどうかで見られる違い

本節では、ハンギョンア(2008)が「～てくれる／あげる」文と「～어 주다 eo juda」文における「物の移動」の違いから発生する第三の言語現象として挙げている「疑問文での振る舞いの差」についてもう少し詳しく調べ、日・韓の違いがどこから来るものであるか

を考察する。これに関連して、以下「話し手」と「聞き手」が行為の恩恵を認識しているかどうかの観点から見ていくことにする。まず、「話し手」が行為に対する恩恵を認識しているかどうかである。以下の例を見られたい。

- (132) a. (頼んでいた本を買ってくれたかどうかを聞いている)  
 僕が 頼んだ 本、{買ってくれた?/ 買った?}  
 b. (부탁한 책을 샀는지 친구에게 묻는다)  
 내가 부탁한 책, {\*사 주었어? / 샀어?}  
 naega butaghan chaeg, sa ju-eoss-eo sass-eo
- (133) a. 「はい。F&F セキュリティ・サービスです」  
 「榎本さん? ファックス{見てくれた? / 見た?}  
 「今、帰ってきたところなんです。ちょっと、待ってください」 《硝子 251》  
 b. “에노모토씨? 팩스 {\*봐 주셨나요? / 보셨나요?}”  
 bwa jusyeossna-yo bosyeossna-yo  
 (榎本さん? ファックス {見て くださいました?/見ました?}) 《유리 198》
- (134) a. 数日前に頼んでおいた自転車の修理について友人に聞く)  
 自転車、{直してくれた?/ 直した?}  
 b. (일전에 부탁한 자전거 수리에 대하여 친구에게 묻는다)  
 자전거, {\*고쳐 주었어? / 고쳤어?}  
 jajeonge, gochyeo ju-eoss-eo gochyeoss-eo
- (135) a. (お母さんがよしこちゃんに「ゴミを燃やしておいてね」と頼まれて)  
 「ごみ、{燃やして くれた? / 燃やした?}  
 「燃やしたけど、燃えなかったよ」 (池上 1987:85 一部改変)  
 b. (엄마가 하나코에게 쓰레기를 버려 줄 것을 부탁 한 후)  
 “쓰레기 {\*태워 주었어? / 태웠어?}”  
 sseulegi tae-wo ju-eoss-eo tae-woss-eo  
 “태웠는데, 젖어서 잘 안타던데...”  
 tae-wossneunde, jeoj-eoseo jal antadeonde
- (136) a. (合コンに代わりに出てもらう友人に)  
 合コン、(代わりに){行って くれた?/ 行った?}  
 b. (미팅에 대신 나가기로 한 친구에게)  
 미팅 (나 대신) {\*나가 주었어?/ 나갔어?}  
 miting (na daesin) naga ju-eoss-eo nagass-eo

(132)～(136)は、聞き手に頼んでおいたことをしてくれたかどうかを問いかける文である。そこに用いられた動詞は「買う(사다 sada)」「見る(보다 boda)」「直す(고치다 gochida)」「燃やす(태우다 tae-uda)」「行く(가다 gada)」で、対象物の移動に関わるのは

(132)の「買う (사다 sada)」だけである。にもかかわらず、(133)～(136)の「～어 주다 eo juda」が付いた韓国語は非文になっている。ということは、対象物の移動だけではなく他に何かの要因があるのではないかという疑問が生じてくるのであるが、それは、話し手(恩恵の受け手)が自分に向かってくる恩恵を発話時点で認識済みかどうかということである。(132)～(136)の話し手(恩恵の受け手)は聞き手が施した恩恵を発話時点でまだ、認識しておらず、それを問いただしている。しかし、「～어 주다 eo juda」がついた形は恩恵を認識済みということが前提になるので非文になる。恩恵に物が関わっていれば対象物が移動されていないことになる。これは、以下の例から裏付けられる。

- (137) a. \*친구가 나에게 책을 사주었으나, 나는 그 사실을 몰랐다.  
(友達が 私に 本を買って やったが、私は そのことを 知らなかった)
- b. ??에노모토가 준코가 보낸 팩스를 봐 주었으나, 준코는 그 사실을 몰랐다.  
(榎本が 純子が 送った ファックスを 見てくれたが、純子は そのことを し  
らなかった。)
- c. \*친구가 자전거를 고쳐 주었으나, 나는 그 사실을 몰랐다.  
(友人が 自転車を 直して くれたが、私は その ことを 知らなかった)
- d. ??하나코가 쓰레기를 태워 주었으나, 엄마는 그 사실을 몰랐다.  
(花子が ゴミを 燃やして あげたが、母は その ことを 知らなかった)
- e. \*친구가 대신 미팅에 나가 주었으나, 나는 그 사실을 몰랐다.  
(友人が 私の代わりに 合コンに 行って くれたが、私は その ことを 知らなかった)

(137)は、話し手が恩恵を認識しているかどうかを確認するために(132)～(136)の例を再構成したものである。(137)で分かるように、「～어 주다 eo juda」文において、恩恵の受け手はその恩恵を認識していなければならない<sup>43</sup>。

次は、「～てあげる」と「～어 주다 eo juda」を発話する際の、話し手の恩恵に対する認識に関してである。

- (138) a. 「人を呼んじゃだめ。とにかく、こっちに………お願い」…  
「さあ、そばに来てあげたよ。なんだい? 何でも話さない」彼は優しくいった。 《秘密 35》
- b. … “아빠는 여기 있어(yeogi iss-eo). 왜 그러니? 뭐든지 말해보렴.”  
(パパは ここに いるよ。) 《비밀 37》
- (139) a. 「ツヨシも いいところ あるんだね、ちょっとだけ、見直してあげた」  
《番長 48》
- b. “츠요시, 너도 팬찮은 구석이 있네, 다시 봤다(dasi bwassda).”

<sup>43</sup> これは行為が完了した「過去形」の場合に限るもので、「非過去形」の「～어 주다 eo juda」、例えば依頼や命令などではこのような制限はない。

- (ツヨシ、おまえも いい ところがあるね、見直したよ) 《반장 44》
- (140) a. 「喉がかわいちゃった」と忠弘はいった。  
「じゃあ、リンゴでもすったげようね。おばあちゃん、買ってきてあげたから」  
《ガリレオ 268》
- b. “그럼, 사과라도 같이 줄게. 할머니가 사 왔으니까(sa wass-eunikka).”  
(じゃ、りんごでも すって やろう。おばちゃんが 買って きた から)
- (141) a. 「お姉さんが都合してきてあげたんだから、安心して旅行に持って行っていいのよ。ほら、新品みたいにきれいでしょ」……「ゆきちゃんにスーツケースを持ってきてあげただけなのに、いつの間にかこんなお金が…何だか、わたし、疲れちゃって気持ちが悪い……」  
《殺した少女 293》
- b. “언니가 구해 왔으니(guhae wass-euni) 안심하고 여행을 가도 돼. …”  
(お姉さんが 求めて きたから 安心して 旅行に 行っていいよ)  
“네게 여행 가방을 주려고 가져왔을 뿐인데 어떻게 이런 돈이….”  
gajyeo-wass-eul ppun-inde  
(あなたに スーツケースを やろうと 持って きた だけなのに…) 《죽인 소녀 319》

(138)～(141)は「～てあげる」「～어 주다 eo juda」を用いて何らかの恩恵を与える場面である。(138)は、お父さんが娘に対して「来る」行為を、(139)はマコトがツヨシに対して「見直す」行為を、(140)はおばあさんが忠弘に対して「りんごを買ってくる」行為を、(141)はお姉さんが妹に対してスーツケースを持ってくる行為を施す際に「～てあげる」「～어 주다 eo juda」をつけて恩恵を表わしている。日本語は、「来る」「見直す」「買ってくる」「持ってくる」行為のもらい手がまだ認識していないにもかかわらず「～てあげる」をつけて表わすことができる。一方、韓国語の「오다 oda」「다시보다 dasiboda」「사오다 saoda」「가지고 오다 gajigo-oda」は、発話の時点では行為の受け手が恩恵にまだ気付いていないために「～어 주다 eo juda」を「過去形」で使うことができない。

以上のような「話し手」や「受け手」が発話の時点で恩恵を認識しているかどうかを明示している例を以下に挙げる。

- (142) a. 息子：パン、{買ってきた? / 買ってきてくれた?}  
お母さん：うん。{買ってきたよ / 買ってきてあげたよ}。
- b. 아들：빵, {사 왔어? / \*사 와 주었어?}  
adeul：ppang, {sa wass-eo? / \*sa wa ju-eoss-eo?}  
엄마：응, {사 왔어 / \*사 와 주었어}。  
eomma：eung, {sa wass-eo / \*sa wa ju-eoss-eo}
- (143) a. 女：私のレポート {読んだ? / 読んでくれた?}  
男：うん。{読んだよ / 読んであげたよ}。
- b. 남자：내 리포트 {읽었어? / \*읽어 주었어?}



namja: nae lipoteu {ilg-eoss-eo? / \*ilg-eo ju-eoss-eo?}

여자: 응, {읽었어 / \*읽어 주었어}.

yeoja:eung, {ilg-eoss-eo / \*ilg-eo ju-eoss-eo}

(144) a. 女: 私の自転車、{直した? / 直してくれた?}

男: うん。{直した / 直してあげた}。

b. 여자: 내 자전거, {고쳤어? / \*고쳐 주었어?}

yeoja: nae jajeonge, {gochyeoss-eo? / \*gochyeo ju-eoss-eo?}

남자: 응, {고쳤어 / \*고쳐 주었어}.

namja: eung, {gochyeoss-eo / \*gochyeo ju-eoss-eo}

(145) a. 女: (私の代わりに) 合コンに {行っただ? / 行ってくれた?}

男: うん。{行っただよ / 行ってあげたよ}。

b. 여자: (내 대신) 미팅에 {나갔어? / \*나가 주었어?}

yeoja: (nae daesin) miting-e {nagass-eo? / \*naga ju-eoss-eo?}

남자: 응, {나갔어 / \*나가 주었어}

namja: eung, {nagass-eo / \*naga ju-eoss-eo}

(142)~(145)は頼んでおいたことを「してくれたかどうか」を尋ね、それに対して「してあげたかどうか」を答える場面である。日本語の場合は、相手からまだ恩恵を「もらっていない」または「あげていない」にもかかわらず「~てくれる」と「~てあげる」を使うことができる反面、韓国語は行為に対する恩恵を「まだもらっていない」場面、または「まだあげていない」場面では、つまり「話し手」と「受け手」が恩恵を認識していない場合は「~어 주다 eo juda」を「過去形」として使うことができない。

一つ付け加えると、日本語の「~てくれる／あげる」が付くことによって、丁寧さが少し変わるという意見がある。まず、「~てくれる」を付けないと直接的で客観的なニュアンスがするのであるが、「~てくれる」を使うことによって、相手への恩恵に対する「ありがたさ」が伝わり、柔らかなニュアンスを漂わせることができる。一方「~てあげる(やる)」の使用については「恩きせがましさ」や「押し付けがましさ」で相手に違和感を与える恐れがあるため、目上の人や初対面の人に対しての使用が憚れるのはそのためである。

もう一つは、対象物の移動や恩恵の他に、会話の中での行為の方向を表わす機能を「~てくれる／あげる」が持っているということである。以下の例を見られたい。

(146) (職場で)

田中: ヤンさん、会議の資料は受け取りましたか。

ヤン: はい、昨日、高橋さんが 私に 送りました。<sup>44</sup>

다나카: 양○○씨, 회의 자료는 받으셨어요?

<sup>44</sup> 『自然な日本語を教えるために』 p. 86

danaka : yang-ssi, hoe-ui jalyoneun bad-eusyeoss-eo-yo

양○○ : 네, 어제 다카하시 씨가 저에게 보냈어요.

yang- : ne, eoje dakahasi ssiga jeo-ege bonaess-eo-yo

(147) (学校で)

アン : このあいだ 飛行機に 乗ったとき、隣の人が 私に 話しかけました。<sup>45</sup>

(학교에서)

안 : 저번에 비행기에 탔을 때, 옆 사람이 말을 걸었어요.

an : jeobeon-e bihaenggi-e tass-eul ttae, yeop salam-i mal-eul geol-eoss-eo-yo

(148) (寮で)

アン : 昨日、勉強していたら、友だちが 来ました。

山田 : それって、来てくれたの? それとも、来られたの?<sup>46</sup>

(숙사에서)

안 : 어제, 공부하고 있는데, 친구가 왔어요.

an : eoje, gongbuhago issneunde, chinguga wass-eo-yo

(昨日 勉強していたら 友達が 来ました)

야마다 : ... , 와 준거야? 아니면 ...

yamada : wa jungeo-ya animyeon

(... , 来てくれたの? それとも...)

(146)～(148)は話し手が事態に参加している場合でもその事態を客観的・中立的に記述しようとする傾向の強い言語を母語に持つ学習者による日本語の誤用を例示している<sup>47</sup>。(146)に対して著者は、「『私に送りました』で表現しても事実そのものは伝わるが、日本語としては、まるで自分と関係のないことを語っているかのような何とも不自然な印象を与える」と述べ、(147)に対しても、「方向性を持つ動詞の場合、話し手に向かう動きについてはそのことを示す有標の形が必須となるが、日本語母語話者は、その行為が自分にとってどういう価値を持つのかを評価して、マークの仕方を選択する」と述べている<sup>48</sup>。つまり、隣の人が話しかけたことが話し手に対して「ありがたい行為」なのか「迷惑」なのかによって「話しかけてきました」や「話しかけられました」(迷惑な場合)、「話しかけてくれました」(ありがたい行為の場合)を使い分けるということである。(148)も同様に、このままでは「友だちに來られた」なのか「友だちが來てくれた」のかがはっきりしていないところが日本語としての不自然さを生じさせる要因になると述べている。

韓国語の場合は日本語の「あげる／くれる」に対応する動詞「주다 juda」が存在するが、抽象化の度合いが日本語ほど大きくないため、上記の(146)～(148)の例に対する違和感は

45 『自然な日本語を教えるために』 p. 87

46 『自然な日本語を教えるために』 p. 95

47 『自然な日本語を教えるために』 p. 87

48 『自然な日本語を教えるために』 p. 86

あまり感じられない。それは、日本語が話し手の視点に基づいてやりもらいの出来事が描かれていく、いわゆる主観性の高い言語であるのに対し、韓国語は観客席で舞台を客観的に眺めているように描写する言語タイプであることからくるものである。(142)～(145)、(146)～(148)の例は、「ありがたさ」と「迷惑」を「～てあげる／くれる」と「～てくる／～られる」で表現する日本語と、「ありがたさ」と「迷惑<sup>49</sup>」の方向にはそれほど敏感でない韓国語との対照的な一面を見せてくれる良い事例であると考えられる。

## 2.5. おわりに

本章は、日本語の「～てあげる／くれる」文と韓国語の「～어 주다 eo juda」文における「ニ格助詞」と「에게 ege 格助詞」の表示とそれに伴う対象物の移動に関して考察した。まず、先行研究の内容をまとめた表<sup>250</sup>を再掲する。

研究	理論の背景	「ニ格」表示				授受動詞 の省略可 能性	対象物の 移動 (過去形)
		作成・入手 動詞類	移行動詞	対象変化 他動詞類	自動詞類		
		作る・買う など	歌う・読む など	削る・磨く など	行く・来る など		
Shibatani (1994)	Give スキーマ	✓	✓	△(一部可能)	✗	✗ 敬語化 不可能	✓ have 最終的に 移動
三宅 (1996)	語彙概念構 造、Give スキーマ	✓ 語彙概念構 造「同定」	✓	✗ 対象変化動詞 類は「叙述」	✗	✗ 言及 なし	✓ exist 最終的に 移動
加賀 (1997)	意味役割構 造(主題と 場所)	✓ 主題と場所	✓	△(一部可能) 主題と場所	✗	✗ 理由言及 なし	✓ 最終的に 移動
山田 (2004)		✓	✓	言及なし	✗	✓	✓

表 2 先行研究のまとめ (再掲)

<sup>49</sup> 韓国語の場合も、ありがたい行為に対しては「～어 주다 eo juda」をつけた方が方向としては明確になるのであるが、韓国語には「雨に降られる」「友人に死なれる」などの「間接受身(迷惑受身)」などの表現形式は存在しない。

<sup>50</sup> 2.2.5 節 (p. 30)

表 2 を踏まえた上で、3 節で扱った日・韓比較の内容をまとめると、次の表 3 のように示すことができる。

言語	「ニ格・에게 ege 格」助詞表示					授受動詞の省略可能性	対象物の移動
	作成/入手動詞類	移行動詞	状態変化を引き起こす他動詞類	自動詞類	持ち主		
	作る・買うなど	歌う・読むなど	削る・洗うなど	行く・来るなど	受益文		
日本語	✓	✓	✗ または △	✗	✗	✓ 作成・入手動詞のみ可能	✓ 最終的に移動
韓国語	✓	✓	△	✗	△	✗	✓ 発話時に移動済み

表 3 「ニ格・에게 ege」格助詞表示と対象物の移動

表 3 から、「ニ格・에게 ege」格助詞の表示における類似点と相違点を見て取ることができる。まず、「～てやる(あげる)／くれる」と「～어 주다 eo juda」に結合する主動詞が「作成・入手動詞」や「移行動詞」の場合、日・韓共通で「ニ格・에게 ege 格」助詞が表示される。一方、主動詞が「自動詞」の場合は、両言語共に「ニ格・에게 ege」格助詞が表示されないということが日本語と韓国語の共通点である。差が見られたのは、「状態変化を引き起こす他動詞類」と「持ち主授受表現」の場合で、日本語は「ニ格」助詞の表示にゆれが見られたのに対し、韓国語の場合は、日本語よりは広い範囲で「에게 ege」格助詞の表示が認められている。

二つ目に差が見られたのは、いわゆる 2.5 項動詞の成立可否に関して（あるいは、授受動詞の省略可能性）である。日本語は文法的には多くの先行研究で認められていない（Shibatani1994、三宅 1996、加賀 1997 など）が、実際のアンケートを基にした山田(2004)の報告や本論文での調査においては、多くの場合で正文と認められている。一方、韓国語においては、2.5 項動詞は認められておらず、「(ご飯を) おごる」などごく一部の動詞を除いては非文と見なされている。2.5 項動詞の使用が書き言葉文ではなく会話文でよく用いられること、また「言語は常に変わる」という側面から見ると、日本語の方は言葉の速さや短さを求めて今も変化し続けている言語の一断面を窺える良い事例であると考えられる。

最後に日・韓両言語で差が見られたのは、対象物の移動に関してである。日本語の「あげる(やる)／くれる」は本動詞から補助動詞になる際に、「対象の移動」と「恩恵」という本来の意味機能のうち「対象の移動」の意味は薄くなってきており、その分、文法化

(抽象化)の度合いが大きいといえる。その文法化は、さらに進められており、例えば、恩恵や利益の意味は積極的に持たずに、出来事の方角を表わす機能にまで広がってきている。一方、韓国語の「주다 juda」は本動詞の「移動」の意味が補助動詞になってからも、多く受け継がれているということで、意味の抽象化の度合いが日本語に比べて高くない。すなわち、「주다 juda」文は「~어 주다 eo juda」構文になってからも、本動詞としての意味特性が広い範囲で影響を与えているのである。この現象は「~てやる(あげる)／くれる」には見られない。この差はおそらく日本語と韓国語の授受動詞の文法化の度合いの違いの反映であると思われる。その日・韓の違いを具体的に検証するために、まず「~てやる(あげる)／くれる」文と「~어 주다 eo juda」文の「二格」と「에게 ege」と授受動詞との関係における違いがあることを提示し、その違いから「打ち消しの可否(ハンギョンア 2008) (2.4 節および 2.4.1 節)」、「まだもらっていない恩恵行為への疑問文やその答えが言えるかどうか(2.4.4 節)」、「話し手の主観的な視点から来る出来事の描写の違い(2.4.4 節)」などの側面における差が見られることを提示したのである。結論的に言うと、このような「주다 juda」の「移動」に関する特性が、「에게 ege」格助詞の表示の問題にも関わっているのであり、「対象変化の他動詞類」や「持ち主授受表現」などにおける格助詞の表示の問題は、まさに「~てやる(あげる)／くれる」文と「~어 주다 eo juda」文における「移動」の認め方の違いから生じるものであるとすることができる。

## 第3章 授受表現とアスペクト性について

### 3.1はじめに

物や行為のやり取りを表わすいわゆる「授受表現」は次の(1)と(2)のような文で現れる。

- (1) a. 太郎が花子に本をあげた。
- b. 太郎が花子に本をくれた。
- (2) a. 太郎が花子に本を読んであげた。
- b. 太郎が花子に本を読んでくれた。

(1a)および(1b)は物の授受を表す本動詞の用法であり、(2a)(2b)は行為の授受を表す補助動詞としての授受表現の典型的な例文である。(1a)(1b)と(2a)(2b)において、「太郎」は物や行為の「与え手」であり、花子はそれの「受け手」である。韓国語にも、日本語の「ニ」に当たる「에게 ege」と「やる(あげる)／くれる」動詞に相当する「주다 juda」動詞があり、この「주다 juda」動詞は「~어 주다 eo juda (～てやる(あげる)／くれる)」という形で補助動詞としても用いられる。(1)と(2)の各文を韓国語にすると次の(3)のようになる。

- (3) a. 타로가 하나코에게 책을 주었다.  
      taloga hanako-ege chaeg-eul ju-eosdda  
      (太郎が 花子に 本を やった/くれた)
- b. 타로가 하나코에게 책을 읽어 주었다.  
      taloga hanako-ege chaeg-eul ilg-eo ju-eosdda  
      (太郎が 花子に 本を 読んで やった/くれた)

(3a)と(3b)の文における韓国語の「주다(juda)」動詞は日本語の「あげる(やる)／くれる」に相当する動詞で、日本語の以下のような表現に各々対応している。

- (4) a. 太郎が花子にボールを投げてあげた。 「与格動詞構文」
- b. 太郎が花子にケーキを作ってあげた。 「他動詞構文」
- c. 太郎は花子のために学校に行ってあげた。 「自動詞構文」
- d. 太郎は花子のそばにいてあげた。 「自動詞構文」
- e. その時雨が止んでくれた。 「擬人化構文」
- (5) a. 타로가 하나코에게 볼을 던져 주었다.

- taloga hanako-ege bol-eul deonjyeo ju-eosdda  
 (太郎が 花子に ボールを 投げて やった)
- b. 타로가 하나코에게 케익을 만들어 주었다.  
 taloga hanako-ege ke-ig-eul mandeul-eo ju-eosdda  
 (太郎が 花子に ケーキを 作って やった)
- c. 타로가 하나코를 위해 학교에 가 주었다.  
 taloga hanakoleul wihae haggyo-e ga ju-eosdda  
 (太郎は 花子の ために 学校に 行って やった)
- d. 타로는 하나코 옆에 있어 주었다.  
 taloneun hanako yeop-e iss-eo ju-eosdda  
 (太郎は 花子の そばに いて やった)
- e. 그 때 비가 그쳐 주었다.  
 geu ttae biga geuchyeo ju-eosdda  
 (その時 雨が 止んで くれた)

(4a)は「与格動詞構文」で、この文では、授受動詞である「あげる」がなくても文は成立する。(4c)および(4d)の「自動詞構文」、(4e)の「擬人化構文」も(4a)と同様、「あげる」の不在で文の正否が決まるわけではない。それに対して、(4b)は「他動詞構文」で「あげる」が省略されると非文になってしまう<sup>51</sup>。(5a)～(5e)に示したように、韓国語も、基本的に日本語と同じ分布を示し、意味的にも類似していると言うことができる。

このように、日本語と韓国語におけるいわゆる「授受表現」の文は構造的にも意味的にも非常に類似していると言われてきているが、日本語には次の(6)の文のように、アスペクト形式の一つである「テイル」に授受動詞が後続した例がよく見られる。

- (6) a. 家族は手術の成功を一生懸命祈ってくれたのです。  
 b. 「いやいや君、朝早くからそうやって廊下を歩いていてくれると、病院には活気がでる」  
 c. 「私を本当の姉だと思っていてくれていいわ」

日本語において、(6a)～(6c)を見る限りでは、「テイル」と「あげる(やる)／くれる」動詞が自由に結合しているように見える。しかも、それだけではなく、次のように、「テイル」を授受動詞の「あげる(やる)／くれる」の後ろに付けることもできる。

- (7) a. 何とか考えてみようとお阪課長は言ってくれていた。  
 b. お母さんが、藻奈美の代わりに生きてくれているんだよ。

<sup>51</sup> 授受表現の主動詞がいわゆる「作成・入手」動詞になる場合の「二格名詞句」の表示に関しては、母語話者の間でも判断のゆれが見られる。この問題については本論文の第2章で扱っている。

- c. 「杉田さん、最近はすっかりおかあさんの代わりにできるようになったんですね」 「まあ何とかやってくれています」 《秘密 151》

それでは、上記の(1)～(5)の文で示されているように、日本語の「授受表現」と類似した構造と意味を持っている韓国語の場合はどうなるであろうか。以下の(8)(9)の文は(6)と(7)の文を各々韓国語にした文である。

- (8) a. 가족은 수술의 성공을 간절히 \*기도하고 있어 주었습니다.  
 gajog-eun susul-ui seonggong-eul ganjeolhi \*gidohago iss-eo ju-eoss-seubnida.  
 (家族は 手術の 成功を 懇切に 祈っていて くれました)
- b. 네가 아침부터 그렇게 복도를 \*걸고 있어 주면 병원에 활기가 생긴다.  
 nega achimbuteo geuleohge bogdoleul \*geodgo iss-eo jumyeon byeong-won-e hwalgiga saengginda.  
 (君が 朝早くから そうやって 廊下を 歩いて いて くれると, 病院には 活気が できる)
- c. 나를 진짜 누나라고 \*생각하고 있어 줘도 좋아요.  
 naleul jinjja nunalago \*saenggaghago iss-eo jwodo joh-a-yo.  
 (私を 本当の姉だと 思っていて くれて も いいわ)

(8)の例を見て分かるように、韓国語においては、(6)の日本語の文のように、「～어 있다 eo issda(「テイル」相当するアスペクト形式の一種)」と「주다 juda」動詞が結合することは難しい。(6)の下線のところから「くれる」をとった形、すなわち、「祈っている」「歩いている」「思っている」は、韓国語の「기도하고 있다 gidohago issda(祈っている)」「걸고 있다 geodgo issda(歩いている)」「생각하고 있다 saenggaghago issda(思っている)」とそれぞれ問題なく対応するが、それに「～어 주다 eo juda」をつけると、次の(9ab)のように非文になったり(他の表現を使っている)、(9c)のように正文になったりする。

- (9) a. 고사카 과장은 한번 방법을 찾아보려고 했는데, …  
 gosaka gwajang-eun hanbeon bangbeob-eul chaj-abojago haessneunde  
 (小坂 課長は 一度 方法を 探してみよう と したが…)
- b. 지금까지 너 대신 엄마가 살아준 거란다.  
 jigeumkkaji neo daesin eommaga sal-ajun geolanda  
 (今まで あなたの 代わりに お母さんが、生きて くれた んだよ)
- c. 「예, 그럭저럭 잘해주고 있습니다」  
 ye, geuleogjeoleog jalhaejugo iss-seubnida  
 (ええ、 何とか やってくれて います) 《비밀 164》

(9)の文は授受動詞に「テイル」が後続した形であるが、日本語の(7)を韓国語の(9)のようになると、(9a)のような、「あげる(やる)／くれる」が表示されない文になったり、



(9b)のような、「テイル」の意味が表わされていない文になってしまったり、(9c)のように日本語の(7c)の文と完璧に対応している文になってしまったりして、先行する動詞の性質や文脈などの何らかの要因に影響されているのが見て取れる。

それでは、なぜ「テイル」が付いた(6)(7)の日本語の文を(8)(9)の韓国語の文のようにすると、非文になり、日本語とは違う表現形式になってしまうのだろうか。それから、そのような相違点を生じさせる要因とは何なのであろうか。

本章では、このような問題を取り上げる。両言語が類似している動詞類（日本語の「やる(あげる)/くれる」と韓国語の「주다 juda」）と類似しているアスペクトを表わす表現形式（日本語の「テイル」と韓国語の「~고 있다 go issda」・「~아 있다 a issda」）を有しているにもかかわらず、これらの個別の文法形式が一つの表現形式に結び付いた際には、両言語間で相違が見られることに着目し、その現象が起こる背景や前接する主動詞の種類について考察する。授受動詞に「テイル」が付いた形である「~ていてあげる(やる)/くれる」と「~고 있어 주다 go iss-eo juda」・「~아 있어 주다 a iss-eo juda」、「テイル」に授受動詞が後続する「~てあげて(やって)/くれている」と「~아 주고 있다 a jugo issda」を検討し、その成立条件を調べ、日本語と韓国語とにどのような類似点と相違点があるかを考察する。それから、このような類似点や相違点が生じる理由やこれらの構文に制限をもたらす背景などについて考察する。最終的には、なぜ韓国語の「~아 있어 주다/a iss-eo juda」文や「~고 있어 주다 go iss-eo juda」文には、日本語の「~ていてやる(あげる)/くれる」や「~てくれて(あげて)いる」に比べて使い方に制限が生じるのかを明らかにすることを目標とする。

本章の構成は以下の通りである。3.2節では先行研究を概観する。ただし、管見の限りでは、このテーマについて直接扱っている韓国語の先行研究が見当たらなかったため、主に日本語の先行研究をまとめ、それに基づいて韓国語との比較を模索する。3.3節では日本語と韓国語の特徴を比較する前段階として、韓国語のアスペクト形式について概観する<sup>52</sup>。3.4節では、「~ていてあげる(やる)/くれる」と「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の事実観察を行い、「アスペクト性」による制限と「授受動詞」の性質による制限で生じる日本語と韓国語の違いを考察する。3.5節では、「テイル」に授受動詞が前接する「~てあげて(やって)/くれている」と「~아 주고 있다 a jugo issda」の事実観察を行い、そこから明らかになった日・韓両言語の違いを「アスペクトの性質」と「授受動詞の性質」の違いの観点から考察する。

---

<sup>52</sup> ただし、本研究はアスペクトという文法形式と関わってはいるものの、アスペクトそのものに対する研究ではないため、深入りはしない。

## 3.2 先行研究

### 3.2.1 山田(1997)

山田(1997)は、以下のような例を挙げ、(a)のように、事態の授受を表わす諸形式にアスペクト形式であるテイルが後接する場合を A 型のタイプ、(b)のように、テイルが前接する場合を B 型のタイプに分けてその成立関係を論じている。

- (10) 病人が寂しがってるから、手を握って {a. あげていて/ b. いてあげて} 下さい。  
(11) 花子は、息子にケチュア語を教えて {a. くれてる/ b. いてくれる}。

(10)と(11)の文は、それぞれ(a)、(b)とも文法的な文であり、置換しても文意が大きく変わらないが、その反面、(12)～(13)の文のように、やや許容されにくい表現や置き換えると意味が微妙に変化するものもあると述べている。

- (12) こう暑いと、一度に多くの人には来てくれないが、毎日、最低でも5人ずつは、献血して {a. くれてる/ b. ??いてくれる}。  
(13) 「ご心配なさることはありません。ずっと傍について {a. ??あげています/ b. いてあげます} から。」と敏夫は老婆の肩を叩いた。  
(14) ぼくの友人に出版関係の仕事をしている奴がいて、ぼくがここに引込んでしまっ  
てからも、随分長い間老婆の様子を知らせて {a. くれていた/ b. いてくれた}

山田(1997)はこのような現象が生じる理由を大きく二つに分けて考察している。その一つは「テイル」の表わす意味による制限で、もう一つは行為の対象の人称による制限である。

#### 3.2.1.1 テイルの表す意味による制限

「テイル」の表わす意味による制限について山田(1997)は、以下のように、「同一主体による同一事態の継続」「同一主体による事態の複数回生起(同一主体反復)」及び、「複数主体による同一(近似)事態の複数回生起(異主体反復)」「結果残存的用法」「状態用法」に分けて考察している。

##### 3.2.1.1.1 継続を表すテイルとベネファクティブ<sup>53</sup>

山田(1997)では、「テイル」が事態の継続を表す場合は、微妙な差は感じられるが、基本的に「テイル」とベネファクティブの置換が可能であると述べている。

- (15) 病人がさびしがっているから、手を握って {a. あげていて/ b. いてあげて} ください。  
(16) 花子は、息子にケチュア語を教えて {a. くれてる/ b. いてくれる}。

<sup>53</sup> 山田(1997)は、授受の補助動詞を総称したものをベネファクティブと呼んでいる。その理由について、「消極的には「授受の諸形式」と言った場合、モノの授受を含むように取られかねないこと、また、積極的には、ベネファクティブという文法カテゴリーを認める立場をとるためである」と述べている。

### 3.2.1.1.2 事態が複数回生起するテイルとベネファクティブ

事態の複数回生起に関しては、同一主体による事態の反復と異主体による事態の反復の場合があるという。

同一主体反復 ・ 太郎は、毎朝、3キロ、ジョギングしている。

(17) 彼は、いつも私が遅れても待って {a. くれていた/b. #いてくれた<sup>54</sup>}。

異主体反復 ・ 大阪では、毎年、多くの人が食べすぎで死んでいる。

(18) 毎月、このクラスの誰かが田中さんの実験を手伝って {i. あげている/  
ii. #いてあげる}。

(17)のように、同一主体の反復的動作の場合、一見、A型、B型どちらも可能であるように見えるが、B型のテイルは「継続」の読みになってしまう。一方、(18)および次の(19)、(20)の文は「～てやる(あげる)」の例であるが、「～てやる(あげる)」の場合も同様に、複数主体が反復的に事態を成立させる場合、B型は許容されにくいと述べている。

(19) 毎週、レッスンの帰りに妹のカバンを持って {a. やっていた/ b. #いてやった}。

(20) 毎月、このクラスの誰かが山田さんの実験を手伝って {a. あげている/b. #いてあげる}。

### 3.2.1.1.3 結果残存的用法のテイルとベネファクティブ

「テイル」については、結果残存的用法についても、B型にはなりにくいと判断する人が多く、事例でもA型がほとんどであると言っている。

(21) 十分大人になった貴子が子供時分のわだかまりを解いて {a. かけている/  
b. ?いてくれる} ような気がして…

(22) おらの両親がもう少しおらの将来のことを考えて纏足して {a. かけていた/  
b. ?いてくれた} なら… (後略)。

これについて山田(1997)は、結果が残存しているという事態自体が継続的に存在しているという捉え方に依拠しているものと捉えている。

### 3.2.1.1.4 テイルの状態用法とベネファクティブ

山田(1997)は、「テイル」の状態用法に対して、「『道が曲がっている』『山が聳えている』という状態は、『道が曲がる』『山が聳える』という単純状態と対立せず、常にテイル形で現れるので、この場合、述語とテイルは不可分であると考えられるためA型(～てかけている)にはならない」と述べている。

<sup>54</sup> 各例文における「#」の記号に関して、山田(1997)は、「解釈が異なることを示す」と述べている。

(23) 道が曲がって {a. \*くれていた/ b. いてくれた} おかげで助かった。

(24) 富士山はいつもそこに聳えて {a. \*くれている/ b. いてくれる}。

他方、心理的な状態を表すような場合には、むしろテイルの継続用法に近いと考えられ、「~てくれている」「~ていてくれる」どちらも許容されると付け加えている。

(25) a. どこかでまだわたしを期待して {a. くれている/ b. いてくれる} という喜びで正子は自分に好感をもって {a. くれている/ b. いてくれる}。

以上の内容を以下の表 1 のようにまとめている。

	A 型	B 型
継続	○	○
反復	○	??
結果残存	○	?
	?	○
単純状態	×	○
心理状態	○	○

表 1 テイルの意味による A、B の選択

### 3.2.1.2 行為の対象の人称による制限

山田(1997)は、3.2.1.1 節の動詞分類の内、「テイル」の反復用法や結果残存の用法を除き、基本的には A、B 両形が置換可能な継続及び心理状態の意味を持つ「テイル」に限って考察を進めている。「テイル」が継続を表す場合、「述語の表す行為の対象である人物が受益者である話し手もしくは聞き手と一致するか、一致しないかということ」が A、B 両形の選択の際の鍵となると述べている。

#### 3.2.1.2.1 テクレル

(26) ぼくの友人に出版関係の仕事をしている奴がいて、ぼくがここに引込んでしまっ  
からも、随分長い間娑婆の様子を知らせて {a. くれていた/ b. ?イテクレタ}。[6]

(27) その四十羽ほどが、… (中略) 瀟洒な夜間飛行の輪を描いて見せて {a. くれてい  
る/ b. #イテクレル} ようであった。[24]

(28) みんな大家の小母さんや、近所の小母さんたちが、世話して {a. くれている/  
b. #イテクレル} んじゃないか。[25]

これについて山田(1997)では、

[6] (26)、および[24] (27)では、話し手(語り手)、[25] (28)では、聞き手に対して「知らせる」「見せる」「心配する」という行為が向かっているが、実例ではいずれもA型の「テクレテイル」が用いられており、特に、行為の対象が表示されておらず文脈からも話し手が行為の対象とは解釈しにくい(26)、(27)の場合にB型を用いると、話し手ではなく第三者に対する行為が、話し手(語り手)にとって恩恵となっていることを表わすように感じられる。(山田 1997:135-136)

と述べられているが、逆に、受益者が話し手または聞き手であり、かつ明示されている以下の(29)(30)の場合においては、B型はやや判断にゆれがあるが基本的に許容範囲内にあるようであると付け加えている。

(29) 江礼先生があたし達のことを本当に思っ {a. クダサッテイル/ b. いて下さる} かどうか、分からなくなっちゃったのよ。

(30) ライアだって、君のことを心配して {a. くれてる/ b. イテクレル} 。

### 3.2.1.2.2 テヤル

山田(1997)は、「テヤル」の場合はテクレルとは動作の方向性が逆であるため、受益者の項が明示されていない場合、「～ていてくれる」であれば聞き手が受益者として解釈されやすいと述べている。

(31) 「心配なさることはありません。ずっと傍について {a. #アゲテイマス/ b. いてあげます} から。」と敏夫は老婆の肩を叩いた。

山田(1997)によれば、「テヤル」の場合、第三者が受益者となる場合であっても、B型が好まれる傾向があるが、この場合にはA型にも置換可能であるという。

(32) 見てみない振りをして {a. ヤッテイテ/b. いてやって} 下さい。

(33) ぼくは彼の姿勢がくずれないようにうしろから支えて {a. ヤッテイレ/b. いてやれ} ばよかった。

山田(1997)によれば、(32)は聞き手への依頼表現であり、消去法的に聞き手への受益性はなくなる<sup>55</sup>。また、(33)は過去で、発話の場から切り離されており、聞き手が受益者となる解釈がされにくい。さらに、「テヤル」の場合、「テクレル」とは違って、聞き手や発話

<sup>55</sup> 見てみない振りをするという行為が聞き手の益にならないことを示す。

の場から切り離された事態では、第三者への与益を両形とも表わし得るが、発話の場において、「テヤル」は、B型をとることによってモダリティ形式に繋がり<sup>56</sup>、聞き手への受益性を明示することになると述べている。

### 3.2.2 高見・久野(2002)

高見・久野(2002: 303)は授受表現と「テイル」との関わりについて分析しており、「～がVしてくれる」構文の機能的分析の中で、次のような仮説を立てている。

「～がVしてくれる」構文に課される機能的制約：「～がVしてくれる」構文は、述べられた事象が[－恒常的状态]で、話し手がその事象を自分(または非主語指示物)にとって好都合である(利益になる)と考えている場合にのみ、適格となる。

この仮説をふまえて、Vendler(1967)の動詞の4分類の達成に属する動詞、つまり、なんらかの行為、活動の結果、最終的な目標(状態)に至ることを意味する動詞(句)(たとえば、kill, teach, paint a picture, make a chair, eat a piece of pizza, recover from illness)を考えている。

- (34) a. 主人がムカデを殺してくれたので、助かったわ。  
b. 答えを教えてくれて、ありがとう。  
c. 花子が私の似顔絵を描いてくれました。  
d. お兄ちゃんが僕の嫌いな人参を食べてくれた。  
e. 君が病気から早く回復してくれて、嬉しいよ。

高見・久野(2002)によれば、(34)の「殺す」「教える」「描く」「食べる」「回復する」は恒常的な状態を表わすものではなく、これらの文の埋め込み文が表わす事象は[－恒常的状态]であるため、仮説に抵触せず、適格となると述べている。

一方、金田一(1950)の動詞分類の内の第4種、つまり「(山が)そびえる」、「優れる」「ずば抜ける」「似る」「富む」などの動詞は、[＋恒常的状态]を表わすので、以下のようにな不適格になるという。

---

<sup>56</sup> 山田(1997)は、次のような授受表現の非恩恵的なテヤルやテクレルの例を挙げ、「意志を表す用法」や「動作の方向性をあらわす用法」のテヤル、「方向性を強調した表現」などはA型はとらないと述べている。

- i) いつまでも呪って {a. \*やっている / b. いてやる} ぞ。  
ii) 失敗した花子を、冷たく見て {a. ??やっていた / b. てやった}。  
iii) よくもそんな真似をして {a. ??くれてた / b. いてくれた} なあ。

山田(1997)は、このような「依頼」「意思表明」「方向性表示」などの用法を持つベネファクティブは、仁田(1989, 1991)の言う「発話・伝達のモダリティ」を持つものとして解釈され、このような意味・機能的な制限により、文末に近い位置にベネファクティブが置かれるB型を取る、と述べている。

- (35) a. \*信州に行くと、山がそびえていてくれて、心が落ち着く。  
 b. \*息子がクラスで優れていてくれて/ずば抜けていてくれて、鼻が高い。  
 c. ??家内がテレビのニュースキャスターに似ていてくれて、僕はいつも友達から羨ましがられる。  
 (高見・久野 2002:304)

上記の仮説は、次のような文の対比も説明できる。

- (36) a. \*家から 10 分のところに駅があってくれて、とても便利だ。 (恒常的状态)  
 b. 家から 10 分のところに駅ができてくれて、とても便利になった。 (到達)  
 (37) a. \*僕のそばには、いつも緑の大自然があってくれたことをありがたく思っている。 (恒常的状态)  
 b. 僕のそばには、いつも君がいてくれたことをありがたく思っている。  
 (動作の継続)  
 (高見・久野 2002:304)

以上のように、高見・久野(2002)は「～が V してくれる」構文は述べられた事象が「一恒常的状态」である場合のみ適格となるという仮説を検証してから、以下のような「～てくれている」と「～ていてくれる」の違いについて述べている。

- (38) a. 戦争に行った息子が死なずに生きてくれていて/生きていてくれて、胸をなでおろした。  
 b. お金がまだ少し財布に残ってくれていて/残っていてくれて、助かったよ。  
 c. あなたがああとき、お金を持ってくれていて/持っていてくれて、助かったよ。

高見・久野(2002)によれば、(38a)は「生きてくれていた」だと、話し手が息子が死なずに「生きる(生活する)」ことが話し手にとって好都合で、その状態が続いたことを表わし、「生きていてくれて」だと、その息子が死なずに「生きている(生活している)」ことが話し手にとって好都合であったことを表わす。同様に、(38b)では、「残ってくれていて」だと、「お金が残った」ことが話し手にとって好都合で、その状態が続いたことを表わし、「残っていてくれた」だと、「お金が残っていた」ことが話し手にとって好都合であったことを表わすと論じている。

- (39) a. \*お金がなくて困っていたところ、そばに千円札が落ちてくれていて助かった。  
 b. (?)お金がなくて困っていたところ、そばに千円札が落ちていてくれて助かった。

高見・久野(2002)は、(39a)の不適格性、次の(40a)が不適格であることからわかるように、

「千円札が落ちた」という事象が話し手にとって好都合であると考えるのは、「私たちの社会常識から考えて不自然であるためである」と述べている。

- (40) a. \*千円札が落ちてくれた。  
b. 千円札が落ちていてくれた。

以上のように、高見・久野(2002)は、「～が V してくれる」構文の適格性について考察し、この構文が適格となるのは、述べられた事象が[一恒常的状态]であり、話し手がその事象を、自分(または非主語指示物)にとって好都合であると考えている場合であることを明らかにしている。

### 3.2.3 澤田(2005)

澤田(2005)は、授受構文におけるアスペクト性の「浸透現象」について、「～てくれている」の「ている」が表わすアスペクト性は、「～てくれる」に留まることなく、「～てくれる」が包み込む事象の内部にも浸透するという特異な現象を、(認知)意味論的観点から考察している。

#### 3.2.3.1 先行研究における分析法

澤田(2005)は、授受表現と「テイル」との関わりに関して分析した研究の一つに、高見・久野(2002)があるとし、高見・久野(2002: 308)が、「～てくれている」と「～ていてくれる」の違いに関して挙げている次のような例を出している。

- (41) お金がまだ少し財布に{残ってくれていて/残っていてくれて}、助かったよ。

澤田(2005)は、両者の違いに関して次のように高見・久野(2002)を引用している。

- (42) 「残ってくれていて」だと、「お金が残った」ことが話し手にとって好都合で、その状態が続いたことを表わし、「残っていてくれて」だと、「お金が残っていた」ことが話し手にとって好都合であったことを表す。話し手は、財布にお金が残ったことよりも、財布にお金が残っていることのほうを好都合だと考えやすい。
- (43) a. \*お金がなくて困っていたところ、そばに千円札が落ちてくれていて助かった。  
b. √/(?) お金がなくて困っていたところ、そばに千円札が落ちていてくれて  
助かった。 (高見・久野 2002: 308)

澤田(2005)は、以上のように、「～ていてくれる」の「ている」は「～てくれる」だけに係わる事象外の要素であると分析されていることになるという高見・久野(2002)の主張





相違点に関して新しい分析法を提示している。

### 3.2.3.3 「～ていてくれる」と「～てくれている」の相違点

澤田(2005)は、「～ていてくれる」と「～てくれている」の違いを6つの観点から例証しようとしている。

第1の観点は、次のようである。

- (49) a. 胡蝶蘭は長い間咲いていてくれる。(性質)
- b. 胡蝶蘭は長い間咲いてくれている。(現象)

澤田(2005)によれば、(49a)は「胡蝶蘭」の「性質」を、(49b)は「現象」を表わしているという。例えば、認知主体は、(49a)では、植物図鑑を見ながらその花の「性質」について述べており、(49b)では、目の前にあるその花を指して眼前の「現象」について述べているのである(「現象」の概念に関しては、三尾 1948: 83、Goldsmith and Woisetschlaeger 1982:8、Langacker 1991:264 参照)。ここで「性質」か「現象」かという対立は、時間表現「長い間」の解釈の違いからも証明される。すなわち、(49a)の「長い間」は、「長い間咲く」というその花の「性質」に関わる時間を、(49b)の「長い間」は開花時から発話時までに至るその花の開花時間が長いという「現象」に関わる時間を表わしているということである。

第2の観点は、次のようなものである。

- (50) a. 花子がそばで微笑んでいてくれる。(「性質」)
- b. 花子がそばで微笑んでくれている。(「現象」)
- c. ヘルパーが祖父の面倒を見ていてくれる。(「性質」)
- d. ヘルパーが祖父の面倒を見てくれている。(「現象」)

澤田(2005)によると、(50a)と(50c)は「花子」と「ヘルパー」の習性(「習慣」)を表わし、一方、(50b)、(50d)は認知主体の目の前の「現象」を表わす<sup>57</sup>。

第3に挙げている次の例は、認知主体「瀬川」の眼前の「現象」が描写されているため、「～てくれている」が用いられていると述べている。

- (51) 四谷署では警察官の姿が少なかった。退けた直後で、現に机の上を片付けている

---

<sup>57</sup> 「性質/習慣」か「現象」かの決定的な違いは、前者は、時間性を持たないのに対し、後者は、時間性を持つという点である。その証拠に(i a)は、「今」と共起しにくいのに対し、「現象」を表わす(i b)は、「今」と自然に共起する(澤田 2005:注5)。

- (i) a. ??今、ヘルパーが祖父の面倒を見ていてくれる。
- b. 今、ヘルパーが祖父の面倒を見てくれている。

人間もある。

「平塚さんですか」

交番係の腕章を巻いた巡査が瀬川の言うのを聞いて、

「まだ、外回りから帰っていないんじゃないかな」

と呟き、巡査課らしい係りのところに行って訊いてくれている。

\*訊いていてくれる

その係りは、カウンターのところに立っている瀬川を見て、その前に歩いてきた。

(松本清張『草の印刻』(下線筆者))

第 4 に、上の議論から、(i)現場性を表わす知覚表現、(ii)現象の変化を表わす副詞、などが用いられた場合には、「～ていてくれる」より「～てくれている」のほうが自然であると予測され、以下の例からその予測は正しいことがわかる。

- (52) a. 魚を焼いて{\*いてくれる/くれている}匂いがする。  
b. 自分を応援して{\*いてくれる/くれている}姿が見える。  
c. だんだんと熱が下がって{\*いてくれる/くれている}。  
d. 徐々に雨が小降りになって{\*いてくれる/くれている}。  
e. この日、右翼の守備位置で、大阪の友達が一塁側アルプス席に来ているのを見つけた。「がんばれ」と{\*言っていてくれる/言っていてくれている}のが聞こえた。

(澤田 2005:33 一部改変)

(52e)では、知覚表現「聞こえた」が用いられていることから、「～てくれている」を「～ていてくれる」に置き換えると不適格となる。

第 5 は次のようである。

- (53) a. 花子が校門で待っていてくれている {はずだ/に違いない}。  
b. ??花子が校門で待っていてくれている予定だ。

(53b)では「予定だ」が用いられているので、事象がまだ成立していないことが分かる。眼前の「現象」を表してはいないにもかかわらず、「～てくれている」が用いられているのでおかしくなる。しかし、(53a)は反例とはなり得ない。なぜなら、(53a)では、「花子が校門で待っている」ことが、あたかも眼前の「現象」であるかのように捉えられているからである。すなわち、「想像」というメンタルスペースの中で「現象」が構築されているのである。このような「現象」の構築は、単なる未来の予定を表す表現である「予定だ(53b)」では不可能であると述べている。

第 6 に、命令文の例を比較している。

澤田(2005)は例えば「校門で待っていてくれ」が成立するのに対し、「\*校門で待っていていろ」が不適格となる理由について、「『命令文』とは事象がまだ『現象』として成立していない場合に用いられる文であり、既に成立している『現象』を表す『～てくれている』とは共起しないのである」と述べている。

以上の6点の証拠を踏まえて、澤田(2005)は次のような、観察Ⅱを提案している。

- (54) 観察Ⅱ 「～てくれている」では、眼前の「現象」を表す事象がその場で恩恵的であると捉えられており、「～ていてくれる」では、「性質」・「習慣」を表す事象が恩恵的であると捉えられている<sup>58</sup>。

### 3.3 韓国語のアスペクト形式

本節では「～ていてくれる(あげる)」と「～어/아 주다 eo/a juda」、「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」を比較する前に、韓国語のアスペクト形式の種類と特徴を概観する。それを踏まえた上で、日本語との比較を行いたい<sup>59</sup>。

#### 3.3.1 「～고 있다 go issda」

日本語の「ている」に当たる韓国語には、「～고 있다 go issda」・「～아 있다 a issda」という二種類が存在する。一般に、「～고 있다 go issda」は<進行相>と呼ばれ、動作の進行を表わす。一方「～아 있다 a issda」は<結果状態持続相>と呼ばれ、動作の結果状態の持続を表わす。例えば、「～고 있다 go issda」と「～아 있다 a issda」は次のように使われる。まず、「～고 있다 go issda」が用いられた文である。

- (55) a. 타로는 책을 읽고 있다.  
taloneun chaeg-eul ilggo issda  
(太郎は 本を 読んで いる)
- b. 타로는 숙제를 하고 있다.  
taloneun sugjeleul hago issda  
(太郎は 宿題を して いる)
- c. 타로는 울고 있다.  
taloneun ulgo issda  
(太郎は 泣いて いる)
- d. 타로는 학교에 가고 있다.  
taloneun haggyo-e gago issda

<sup>58</sup> ただし、澤田(2005)は注で「『ていてくれる』ではなく、『ていてくれた』『ていてくれ』『ていてくれるはずだ』等の形式では、必ずしも事象が『性質』『習慣』を表すとは限らない」と述べている。

<sup>59</sup> アスペクトを表す形式にはいくつかの種類があるが、本論文では「ている」だけを対象とする。

(太郎は 学校に 行て いる)

e. 타로는 운동장을 뛰고 있다.

taloneun undongjang-eul ttwigo issda

(太郎は 運動場を 走っている)

(55a)～(55e)は動作の進行を表わしている。このような動作進行を表わす文は日本語の「～ている」と大体のところ対応している。一般に、「～고 있다 go issda」は「進行」を表わすとよく言われているが、次のように、「進行」以外のいくつかの aspekto の意味を表わす場合がある。

(56) [1] 進行相 [2] 反復相 [3] 習慣相 [4] 完結状態/結果相 [5] 状態相

[1] 進行相

타로는 지금 그림을 그리고 있다.

taloneun jigeum geulim-eul geuligo issda

(太郎は 今 絵を 描いている)

[2] 反復相

타로는 요즘 책을 쓰고 있다.

taloneun yojeum chaeg-eul sseugo issda

(太郎は この頃 本を 書いている)

[3] 習慣相

타로는 매일 회사에 나가고 있다.

taloneun mae-il hoesa-e nagago issda

(太郎は 毎日 会社に 出て行っている)

[4] 完結状態/結果相

하나코는 지금 기모노를 입고 있다.

hanakoneun jigeum gimonoleul ibgo issda

(花子は 今 着物を 着ている)

[5] 状態相

타로는 그 사실을 믿고 있다.

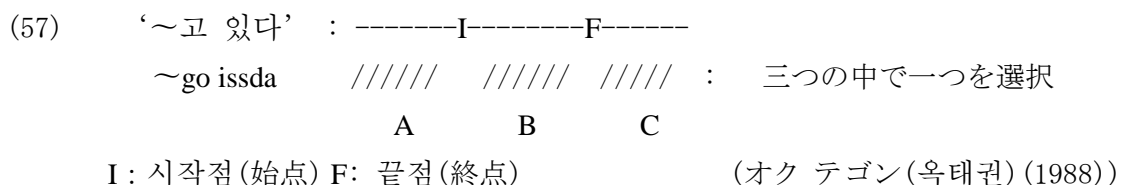
taloneun geu sasil-eul midgo issda

(太郎は その 事実を 信じている)

(56) [1] の「進行相」は「非状態性」、「非瞬間性」の動詞、いわゆる行為を表わす動詞と相まって動作の進行を表わす。(56) [2] の「反復相」は瞬間性を含む動詞と相まって動作の反復を表わす。(56) [3] のような「～고 있다 go issda」は規則的に繰り返す「習慣相」を表わしている。次は、(56) [4] の「完結状態相」と(56) [5] の「結果相」であるが、この場合の「～고 있다 go issda」は「非状態性」、「非持続性」の動詞と結合して完結状態また

は結果を表わす。(56)[5]の「状態相」における「~고 있다 go issda」は状態性の動詞と相まって状態を示すことができる<sup>60</sup>。

以上のことをまとめると、以下のようになる。



(57)のように、「~고 있다 go issda」は、動作の前段階（例えば、도착하고 있다 dochaghago issda (到着しつつある)(A)、動作の進行(그림을 그리고 있다 geulim-eul geuligo issda (絵を描いている)(B)、完結状態(結果持続)(기모노를 입고 있다 gimonoleul ibgo issda (着物を着ている)<sup>61</sup>(C)を表わすことができる。なお、本章であつかっている「~주다 juda」も「~고 있다 go issda」が付く動詞で、その相的な意味は普通Bの意味を表わす。

### 3.3.2 「~아 있다 a issda」

次は、「結果状態の持続」を表わす「~아 있다 a issda」の例である。

- (58) a. 타로는 내 옆에 앉아(누워, 서) 있다.  
 taloneun nae yeop-e anj-a (nu-wo, seo issda)  
 (太郎は私の隣に 座って(横になって、立って) いる)
- b. 길가에 고양이 죽어 있다.  
 gilga-e go-yang-iga jug-eo issda  
 (道端に 猫が 死んでいる)
- c. 타로가 아직 살아 있다.  
 taloga ajig sal-a issda  
 (太郎が まだ 生きて いる)
- c. 길에 돈이 떨어져 있다.  
 gil-e don-i tteol-eojyeo issda  
 (道端に お金が 落ちて いる)
- d. 신발에 고무가 붙어 있다.  
 sinbal-e kkeom-i but-eo issda  
 (靴に ガムが 付いて いる)

<sup>60</sup> 形容詞や存在司、指定司など [+状態、+持続] の性質を持つ典型的な状態用言は除外されるが、それは「~고 있다 go issda」がこのような状態用言とは結合できないからである。詳しくはソ(1996)を参照。

<sup>61</sup> 「기모노를 입고 있다 gimonoleul ibgo issda (着物を着ている)」はBの「動作の進行」を表わす場合もある。



issda」は三つの局面の内、もっぱら動作の結果状態だけを表わす<sup>64</sup>。

### 3.3.3 日本語との比較(アンピョンホ(安平鎬)(2003))

「～ている」と「～고/아 주다 go/a juda」を比較した研究は数多くあるが、その中で、本論文と直接の関連のあるアンピョンホ(2003)を取り上げることにする。

アンピョンホ(2003)は現代日本語の「している」と現代韓国語の「하고 있다 hago issda」、「해 있다 hae issda」について対照研究を行っている。アンピョンホ(2003)によると、両言語のこれらの形式は、一般的に、アスペクト(Aspect)を表わす形式として捉えられ、基本的には一時的な、もしくは、永久的(非可逆的)な状態を表わす。

- (60) a. 太郎は居間で新聞を 読んでいる。  
b. 道端に猫が死んでいる。
- (61) a. 타로는 거실에서 신문을 읽고 있다.  
taloneun geosil-eseo sinmun-eul ilggo issda  
(太郎は 居間で 新聞を 読んでいる)  
b. 길가에 고양이가 죽어 있다.  
gilga-e go-yang-iga jug-eo issda  
(道端に 猫が 死んでいる)

例えば、(60a)と(61a)の文は「読む」と「읽다 ilgda」という動詞の表す動作・作用が一時的に継続していることを表わす(動作継続)のに対し、(60b)と(61b)の文は、「死ぬ」と「죽다 jugda」という動詞の表わす動作・作用が永久的(非可逆的)に継続していることを表わす(結果継続)という両言語における類似点を示している。それに関連して、「している」と「하고 있다 hago issda」「해 있다 hae issda」には三つの類似しているところがあると主張する。

最初に「している」と「하고 있다 hago issda」「해 있다 hae issda」には、存在(と所有)の意味を表わす動詞が補助動詞として用いられていることを挙げている。

- (62) a. 「シテイル」→「動詞のテ形 + イル」  
b. 「하고(해) 있다」→「하고(해) + 있다」  
hago(hae) issda hago (hae) issda

(62a)と(62b)が示すように、現代日本語「シテイル」を構成する「イル」と、現代韓国語の「하고 있다 hago issda」「해 있다 hae issda」を構成する「있다 issda」は、基本的に「存

<sup>64</sup> このように、「～아 있다 a issda」の使い方には多くの制約が働いているが、残念ながら、その理由は未だに明らかになっていない状態である。また、「なぜ他動詞とは結合できないのか」に関しても、確実な理由はまだ知られていない。(ソジョンズ 1996)



在(所有)」を表わすのである。すなわち、日・韓両言語はともに「存在型アスペクト（アスペクト形式に、存在（所有）の意味を表わす動詞が補助動詞として用いられている）を有する言語であるという類似点を挙げている（アン ピョンホ 2003: 3）。

次に、吉川(1973)を参考にしつつ、「シテイル」と「하고 있다 hago issda」「해 있다 hae issda」の表わすアスペクト的な意味が類似していることを挙げている。

(63) 「シテイル」を表すアスペクトな意味

① 動作継続（基本的な意味）

花子が鏡の前で浴衣を着ている。

② 結果継続（基本的な意味）

夕日が街を赤く染めている。隣の家はコスモスを植えている。

③ 繰り返し（派生的な意味）

よく行きますか。大概行っていますよ。

④ 経験・記録（パーフェクト）（派生的な意味）

私の父は脳梗塞でもう死んでいます。

⑤ 単なる状態（派生的な意味）

この子はお父さんに似ている。

(64) 「하고 있다(hago issda)」「해 있다(hae issda)」の表すアスペクトな意味

① 動作継続（基本的な意味）

하나코는 거울 앞에서 옷을 입고 있다.

hanakoneun geo-ul ap-eseo os-eul ibgo issda

(花子は 鏡の 前で 服を 着ている)

② 結果継続（基本的な意味）

마을이 석양으로 붉게 물들어 있다.

ma-eul-i seog-yang-eulo bulge muldeul-eo issda

(村が 夕日で 赤く 染まっている)

③ 繰り返し（派生的な意味）

다로는 이 약을 어제부터 먹고 있다.

taloneun i yag-eul eojebuteo meoggo issda

(太郎は この 薬を 昨日から 飲んでいる)

(63)と(64)が示すように、日・韓両言語のアスペクト形式の「シテイル」と「하고 있다(hago issda)」「해 있다(hae issda)」が表わす基本的な意味は同様である。ただ、現代韓国語は(63④)の「経験・記録（パーフェクト）（派生的な意味）」と(63⑤)の「単なる状態（派生的な意味）」の用法を持たないため、それを「하고 있다(hago issda)」や「해

있다(hae issda)」で表わすことはできない<sup>65</sup>。

最後に、日・韓両言語における、主に過去を表す形式とされる「タ」と「있(eoss)」の歴史的な成立過程（文法化過程）が類似していることを挙げている。

- (65) a. 「テアリ」 > 「タリ」 > 「タ」  
b. 「-어 잇-」 > 「-엿-」 > 「-잇-」 > 「-있-」

アン ピョンホ(2003)は、(65b)の文法化過程は、日本語における(65a)の文法化過程と似ていると述べ、存在動詞が文法化するという文法化過程が類似しており、アスペクト形式からテンス形式へ文法化しているとしている。

以上のように、日本語と韓国語は「している」と「고/아 있다 go/a issda」というアスペクト形式を持っている。日本語は一つの形式を、韓国語は二つの表現形式を持っているという違いはあるものの、(60ab)～(61ab)、(63)～(64)の例で分かるように、その使い方においても非常に類似しているところが多く見られる。

次節からは、以上のようなアスペクト形式の性質を踏まえて、これらの表現形式が「～てやる(あげる)／くれる」と「～어 주다 eo juda」という授受動詞と結び付いた際に、どういった類似点や相違点が見られるのかについて見ていくことにする。

### 3.4 「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」

#### 3.4.1 事実観察

本論に入る前に「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の対応関係を確認する。調査の結果では、「～ていてくれる／あげる」が「～어 주다 eo juda (てあげる／くれる)」になる場合、「주다 eo juda」を解釈しない場合、他の表現形式で解釈する場合が確認できている。それに加えて、対訳小説では見られなかったが、可能な例文も提示している。

3.4.1.1 「～ていてくれる(あげる)」が「～어 주다 eo juda (てあげる／くれる)」になる場合

- (66) a. 「ハチ公にドルを持たせて PX に買いに行かせるから、旦那は見はっててくれ」  
《地下鉄 149》  
b. “하치에게 달러를 주어서 PX 에서 사오게 할 테니, 나리는 망을 봐줘요.”  
(ハチ公に ドルを 持たせて PX で 買って 来させるから、旦那は 見張って くれ)  
(mang-eul bwajwo-yo) 《지하철 145》

<sup>65</sup> これに関して詳しくはアン ピョンホ(2001a、b)を参照のこと。

- (67) a. その人は、昭一さんをしばらく匿っていてくれ、社長が寝ちまったころ母屋に帰してくれって、そんなこと言って…。 《地下鉄 236》  
 b. 그 사람은 쇼이치 님을 잠시 동안 숨겨달라며, ….  
 (そのひとは、昭一さんをしばらく 匿っていてくれ) sumgyeodallamyeo 《지하철 222》
- (68) a. いつかの手術の、麻酔の切れた苦しみのときのように、ずっと手を握っていてやろうと、真次は思った。 《地下鉄 294》  
 b. …, 계속 손을 잡아줘야지(son-eul jab-ajwo-yaji), 라고 신지는 생각했다.  
 (ずっと 手を握っていてやろうと、 と 真次は 思った 《지하철 282》
- (69) a. 「私が軽く舌打ちしたら、しばらくの間、監視カメラの視界を塞いでいてください」 《硝子 106》  
 b. 내가 살짝 혀를 차면 잠깐 감시카메라 앞을 막아주세요(mag-ajuse-yo).  
 (私が 軽く 舌打ちしたら しばらく 監視カメラの 前を 塞いで ください) 《유리 83》
- (70) a. 間に合わなければ待っていてくれるだろう。 《殺した少女 383》  
 b. …, 좀 늦으면 기다려주겠지(gidalyeojugessji).  
 (少し 遅れたら 待っていてくれる だろう) 《죽인소녀 418》
- (71) a. それでも実家の人びとは、夕食を食べずに待っていてくれた。 《秘密 279》  
 b. …사람들은 모두 저녁을 먹지 않고 기다려주었다(gidalyeojju-eosdda).  
 (人びとは みな 夕食を 食べずに 待っていてくれた) 《비밀 303》
- (72) a. おばさんが僕のことわかってくれるわけはなかったけど 《理由 433》  
 b. 아줌마가 나를 정말 이해해주는(ihaehaejuneun) 것은 아니지만, …  
 (おばさんが 僕を 本当に わかってくれる わけでは なかったけど) 《이유 419》

### 3.4.1.2 「～어 주다 eo juda」が無視される場合

- (73) a. 「先に行っててくれ」 《聖女 153》  
 b. “먼저 나가 있어.” (naga iss-eo)  
 (先に行ってて/行って いる) 《성녀 167》
- (74) a. 「夫人に電話してみる。少し待っててくれ」 《聖女 237》  
 b. “알았어. 부인에게 전화할 테니까, 잠시만 기다려(gidalyeo).”  
 (わかった. 夫人に 電話する から 少しだけ 待って) 《성녀 256》
- (75) a. 「はは、よかった。憶えていてくれたね」 《向日葵 212》  
 b. “그래, 다행히 기억하고 있었구나(gi-eoghago iss-eossguna).”  
 (はは、幸い 憶えて いた んだね) 《해마라기 209》
- (76) a. 「これは、彼自身が選んだことなんだ。彼が、自分で決めたことなんだ。  
黙って見ていてあげようじゃないか」 《向日葵 452》  
 b. “…, 잠자코 지켜보자꾸나(jikyeebojakkuna).”  
 (黙って 見て みよう) 《해마라기 444》

- (77) a. 「皆さんのところに戻っていてください」 《秘密 21》  
 b. “가족들이 있는 곳에 가 계십시오(ga gyesibsi-o).”  
 (家族が いる 所に 行って ください) 《비밀 22》

### 3.4.1.3 他の表現形式で解釈する場合

- (78) a. 「このことは綾音さんには黙っててください。…」 《聖女 183》  
 b. “이 얘기를(yaegileul) 아야네 씨에게는 하지 마십시오(haji masibsi-o). ….”  
 (この話を 綾音さんには しないで 下さい) 《성녀 198》
- (79) a. どうも君のお父さんは苦手なんだ。黙っていてくれ。 《地下鉄 68》  
 b. 아무래도 네 아버지는 거북해서 말야. 아무 말 하지 마라(amu mal haji mala).  
 (どうも 君の お父さんは 苦手なんだ。 何の 話も するな) 《지하철 66》
- (80) a. 騒がないでくれ。世間話だけしていてくれればいいんだ。 《地下鉄 159》  
 b. 소란 피우지 말아줘. 그냥 이야기만 하면 돼(i-yagiman hamyeon dwae).  
 (騒がないで くれ。 ただ 話だけ すれば いい) 《지하철 154》
- (81) a. 今も昔も、母はいつも笑っている。…どんな感情にも優先して、母は微笑み  
続けていてくれるのだと真次は思った。 《地下鉄 293》  
 b. … 어떤 감정에도 우선하여 어머니는 미소를 지은 것이다(misoleul ji-eun geos-ida).  
 (どんな 感情にも 優先して 母は 微笑んだ のだ) 《지하철 282》

### 3.4.1.4 対応関係があると思われる場合

- (82) a. おめでとう、そして生きていてくれて、ありがとう。  
 b. 축하해, 그리고 살아 있어 줘서(sal-a iss-eo jwoseo), 고마워.  
 (おめでとう、そして 生きていて くれて ありがとう)
- (83) a. 赤いバラよ いつまでも咲いていてくれ。  
 b. 빨간 장미여, 언제까지라도 피어 있어 줘(pi-eo iss-eo jwo).  
 (赤い バラよ、いつまでも 咲いて いて くれ)
- (84) a. 然しそんな忙しい身体でもないんだから、ああして泊っていてくれるんで  
 しょう。  
 b. …, 그렇게 머물러 있어 주시겠죠(meomulleo iss-eo jusigessjyo).  
 (ああして 泊まって いて くれる んでしょう)
- (85) a. そのときは、君もあちらへいっていてくれる?  
 b. 그 때는 너도 저쪽에 가 있어 줄래?(ga iss-eo jullae)  
 (その 時は 君も あちらへ 行って いて くれる?)
- (86) a. 映画が終わるまで彼は、私のそばに座っていてくれた。  
 b. 영화가 끝날 때까지 그는 내 옆에 앉아 있어 주었다(anj-a iss-eo ju-eosdda).

- (映画が 終る まで 彼は 私の そばに 座って いて くれた)
- (87) a. 太郎は集合場所に先に行って(きて) てくれた.  
 b. 타로는 집합장소에 먼저 가(와) 있어 주었다(ga(wa) iss-eo ju-eosdda).  
 (太郎は 集合場所に 先に 行(来)て いて くれた)
- (88) a. ちょっとこれを、押さえててくれませんか.  
 b. 이것 좀 잡고 있어 주실래요?(jabgo iss-eo jusillae-yo)  
 (これ ちょっと 押さえて いて くれますか?)
- (89) 이걸 내가 미리주는 부케니까, 이거 들고 식당에서 내 옆에 서 있어 주 기만 하면돼(seo iss-eojugiman hamyeondwae).  
 (これは 私が 先に あげる ブーケだから, これ를 持(も)って 式場(しきじやう)で 私の 側(かた)に 立(た)っ て いて くれる だけ(だけ)で いい)
- (90) 이거 좀 가지고 있어줄래(gajigo iss-eojullae)?  
 (これ ちょっと 持(も)っ て いて くれる?) <http://gemmas.tistory.com/49>
- (91) 엄마가 잠깐 이거하고 올테니깐 잠깐만 누워 있어줄래(nu-wo iss-eojullae).  
 (お母(お)さん 少(少)し これ して 来(来)るから, 少(少)しだけ 横(よこ)になっ て いて くれる)  
[http://k.daum.net/qna/view.html?category\\_id=QJB&qid=...](http://k.daum.net/qna/view.html?category_id=QJB&qid=...)
- (92) 나용균은 또 울컥하고 울화가 치밀어 올라왔다. 금방 머물러 있어주면 좋겠 다고(meomulleo iss-eojumyeon johgessdago) 해놓고 ... (KAIST2096)  
 (ナヨンギュンは また むっ(む)と 怒(い)りが こみあげて 来(来)た。いま 泊(と)まっ て いて ほし い と 言(い)っ て いた く せに)
- (93) 녀석이 지껄이는대로 내팽겨쳐두고 그대로 앉아만 있어주면 된 다는 것이  
 (anj-aman iss-eojumyeon doendaneun) 다. (KAIST256)  
 (やつが 言(い)うがま(ま)まに ほ(ほ)っ(っ)てお(お)い(い)て そのま(ま)ま 座(ま)っ て いて や(や)れ ば い(い)い っ(っ)て こ(こ)と だ)
- (94) 누구든지 방 한구석에 가만히 앉아 있어주기만 해도(anj-a iss-eojugiman haedo)  
 큰 위안이 될 것 같았다. (KAIST1932)  
 (誰(た)でも 部(ぶ)屋(や)の 一(い)隅(ご)に じ(じ)っ(っ)と 座(ま)っ て いて さ(さ)え く(く)れ れ ば 大(お)き な 慰(なぐさ)め に な(な)り そ(そ)う だ(だ)った)
- (95) 나는 그 사랑이 기쁨이거나 또는 아픔이거나, 말과 무관하게 나의 마  
 속에서 살아 있어주기를 바랐다(sal-a iss-eojugileul). (KAIST1932)  
 (私は その 愛(あい)が 喜(よろこ)びであ(あ)れ、 悲(かな)しみであ(あ)れ、 言(こと)ばとは 関(かん)係(けい)なく 私の 心(こゝろ)の中(なか)に 生(な)ま っ て いて くれ る こ(こ)と を 望(ねが)ん で い た)
- (96) 일단 유년기를 지나면, 아이는 강력한 아버지가 옆에 서 있어주기를(seo iss-eojugileul) 원하며 또 필요로 한다. (KAIST3683)  
 (一旦、幼(よ)年期(ねんき)を 過(す)ぎると、子(こ)供(ども)は 強(た)力(りき)な お父(お)さん(さん)が 側(かた)に 立(た)っ て いて くれ る こ(こ)と を 望(ねが)み、 ま た 必(かなら)ず と す る)

以上、3.4.1節では、日本語の「～ていてくれる(あげる)」が韓国語の「～어 주다 eo

juda (てあげる／くれる)」とどういう形で対応しているかについて、対訳小説を通した事実関係を中心に調べた。3.4.1.1 は、「～ていてくれる (あげる)」が「～어 주다 eo juda (てあげる／くれる)」になる場合で、3.4.1.2 節は「주다 eo juda」を解釈しない場合、3.4.1.3 節は他の表現形式で解釈する場合、最後に 3.4.1.4 節では、対応関係があると思われる場合の例文を提示した。これらの事実観察によって、日本語が「～ていてくれる (あげる)」という一つの形式で表わしているところを、韓国語は、少なくとも四つのパターンで使い分けていることが見て取ることができる。それでは、なぜ「～テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」、「～てくれる (あげる)」と「～어 주다 eo juda」という個別の表現形式は各々存在していて、しかも類似した意味を表わしているのに、それらの表現形式が一つの形式として結合した際には、両言語において相違点が見られるのだろうか。

以下、3.4.2 節からは、「～아/고 있다 a/go issda」と「～어 주다 eo juda」が結合する際に生じる制限について考察する。その制限の原因を「～아/고 있다 a/go issda」の「アスペクト性」から来るものと、授受動詞「～어 주다 eo juda」から来るものとに別けて考える。最後に、3.4.1.4 節で挙げた例文を通して、韓国語の「～어 있어 주다 eo iss-eo juda (～ていてくれる (あげる))」文の成立可能性を提示し、そこに用いられる先行動詞の特徴について考察していきたい。

### 3.4.2 「アスペクト性」による制限

「～ていてくれる (あげる)」構文と「～아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文は、形態的には対応しているように見える。ところが、実は、両言語の「～テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」の「アスペクト性」の違いや「授受動詞」の「～てあげる(くれる)」と「～어 주다 eo juda」の意味上の差が原因で、「～ていてくれる(あげる)」構文は比較的自由に作られるのに対し、「～아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文は何らかの制約で、その使い方が制限されている。その「何らかの制約」を明らかにするのが、本節の目標である。そして本節では、その制約の一つが、両言語の「アスペクト性」の違いから来るものであると考えることになる。

#### 3.4.2.1 動詞の「現在単純形」の表わすアスペクト的な意味

まず、次の例を見られたい。

- (97) a. 太郎が掃除をする。  
b. 太郎が本を読む。

(97)の日本語の文は未来のことを表わしている。(97)の文に現在時の「今」を入れると次のように「非文」になることからその事実は裏付けられる。

- (98) a. \*太郎が今掃除をする.  
 b. \*太郎が今本を読む.

(98)の文が正文になるためには、「今」を消すか、「する」と「読む」を「している」と「読んでいる」に変えなければならない。

一方、韓国語は日本語とは違うパターンを持っている。

- (99) a. 타로가 청소를 한다.  
 taloga cheongsoleul handa  
 (太郎が 掃除を する)  
 b. 타로가 책을 읽는다.  
 taloga chaeg-eul ilgneunda  
 (太郎が 本を 読む)

(99ab)は、「太郎が掃除をしている」と「太郎が本を読んでいる」ことを表わす。動詞の「現在単純形」で「動作継続」を表わしていることになる。その理由で、次のような日本語の「今」に当たる「지금 jigeum」を入れても文は成立する。

- (100) a. 타로가 지금 청소를 한다.  
 taloga jigeum cheongsoleul handa  
 (太郎が 今 掃除を する)  
 b. 타로가 지금 책을 읽는다.  
 taloga jigeum chaeg-eul ilgneunda  
 (太郎が 今 本を 読む)

(100)の文は「今掃除をしている(100a)」、「今読んでいる(100b)」ことを表わしている。このように、韓国語の「現在単純形」はまさに「動作継続」を表わす機能を持っているのである。それでは、「未来」はどう表わすのだろうか。

- (101) a. 타로가 내일 청소를 한다.  
 taloga nae-il cheongsoleul handa  
 (太郎が 明日 掃除を する)  
 b. 타로가 내일 책을 읽는다.  
 taloga nae-il chaeg-eul ilgneunda  
 (太郎が 明日 本を 読む)

(101)の文のように韓国語の「現在単純形」は「내일 nae-il(明日)」などの未来副詞と相ま

って、「未来」のことも表わすことができる<sup>66</sup>。しかし、これは「非状態性述語」の場合のことで、次のように、「状態性述語」になると未来のことを表わすことができない。

- (102) a. ?내일 날씨가 좋다.  
 nae-il nalssiga johda  
 (明日 天気が いい)
- b. ?그 사람은 내년 에 공무원이다.  
 geu salam-eun naenyeon-e gongmu-won-ida  
 (その人は 来年に 公務員だ)
- c. ??나는 내일 그 사람을 {알아요 / 믿어요}.  
 naneun nae-il geu salam-eul {al-a-yo / mid-eo-yo}  
 (私は 明日 その人を {知る / 信じる})

(102a)～(102c)の文のように、「状態性述語」は「未来」のことを表わしにくいのである。一方、(102)を日本語にすると、(102a)(102b)は「確定した情報」の場合に限って正文になり、(102c)は、すわりの悪い文になると思われる。

以上のように、韓国語の「現在単純形」述語は「動作継続」も表わすし、非状態性述語の場合に限ってではあるが、「未来」のことにも使うことができる。それに比べて、日本語の「基本形」は、「動作継続」を表わすことはできず、もっぱら「未来」のことだけを表わす。これは日本語には「動作進行」や「結果持続」を表わす「テイル」という文法形式が存在するからで、「ル」と「シテイル」と「タ」が、各々「未来」「動作進行や結果持続」「過去(完了)」のことを表わすというふうに文法形式が細分化されているからであると思われる<sup>67</sup>。

次には、本節で問題となっている「動作継続」と「結果継続」を表わす方法に関してであるが、日本語は両方を「～テイル」で表わすのに対して、韓国語は「現在単純形」の他に「～아/고 있다 a/go issda」で表わす。次の例文を見られたい。

<sup>66</sup> 韓国語における未来を表わすには、この他にも「-겠- gess」「-을 것이다 eul geos-ida」などの未来を表わす接辞を挿入する方法がある。

- i) a. (내일) 비가 오겠다.                      b. (내일) 비가 올 것이다.  
 (nae-il) biga ogessda                      (nae-il) biga ol geos-ida  
 ((明日)雨が降る(だろう))                      ((明日)雨が降る(だろう))

この「-겠- gess」と「-을 것이다 eul geos-ida」は必ずしも未来の時間副詞を取るのではなく、次のように、「現在の推定」を表わす場合もある。

- ii) a. 타로는 지금 집에서 자겠다.                      b. 타로는 벌써 집에 도착했겠다.  
 taloneun jigeum jib-eseo jagessda                      taloneun beolsseo jib-e dochaghaessgessda  
 (太郎は 今 家で 寝る だろう)                      (太郎は もう 家に 着いた だろう)

<sup>67</sup> 本章では、日本語のテンスやアスペクトに関する詳しい議論には立ち入らないことにする。



(103) (太郎は友達の次郎に電話をかける)

太郎 「もしもし、おれだけど…今何してる?」

次郎 「うん。ご飯食べてるんだけど…」

(103)は「太郎」が友達の「次郎」に電話をかけて「今何をしているか」を訊ねている場面である。日本語では、「今」のことを「テイル」をつけた「している」と「食べている」で表現しており、この場合「する」や「食べる」を用いることはできない。一方、韓国語はどうかであろうか。次の例文は(103)の文をそのまま韓国語の文にしたものである。

(104) (타로가 친구인 지로에게 전화를 건다) (太郎が友達の次郎に電話をかける)

타로 “난데, 지금 뭐 {해 / 하고 있어}?”

nande, jigeum mwo{hae / hago iss-eo}

(俺だけど、今 何{\*する/ している}?)

지로 “어, 밥 {먹어 / 먹고 있어}.”

eo, bab {meog-eo / meoggo iss-eo}

(うん。ご飯 {\*食べる/食べている}。)

(104)の文のように韓国語では、「現在単純形」と「~아/고 있다 a/go issda」構文という二つのパターンで「動作継続」を表わすことができる<sup>6869</sup>。

68 ソ(1996)は、「現在単純形」も「動作進行」を表わすことができるが、もっと明確な進行相は「~고 있다 a/go issda」で表わし、しかも各時間帯にわたって「進行相」を表わすことができると述べている(ソ ジョンス 1996: 288)。

- i) a. 그 화가는 시방 그림을 그리고 있다.  
geu hwaganeun sibang geulim-eul geuligo issda  
(あの 画家は 今 絵を 描いている)  
b. 그 화가는 어제 그림을 그리고 있었다.  
geu hwaganeun eoje geulim-eul geuligo iss-eosdda  
(あの 画家は 昨日 絵を 描いていた)  
c. 그 화가는 내일도 그림을 그리고 있을 것이다.  
geu hwaganeun nae-ildo geulim-eul geuligo iss-eul geos-ida  
(あの 画家は 明日も 絵を 描いている だろう)

69 吉川(1979)は、「~てください」と「~ていてください」を比較する際に、「~ていてください」の意味で「~てください」が使われることがあると述べている。彼は同じことを二通りに表現することができ、その選択が話し手にまかされている場合に言及し、その理由について以下のように説明している。(吉川 1979: 80)

一般に言語は、個々の話し手の自由になる部分と、自由にならない部分とがある。犬を見て「ねこ」とは言えず、「犬」と言わなければならないのは、それが社会習慣的に決まっているからであって、話し手が自由にはできない。これに対して、前日の出来ごとを話すとき、「きのう手紙を書いた」とも「きのう手紙を書いていた」とも言える。話し手をして、この二つの表現のうちの一つを選択せしめるものは、その出来ごとに対する話し手のとらえ方である。

このように、ある同じことがらに対する表現形式がいくつかあった場合に、そのうちの一つを選び出すものは、話し手のそのことがらに対するとらえ方なのである。

それでは、以上のことを踏まえて「テイル」「～아/고 있다 a/go issda」に「～てあげる(やる)／くれる」「～어 주다 eo juda」が付いた形を比較することにする。

### 3.4.2.2 「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「動作継続」を表わす場合

山田(1997)は「テイル」が事態の継続を表す場合、「微妙な差は感じられるが、基本的に『テイル』とベネファクティブの置換が可能である」と述べている。

- (105) a. 花子は、息子にケチュア語を教えていてくれる。 (= (11))  
 b. …、ずっと手を握っていてやろうと、真次は思った。 (= (68))  
 c. 「…、監視カメラの視界を塞いでいてください」 (= (69))  
 d. 間に合わなければ待っていてくれるだろう。 (= (70))

(105a)～(105d)の文は継続の事態を表す「教えている(105a)」「握っている(105b)」「塞いでいる(105c)」「待っている(105d)」に「～てあげる(やる)／くれる」が付いた形をしている。山田(1997)も言っているように、いずれも適格な文である。それに比べて、韓国語は「動作継続」を表わす「～고 있다 go issda」と「～어 주다 eo juda」は相性が悪いようである。次の(106)の例は、(105a)～(105d)を韓国語に訳したものである。

- (106) a. \* …케추아어를 가르치고 있어 준다(galeuchigo iss-eo junda).  
 (ケチュア語を 教えて いて くれる)  
 b. (?) …계속 손을 잡고 있어 줘야지(jabgo iss-eo jwo-yaji), …  
 (ずっと 手を 握 っ て いて やろう)  
 c. (?) …잠깐 감시카메라 앞을 막고 있어 주세요(maggo iss-eo juse-yo).  
 (少し 監視カメラの 前を 塞 いて いて ください)  
 d. ?? …도착하지 못하면 기다리고 있어 주겠지(gidaligo iss-eo jugessji).  
 (到着することが でき なかったら 待 っ て いて くれる だろう)

(106a)～(106d)の文は「動作継続」を表わす「～고 있다 go issda」と「～어 주다 eo juda」が結合した例文で、いずれも正文にはなっていない<sup>70</sup>。一方、(106a)～(106d)の文の下線部をそれぞれ、「가르쳐 준다 galeuchyeo junda(教えてくれる)(106a)」「잡아 줘야지 jab-a jwo-yaji(握ってやろう)(106b)」「막아 주세요 mag-a juse-yo(塞いでください)(106c)」「기다려 주었다 gidalyeo ju-eosdda(待ってくれた)(106d)」のように「現在単純形」にすると適格な文になる。

以上のように、「テイル」と「～고 있다 go issda」が「動作継続」を表わす際に、日本

<sup>70</sup> 山田は(106)を「動作継続」であると言っているが、(106a)、(106d)と(106b)、(106c)の判断が違うのは、「動作継続」と「持続」のAspect性質の差からくるものであると考えられる。これについては3.4.2.4節(p. 94)で取り扱うことにする。「動作継続」と「持続」については藤井(1966)参照。

語は自由に「～てあげる(やる)／くれる」と結合できるのに対し、韓国語は「～어 주다 eo juda」となかなか結合することができない。これは、日・韓の動詞のアスペクト性の差から来るものである。即ち、日本語は「テイル」だけで「動作継続」の意味を表わせるに対して、韓国語は「～고 있다 go issda」の他に、「現在単純形」でもって「動作継続」を表わすことができるということから起因するものである<sup>71</sup>。

### 3.4.2.3 「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「結果継続」を表わす場合

次は、「テイル」が「結果継続」を表わす場合である。次の例文を見られたい。

- (107) a. ?十分大人になった貴子が子供時分のわだかまりを解いていてくれるような気がして… (= (21))  
 b. ?おらの両親がもう少しおらの将来のことを考えて纏足していてくれたなら… (後略)。 (= (22))

(107a)(107b)の文のように、日本語の「テイル」が「結果継続<sup>72</sup>」を表わす場合、「～てあげる(やる)／くれる」と結合することは山田(1997)の判断ではやや無理があるようである<sup>73</sup>。(107a)は「現在性を表わす知覚表現」が用いられた場合で、澤田(2005)が言うように、「～ていてくれる」より、「～てくれている」のほうが自然になる。(107b)は過去のある時点を仮定する場面で、「～ていてくれる」を用いることは相応しくないと考えられる<sup>74</sup>。

それでは、韓国語の場合はどうであろうか。

- (108) a. \*… 어릴 때의 응어리를 풀고 있어 줄 것 같은(pulgo iss-eo jul geos gat-euntss)…  
 (幼い 時の 蟠りを 解いて いて くれる ような…)  
 b. \*우리 부모님도 … 전속하고 있어 주었다면(jeonsoghago iss-eo ju-eosssdamyeon)…  
 (我々の 両親方も … 纏足して いて くれた なら)

<sup>71</sup> そうなると、理屈としては両方の形で「動作継続」を表わしても問題は生じないのではないかと、という疑問を抱くかもしれないが、これについては3.4.3節で詳しく議論することにする。

<sup>72</sup> 山田(1997)では「結果残存」という用語を用いている。

<sup>73</sup> この判断に対してはもう少し検討する必要があると考えられる。(107b)を次のように変更すると自然な文になるのではないだろうか。

- i) おらの両親がもう少しおらの将来のことを考えて貯金していてくれたなら…

(107ab)と注74のi)の日本語文から、日本語は「テイル」が「結果残存」を表わす場合、「～てくれる／あげる」と結合できない場合もあれば出来る場合もあることがわかる。

<sup>74</sup> この他にも澤田(2005)は「現在の変化を表わす副詞」が用いられた場合も「～ていてくれる」より「～てくれている」の方が自然であると予測している。(本章の p. 74、澤田(2005)を参照のこと)

- i) a. だんだんと熱が下がって{\*いてくれる/くれている}。  
 b. 徐々に雨が小降りになって{\*いてくれる/くれている}。

韓国語においては、日本語よりさらに厳しい状況である。「結果継続」を表わす「～고 있다 go issda」が「～어 주다 eo juda」と結合すると、(108a)と(108b)のように非文になってしまうのである。

#### 3.4.2.4 「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「持続<sup>75</sup>」を表わす場合

次に、「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「持続」を表わす場合について見ていく。「テイル」と「～아/고 있다 a/go issda」が「持続」を表わすということは例えば以下のような場面である。

- (109) a. …、ずっと手を握っていてやろうと、真次は思った。 (= (68)、(105b))  
b. 「…、監視カメラの視界を塞いでいてください」 (= (69)、(105c))  
c. 私が仕事をしている間、彼女は私のそばに座っていてくれた。  
d. 私がバスに乗り終わるまで、彼女は私の荷物を持っていてくれた。

(109a)の「握っている」や(109b)の「塞いでいる」、(109c)の「座っている」、(109d)の「付けている」などに用いられた「テイル」は、「持続」の意味を表わしている。この「持続」という用語は、藤井(1966)で用いられたものであるが、藤井(1966)によると、「シテイル」の表す意味のうち、「動作継続(藤井では「動作の進行」)」が「こきざみな運動」の連続であるのに対し、「持続」は「同一の状態の継続」である。「動作継続」と「持続」は似ているが、持続は「している最中」という表現が成立しないという点で異なり、「着る」「乗る」「(電気が)点く」「(時計が)止まる」「しゃがむ」「立つ」「座る」等、一部の結果動詞の「テイル」形と、「じっとする」「(あることを)黙る」等の「テイル」形が「持続」の意味になる<sup>7677</sup>。

一方、森山(1988)も、藤井(1966)での「持続」と類似した意味として、「維持」という用語を使っているが、森山(1988)は「シテイル」の表す様々な局面(phase)の意味を次のように別けている。

<sup>75</sup> 「持続」という用語は藤井(1966)で用いられた用語である。森山(1988)では「維持」で、アンピョンホ(2003)では「静止動作」として「持続」と似たような意味を扱っている。

<sup>76</sup> 藤井(1966)、アンピョンホ(2003)を参照のこと。

<sup>77</sup> 吉川(1979)では、諸動詞の「～ていて下さい」の意味を「一般の継続動詞」と「主語の人をとる結果動詞」、「特殊な継続動詞」とに分けて考察を行っている。ここでの「持続」を表わす動詞は「特殊な継続動詞」と意味的に相通している。それぞれの動詞類に属する動詞は次のようである。

- i) 一般の継続動詞 「食べる」「読む」「書く」「見る」「遊ぶ」など。
- ii) 主語に人をとる結果動詞 「のる」「立つ」「すわる」「ねる」「起きる」など。
- iii) 特殊な継続動詞 「じっとする」「住む」「だまる」「待つ」「休む」など。

この「特殊な継続動詞」が「一般の継続動詞」と異なっているのは、「一般の継続動詞」が「動作」を表わすのに、「特殊な継続動詞」は動作をしないことを表わすことである。この何もしていない状態は、ある動作がおわってから次の動作がはじまるまでの間にみられるものである(吉川 1979:74-75)。

- 一時点的なもの : ①永続的变化<sup>78</sup> ②無変化<sup>79</sup>  
 持続的なもの : ①過程 ②維持 ③結果持続

それから「動きに持続があるかどうか」については、以下のようにまとめている<sup>80</sup>。

過程：「三時間」などの期間成分と共起可能である。

「し続ける」が言える／「しているところだ」が言える／「し始める」が言える。

「三時間歩く」「歩き続ける」「歩いているところだ」「歩き始める」

維持：「三時間」等の期間成分と共起可能である。

「し続ける」が言える／「しているところだ」が言える／「し始める」が言えない。

「三時間座る」「座り続ける」「座っているところだ」「\*座り始める」

結果持続：「三時間」等の期間成分と共起可能である。

「し続ける」が言えない。

「三時間（時計が）止まる」「\*時計が止まり続ける」「\*止まり始める」

(109)の文から、日本語は「テイル」が「持続」の意味を表わす際に、「～てあげる(やる)／くれる」構文と比較的自由に結合できることがわかる。「持続」を「動作継続」や「結果残存」の中に入れて扱っている山田(1997)の研究と大きな違いはないと思われる。しかし、日本語においては「持続」を「動作継続」や「結果継続」の中に入れて扱うことがそれほど問題にはならないようであるが、韓国語の場合はどうであろうか。上記の(109)の文を韓国語にすると次のようになる。

- (110) a. (?) …계속 손을 잡고 있어 줘야지, 라고 신지는 생각했다. (= (106b)  
 (ずっと手を握っていてやろう、と 真次は 思った)  
 b. (?) … 잠깐 감시카메라 앞을 막고 있어 주세요. (= (106c)  
 (少し 監視カメラの 前を 塞いで いて ください)  
 c. 내가 일을 하고 있는 동안, 그녀는 내 옆에 앉아 있어 주었다.  
 (私が 仕事をしている 間、彼女は 私の 側に 座っていて くれた)  
 d. 내가 버스에 탈 때까지, 그녀는 내 짐을 들고 있어 주었다.  
 (私が バスに 乗るまで、彼女は 私の 荷物を 持っていて くれた)

<sup>78</sup> 「飽きる」「枯れる」「消える」「焦げる」「死ぬ」「成立する」「結婚[離婚]する」などがこの類に属し、主体変化の起こる一点的な時だけが取り上げられる動詞句である(森山 1988: 154)。

<sup>79</sup> 「見掛ける」「目撃する」「ひらめく」「一瞥する」「驚く」「あきれる」などがこの類に属し、これらの動詞は、動詞句の意味自体では、何も変化するものはなく、無変化的な動きである(森山 1988: 154)。

<sup>80</sup> アンピョンホ(2003)を参照のこと。

(110a)～(110d)は、「～아/고 있다 a/go issda」が「持続」の意味を表わす例であるが、「動作継続」の場合と比べると、許容度が上がっているのが見て取れる。したがって、日本語においては、「持続」を別項の項目として設定しなくてもいいのであるが、韓国語においては、「～아/고 있다 a/go issda」と「～아/고 있다 a/go issda」が結合する際の重要なポイントになる「持続」という意味を別の項目として分類しておかなければならないと考えられる。それでは、「～아/고 있다 a/go issda」が「持続」を意味する際にだけ「～어 주다 eo juda」と結合しやすい理由は何であろうか。次の例を見られたい。

(111) (타로가 친구인 지로에게 전화를 건다) (太郎が友達の次郎に電話をかける)

타로 “난데, 지금 뭐 {해 / 하고 있어}?”

nande, jigeum mwo {hae / mwo hago iss-eo}

(俺だけど、今 何 {\*する/している}?)

지로 “어, 밥 {먹어 / 먹고 있어}.”

eo, bab {meog-eo / meoggo iss-eo}

(= (104))

(うん。ご飯 {\*食べる/食べている}。)

(111) (=104)の文は、韓国語の動詞の「現在単純形」が「動作継続」の意味を表わすことを示す例である。一方、「～어 주다 eo juda」が「持続」の意味を表わす場合は次のようである。

(112) (타로가 친구인 지로에게 전화를 건다)

타로 : 난데, 지금 뭐 {해 / 하고 있어}?

nande, jigeum mwo {hae / mwo hago iss-eo}

(俺だけど、今 何 {\*する / している}?)

지로 : 어, 지금 고양이 손 {a. \*잡아 / b. 잡고 있어}.

eo, jigeum go-yang-i son {a. \*jab-a / b. jabgo iss-eo}

(うん。今、猫の手を 握っているよ)

감시카메라 앞을 {a. \*막아 / b. 막고 있어}.

gamsikamela ap-eul {a. \*mag-a / b. maggo iss-eo}

(監視カメラの前を 塞いでいるよ)

엄마 옆에 {a. \*앉아 / b. 앉아 있어}.

eomma yeop-e {a. \*anj-a / b. anj-a iss-eo}

(母のそばに 座っているよ)

여자친구 짐 {a. \*들어 / b. 들고 있어}.

yeojachingu jim {a. \*deul-eo / b. deulgo iss-eo}

(彼女の 荷物 持っているよ)

(112)の文は「~아/고 있다 a/go issda」がついて「持続」の意味を表わす動詞類の「現在単純形」が「持続」の意味を表わすことができるかどうかをテストした例である。(112)の文は、(111)の場合と違って、「現在単純形」で「持続」を表わすことができず、それが必要な場合は、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」を付けなければならない。すなわち、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」が「動作継続」を表わす場合は、「現在単純形」でも「動作継続」を表わすことができるのに対し、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」が「持続」の意味を持っている場合は、「現在単純形」では「持続」の意味を表わせないので、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」が必要になるわけである。そこに、「~어 주다 eo juda」が結合する場合、「動作継続」の場合は「現在単純形」でも「動作継続」の意味を表わせるから、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」が付いていると過剰表現となってしまう、文法性の低い文になってしまう可能性が考えられる。一方、「持続」の場合は、「現在単純形」では「持続」の意味を示すことができないので、「~아/고 있다 a/go issda (テイル)」が要求されることになり、「~어 주다 eo juda」との結合も自然にできるのである。

以上のことで、本論文における「持続」の意味は「ある動作が完了し、その状態が続いている」ものとして捉えることができる。

#### 3.4.2.5 「テイル」と「~아/고 있다 a/go issda」が「単純状態」と「心理状態」を表わす場合

次に、単純状態と心理状態を表わす場合について簡単に触れてみる。3.2.1.1.4節(p. 69~70)では山田(1997)の「テイルの状態用法とベネファクティブ」について検討した。日本語は次の(113)のように、両方とも「~ていてくれる」が許される。

- (113) a. 道が曲がっていてくれたおかげで助かった。  
 b. どこかでまだわたしを期待していてくれるという喜びで…

山田(2004)は、(113a)について、「道が曲がっている」などは常にテイル形で現われるので、述語とテイルは不可分であるという理由で許されると言っている。(113b)のように、心理的な状態を表わす「期待していてくれる」の場合は、テイルの継続用法に近いと考えられるため「~ていてくれる」が許されると述べている。一方、韓国語は

- (114) a. ?길이 굽어 있어 준 덕분에 살았다.  
 gil-i gub-eo iss-eo jun deogbun-e sal-assda  
 b. \*어디에선가 아직 나를 기대하고 있어 준다는 기쁨에…  
 eodi-eseonga ajig naleul gidaehago iss-eo jundaneun gippeum-e

(114a)は主に状態を表わす「~아 있다 a issda」が使われてはいるが、「道」という主語の影響で、少しすわりの悪い文になっている。(114b)は主に継続を表わす「~고 있다 go issda」が用いられているため「~어 주다 eo juda」との共起は不自然になる。

それでは、山田(1997)を基にして、「~テイル」と「~てあげる(くれる)」、「~아/고 있다 a/go issda」と「~어 주다 eo juda」の成立状況を動詞のアスペクトごとに分類すると、次の表のようになる。

	日本語	韓国語
継続	✓	✗
結果残存	?	✗
持続	✓	✓
単純状態	✓	?
心理状態	✓	✗

表2 「~ていてくれる(やる)」と「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の成立状況の比較

表2から、日本語は「テイル」の意味が結果残存を表わす一部の動詞を除いて「~ていてやる/くれる」が成立しているが、韓国語の場合は、「~아/고 있다 a/go issda」が「持続」や一部の「単純状態」の意味を表わす動詞だけ<sup>81</sup>が「~어 주다 eo juda」と結合しているのが分かる。

### 3.4.3 「授受動詞」の性質による制限

3.4.2節は、韓国語における「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が日本語の「~ていてあげる(やる)/くれる」構文より、その使い方において制限があるという点に注目し、その原因が韓国語における「~아/고 있다 a/go issda」と日本語の「~ている」とのアスペクト性の違いから来るものであるということを指摘した。本節では、二つ目の原因として考えられる「~ていてあげる(やる)/くれる」構文と「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文における「動作の完了と対象物の移動」に関する日・韓両言語の差を中心に見ていくことにする。

<sup>81</sup> 単純状態を表わす「聳えている」「(道が)曲がっている」などは、確かに「아 있다 a issda」が付いて状態を表わしているが、そこに「~어 주다 eo juda」がつくと若干不自然に感じられる。それは「~아 있어 주다 a iss-eo juda」がただの状態が続いていることに対する恩恵を表わすのではなく、行為を行う動作主が、自分の意志で「維持する」または「持続する」という行為に対する「ありがたさ」を表現しているからではないかと考えられる。例えば、韓国語で「차가 멈춰 주었다(車が止まってくれた)」「비가 그쳐 주었다(雨が止んでくれた)」は両方言えるが、「차가 멈춰 있어 주었다(車が止まってくれた)」は言えるのに対し(運転する人の意志などによって)、「\*비가 그쳐 있어 주었다(雨が止んでいてくれた)」は不自然に感じられるのと関係しているのである(日本語はいずれも正文である)。



### 3.4.3.1 動作の完了と対象物の移動

日本語の「～てあげる(やる)／くれる」構文と韓国語の「～어 주다 eo iss-eo juda」構文としては、次のようなものがある。

- (115) a. 花子が 太郎に お弁当を 作ってやった。  
b. 하나코가 타로에게 도시락을 만들어 주었다.  
hanakoga talo-ege dosilag-eul mandeul-eo ju-eosdda

既に述べたように、(115)の文は「花子」が「太郎」に「お弁当」を作ってやったという事象を表わしている。その点に関しては、日本語と韓国語とで共通している。ところが、日本語の(115a)は、「花子が太郎のためにお弁当を作った」という「恩恵」の意味が強い半面、韓国語の(115b)は「恩恵」の意味に加わって、「お弁当」が「太郎」のところに移動していることも含意する<sup>82</sup>。その事実は、次のような、打ち消し文が作れるかどうかで確認できる<sup>83</sup>。

- (116) a. 花子は 太郎に お弁当を 作ってやったが、まだ渡していない。  
b. \*하나코가 타로에게 도시락을 만들어 주었지만, 아직 (전해) 주지 않았다.  
ajig (jeonhae) juji anh-assda  
(ハン ギョンア 2008、一部改変)

(116a)では、「お弁当」が太郎のところに移動していなくてもいいが、(116b)では、「～어 주었다 eo ju-eosdda」が使われた時点で「お弁当」が「太郎」のところに移動していなければならない。これは、本動詞から補助動詞へ抽象化(文法化)していく際に、日本語は本動詞の「やる(あげる)／くれる」の重要な意味である「恩恵」と「移動」のうち、移動の意味は薄まってきた半面、恩恵の意味はそのまま本動詞の意味を受け継いできたからであると考えられる。一方、「주다 juda」は補助動詞の「～어 주다 eo juda」になってからも、恩恵と移動の意味が依然として残っているので、上記の(116b)のような文は成立しない。

以上のことを踏まえた上で、「～어 주다 eo juda」の前に「～아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」が付いた次のような例を検討する。特に、「～아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が成立することに「移動」の意味が関わっているかどうかについて検証することにする。

- (117) a. 花子は 太郎に お弁当を 作っていてくれた。  
b. \*하나코는 타로에게 도시락을 만들고 있어 주었다(mandeulgo- iss-eo ju-eosdda).

<sup>82</sup> 日本語においても、発話時点で対象物が「太郎」に移動していなくてもいいということを意味するもので、対象物の「移動」がまったくないということではない。Shibatani (1994)、三宅(1996)、加賀(1997)なども、「二格」のところに対象物が移動することを述べている。

<sup>83</sup> 詳しくは、ハン ギョンア(2008)と本論文の2.4節を参照のこと。

- (118) a. 花子は 太郎に りんごを むいて いて くれた。  
 b. \*하나코는 타로에게 사과를 깎고 있어 주었다(kkakko iss-eo ju-eosdda).

(117)～(118)における日本語の「作っている」「むいている」は「動作継続」の読みでも捉えられるし、「結果継続」でも読み取ることができる。それに比べて、(117b)～(118b)の韓国語における「만들고 있다(117b)」「깎고 있다(118b)」はもっぱら「動作継続」だけを表わす。ということは、まだ動作が完了していないことを意味し、「お弁当(117b)」「りんご(118b)」も当然、出来上がっていない。したがって誰かに移動することもできない。これだけを見ると、「動作の完了」と「対象物の移動」が「～아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文を作る際の重要なポイントになっているように見える。それでは、次の例はどうであろうか。

- (119) a. 間に合わなければ待っていてくれるだろう。 《殺した少女 383》  
 b. “… 좀 늦으면 기다려주겠지(gidalyeojugessji).”  
 (少し遅れたら 待ってくれる だろう) 《죽인소녀 418》 (= (70))  
 (120) a. それでも実家の人びとは、夕食を食べずに待っていてくれた。 《秘密 279》  
 b. 그래도 사람들은 모두 저녁을 먹지 않고 기다려주었다(gidalyeojueosdda).  
 (それでも 人びとは みな 夕食を 食べずに 待って くれた) 《비밀 303》 (= (71))  
 (121) a. 「… ハチ公にドルを持たせて PX に買いに行かせるから、旦那は見はっててくれ」  
 《地下鉄 149》  
 b. “하치에게 달러를 주어서 PX 에서 사오게 할 테니, 나리는 망을 봐줘요  
 (mang-eul bwajwo-yo).” 《지하철 145》 (= (66))  
 (ハチ公に ドルを 持たせて PX で 買って 来させる から、旦那は 見張って くれ)

(119a)～(121a)の例はそれぞれ、「待っていてくれるだろう」と「待っていてくれた」「見張っててくれ」の「～ていてくれる(やる)」の形になっているのに対し、韓国語の(119b)～(121b)では、それぞれ「기다려 주겠지 gidalyeo jugessji (待ってくれるだろう)」「기다려 주었다 gidalyeo ju-eosdda(待ってくれた)」「봐 줘요 bwa jwo-yo(見張ってくれ)」という「てくれる(やる)」の形になっている。それを「～ていてくれる(やる)」の形の「기다리고 있어 주다 gidaligo iss-eo juda(119b)(120b)」「보고 있어 주다 bogo iss-eo juda(121b)」にした場合、やはり非文になってしまう。(119)(120)および(121)に用いられている「기다리다 gidalida(待つ)」と「보다 boda (見る)」という動詞は対象物の移動とは関係ない行為にもかかわらず、非文になってしまっているのである。それでは、次の例はどうであろうか。

- (122) a. 友達は 30 分も 早く 待ち合わせの場所に 来ていてくれた。  
 b. 친구는 30 분이나 일찍 약속장소에 와 있어 주었다(wa iss-eo ju-eosdda).

- (123) a. そのときは、君も あちらへ いっていてくれる?  
 b. 그 때는 너도 저쪽에 가 있어 줄래(ga iss-eo jullae)? (= (85))
- (124) 누구든지 방 한구석에 가만히 앉아 있어주기만 해도(anj-a iss-eojugiman haedo)  
 큰 위안이 될 것 같았다. (KAIST1932) (= (94))  
 (誰でも 部屋の 一隅に じっと 座っていて さえ くれれば 大きな 慰めに なりそうだった)
- (125) a. 赤いバラよ いつまでも 咲いていてくれ。  
 b. 빨간 장미여, 언제까지라도 피어 있어 줘(pi-eo iss-eo jwo). (= (83))
- (126) a. 然しそんな忙がしい身体でもないんだから、ああして泊まっていてくれるん  
 でしょう。 (= (84))  
 b. …, 그렇게 머물러 있어 주시겠죵(meomulleo iss-eo jusigessjyo).  
 (ああして 泊まっていて くれる んでしょう)
- (127) 일단 유년기를 지나면, 아이는 강력한 아버지가 옆에 서 있어주기(seo iss-  
 eojugileul) 를 원하며 또 필요로 한다. (KAIST3683) (= (96))  
 (一旦、幼年期を 過ぎると、子供は 強力な お父さんが 側に 立っていて くれる こと  
を 望み、また 必要と している)
- (128) ‘엄마가 잠깐 이거하고 올테니깐 잠깐만 누워 있어줄래(nu-wo iss-eojullae).’  
 (母가 少し これ して くるから、少しだけ 横になって いて くれる)  
[http://k.daum.net/qna/view.html?category\\_id=QJB&qid=...](http://k.daum.net/qna/view.html?category_id=QJB&qid=...) (= (91))

(122)～(128)は韓国語における「～아 있어 주다 a iss-eo juda」が可能な例である。そこに用いられた動詞は順番に「来る」「行く」「座る」「座る」「咲く」「泊まる」「立つ」「横になる」で、「～아 있다 a issda」が付いている形になっている。しかしながら、これらの文において「対象物の移動」を想像することは難しい。ただし、上記の(115)～(120)の例と違うのは、「動作が完了している」状態を表わしている。しかも、ただ続いているのではなく、意図(あるいは意志)をもって維持(または持続)しているということになる。

以上の内容をまとめると、以下のようになる。

3.4.3.1 節で我々は、「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda(ていてくれる(やる))」の成立条件には、動作の完了と対象物の移動を仮定していた。つまり、上記の(117)～(121)の例によって、「動作の完了していないこと」と「対象物の移動できない」という理由を立てることができたのである。しかしながら、(119)～(121)の例から、「対象物の移動」は「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda(ていてくれる(やる))」の成立の条件とは直接には関わっていないことがわかる。しかも、「対象物の移動」とは全然関係のない(122)～(128)の例において「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda(ていてくれる(やる))」が成立している。ということで、「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda(ていてくれる(やる))」構文が成立するための条件は「動作の完了」であると言えることができる。主動詞が「作成・入手動詞」の場合は、動作の完了とともに生産物が生成され、その生産物が「ニ格・에게 ege 格」に移動するということが随伴されるのである。つまり、「対象物の移動」が「～고/아 있어

주다 go/a iss-eo juda (ていてくれる(やる))」構文の必要充分条件なわけではなく、主動詞が「作成・入手動詞」の場合に付随的に伴われる現象であると言うことができる。

それでは、「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda (ていてくれる(やる))」が成立する(122)~(128)からどのような一般化ができるのであろうか。

### 3.4.3.2 持続

3.4.3.1節では、韓国語の「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が日本語の「~ていてあげる(やる)／くれる」構文に比べて、その使い方が制限されている原因の一つとなるものが、「~てあげる(やる)／くれる」と「~어 주다 eo juda」動詞の特性の違いから来るものであることについて述べた。両構文は構造的・意味的に類似したところが多いと言われてきたが、実は両構文が表わす意味には大きな違いが含まれている。それは、動作の完了と対象物の移動という側面における相違点である。それらの違いによって、日本語の「~ていてあげる(やる)／くれる」構文は比較的により自由に用いられているのに対して、「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文の使い方はかなり制限されている。本節では、「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が様々な理由で制限されている中で、使用可能な場合を紹介し、そこにはどのような条件が働いているのかについて見ていくことにする。

「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が可能な例には次のようなものがある。

- (129) a. 花子は 僕の そばに 座って[立って]いてくれた。  
 b. 하나코는 내 옆에 앉아[서] 있어 주었다.  
 hanakoneun nae yeop-e anj-a[seo] iss-eo ju-eosdda
- (130) a. 花子は 待ち合わせの場所に 先に 行って[きて]いてくれた。  
 b. 하나코는 약속장소에 미리 가[와] 있어 주었다.  
 hanakoneun yagsogjangso-e mili ga [wa] iss-eo ju-eosdda
- (131) a. 私が バスに 乗り終わるまで、彼女は 私の 荷物を 持っていてくれた。  
 b. 내가 버스에 탈 때까지, 그녀는 내 짐을 들고 있어 주었다.  
 naega beoseu-e tal ttaekkaji, geunyeoneun nae jim-eul deulgo iss-eo ju-eosdda  
 (= (109d)、(110d))

(129)~(131)は「~ていてあげる(やる)／くれる」構文と「~아/고 있어 주다 a/go iss-eo juda」構文が揃って正文になっている数少ない例である。(129)~(131)で使われた主動詞を見てみると、日本語は「座る(立つ)(129a)」「行く(来る)(130a)」「持つ(131a)」が、韓国語は「앉다(서다)anjda(seoda)(129b)」「가다(오다)gada(oda)(130b)」「들다 deulda(131b)」が用いられている。これらの動詞類にそれぞれ「~ている」、「~아/고 있다 a/go issda」が付くと、結果継続の意味になり、これらの動詞は、藤井(1966)の動詞分類か

らは「持続」、森山（1988）の分類では「維持」という動詞類に属するものである<sup>84</sup>。

さて、「～ている」、「～아/고 있다 a/go issda」が付いたこの動詞類が、「～てあげる（やる）／くれる」と「～어 주다 eo juda」と結合する際には、「動作継続」を表わす動詞類と比べて、どのような違いが見られるのであろうか。上記の(129a)～(131a)の「座る(立つ) (129a)」「行く(来る) (130a)」「持つ(131a)」と、(129b)～(131b)の「앉다(서다) anj da(seoda) (129b)」「가다(오다) gada(oda) (130b)」「들다 deulda (131b)」は、一つの共通点がある。一般的な「動作継続」を表わす動詞とは違って、ある時点で動作が終わり、その終わった状態が続いているという特性である。それを「動作継続」を表わす動詞と比較してみると次のようになる。

(132) ・動作継続を表わす動詞 している、作っている、殴っているなど。

→動作が継続している。

→「作成動詞」の場合、生産物はまだできていない。

・持続

立っている(座っている)、行っている(来ている)、持っているなど。

→動作は終わって[完了して]いるが、その状態を維持している。

→生産物の移動とは関係ない。

まず、動作が完了しているかどうかでは、動作継続を表わす動詞は動作が続いている。一方、「立つ(座る)」「行く(来る)」「持つ」などの動詞は動作が完了していて、その状態を(意志を持って)維持しているだけである。日本語では、「～てあげる(やる)／くれる」構文で文を作る際に、動作の完了は問題にならない。その行為に対する「恩恵」の意味だけが強く働いているからである。一方、「～어 주다 eo juda」構文で文を作る時は、「動作が完了しているかどうか」が文を構成できる重要なポイントになる。山田(2004)などは以下の(133)(134)における「待っている」と「(手を)握っている」を同じく「動作継続」として捉えているが、本論文では、「待っている」は「動作継続」として、「(手を)握っている」は、「握る」という行為が完了しているので、「持続」として捉える。次の(133)(134)の韓国語文に対する判断が微妙に違う理由はまさにそのためであろう。

(133) a. 間に合わなければ待っていてくれるだろう。

b. ??도착하지 못하면 기다리고 있어 주겠지.

dochaghaji moshamyeon gidaligo iss-eo jugessji

(到着することができなかつたら 待っていてくれる だろう)

(134) a. …、ずっと手を握っていてやろうと、真次は思った。

b. (?)<sup>85</sup>…계속 손을 잡고 있어 줘야지, …

<sup>84</sup> アンピョンホ(2003)では、「静止動作」という用語を使用している。

gyesog son-eul jabgo iss-eo jwo-yaji

(ずっと 手を 握っていて やろう)

そういう観点から見ると、「～어 주다 eo juda」構文において、「動作継続」を表わす動詞類が用いられると、まだ動作が完了していないし、「作る」「編む」「買う」などの「作成・入手動詞」類の場合は、動作がまだ継続しているので、当然、作られる[入手された]対象物はまだできていない状態であって、「～아/고 있다 a/go issda」と「～어 주다 eo juda」構文が結合することは難しいことになる。その反面、「持続」を表わす(129b)～(131b)に用いられた動詞は動作が完了していて、その完了した動作を「聞き手」や「恩恵」を被る人間が認識可能なので、「～아/고 있다 a/go issda」と「～어 주다 eo juda」構文が結合可能になるのである。

#### 3.4.4 3.4節のまとめ

3.4節では、「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」がどう対応しているかについて述べた。3.4.1節では、日・韓の対訳小説（原作は日本語）を通して、事実関係を確認した。日本語は「～ていてくれる／あげる」一つの構文が使われているところを、韓国語は「～어 주다 eo juda（～てあげる／くれる）」になる場合、「주다 eo juda」を解釈しない場合、他の表現形式で解釈する場合など、様々な表現形式が用いられている。残念ながら、「～ていてあげる／くれる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」とが直接対応している例文は一つも見つからなかったものの、可能な例文がまったくないわけではない。実際に使われている用例を収集して提示した。

3.4.2節では、3.4.1節で確認した「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文の成立可否に差が見られる原因を日・韓両言語の「アスペクト性」の違いに求めた。「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文の主動詞の種類やその動詞の「アスペクト性」の違いによって、日本語は比較的自由に「～ていてくれる／あげる」構文が作れるのに対し、韓国語はいくつかの制限で「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文を作ることができなかった。その一つは、韓国語の動詞の「現在単純形」が「動作継続」を表わすことができるという特性から来る制限である。「～고 있다 go issda」がついて「動作継続」を表わす動詞の場合、「～고 있다 go issda」の他にも動詞の「現在単純形」で「動作継続」の意味を表わすことができるのであるが、それが日・韓両言語のアスペクト性における大きな違いになるわけである。一方、もう一つのアスペクト形式である「～아 있다 a issda」が付いて結果継続(持続)を表わす動詞類は、「現在単純形」では「結果継続(持続)」を表わすことができず、「～아 있다 a issda」を用いて表現するしか方法がない。そのため「～아 있다 a issda」に「주다 juda」を付けた形の「～아 있어 주다 a iss-eo juda(～ていてやる／くれる)」が使われるのである。

<sup>85</sup> 「握る」「塞ぐ」などの動詞は状況さえ整っていれば、正文として用いられることもできる。

次に、二つ目の原因である「授受動詞」の性質による制限についてである。「動作継続」を表わす「～ている」と「～고 있다 go issda」に「～てあげる／くれる」と「～어 주다 eo juda」が各々付く際に、「動作が完了しているかどうか」ということは日本語にとってはあまり問題にならない。一方韓国語の場合は、「動作が完了しているかどうか」と「ものが移動しているかどうか」という問題が「～어 주다 eo juda」構文を作る際の重要な要素になる。「～고 있다 go issda」がついて「動作継続」の意味になる動詞の場合、動作が完了していないということは「～어 주다 eo juda」構文を作る際の必要な条件（動作の完了）を満たしていないことを意味しているので、「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文を作ることができなくなるのである。一方、「～아 있다 a issda」がついて「結果持続」の意味を表わす動詞類に「～어 주다 eo juda」が付く場合には、動作は完了している（本論文で言う持続の意味を表わす）ので、「～아 있어 주다 a iss-eo juda」構文を作ることが可能になるわけである。

### 3.5 「～てくれて（あげて）いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」

本節では、「～ている」と「～고 있다 go issda」が「～てくれる／あげる」と「～어 주다 eo juda」に後接した「～てくれて／あげている」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」について考察を行う。

#### 3.5.1 事実観察

本論に入る前に「～てくれて（あげて）いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」の対応関係を確認する。調査の結果では、「～てくれて／あげている」が「～어 주고 있다 eo jugo issda（～てくれて／あげている）」に対応する場合と、「～어 주다 eo juda（～てくれる／あげる）」に対応する場合、「～てくれて／あげていた」が「～어 주었다 eo ju-eosdda（～てくれた／あげた）」になる場合、「～어 주곤했다 eo jugon haessda（～てくれたりした）」、「～어 주었었다 eo ju-eoss-eosdda（～てくれていた）」、「～어 준 적이 있다 eo jun jeog-i issda（～てくれたことがある）」などになる場合が確認できている。

#### 3.5.1.1 「～てくれて／あげている」が「～어 주고 있다 eo jugo issda（～てくれて／あげている）」に対応する場合

(135) a. 赤いエプロンを着け、買い物客らしき老人のカゴを、レジから窓際のカウンターに運んでやっている。 《夜行 64》

b. …, 계산대에서 유리창 옆 카운터로  옮겨주고 있다(olmgyeojugo issda).  
 (レジで 窓際の カウンターへ 運んで やっている) 《야행 66》

(136) a. 「杉田さん、最近はすっかりおかあさんの代わりができるようになって

- たんですね」 「まあ何とかやってくれています」 《秘密 151》
- b. “예, 그러저럭 잘해주고 있습니다(jalhaejugo iss-seubnida).” 《비밀 164》  
(はい、何とか よく やって くれて います)
- (137) a. 「だから、守ってあげてるじゃないか!」 …  
「…。ごはんだって毎日きちんと捕まえてあげてるし」 《向日葵 288》
- b. “그래서 지켜주고 있잖아! (jikyoejugo issjanh-a)….” ….  
(だから 守って あげて いる じゃないか)  
“…, 밥도 매일 꼬박꼬박 잡아다 주고 있고(jab-ada jugo issgo)…”  
(ごはんも 毎日 きちんと 捕まえて あげて いるし) 《해바라기 218》
- (138) a. 「…。いつも**ぼくの後援**をしてくれています」 《砂 338》
- b. “…。 늘 후원해 주고 있어요 (hu-wonhae jugo iss-eo-yo).” 《모래 466》  
(いつも 後援をしてくれています)
- (139) a. 「ほんとに悪かった。謝るよ。おまえが俺のこと**認めて**くれて  
たから、余計言いたくなかった」 《ピクニック 298》
- b. … “정말로 잘못했다. 네가 나를 인정해 주고 있었기에 (injeonghae jugo  
iss-eossg-e) 더 말하고 싶지 않았어.” 《피크닉 316》  
(本当に 悪かった。おまえが 俺を 認めて くれて いた から、  
もっと 言いたくなかった)

3.5.1.2 「～てくれて／あげている」が「～어 주다 eo juda(～てくれる／あげる)」に  
対応する場合

- (140) a. 心配してくれてるのか、いやがっているのか、よくわからない。 《番長 41》
- b. 걱정을 해 주는 건지(geogjeong-eul hae Juneun geonji), 자기 생각을 하는 건지 알 수  
가 없다. (心配して くれるのか、 自分の 考えを するのか 分か  
らない) 《반장 38》
- (141) a. 「…。僕は続けているが、君はそうではない。それだけのことだ」  
「慰めてくれてるのか」 《聖女 331》
- b. “위로해 주는 거야(wilohae Juneun geo-ya)?”  
(慰めて くれるの) 《성녀 357》
- (142) a. 小さなことまでは憶えていないけど、敦子のことを昔から一番理解してくれ  
ているのは由紀ちゃんじゃないの。 《少女 210》
- b. …, 너를 어릴 때부터 가장 잘 이해해 주는 사람은 유키가 아니냐고 되물었다.  
ihaehae Juneun 《소녀 223》  
(あなたを 幼い時から 一番 理解して くれる 人は 由紀じゃないと 聞き返した)
- (143) a. 「親父とぼくは二十年に及ぶ冷戦状態ですが、お袋はぼくのことを信用して  
くれますからね」 《殺した少女 98》



- b. “아버지와 저는 20년 동안 냉전 상태지만 어머니는 저를 믿어주시거  
든요 (mid-eojusigeodeun-yo).” 《죽인소녀 111》  
 (親父と 僕は 20年間 冷戦状態ですが、お袋は僕を 信じてくれます から)

3.5.1.3 「～てくれて／あげている」が「～어 주었다 eo ju-eosdda (～てくれた／あげた)になる場合

- (144) a. …。眠った間に妻が毛布を掛けてくれている。 《砂 42》  
 b. …。 잠든 사이 아내가 모포를 덮어 주었다 (deop-eo ju-eosdda). 《모래 33》  
 (眠った 間に 妻が 毛布を 掛けて くれた)
- (145) a. 「あきら玩具のケースなど、元の持ち主の A さん夫妻に対してかなり厚遇し  
てあげていますし、…」 《理由 292》  
 b. “아키라완구 사례는 원래 주인 A 씨 부부를 상당히 후대해주었지요 (hu  
 daehaeju-eossji-yo).” 《이유 281》  
 (あきら玩具の ケースは 元の 持ち主 A さん 夫妻を かなり 厚遇して あげました)
- (146) a. 紫織には「ヨルの綱渡り」を読ませてあげてるかもしれない。 《少女 133》  
 b. …。 어쩐 사오리에게는 <요루의외줄타기>를 보여주었는지도 모르겠다.  
 bo-yeoju-eossneunjido 《소녀 144》  
 (ひょっと して 紫織には 「ヨルの綱渡り」を 見せて あげた かもしれない)
- (147) a. お母さんが、藻奈美の代わりに生きてくれているんだよ。 《秘密 388》  
 b. 지금까지 너 대신 엄마가 살아준 거란다 (sal-ajun geolanda). 《비밀 418》  
 (今まで おまへの 代わりに 母が 生きて くれた んだよ)

3.5.1.4 「～て{くれて／あげて}い{る／た}」が「～어 주곤했다 eo jugon haessda (～てくれたりした)」などになる場合

- (148) a. …、さっさと買ってあげていれば、渡辺に利用されることもなかったのです。  
 《告白 128》  
 b. …, 얼른 사주었더라면 와타나베에게 이용당할 일도 없었을 거예요.  
 saju-eosddeolamyeon 《고백 116》  
 (さっさと 買って あげたら 渡辺に 利用される ことも なかったのです)
- (149) a. それでも、と思う。もう半月ももってくれているならば、私はあの家に帰っていた。  
 《告白 166》  
 b. …。 보름만 더 버텨주었더라면, 나는 그 집에 돌아갔을 것이다.  
 beotyeoju-eosddeolamyeon 《고백 149》  
 (半月だけ もっと 堪えて くれたら、私は あの 家に 帰った のだろう)
- (150) a. 少し前までは「直くん、バイバイ」と声をかけてくれている子だ。 《告白 175》

- b. ‘시모무라, 잘 가.’ 하고 말을 걸어주었던 아이다.  
mal-eul geol-eoju-eossdeon 《고백 157》  
(「下村、バイバイ」 と 声をかけてくれた 子だ)
- (151) a. 「…この間なんかクラスの男の子たちが掃除の最中に騒いでいるのを注意してくれてたんですけど、…」 《秘密 155》  
b. “요전에는 청소하는 도중에 떠드는 남자애들을 혼내준 적 (honnaejun jeog) 이 있는데, ….” 《비밀 168》  
(この間は 掃除する 最中に 騒いでいる 男の子たちを 叱って くれた ことがあるが)
- (152) a. 『当たり屋』でぼくがお菓子を買ったたりクジを引いたりしている間、ガードレールにつながれたまま、おとなしく待ってくれていた。 《番長 166》  
b. …, 가드 레일에 묶인 채로 잘 참고 기다려 주곤 했다.  
gidalyeo jugon haessda 《반장 143》  
(ガードレールに つながれたまま よく 我慢して 待って くれたり したものだ)

### 3.5.1.5 「~てくれる/あげる」を訳さない場合

- (153) a. …, 昼食に出てくれていればいいが、… 《硝子 526》  
b. …, 점심 먹으러 나가 있다면 (naga issdamyeon) 다행이런만, 《유리 414》  
(昼食 食べに 出て いれば いい가)
- (154) a. 「あの子からの手紙です。私がメールとかをしないので、近況を知らせるために、たまに送ってくれていたんです」 《聖女 359》  
b. “딸아이가 보낸 편지예요. 난 메일 같은 건 할 줄 몰라서, 근황을 알리기 위해 딸아이가 가끔 편지를 보내곤 했죠 (bonaegon haessjyo).” 《성녀 387》  
(娘が 送った 手紙です。 私は メールとか できないから、 近況を 知らせる ために 娘が たまに 手紙を 送ったり しました)
- (155) a. …, 彼女も今西の人柄に好感をもってくれていたようだった。 《砂 463》  
b. …, 그녀는 이마니시의 인품에 호감을 가진 모양이었다 (hogam-eul gajin). 《모래 539》  
(彼女は 今西の 人柄に 好感を 持った ようだった)
- (156) a. 「せっかく読みた가ってくれてるのに、…」 《少女 27》  
b. …, “이렇게 읽고 싶어 하는 (ilggo sip-eo haneun) 사람이 있는데 ….” 《소녀 28》  
(こんなに 読みた가 人が いるのに)
- (157) a. 「…, こっちがせっかく親切にしてやってんのに、母の気持ちを勝手に想像するのはやめてください、なんて…」 《夜行 319》  
b. “…, 이쪽이 모처럼 친절하게 구는데 어머니 마음을 함부로 상상하지 말아달라니… chinjeolhage guneunde 《야행 320》  
(こっちが せっかく 親切に するの に 母の 気持ちを 勝手に 想像しないで ください、なんて)

(158) a. 「あ、さくらお姉さん、来てくれてたんだ」 … 《少女 142-143》

b. “아, 사쿠라 누나 왔구나(wassguna).” …  
 (あ、さくら 姉さん 来たんだ) 《少女 153》

### 3.5.1.6 3.5.1 節のまとめ

以上、3.5.1 節では、「~てくれて/あげている」が「~어 주고 있다 eo jugo issda」とどういう形で対応しているかについて、対訳小説を通した事実観察を行った。3.5.1.1 では、「~어 주고 있다 eo jugo issda (~てくれて/あげている)」に対応する場合、3.5.1.2 節は「~어 주다 eo juda (~てくれる/あげる)」に対応する場合、3.5.1.3 節は「~てくれて/あげていた」が「~어 주었다 eo ju-eosdda (~てくれた/あげた)になる場合、3.5.1.4 節では、「~어 주곤 했다 eo jugon haessda (~てくれたりした)」などになる場合があることが確認できた。これらの事実観察によって、日本語では「~てくれて/あげている」という一つの構文で表わしているところを韓国語においては、少なくとも四つのパターンで使い分けられていることが分かる。それでは、なぜ「~テイル」と「~아/고 있다 a/go issda」、「~てくれる(あげる)」と「~어 주다 eo juda」という個別の表現形式は各々存在していて、しかも類似した意味を表わしているのに、それらの表現形式が一つの形式として結合した際には、両言語において相違点が見られるのだろうか。

次節からは、上記の 3.5.1 節の事実観察の結果を踏まえて、このような対応関係になる原因を考え、「~てくれて/あげている」構文と「~어 주고 있다 eo jugo issda」構文の特性について見ていくことにする。

### 3.5.2 アスペクトの性質の違い

本節では、3.5.1 節の対応観察を踏まえた上で、「~てくれて/あげている」が「~어 주고 있다 eo jugo issda」と対応する場合の成立条件について考察する。その判断の重要な基準となる一つの原因としては「~ている」と「~고/아 있다 go/a issda」を含む両言語のアスペクトの性質の違いが挙げられる。

「~어 주고 있다 eo jugo issda」は「~어 주다 eo juda (てあげる/くれる)」に「~고 있다 go issda (ている)」がついた形になっている。ということは「주고 있다 jugo issda (あげて/くれている)」が前述の「(57)、p. 80」のどちらの部分を表わす動詞なのか重要なポイントになる。

(159) ‘~고 있다’ :       -----I-----F-----  
           ~go issda                ////////   ////////   //////// : 三つの中で一つを選択  
   A            B            C       (オク テゴン 1988、=(57))

「주고 있다 jugo issda (あげて／くれている)」は一般に B の部分を表わしているのに対し、「くれて／あげている」は先行する動詞の種類によって B の部分だけではなく、C の部分の意味も表わせるということが大きな違いになるのである。このようなことを、念頭において、先行する動詞の種類がどのような影響を及ぼしているかを考えていく。

### 3.5.2.1 動詞の「現在単純形」と「動作継続」

3.4.2.1 節で述べたように、韓国語の動詞の「現在単純形」は「動作の継続」を表わすことができる。それゆえ、3.5.1.2 節のような「～てくれて／あげている」が「～어 주다 eo juda(てくれる／あげる)」に対応する場合が生じるのである。

- (160) a. 心配してくれてるのか、いやがっているのか、よくわからない。 《番長 41》  
 b. 걱정을 해 주는 건지, 자기 생각을 하는 건지 알 수가 없다.  
 geogjeong-eul hae juneun geonji(心配してくれるのか) 《반장 38》 (= (140))  
 (心配をしてくれるのか、自分のことを考えるかわからない)
- (161) a. 「…」 「慰めてくれてるのか」… 《聖女 331》  
 b. “…” “위로해 주는 거야?”  
 wilohae juneun geo-ya 《성녀 357》 (= (141))  
 (慰めてくれるのか)

(160)の文は「心配してくれる」に「ている」が付いた形で、(161)の文は、「慰めてくれる」に「ている」が付いている。この状況は、目の前で起こっている現象であるため、次の(162)のように、韓国語の(160b)と(161b)の各文に「～고/아 있다 go/a issda」を付けて表すこともできる。

- (162) a. 걱정을 해 주고 있는 건지, …  
 geogjeong-eul hae jugo issneun geonji  
 (心配して くれて いる のか)  
 b. 위로해 주고 있는 거야?  
 wilohae jugo issneun geo-ya  
 (慰めて くれて いる のか)

一般に、「動作」を表わす動詞には、「～주고 있다 jugo issda」を用いることができる。ただし、「～주고 있다 jugo issda」が付いた形はそれが付いていない形に比べて、形態的に長くなり、意味的にもくどい感じがするので、普通の場合は動詞の「現在単純形」を用いることが多いと考えられる。「～주고 있다 jugo issda」が用いられる場合は、次のように、目の前の現象を説明する場合など、進行中の意味をはっきり示したいという場面では

く使われる。

- (163) a. …、レジから窓際のカウンターに運んでやっている。 《夜行 64》  
b. … 계산대에서 유리창 옆 카운터로  옮겨주고 있다.  
olmgyeojugo issda 《야행 66》 (= (135))  
(レジで 窓の 横の カウンターへ 運んで やっている)
- (164) a. 「だから、守ってあげてるじゃないか！」……  
「…。ごはんだって毎日きちんと捕まえてあげてるし」 《向日葵 288》  
b. “그래서  지켜주고 있잖아 (jikyeojugo issjanh-a) ! ….  
(だから、守ってあげて いる じゃないか)  
“…, 밥도 매일 꼬박꼬박  잡아다 주고 있고…….”  
jab-ada jugo issgo 《해마라기 218》 (= (137))  
(ご飯も 毎日 きちんと 捕まえて あげて いるし)

(163)はガラス越しに見えている「目の前の現象」を描写する場面で、(164)は「今も守ってあげている」ことと「捕まえてあげている」ことを強調している場面である。いずれも、動詞の「現在単純形」で表わせないことはないのだが、やはりこれらの場面では、動作の「進行(継続)」を強調する「~주고 있다 jugo issda」形がより自然に感じられる。

### 3.5.2.2 「~어 주고 있다 eo jugo issda(~てくれて/あげている)」と「結果継続」

次は「~어 주고 있다 eo jugo issda」と「結果継続」の関係である。次の例を見られたい。

[継続動詞の結果動詞<sup>86</sup>]

- (165) a. おや、こんなところに木の実が落ちてくれているぞ。  
b. 皆様から贈ったソนมルを着てくれているかもしれませんね！！  
<http://wooworld.web.fc2.com/Wooworld/20130430.html>  
c. あ、さくらお姉さん、来てくれてたんだ。… 《少女 142-143》 (= (158))

86 [継続動詞の結果動詞]と[瞬間動詞の結果動詞]という用語は、吉川(1976)から引用したものである。吉川(1976)は「継続動詞」「瞬間動詞」という既存の動詞分類とは違う「結果動詞」というカテゴリー認めている藤井(1966)の分類を紹介している。ここで言う「結果動詞」とは「あとにある結果をもたらすような動作・作用を表わす動詞」のことである。藤井(1966)が述べた「動作・作用を表わす動詞は継続動詞、瞬間動詞、そのどちらとも決めがたいもの、に分かれ、前二者にはそれぞれ結果動詞とそうでない動詞とがある」という主張を引用し、その例を次のように示している(吉川 1976: 170)。

継続動詞の非結果動詞：読む、書く、働く、歌う、聞く

継続動詞の結果動詞：(花が)散る、落ちる、着る、乗る、来る、行く

瞬間動詞の非結果動詞：一瞥する、遭遇する、知り合う、(上程を)見送る、目撃する、  
(表へ)飛び出す、(事件が)起きる

瞬間動詞の結果動詞：結婚する、終る、(なくしたものが)見つかる、始まる、出発する、  
到着する、(病気が)直る、(雨が)止む、知る、しゃがむ

- d. プレオはお義母さんが大事に乗ってくれているよ、この間車検も通したばかりだし。 [http://www.geocities.jp/tomo\\_amu\\_tw/letter.htm](http://www.geocities.jp/tomo_amu_tw/letter.htm)
- (166) a. \*어, 이런 곳에 나무열매가 떨어져 주고 있네?  
eo, ileon gos-e namu-yeolmaega tteol-eojyeo jugo issne  
(おや, こんな所に 木の実が 落ちて くれて いるぞ)
- b. \*모든 분들이 보낸 선물을 입어 주고 있을지도 몰라.  
modeun bundeul-i bonaen seonmul-eul ib-eo jugo iss-euljido molla  
(皆様が 送った プレゼント를 着て くれて いる かもしれない)
- c. \*아, 사쿠라 누나, 와 주고 있었구나.  
aa, sakulaga nuna wa jugo iss-eossguna  
(昴, さくら 姉さん 来て くれて いた んだ)
- d. \*프레오는 장모님이 잘 타 주고 있어. ...  
peule-oneun jangmonim-i jal ta jugo iss-eo  
(プレオは お義母さんが よく 乗って くれて いるよ)

[瞬間動詞の結果動詞]

- (167) a. 貴方みたいな人と結婚してくれている奥様は素晴らしい方ですね。  
<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1114/554110.htm?o=0&p=6>
- b. あれから何日か経ちますが、無事見つかつて くれて いることを祈ります。  
<http://valvane.blog17.fc2.com/blog-entry-661.html>
- c. でももっと早くに出発してくれている仲間もいることだし遅刻はいかんよね。  
[http://bz-hyogo.sub.jp/rep/rep\\_usi.html](http://bz-hyogo.sub.jp/rep/rep_usi.html)
- d. 大抵予約したタクシーというのは予定時間の少し前に到着してくれているという認識は甘かったか。 <http://junichiroabekawa.blogspot.jp/2012/05/1.html>
- e. とりさん、こんにちは。不具合が起こるまで全く触ることがないのに、実は良い仕事してますよ的なパーツは結構ありますね。ホント、直っ てることを願います。
- (168) a. \*당신 같은 사람과 결혼해 주고 있는 부인은 대단한 분이십니다.  
dangsin gat-eun salamgwa gyeolhonhae jugo issneun bu-in-eun daedanhan bun-isibnida  
(貴方 みたいな 人と 結婚して くれて いる 奥様は 素晴らしい 方ですね)
- b. \*그로부터 며칠이 지났는데, 무사히 발견되어 주고 있기를 기도합니다.  
geulobuteo myeochil-i jinassneunde, musahi balgyeondoe-eo jugo issgileul gidohabnida  
(あれから 何日が 経ちましたが 無事に 見つかつて くれて いる ことを 祈ります)
- c. \*하지만 이미 출발해 주고 있는 친구들이 있으니까 지각은 안돼.  
hajiman imi chulbalhae jugo issneun chingudeul-i iss-eunikka jigag-eun andwae  
(でも もう 出発して くれて いる 仲間も いるから 遅刻は だめだよ)
- d. \*보통 택시를 예약하면, 예정시각 전에 도착해 주고 있을

것이라는 생각이 잘못이었다. dochaghae jugo iss-eul  
 (普通 タクシーを 予約すると、予定時間の 前に 到着して くれて いる  
 という 考えが 間違い だった)

e. \*빨리 나아 주고 있기를 (ppalli na-a jugo issgileul gidohabnida) 기도합니다.  
 (早く 直って くれて いる ことを 祈ります)

(165)および(166)は[継続動詞の結果動詞]と結合した「~てくれる/あげる」と「~어 주다 eo juda」に「~ている」と「고 있다 go issda」が付いた形であり、(167)~(168)は[瞬間動詞の結果動詞]と結合した「てくれる/あげる」と「~어 주다 eo juda」に「~ている」と「~고 있다 go issda」が付いた形であるが、韓国語では両方とも非文になっている。このことから、「~어 주다 eo juda(てくれる/あげる)」は「~어 주고 있다 eo jugo issda(てくれて/あげている)」の形になった際に、「結果継続」を表わすことができないということがわかる。前述した次の(169)を見られたい。

(169) ‘~고 있다’ : -----I-----F-----  
 ~go issda // // // // : 三つの中で一つを選択  
 A B C (= (57)、(59a)、(159))

「~고 있다 go issda」は(169)の A、B、C の内の一つの相的意味を表わすことができるが、前述のように((159)、p. 109)、「~어 주고 있다 eo jugo issda」は三つの相的意味の内、Bの「動作継続」だけを表わす。上記の(165)と(167)の文をそれぞれ(166)、(168)の韓国語の文にすると非文になってしまうので、「~어 주고 있다 eo jugo issda」は「結果継続」を表わすことができないということがわかる。

### 3.5.2.3 持続、維持、静止動作

次は、「~어 주고 있다 eo jugo issda」と「持続」(「維持」「静止動作」)の関係である。この類には、3.5.2.2節の(165)の文に用いられている[継続動詞の結果動詞]類が属する。

- (170) a. おや、 こんなところに木の実が落ちて くれて いるぞ。 (= (165a))  
 b. 皆様から贈ったソナムルを 着て くれて いる かもしれませんね！！  
<http://wooworld.web.fc2.com/Wooworld/20130430.html>  
 c. あ、さくらお姉さん、 来て くれて たんだ。 …  
 おい、昴、さくらがケーキ買ってきて くれて るぞ。《少女 142-143》 (= (158))  
 d. プレオはお義母さんが大事に 乗って くれて いるよ、この間車検も通したばかりだし。  
[http://www.geocities.jp/tomo\\_amu\\_tw/letter.htm](http://www.geocities.jp/tomo_amu_tw/letter.htm) (= (165))
- (171) a. \*어, 이런 곳에 나무열매가 떨어져 주고 있네?

- eo, ileon gos-e namu-yeolmaega tteol-eojyeo jugo issne  
 (おや、こんな所に 木の実が 落ちて くれて いるぞ)
- b. \*모든 분들이 보낸 선물을 입어 주고 있을지도 몰라.  
 modeun bundeul-i bonaen seonmul-eul ib-eo jugo iss-euljido molla  
 (皆様が 送った ソンムルを 来て くれて いる かもしれない)
- c. \*아, 사쿠라 누나, 와 주고 있었구나.  
 aa, sakulaga nuna wa jugo iss-eossguna  
 (昴、 さくら 姉さん 来て くれて いた んだ)
- d. \*프레오는 장모님이 잘 타 주고 있어. … (= (166))  
 peule-oneun jangmonim-i jal ta jugo iss-eo  
 (プレオは お義母さんが よく 乗って くれて いるよ)

(171a)～(171d)の文は(170a)～(170d)の日本語の意味とは対応できない<sup>87</sup>。興味深いことに、この動詞類は、3.4 節(「～ていてくれる／あげる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」)のところで議論したように、「～ていてくれる／あげる(～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda)」とは対応関係を見せている。それは、「～고/아 있다 go/a issda」が動詞の相的意味によって使い分けられているという、韓国語ならではの特徴からくるものであると考えられる<sup>88</sup>。

### 3.5.2.4 「単純状態」動詞と「心理状態」動詞

本節は、「単純状態」を表わす動詞と「心理状態」の動詞が「～てくれて／あげている」と「～어 주다 eo juda」と結合する際の日本語と韓国語の対応関係について述べる。

- (172) a. \*道が曲がってくれていたおかげで助かった。  
 b. \*富士山がいつもそこに聳えてくれている。 (山田 1997: 134)
- (173) a. どこかでまだわたしを期待してくれているという喜びで…  
 b. 正子は自分に好感を持ってくれている。 (ibid: 134-136)

山田(1997: 134)は「テイル」が「単純状態」を表わす場合と「心理的な状態」を表わす場合を「テイルの状態用法」として、それぞれ(172)および(173)の文を挙げている。彼によると、「テイル」が「単純状態」を表わす場合の「道が曲がっている」や「山が聳えている」という状態は、「道が曲がる」と「山が聳える」という形式と対立せず、常にテイル

<sup>87</sup> ただし、「落ちてくれている」「着てくれている」「来てくれている」「乗ってくれている」の意味が「目の前の現象」の意味を表わす場合には「動作継続」として使われることができる。さらに、「ある期間中の繰り返しの動作」である場合も、「落ちてくれている」「着てくれている」「来てくれている」「乗ってくれている」が「反復」として解釈されることが出来る。

<sup>88</sup> 詳しくは、本論文の3.3節を参照のこと。



形で現れるが、この場合は述語とテイルは不可分であるので(曲がっている、聳えている、ばかげているなど)、その間に「くれる／あげる」などを入れた形である「～てくれて／あげている」にはならない。しかし、(173)のような心理的な状態を表わす場合は、むしろテイルの「継続用法」に近いとし、「～てくれて／あげている」も許容できると述べている。それでは、(172)および(173)を韓国語にするとどうなるであろうか。

(174) a. \*길이 굽어 주고 있어서 살았다.

gil-i gub-eo jugo iss-eoseo sal-assda

(道が 曲がってくれていて 助かった)

b. \*후지산은 항상 거기에 솟아 주고 있다.

hujisan-eun hangsang geogi-e sos-a jugo issda

(富士山は いつも そこに 聳えて けている)

(175) a. \*어디선가 아직도 나를 기대해 주고 있다는 기쁨에…

eodiseonga ajigdo naleul gidaehae jugo issdaneun gippeum-e

(どこかで まだ 私を 期待して けている という 喜びで)

b. \*마사코는 자신에게 호감을 가져 주고 있다.

masakoneun jasin-ege hogam-eul gajyeo jugo issda

(正子は 自分に 好感を 持 けて

(174)および(175)から、韓国語における「状態用法(単純状態と心理的な状態を表わす)」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」は結合しにくいということが見て取れる<sup>89</sup>。それは、前節の「結果継続」と「持続、維持、静止動作」の場合と同様に「～어 주고 있다 eo jugo issda」が状態を表わす機能を持たないからであると言える。

### 3.5.2.5 3.5.2節のまとめ

3.5.2節では、「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」の対応関係を先行動詞のアスペクト性の違いを用いて調べている。その結果を表にまとめると次のようになる。

<sup>89</sup> (175)の例は不適切であるが、「기뻐하다 gippeohada(喜ぶ)」「슬퍼하다 seulpeohada(悲しむ)」などの動詞は、普通、心理状態動詞と言われているけれども、「～고 있다 go issda(テイル)」と共起できるので、実際は動作継続動詞である可能性も考えられる。その証拠として、韓国語で「今喜ぶ」は言えない。

i) 임재범의 아내가 암투병을 하고 있기 때문에 CF로 빨리 그의 아내가 완치되길 바라는 바람도 많고, 진정 자기 일처럼 기뻐해 주고 있다.

(喜んで けている)

<http://kafuri.tistory.com/890>

ii) 요즘 텔런트분의 자살문제로 많은 이들이 관심을 가지고 또 같이 슬퍼해 주고 있다.

(悲しんで けている)

<http://blog.daum.net/lianhaima/7156148>

	日本語	韓国語
	～てくれて／あげている	～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda
継続	✓	✓
結果残存	✓	✕
持続	✓	✕
単純状態	✕	✕
心理状態	✓	✕

表3 「～てくれて／あげている」と「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」の対応関係

日本語は「単純状態」を除いては、全体的に「～てくれて／あげている」が成立する。一方、韓国語は、「心理状態」を「継続用法」の一種として見なせるのであれば、「～어 주고 있다 eo jugo issda」は「継続用法」と結合しやすい傾向を見せている。日本語の「～ていてくれる(やる)」は先行動詞の相特性によって、前段階を表わしたり、中間段階を表わしたり、結果状態を表わしたりするが、韓国語の「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」では活動達成しか生じないので、中間段階のみ表わすということになるわけである。

### 3.5.3 授受動詞の性質による違い

二つ目の理由として、日本語と韓国語における「授受動詞」の性質による違いに関して述べることにする。

一般に「授受表現」は「恩恵」と「利益」とに関わっているが、次のように、典型的な授受表現には含まれず、一見特殊な用法として扱われてきた、いわゆる非恩恵的なテヤルやテクレルの用法がある(山田 1997: 138)。

- (176) a. 僕は、ボロージャよりも、もっと高く登ってやるぞ。  
 b. 彼は伯父には洩らさぬ不平を(妻に)言ってやった。  
 c. とんだことをしてくれたなあ。

山田(1997)によると、(176a)のような「意志を表わす用法(豊田 1974: 85ff)」や(176b)の「動作の方向性を表わす用法(同: 89ff)」のテヤル、(176c)のような「方向性を強調した表現」などは、継続や心理状態のテイルとの複合形を考えた場合、A型(～てやって／かけている)は取らない<sup>90</sup>。

- (177) a. \*いつまでも呪ってやっているぞ。  
 b. ??失敗した花子を、冷たく見てやっていた。

<sup>90</sup> 「意志を表す用法」や「動作の方向性を表す用法」「方向性を強調した用法」などは「恩恵的でない授受表現」という意味で「非恩恵的な授受表現」と呼ばれている(山田 2004を参照)。この「非恩恵的な授受表現」に関する日・韓両言語の比較は第4章で詳しく取り扱うことにする。

c. ??よくもそんな真似をしてくれてたなあ。

(ibid: 138)

これについて山田(1997)は、このような「意志表明」「方向性表示」などの用法を持つベネファクティブは、仁田(1989、1991)の述べる「発話・伝達のモダリティ」を持つものとして解釈され、このような意志・機能的な制限により、文末に近い位置にベネファクティブが置かれるB型(～ていてやる／くれる)を取るのであろうと述べている。

一方韓国語の「～어 주다 eo juda」は、普通、(176a)、(176b)、(176c)のような「意志表明」「方向性表示」の機能を(日本語よりは)持たないと言われている。

(178) a. 나는, 보로자보다 더 높이 올라가 주마.

naneun, boroja boda deo nop-i ollaga juma

(僕は、ボロージャよりも、もっと高く登ってやるぞ)

b. ?그는 삼촌에게는 못하는 불평을 (아내에게) 말해 주었다.

geuneun samchon-egeneun moshaneun bulpyeong-eul (anae-ege) malhae ju-eosdda

(彼は 伯父には 洩らせぬ 不平を (妻に) 言ってやった)

c. \*엄청난 짓을 해 주었구나(eomcheongnan jis-eul hae ju-eossguna).

(とんだことをしてくれたなあ)

当然、次のような「～어 주고 있다 eo jugo issda」形にすることもできない。

(179) a. \*언제까지라도 저주해 주고 있으마.

eonjekkajilado jeojuhae jugo iss-euma

(いつまでも 呪って やっているぞ)

b. \*실패한 하나코를, 차갑게 봐 주고 있었다.

silpaehan hanakoleul, chagabge bwa jugo iss-eosdda

(失敗した花子を 冷たく見て やっていた)

c. \*그런 짓을 잘도 해 주고 있구나.

geuleon jis-eul jaldo hae jugo issguna

(そんな真似をよくもしてくれているなあ)

「～어 주다 eo juda」は「方向性表示」などの用法を持たないゆえに、次のような「～てくれる／あげる」を省略した例文が多く見られるのである。

(180) a. 「せっかく岸やんが話してくれてるのに、…」

《聖女 36》

b. “선배가 설명하고 있는데 (seolmyeonghago issneunde) …?”

(先輩が 説明している のに)

《성녀 387》

(181) a. 「こっちがせっかく親切にしてやってんのに、…」

《夜行 319》

- b. “이쪽이 모처럼 친절하게 구는데 어머니 마음을 함부로 상상하지 말아 달라니, 뭐야? chinjeolhage guneunde 《야행 320》 (= (157))  
 (こっちが せっかく 親切にするのに 母の 気持ちを勝手に 想像しないで くれて、なんだ?)
- (182) a. …、彼女も今西の人柄に好感をもってくれているようだった。 《砂 463》  
 b. …, 그녀는 이마니시의 인품에 호감을 가진 모양이었다.  
 hogam-eul gajin 《모래 539》 (= (155))  
 (彼女は 今西の 人柄に 好感を持った ようだった)
- (183) a. 「あ、さくらお姉さん、来てくれてたんだ」…  
 「おい、昴、さくらがケーキ買ってきてくれてるぞ」 《少女 142-143》  
 b. … “아, 사쿠라 누나 왔구나(wassguna).” …  
 (あ、さくら 姉さん 来たんだ) 《少女 153》 (= (158))
- (184) a. … 昼食に出てくれていれ**ば**いいが、 《硝子 526》  
 b. … 점심 먹으러 나가 있다면 다행이**런**만, …  
 naga issdamyeon 《유리 414》 (= (153))  
 (昼食 食べるに 出て **い**れば **い**いが)

(180)~(184)の韓国語の文は「~어 주다 eo juda」が「方向性表示」などの用法を持たないことを示している<sup>91</sup>。

### 3.5.4 「~어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件

本節では、以上のようなことを踏まえて、「~어 주고 있다 eo jugo issda」はどのような条件下で成立するのかについて見ていくことにする。

<sup>91</sup> しかし、(178a)の「意志表明」や(178b)の「方向性表示」の用法はもう少し検討すべきところがあると考えられる。勿論、すべての日本語のケースに対応しているわけではないが、「~어 주다 eo juda」にも強調という機能を有しているものがあるので、一概に「存在しない」とは言い切れない。次のような例が見られるということは韓国語における真の「授受表現」と「意志表明」や「方向性表示」用法などとの境界線が不明確であることを示してくれる。

- i) a. そんなにあたしが邪魔なら死んでやる! (理由 599)  
 b. 그렇게 꼴 보기가 싫으면 내가 죽어 주마! (이유 583)  
 geuleohge kkol bogiga silh-eumyeon naega jug-eo juma  
 (そんなに 顔も 見たく なければ 俺が 死んでやる)

一つ付け加えると、(182)~(184)の文に用いられている「持つ」「出る」「来る」に「~어 주다 eo juda」をつけると、原文とは違う意味になってしまう。その半面、(180)および(181)の文は「話す(말하다)」と「親切にする친절하게 (대)하다」といった「継続」の意味を表わすので「~어 주다 eo juda」をつけてもそれほど違和感を感じることはないであろう。ここで問題になるのは、どこまで「授受表現」として見なし、どこまでを「方向性表示」として認めるかという「境界線の曖昧さ」である。これについては、第4章で議論する。

### 3.5.4.1 目の前の現象

本節では、「~어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件の一つである「目の前の現象」について説明する。まず、ここでの「目の前の現象」とは、澤田(2005)が述べている「現象」とは少し異なっている。澤田(2005)の「現象」というのは例えば次のようなことを指す。

- (185) a. 헬퍼가父親의面倒을見て주고 있다。  
 b. 花子がそばで微笑んで주고 있다。  
 c. 胡蝶蘭が長い間咲いて주고 있다。  
 d. おや、こんなところに木の実が落ちて주고 있다。  
 e. あなたの助手席には誰が座って주고 있습니까?  
<http://ameblo.jp/5revived/entry-11491965438.html>  
 f. 産後で義母が手伝いにきて주고 있다。  
[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1390518273](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1390518273)
- } (澤田 2005)

澤田(2005)が日本語に対して「現象」と呼んでいるのは、(185a)～(185d)の文である。(185a)と(185b)は「見る」「微笑む」という動作の継続を表わしている場合で、(185c)～(185f)の文は「咲いてくれた」「落ちてくれた」「座ってくれた」「来てくれた」状態が続いている意味を表わしている場合である。このように、日本語は「動作の継続」も「状態の継続」も「テイル」を用いて表わすことができる。一方、本章における韓国語の「~어 주고 있다 eo jugo issda」が示しているのは、「動作の継続」だけであって、「状態の継続」を表わすことはできない。それゆえ、(185)の日本語文に対応する(186)の韓国語文では文法性の相違が生じるのである。

- (186) a. 도우미가 아버지를 보살피 주고 있다.  
 do-umiga abeojileul bosalpyeo jugo issda  
 (ヘルパーが 父親の 世話を して くれて いる)  
 b. 하나코가 곁에서 웃어 주고 있다.  
 hanakoga gyeot-eseo us-eo jugo issda  
 (花子が そばで 微笑んで くれて いる)  
 c. ?석란이 오랫동안 피어 주고 있다.  
 seoglan-i olaesdong-an pi-eo jugo issda  
 (胡蝶蘭が 長い間 咲いて くれて いる)  
 d. ??어, 이런 곳에 열매가 떨어져 주고 있네.  
 eo, ileon gos-e yeolmaega tteol-eojyeo jugo issne  
 (おや こんな 所に 木の実が 落ちて くれて いるぞ)  
 e. ??당신의 조수석에는 누가 앉아 주고 있습니까?

dangsin-ui josuseog-eneun nuga anj-a jugo iss-seubnikka

(あなたの 助手席には 誰が 座って くれて いますか)

f. \*출산 후라 장모님이 도와주러 와 주고 있습니다.

chulsan hula jangmonim-i do-wajuleo wa jugo iss-seubnida

(出産 後だから 義母가 手伝いに きて くれて います)

仮に、(185a)～(185f)の各文の場면을、写真にしたとする。その写真を見ながら、その状況の説明をする場면을連想してくれるといい。その際に、韓国語で言えるのは、(185a)と(185b)の文だけである。このように、澤田(2005)の「現象」というのは、日本語では(185a)～(185f)のように「動作の継続」と「状態の継続」の両方の場面に当てはまる。それに対して、本章で提案している韓国語における「現象」というのは、(186a)～(186b)の「目の前で展開する現象」つまり、「動作の継続」の場面だけにしか当てはまらないという点で日本語と異なっている。

#### 3.5.4.2 繰り返しの動作 [習慣]

本節では、「～어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件の一つである「繰り返しの動作 [習慣]」について見ていく。便宜上、上記の(186)の例をもう一度取り上げる。

(187) a. 도우미가 아버지를 보살피 주고 있다.

do-umiga abeojileul bosalpyeo jugo issda

(ヘルパー가 父親의 世話を して くれて いる)

b. 하나코가 곁에서 웃어 주고 있다.

hanakoga gyeot-eseo us-eo jugo issda

(花子가 そばで 微笑んで くれて いる)

c. ?석란이 오랫동안 피어 주고 있다.

seoglan-i olaesdong-an pi-eo jugo issda

(胡蝶蘭가 長い間 咲いて くれて いる)

d. ?어, 이런 곳에 열매가 떨어져 주고 있네.

eo, ileon gos-e yeolmaega tteol-eojyeo jugo issne

(오야 こん나 所に 木の実가 落ちて くれて いるぞ)

e. ?당신의 조수석에는 누가 앉아 주고 있습니까?

dangsin-ui josuseog-eneun nuga anj-a jugo iss-seubnikka

(あなたの 助手席には 誰가 座って くれて いますか)

f. ?출산 후라 장모님이 도와주러 와 주고 있습니다.

chulsan hula jangmonim-i do-wajuleo wa jugo iss-seubnida

(出産 後だから 義母가 手伝いに きて くれて います)

(= (186))

(187c)～(187f)の各文が言えるのは、次のように、各文における「動詞句」の意味が「動作の反復」や「繰り返し」を表わす場面だけになる。

- (188) a. 여러가지 꽃들이 피어 주고 있다.  
 yeoleogaji kkochdeul-i pi-eo jugo issda  
 (いろんな 花が 咲いて くれて いる)
- b. 내 옆에는 항상 하나코가 앉아 주고 있다.  
 nae yeop-eneun hangsang hanakoga anj-a jugo issda  
 (私の 隣には いつも 花子が 座って くれて いる)
- c. 요사이 손님들이 많이 와 주고 있다.  
 yosa-i sonnimdeul-i manh-i wa jugo iss  
 (この頃 お客さんが 大勢 来て くれて いる)

(188a)～(188c)の文に用いられた主動詞は、「咲く」「座る」「来る」で、一定期間中に複数の反復〔繰り返し〕している動作を表わしている。普通、これらの動詞に「～아/고 있다 a/go issda(テイル)」が付くと、「持続」の意味を表わし、(187c)～(187f)の各文のように、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文が成立しにくいのであるが、(188a)～(188d)のように、「いろんな花」「いつも」「この頃」などの表現と共に用いられた反復の動作は一種の動作の継続として見なすことができるので、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文は成立可能になるのである。

### 3.5.5 3.5節のまとめ

3.5節では、「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」の対応関係を比較した。3.5.1節では、日・韓の対訳小説(原文は日本語)を通して、「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」とがどのように対応しているかを確認した。日本語は「～てくれて/あげている」一つの構文が用いられているところを、韓国語は「～어 주고 있다 eo jugo issda(～てくれて/あげている)」に直接対応する場合(3.5.1.1節)と、「～어 주다 eo juda(てくれる/あげる)」に対応する場合(3.5.1.2節)、「～てくれて/あげていた」が「～어 주었다 eo ju-eosda(～てくれた/あげた)」になる場合(3.5.1.3節)、「～てくれて(あげて)いる/た」が「～어 주곤했다 eo jugonhaessda(～てくれたりした)」などになる場合(3.5.1.4節)、最後に3.5.1.5節では、「～てくれる(あげる)」を訳さない場合があったことが確認できた。

これらの事実関係を踏まえて、このようなバリエーションが生じる背景を明らかにするために、両言語のアスペクト性の違い(3.5.2節)と「授受動詞」の違い(3.5.3節)について考察した。まず、アスペクト性による違いに関しては次の表を参考にされたい。

	日本語	韓国語
	～てくれて／あげている	～어/아 주고 있다(eo/a jugo issda)
継続	✓	✓
結果残存	✓	✗
持続	✓	✗
単純状態	✗	✗
心理状態	✓	✗

表4 「～てくれて／あげている」と「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」の対応関係

表4のように、「～てくれて／あげている」は「単純状態」を表わす場合を除けば自由に成立する反面、「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」は「動作継続」を表わす場合だけが成立できる(「心理状態」をある種の「継続」と見なして「✓」をつける場合もある)。

二番目の背景として、「授受動詞」の違いについて述べた(3.5.3節)。日本語の「授受動詞」には「意志を表わす用法(豊田 1974: 85ff)」や「動作の方向性を表わす用法(同: 89ff)」のテヤル、「方向性を強調した表現(山田 1997:138)」などが存在するが、韓国語の「授受動詞」である「～어 주다 eo juda」にはそのような用法が発達していないと言われている。それゆえ、元の文自体が作れないのである。

最後に、「～어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件について考察した。「～어 주고 있다 eo jugo issda」が成立する環境には、まず「目の前の現象」の条件が必要である。しかし、澤田(2005)が述べた「現象」とは異なる性質のものである。澤田(2005)の「現象」は今現在目の前に見えている場面を指しており、それが動作中であるか(「微笑んでくれている」「面倒を見てくれている」など)、結果の状態を表わしている(「落ちてくれている」「咲いてくれている」)かとは関係なく成立する。一方、韓国語の場合の「目の前の現象」というのは、何らかの動作そのものの継続だけにしか当てはまらない。「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などは動作が続いているのではなく、動作の結果が継続している意味なので、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文は成立しにくいのである。ただし、「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などの動詞句が「反復[繰り返し]」や「習慣」として用いられると、ある期間中に動作そのものが繰り返して[反復して]生じて継続している意味になるので、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文を作ることができるのである。

### 3.6 おわりに

本章では日本語と韓国語のアスペクトマーカの一つである「～ている」と「～고/아 있다 go/a issda」に「やる(あげる)／くれる」と「주다 juda」がついた形である「～ていてやる(あげる)／くれる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の対応関係(対応関係



[I] と呼ぶ) と補助動詞の「~てやる (あげる) /くれる」と「~어 주다 eo juda」に「~ている」と「~고 있다 go issda」がついた形である「~てやって (あげて) /~ている」と「~어 주고 있다 eo jugo issda」の対応関係 (対応関係 [II]) について考察した。最初に、対応関係 [I] についての事実観察の結果は次の表のようである。

言語 テイル表現の相特性	日本語	韓国語
	~ていてくれる/やる	「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」
継続(走っているなど)	✓	✗
結果残存(解いているなど)	?	✗
持続(座っているなど)	✓	✓
単純状態(聳えているなど) <sup>92</sup>	✓	?
心理状態(期待しているなど)	✓	✗

表5 「~ていてくれる/やる」と「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の比較

日本語は「~ている」がついて「結果残存」を表わす動詞を除いては「~てやる/くれる」との結合が成立しているのに対し、韓国語は「~고/아 있다 go/a issda」がついて「持続」や「単純状態」の意味を表わす動詞類のみが「~어 주다 eo juda」との結合が可能であった。本章では、その原因を、日・韓の「アスペクト性の違い」と「授受動詞の違い」から求めている。普段は同じ機能を持っている両言語の「授受動詞」が何らかの原因によって一方は成立し、もう一方はその表現に欠けているということは興味深い現象である。

「アスペクト性の違い」の観点から見てみると、韓国語の動詞の「現在単純形」が「動作継続」を表わすことができるという特性から日・韓の違いが引き起こされるのである。

「~고 있다 go issda」がついて「動作継続」を表わす動詞の場合、「~고 있다 go issda」の他に動詞の「現在単純形」で「動作継続」を表わすことができるのであるが、それが日・韓両言語のアスペクト性における大きな違いになるわけである。ただし、3.4.3 節で指摘したように、「~고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文の特性から来る制限で「~고 있어 주다 go iss-eo juda」構文を構成することはできず、「現在単純形」である「~어 주다 eo juda」が用いられている。一方、もう一つのアスペクト形式である「~아 있다 a issda」が付いて結果継続 (持続) を表わす動詞類は、「現在単純形」では「結果継続 (持続)」を表わすことができない。つまり、「~아 있다 a issda」を用いて表現するしか方法がないのである。その結果「~아 있다 a issda」に「주다 juda」を付けて「~아 있어 주다 a iss-eo juda (～ていてやる/くれる)」を使うことが許されるのである。

次は、二つ目の原因である「授受動詞」の性質による制限である。「動作継続」を表わ

<sup>92</sup> 「くれる」の代わりに「やる」がくるとおかしくなるのだが、それは、「やる」は普通人主語を必要とすることによるものと考えられる。韓国語も「やる」の意味の「주다 juda」になると非文になる。

す「～ている」・「～아 있다 a issda」に「～てあげる／くれる」・「～어 주다 eo juda」が付く際に、日本語では「動作が完了しているかどうか」ということはあまり問題にならない。一方、韓国語の場合は「動作が完了しているかどうか(主動詞が「作成・入手動詞」の場合は作成された対象物が「ニ格・에게 ege 格」に移動しているかどうか)」ということが「～어 주다 eo juda」構文を作る際に重要な要素として作用する。言い換えると、明確な「動作継続」を表わす「～고 있다 go issda」と「～어 주다 eo juda」は結合しにくいということである。「～고 있다 go issda」がついて「動作継続」を表わす動詞の場合、その動作が完了していない(継続している)。つまり、「～어 주다 eo juda」構文を作る際の必要条件である「動作の完了(静止動作・持続)」が満たされていないゆえ、「～고 있어 주다 go iss-eo juda」構文を作ることができないのである。一方、「結果持続」を表わす「～아 있다 a issda」に「～어 주다 eo juda」が付く際には、動作は完了している(静止動作)ので、「～아 있어 주다 a iss-eo juda」構文を作ることが可能になるわけである。

次は、対応関係 [II] である。まず、日本語と韓国語の対応関係を以下のように示すことができる。

言語 「くれる(やる)」に 前接する動詞の相特性	日本語	韓国語
	～てくれて／やっている	～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda
活動・達成(走る、作るなど)	✓	✓
到達(解くなど)	✓	✗
到達(座る、立つなど)	✓	✗
単純状態(聳えるなど)	✗	✗
心理状態(期待するなど)	✓	✗

表6 「～てくれて／やっている」と「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」の比較

表6のように、「～てくれて／あげている」は「単純状態」を表わす場合を除けば自由に成立する反面、「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」は「動作継続」を表わす場合だけが成立できる<sup>93</sup>。それは、アスペクト性の観点から見て「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」における「～고 있다 go issda」が一般に「動作継続」を表わす言語形式であるからである。日本語の「～ていてくれる(やる)」は先行動詞の相特性によって、前段階を表わしたり、中間段階を表わしたり、結果状態を表わしたりするが、韓国語の「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」では活動達成しか生じないので、中間段階のみ表わすということになる。

二番目の原因として、「授受動詞」の違いについて述べた(3.5.3節)。日本語の「授受動詞」には「意志を表わす用法(豊田 1974: 85ff)」や「動作の方向性を表わす用法(同:

<sup>93</sup> 「心理状態」をある種の「継続」と見なせば、「✓」になる場合もある。

89ff)の「テヤル」、「方向性を強調した表現」<sup>94</sup>、<sup>95</sup>などが存在するが、韓国語の「授受動詞」である「～어 주다 eo juda」にはそのような用法が日本語ほど発達していないと言われている。それゆえ、元の文自体を作ることができないので、そこに「～고 있다 go issda」をつけられるかどうかということは、はじめから問題にならない。

最後に、「～어 주고 있다 eo jugo issda」の成立条件について考察した。「～어 주고 있다 eo jugo issda」が成立する環境は、まず「目の前の現象」の条件が必要である。しかし、澤田(2005)が述べている「現象」の適用範囲が日本語よりも狭い。澤田(2005)の「現象」は今現在目の前に見えている場面を指しており、それは動作中の「現象」(「微笑んでくれている」、「面倒を見てくれている」など)と、結果の状態を表わしている「現象」(「落ちてくれている」、「咲いてくれている」)との両方が含まれている。一方、韓国語における「目の前の現象」というのは、何らかの動作そのものが継続している場合に限定される。「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などは動作が続いているとは言いがたく、動作の結果が継続している(結果継続)意味なので現象の条件に合わず、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文は成立しにくくなるのである。ただし、「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などの動詞句が「いつも」「この頃」などの時間副詞と共に「反復[繰り返し]」や「習慣」として用いられると、ある期間中に動作そのものが繰り返して[反復して]生じている、ある意味、継続していると見なすことができるので、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文を作ることができるのである。

以上、日・韓の対応関係 [I] と [II] を中心に、そこから伺える両言語の類似点や相違点を提示し、その原因を明らかにしようとする考察を行った。「授受動詞」という同じ枠に入っていて、類似した表現形式として用いられている「～てやる/くれる」と「～어 주다 eo juda」構文は表 5 と表 6 で示したような違いを見せており、その原因は両言語の「アスペクト性」や「授受動詞の特性」の相違からくるものであることを、本論文によって明らかにすることができたと考えられる。

---

<sup>94</sup> 山田(1997:138)を参照。

<sup>95</sup> この種類の表現はいわゆる「非恩恵的な授受表現」として呼ばれているが、本論文の第4章を参照されたい。

## 第4章 「授受表現」における非恩恵的な用法について

### 4.1 はじめに

一般に「授受表現」はものや行為のやりとりを表わす表現で、その内容は当然、「与え手／話し手」や「受け手／聞き手」の「恩恵」や「利益」、「対象物の移動」などに関わっている。(1)は本動詞が用いられた「授受表現」で、(2)は補助動詞が用いられた「授受表現」である。

- (1) a. 太郎が花子にプレゼントをあげた。
- b. 太郎が花子にプレゼントをくれた。
- (2) a. 太郎が花子にプレゼントを買ってあげた。
- b. 太郎が花子にプレゼントを買ってくれた。

(1a)は「与え手」の太郎が「受け手」の花子に「プレゼント」という対象物を「移動させる」という出来事を表わしており、(1b)も視点の違いはあるものの、叙述の内容は同様であるといえる。(2a)と(2b)の文も対象物のプレゼントが太郎から花子に移動することに変わりはないが、それに「太郎が花子のためにプレゼントを買う」という恩恵の行為が加えられている。このように、授受表現は「与え手[話し手]」と「受け手[聞き手]」、「対象物」とが必然的に関係している。韓国語の場合は日本語の(1a)(1b)を(3a)のように、(2a)(2b)を(3b)のように表わすことができる。

- (3) a. 타로가 하나코에게 선물을 주었다.  
      taloga hanako-ege seonmul-eul ju-eosdda  
      (太郎が 花子に プレゼントを やった)
- b. 타로가 하나코에게 선물을 사 주었다.  
      taloga hanako-ege seonmul-eul sa ju-eosdda  
      (太郎が 花子に プレゼントを 買ってやった)

すなわち、韓国語には日本語の「あげる」と「くれる」の区別がなく両方「주다 juda」という動詞を使うのである。(2a)と(2b)の補助動詞構文は(3b)のように、「주다 juda」の補助動詞形の「~어 주다 eo juda」を用いる。視点によって動詞を使い分けするということが違いはあるが、基本的にはこのような対応関係になっている。

ところで、日本語の授受表現には次のようなものも含まれている。

- (4) a. 資本などはどうでもいいから、これを学資に勉強してやろう。 (豊田 1974:86)  
 b. だけど、最後にあなたは、とんでもないことをしていってくれたわよね。  
 (聖セバスティアヌスの掌 156)  
 c. これでおまえはチャンピオンになれない。暴力行為で必ず出場取り消しに  
してやる。(殺した少女 338)

(4a)の文は意志を表わす補助動詞「テヤル」文で<sup>96</sup>、(4b)はファン スンファ(黄順花)(1996)のいうアイロニーを表わす補助動詞「テクレル」文、(4c)は不利益を与える強調用法の「テヤル」の文を各々表わしている。(4)の各文は本来の授受表現の重要な成分である「恩恵」を表わす意味がなくなっているか薄まっている点で、授受表現の派生的な用法または周辺の用法と呼ばれることもあるが、本章では、授受表現の非恩恵用法と呼ぶことにする<sup>97</sup>。ところで、日本語の授受表現の非恩恵用法は韓国語とどう対応しているであろうか。

- (5) a. \*..., 이것을 밀천으로 공부해 주자(gongbuhae juja).  
 (これを 元手にして 勉強して やろう)  
 b. \*..., 하지만, 마지막에 당신은 엄청난 일을 해 주었다고(hae ju-eossdago).  
 (だけど、最後に あなたは、すごいことをしてくれた わよね)  
 c. 이걸로 너는 챔피언이 될 수 없어. 폭력행위로 시합에 못나가게 해 주겠어(haejugess-eo).  
 (これで おまえは チャンピオンが なれない。暴力行為で 試合に 出られないように してやる)

(5a)の意志を表わす補助動詞「テヤル」文と、(5b)のアイロニーを表わす補助動詞「テクレル」文は対応していないのに対し、(5c)の不利益を与える強調用法の「テヤル」の文は対応している。これについては後述することにする。

本章は、(4)と(5)のような「非恩恵用法」の授受表現を研究対象とする。特に、それがどういう環境で用いられ、どういう意味を表わすのかを調べ、(4a)～(4c)のような従来の分類を基準に再分類することを試みる。それから、(1)(2)と(3)の場合と違って、(4)と(5)のように対応関係が見られない場合を指摘し、その原因と考えられる「テヤル/テクレル」と「～어 주다 eo juda」の文法化の度合いの差についても考察する。これまでの先行研究の大半は「テヤル」と「テクレル」を個別的に分析しているが、それらの構文は単一のものではなく、お互いに有機的につながっているものである。それゆえ、本章では「与え手[話し手]に関わる非恩恵」と「受け手[聞き手]に関わる非恩恵」とに分けて分析する方法で考察を進めたいと思っている。

この章の構成は以下のようなものである。4.2節では、日本語と韓国語の先行研究をまとめる。4.3節では、非恩恵的な授受表現の議論に入る前に、日本語と韓国語の恩恵的な用法

<sup>96</sup> 豊田(1974)を参照。

<sup>97</sup> この用語は山田(2004)での「非恩恵型ベネファクティブ」という用語を参考にしている。

について概観する。特に「与え手 [話し手] 」と「受け手 [聞き手] 」、「対象物」の範囲において、両言語の間に違いがあるかどうかを「恩恵 [利益] 」と「非恩恵 [不利益] 」の観点から調べていく。4.4 節では、4.2 節と 4.3 節をもとに、非恩恵的な授受表現における日本語と韓国語の類似点と相違点を提示する。これに当たっては、「与え手 [話し手] に関わる恩恵」、「受け手 [聞き手] に関わる恩恵」、「方向性を表わす用法」とに分けて、考察することにする。

## 4.2 先行研究

### 4.2.1 日本語の場合

非恩恵的な授受表現に関しては様々な研究がなされており、代表的な研究には、佐久間(1936)、鈴木(1972)、豊田(1974)、ファン スンファ(1991)、森田(2002)、高見・加藤(2003)、山田(2004、2011)などが挙げられる。佐久間(1936)は非恩恵的な用法を「『いじわる』の動作」として捉え、鈴木(1972)は「利益どころか相手に不利益を与える表現」として記述している。ファン スンファ(1991)は「アイロニー的」用法と「強い意志」用法として分類している。一方、部田(2011)は「テヤル」を「受影者への恩恵表現」とする考えから離れ、意図的なく働きかけ<>と<変化>がその基本義であるとしている。

それでは、次節からは、非恩恵的な授受表現に関する代表的な研究である松下(1930)と、豊田(1974)、山田(2004)を順に概観することにする。

#### 4.2.1.1 松下(1930)

松下(1930)は授受表現の視点と行為、利益に関連して、次のように分類している。これは主に補助動詞構文に使われた授受動詞についての分類である。

##### 1) 自行他利態

自行他利態というのは、自己の動作に関してそれが他人の利益になることを表すものである。

- ・彼の人を読みたいと云ふから貸して遣った(貸してあげた)。
- ・余り憎らしいから殴って遣った。
- ・折角忠告して遣ったら(忠告してあげたら、忠告して差し上げたら)却て怨まれた。

##### 2) 自行自利態

自行自利態とは、他人の動作を受けて自己の動作とし、その受けることが自己の利益であることを表すものである。故に、被動の一種である。

- ・私はあの人に傘を貸してもらった(貸していただいた)。

- ・恐れ入りますが、一寸受取をして願ひます(戴きます)。
- ・巡査に道を教へて貰ふ。(教へて戴く)
- ・是非貴方に賛成して戴きたい。(賛成して貰ひたい)

### 3) 他行他利態

他行他利態とは、他人の動作を受けてその受けることが自己の利益であることを表すのである。

- ・兄はいつも面白い本を読んできた。
- この他にも「利益態の連続」という形で次のようなものもあると述べている。
- ・彼の人貴方に英語を習ひたいと申しますからどうぞ「教えてやってください」

この他にも「自行自利的他行自利態」(先生、私の子供の復習を「して遣って戴き」たいですが、如何でせう)や「自行自利的自行他利的他行自利態」などがある<sup>98</sup>。

#### 4.2.1.2 豊田(1974)

豊田(1974)は、「『やりもらい』の補助動詞はそのもとになる動詞の動作がだれの利益のために行われるかをあらわすものである」と述べ、この「やりもらい」の補助動詞を伴うことによって表現されるものがどこまで広がっていくかについて、「『やりもらい』の基本的用法」、「意志を表す補助動詞「やる」」、「方向を表す補助動詞「やる」」という項目を立てて説明している。

##### 4.2.1.2.1 「やりもらい」の基本的用法

豊田(1974)は「おじさんは弟に自転車を買ってやった」という文が「やる」を伴って、その動作と対象語との関係を表すことで、「おじさんが弟に自転車を買った」や「ついでがあるから僕が買って来た」のような主語の動作の事実を述べている文とは違うということを指摘している。彼女はまず、補助動詞自体に利益・恩恵を意味するものがあるかを考えている。

- (11) a. 大金をふんだくってやる。      b. 腹が立つのでどなりつけてやった。  
 (12) a. とんだことをしてくれたなあ。      b. よくもひとの顔に泥を塗ってくれたなあ。

豊田(1974: 79)は、普通の恩恵用法の他に、「『やりもらい』の補助動詞を伴った表現に、ある時はマイナスの利益を表現することがある」という鈴木(1972)の(11)と(12)のような例を取り上げ、どうしてある時は利益を、ある時はマイナスの利益を表すかについて、「～てやる」と「～てくれる」とに分けて説明している。

<sup>98</sup> 本章の内容と直接関わるのは、主に、1)の「自行他利態」と3)の「他行他利態」である。

「～てやるの場合」

- (13) a. そうして、身代わりの男を三日目に殺してやるのも気味がいい。  
b. ある日の夕方、折り戸の陰に隠れて、とうとう勘太郎をつらまえてやった。  
c. 少しでも間に合わせを言わうものなら、軽蔑して遣るぞ、といったような鋭さが見えた。  
d. どうでも織らんちゅうたら、出ていってしまうぞちゅうておどかしてやるぞ。
- (14) a. 彼女はすぐ弱気になって負けそうになるんだ。それで俺が、その結婚を徹底的に邪魔してやると言って、慰めたり、脅かしたりしていたんだよ。  
b. ぼくがもし正三だったら…ひばりに石をぶつけている人がいても、注意してやったかどうかわからない。  
c. おめえの頭は少しどうかしているな、普通の頭にしてやろう。  
d. そんなに嫌なことなのか、こんど何かあったら何度でも唄ってやるぞ。

豊田(1974)は、もとになる動詞に「～てやる」を伴った形が、もとになる動詞の意味によってプラス・マイナスの利益に分かれるのでも((13)の各文)、補助動詞「やる」を伴って意味が左右されるのでも((14)の各文)ないと述べている。彼女は「A が B に x してやる」という表現が、A すなわち話し手の行為の全く話し手がわからの主観的な表現であるとし、B がその行為を受け入れるかどうか、またそれが可能か否かについてさえ A は関心がないと主張する。その裏づけとして、次の(15)のような、死んでしまった対象に対する行為を表す例を挙げている。

- (15) a. この巢のそばにね。ナイフを貸してよ、ぼくお墓を掘ってやるんだ。  
b. わたしは、静かにくちばしのところを持ち上げてやった。が、手を放すと、首はだらりとたれてしまった。

「～てくれる」の場合

豊田(1974)は補助動詞「くれる」を伴った表現は、動作を行う主体が他人であり、その動作の対象が自己で、それを自己の側から言うものであると捉えている。この表現も受給関係を表しているようでありながら、実は自分の側からだけの表現であるとしている。

- (16) a. とんだことをしてくれたなあ。  
b. よくもひとの顔に泥を塗ってくれたな。  
c. あとにも先にも一度の小言をあんなくやしがって夜じゅう泣いてくれなくてもよさそうなものを。

彼女によると、主体の行為である「とんだことをした」「ひとの顔に泥を塗った」「夜じゅう泣いた」という行為は対象に向かって行われたのではなく、対象に向かって行われた



ように対象である話し手が言っているにすぎないことである。

- (17) a. それでも臆面なく色々花が私の床を飾ってくれました。  
b. このおびただしい量の水は……土もいっしょに運んでくれました。  
c. どちらが左であったか、方向感を喪失しそうになる。この錯覚を救ってくれるのは、目標にして来た B 山の突起であった。  
d. 一日め、県内の各学校から集まった百二十名の参加者を迎えてくれたのは、きれいな「青年の家」でした。
- (18) a. 慣れるということは恐ろしいことだ。ただ、祖父の声につれて復唱するだけで、知らず知らず感じに親しみ、その後の読書を容易にしてくれたのは事実である。  
b. 勤務は、そのあいだとにかく彼を人間に還元させてくれる。

(17)の各文における「無生物」や(18)の文における「こと」も主体になることがあるとし、これは、擬人的表現と考え、そのために有情物の意志を表す動詞が使われていると考えてもいいと述べている。しかし、

- (19) 手をあげて渡ろうとしても、なかなか止まってくれない。…
- (20) a. 「来年は山へ行くかなア」とさっき言ってくれたけど、いままでずっと気にしてきてくれたのだ。  
b. 人の親というものは、子供の成長を願いながら、同時に我が子がいつまでも少年少女であってくれることを願うもの。

(19)のような他に対する働きかけを持たない自動詞や(20)のような持続態((20a))や状態((20b))、「彼は字が書いてくれた」・「彼は目が見えてくれた」のような可能動詞などの無意志的で状態を表す動詞にも続くことがあると述べている。さらに、

- (20) a. 然し片方がいなければ、片方が邪魔をするといい風の日ばかり続いて、どうしても『今だ』と思う好都合が出て来てくれないのです。  
b. 人間は……「雨がふりますように。」と神様においのりしたりしました。しかし天気は、そのとおりになってくれるものではありません。

のような「自然現象」にも「くれる」が使われることを挙げ、「～てくれる」には、行為の主体がなくても、状態であっても、あたかも自己に向かって行われたように表現することができる特徴があると主張している。

豊田(1974)は、「やりもらい」の補助動詞が受給関係が成立する時と成立しない時とで「AがBにxをしてやる」「AがBにxをしてくれる」「BがAにxしてもらおう」と一つ

の事実を転換して表現することが可能になるかが決まるとし、たとえ、受給が成立しない場合、またはそんな行為がなかった場合にさえその表現をすることができる」と述べている。それは受給を表す「～てやる」「～てくれる」「～てもらおう」の表現がどこまでも話し手側の表現であるためであって、逆にそれらの表現は事実の受給関係の有無に関わらず可能な、話し手側からする一方通行の受給関係の表現なのであると記述している。

#### 4.2.1.2.2 意志を表す補助動詞「やる」

豊田(1974)は、「私は弟に自転車を買ってやろう」の文は「やる」の語形を変化させて意志表明をするのではなく、次のように、「やる」を伴うことによって意志的になるものについて述べているが、基本的に働きかける「対象(相手)」のある場合((21))とない場合((22)の各文))とがあると主張する。

- (21) もう遅いから早く帰りたまえ。私も早く帰って遣るんだから、妻君の為に。
- (22) a. 勝手の方から廻って直接祖母の部屋に行ってやろうかしらと考えた。  
b. 僕はボロージャよりも、もっと高く登ってやるぞ  
c. ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。

豊田(1974)によると、(22a)～(22c)には「行く」、「登る」、「生き延びる」という自動詞類が用いられていて、自動詞の場合は、働きかける対象(相手)がないので、そこに「テヤル」が用いられていると、もとになる動詞の強調、すなわち、自己の意志の意味になると述べている。しかし、自動詞ではなくとも、次のような場合は、他に対する働きかけはないと付け加えている。

- (23) a. 袴垂は冬じたくの衣料が入用になった。少々かせいでやろうと思ひ、うまいことはないかと。あちらことら探つて歩いてた。
- b. 資本などはどうでもいいから、これを学資に勉強してやろう。
- c. そんなに嫌なことなのか。こんど何かあつたら何度でも唄ってやる。
- d. (知子は) 白い卵がめについた。「これでも食べてやろう」と思つてゆでることにした。 (ibid: 86 下線筆者)

(23a)～(23d)において、受給関係を表すような意味がない場合は、「もとになる動詞の強め、即ち自己主張・自己の意志の顕示の意味」になり、以下のような、自分の感情が高まった時の表現にも現れるという。

- (24) a. 畜生、この仇はきつととつてやる。
- b. 『これだ』思つたら、まず試みよう、身のまわりを見廻して、足もとの小石を拾つて、わたしからあべこべに『へマタ?』と叫んでやった。

c. もう最後なら、ぼくはっぺんいたずらをしてみてやろう。

これらは、すべて「やる」を除いても意味の変化は生じなく、これらの文を「～てもらう」の文に転換することもできないと記述している。

一部ではあるが、「～てやる」が「受給関係」の意味を表すか、「意志・主張」の意味を表すかがはっきり分かれる動詞のグループもある(豊田 1974: 87-88)。例えば、対応するもののある自動詞と他動詞、すなわち、「しずむ」・「しずめる」、「あたたまる」・「あたためる」、「なおる」・「なおす」などで、自動詞は対象の変化を、他動詞は対象への働きかけを表す。その内、他動詞が「～てやる」を伴って意志・主張を表すこともあるので、受給を表すか意志・主張を表すかがはっきりしない。一方自動詞の場合は、受給を意味するものにはならないので、他動詞の場合のような曖昧さは生じないのである(豊田 1974: 88)。

ところで、上記の「しずむ」「あたたまる」「あたためる」などの動詞はそれぞれ「しずもう」「あたたまろう」「あたためよう」という意志形を作ることができるが、次のような、無意志的な動詞に「～てやる」が続くことも可能であるという。

(25) a. 吃りなんか一日で叩き直してやるぞ。

b. 吃りなんか一日で直ってやるぞ。

(25a)は対象(相手)に対する働きかけで、(25b)の文は自己の意志・決意を表す文であるが、(25ab)における「直る」は意志の形「直ろう」を作ることができない「\*吃りなんか一日で直ろう」。このことから、補助動詞「やる」を伴うことによって無意志的な動詞が意志的な動詞になるわけである。

この他にも豊田(1974)は、無意志的な動詞の中には、人間の生理的・心理的動作を表すものがあって、これらの動詞に「～てやる」をつけて演技の表現をすることがあるとし、この演技の表現に「テヤル」が使われるのも、「テヤル」に自己の意志・またその顕示の働きがあるためであろうと述べている。

#### 4.2.1.2.3 方向を表す補助動詞「やる」

最後に、豊田(1974)は、「方向」を表す補助動詞「テヤル」として以下のような例を挙げている。

(26) a. けれどもあなた後から手紙で詳しく書いてやって下さいましたね。間違いでもしていると大変ですから。

b. 自分の所へこの姉から同じような意味の書状が二三度来たという事を打ち明けました。Kはその度に心配するには及ばないと答えて遣ったのだそうです。

このような方向を表す補助動「やる」が付きやすい動詞に、(26)の「書く」「答える」の他に、

「質問する」「報告する」「訴える」などがあり、主に言語活動に関係のある動詞で、電話や手紙などの方法によって行われる場合が多いとされている。

この他に、(27)のように、位置の変化・物の移動を意味する動詞に補助動詞「やる」が続く場合があると述べている。

- (27) a. 山の上から大きな石を落としてやる。
- b. 煙をふうっとそっちへ吹いてやる。
- c. わたしも、1・2度何か送ってやったが、それきり、顔を合わず機会はなかった。

(26)～(27)の各文の場合、受給関係を表すものと、方向を表すものが意味の上で重なり合って、判別できないと述べている。

#### 4.2.1.3 山田(2004)

山田(2004)は、ベネファクティブと総称する補助動詞としてのテヤル、テクレルには恩恵が含意された用法の他に、恩恵という意味が必ずしも感じられない用法が存在し、それを非恩恵型テヤル、非恩恵型テクレルと呼んでいる。

##### 4.2.1.3.1 非恩恵型テヤル

###### 4.2.1.3.1.1 意志を表すモダリティと非恩恵型テヤル

山田(2004: 190-191)は4.2.1.2節の豊田(1974)の主張を取り上げ、「動作の対象と(間接)受影者を混同している点」と、「モダリティの周辺形式との関係における位置づけが不十分な点」などについて考察を深める必要があると述べている。

彼は非恩恵型テヤルを意志を表すモダリティと関連付けて記述している。まず、仁田(1991b)で「話し手の意志を表す表現形式」として挙げられている「スル形」、「シヨウ形」、「スルツモリダ／考エダ／所存ダという3形式を紹介し、意志表出の形式化の度合いが最も強いのは「シヨウ形」であり、スル形は「逆に用いられる環境に極めて強く依存する表現である」としている。その中でのテヤルの位置づけを図っており、結論的にはテヤルが意志のモダリティを担い得る形式であると述べている。

山田は次に「命令形」について検証している。彼は命令の形で話し手の意志を表す用法があるとし、普通の命令形は、例えば「急げ!<sup>99</sup>」、「ええい、食べちゃえ」の場合を除き命令形が自らの意志を表すことがない(原文のまま)けれど、次の例のテヤルは話し手の意志を表すとしている<sup>100</sup>。

- (28) a. たくさん買うふりをして、ひやかしてやれ。

<sup>99</sup> 自分自身に対して自らを客観化して独り言としてつぶやく場合である(山田2004: 194)。

<sup>100</sup> 厳密に言うと、(28b)は「話し手」の意志ではなく、彼等の意志になる。

- b. その夜の当人同士を念頭に浮かべる時彼等は淡い嫉妬を沸かさねば成らぬ。それで彼等の心には喰ってやれ、飲んでやれ、そうして遣らねば腹が癒えぬという観念が期せずとして一致するのである。

ただし、「\*お前を殺してやれ。(cf. お前を殺してやろう)」や「\*(聞き手に対して)ちよっとおまえを懲らしめてやれ」のような、聞き手が被動作者となっている場合はテヤルによって話者の意志を表すのは難しくなるという。その理由を「命令形で意志を表す形式が、『ええい、食べちまえ』のようなテシマウの他に知りうる限りでは存在せず、正直なところよく分からない。ただ、命令形が通常、その動作を実行しうる立場にある聞き手に対して用いられると、無標的にはその聞き手に対する働きかけとして機能することと無関係ではないものと考えられる」と述べている。

第三に、山田(2004)は、非意志的事態の意志的事態化について述べている。そこでは、豊田(1974)の「無意志的な動詞が意志化されると考えることができるようである」という発言を引用し、自らの例を出しながら、非恩恵型テヤルが無意志的な事態を意志的に制御するという特徴を持っていると述べている一方で、すべての無意志動詞が意志化されることはないことを示すために、次の(29)の例を挙げている。

- (29) a. ?講演がウケてやる。  
 b. ?一生懸命描いた絵が入選してやる。  
 c. \*妻なんか家出してやる。  
 d. \*落雷であんな家なんか焼けてやる。

山田(2004)は、(29a-d)の文に比べて次の(30a-d)の文は文法性が相対的に上がるとし、それには事態に対する「X<sup>101</sup>」の自己制御性が大きく関係しているとしている。

- (30) a. 私は〇〇大学で行った講演がウケた。  
 b. 私は落雷で家が焼けた。  
 c. 私は一生懸命描いた絵が入選した。  
 d. 私は妻が家出した。

一方、非恩恵型テヤルは、状態的な述部に対しても、その状態がガ格に置かれた話者によって制御できるかあるいは事態生起の過程に対して努力不可能である場合にも用いることができるとし、次のような例を出している。

<sup>101</sup> 「X」とは、「XハYガV」型構文における「X」である。(29)の各文ではいずれも言語化されていない意志を持った動作主が存在し、二重ガ格をとる、いわゆる「XハYガV」型構文にテヤルが付加されたものと考えられる。益岡(1987)、菊池(1990、1996)が提案している成立条件は、「Y」が「X」の存在に依存する身体部位や性格のように結びつきの強いものである(山田 2004: 196-197)。

- (31) a. アラビア文字だって、3ヶ月あれば読めてやるよ。  
 b. 真子「お母さんを脅迫してやったの。学校変われっていうんなら、ノイローゼになってやるからって」  
 c. どこかでいい男と巡り合ってやるわ。  
 d. 親友にも役をくれないのなら、主役の私が病気になってやる。

山田(2004)は、非恩恵型テヤルは、主文末で非自己制御的な事態にも一部を除いて付きうる点で、恩恵型とは異なった性質を持つ<sup>102</sup>とし、これはテヤルの持つ意志的な性質が恩恵を表さないという環境において、受益者を必要としない場合に特に強調されて現れてくるためであると述べている。

#### 4.2.1.3.1.2 受影者の存在による分類

山田(2004)は、豊田(1974)の分類を、影響を間接的に受ける(ことを話者が意図する)参与者、すなわち受影者を明示的に持つか否かという観点から捉えなおそうとしている。すなわち、「受給関係を表す用法」は、受影者の存在が想定されるのに対し、「意志・強意を表す用法」では、受影者の存在が意識されていないと述べている。山田(2004)は、実際に影響が及んでいなくても話者が受影を想定もしくは意図していれば「受影者」という用語を用いることとし、受影者が存在する場合と存在しない場合とに分けて考察を行っている。

まず、受影者が存在する場合について、以下のような例を挙げている。

- (32) a. 婆ア、殺してやる。  
 b. 死んだって無名のままなのだ、それを思い知らせてやるッ。  
 c. 会社中にお前のこと、しゃべってやる。破綻にしてやる。  
 d. 照美「あんたがマリコ好きなこと学校中に触れ回ってやるうか」  
 拳 「(仰天する)汚ねえぞ」  
 e. 千津子「はいはい」  
 実加 「二度返は失礼だ」  
 千津子「厳しいのね。あんたが結婚して子供産んで、孫ができても居座ってやるから」  
 f. 「私たちのことを喋っちゃったんだって……危ないから、早く帰ってこいって組の人がいうから、もう遅いわよって言ってやった…」

<sup>102</sup> 恩恵的なテヤルが「おかげで」節などの従属節中で用いられた場合には動詞の自己制御に関わらず用いられるのに対して、主文末では非自己制御的な事態に後続することができないことについては、山田(2004:57-83)で取り扱われている。

山田(2004)は(32a-f)の非恩恵型テヤル文では、受影者への動作・事態の影響の及び方において様々なタイプが存在するとし、(32a-b)のように動作が直接及ぶタイプと、(32c-f)のように話者が起こす動作を含む事態から間接的に影響が及ぼすタイプがあると述べている。次は、受影者の存在が希薄な場合と不在の場合である。

- (33) a. 袴垂は冬じたくの衣料が入用になった。少々かせいでやろうと思ひ、  
なにかうまいことはないかと、あちらこちら探つて歩いてた。  
b. 資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。  
c. ははは……親父や兄貴に俺の小説がわかつてたまるか……俺は必ず直木賞  
をとるッ、見返してやるんだッ。  
d. 社長が開けるたびにじっと見ててやったのよ……頭にくることばかり言  
うから、いつか開けてやろうと思つてたんだ。

山田(2004)は、豊田(1974)が「意志・強意を表す用法」として挙げている(33a)および(33b)では、受影者の存在が全く感じられないのに対し、(33c)および(33d)は「何らかの影響が及ぶことを話者が願望する人物が存在する」と述べている。すなわち、(33c)および(33d)の文は、受影者は聞き手と同一ではなく、したがって発話場に存在しないため、動詞を含む事態による影響を受影者が認識していないとしている。その意味で(33a)および(33b)を受影者不在型、(33c)および(33d)を受影者の存在が希薄な型として分類している。

#### 4.2.1.3.2 非恩恵型テクレル

次は、非恩恵型テクレルについてであるが、山田(2004)は非恩恵型テクレルを「遠心的非恩恵型テクレル」と「求心的非恩恵型テクレル」とに大きく分けて説明している。

##### 4.2.1.3.2.1 遠心的非恩恵型テクレル

山田(2004)は「遠心的非恩恵型テクレル」における「受影者の存在による制限」と「非恩恵型テクレルが取る文末形式」について述べている。

まず、受影者の存在による制限であるが、

- (34) a. さしおさえられし道場と家屋敷必ずやとり戻してくれる！  
b. \*これを学資にして勉強してくれよう。

「遠心的非恩恵型テクレル」では、(34a)のように、受影者存在型では用いられるが、(34b)のような受影者不在型では用いることができないという。一方、受影者希薄型について、(35a)のように、基本的には許容されにくいのが、(35b)のように、許容される場合もあると述べている。

- (35) a. ?俺は絶対直木賞を取る。親父や兄貴を見返してくれる！  
 b. 三鷹(独り言)「(他に好きな人がいるのにもかかわらず叔父が勝手に決めた縁談なんか)断ってやる。断ってくれる！」

(35b)について、「『断ってやる』と言うことによってあたかも聞き手その場に存在するかのような臨場感を出し、その聞き手に向かって『断ってくれる』を使っているような用法である」と説明し、「擬古文的な特徴から、現代語の用法としての明確な文法性判断は難しい」と述べている。

次に、非恩恵的テクレルが取る文末形式に関して説明している。

- (36) a. も、物の怪っ。退治してくれる。とり囲め一つ。  
 b. 出前道の奥の深さをとくと味わわせてくれりょう。  
 c. ?この物の怪、おまえを退治してくれるつもりだ。  
 d. #あの物の怪、退治してくれ(ろ)。  
 e. \*あんな血も涙もないやつなんか、殺してくれたいわ。  
 f. \*この野郎、成敗してくれるか。

(36c)の「つもりだ」は「ヨウ」に比べて相対的に意思表示が弱い。(36d)の文は、依頼の表現としては可能であるが、意志表出はできない。(36e)についても、非恩恵型テクレルは発話場所・時間における受影者の存在が明確であり、その受影者に対して直接意志表出を行うような表現でなければならず、願望というあり方にもそぐわない(山田 2004: 212)。疑問文の(36f)も非恩恵型のテクレルには見られないと述べている。

山田はさらに、テンスの分化について、由井(1990b: 72)の次のような例を挙げている。

- (37) a. \*(おまえを)痛い目に合わせてくれた。  
 b. 奈落「くくっ、汚れた魂も体も・・・あの場で食らいつくしてくれたわ。良い肥やしがわりにはなったがな」

彼は過去テンスで用いることはできないという由井(1990b: 72)の主張を認めている。しかしながら、(37b)のように、「テクレル」が「ダロウ」のように活用形として過去を持たないのではなく、(やや古い文体ではあるが)、受影者が聞き手ではなく第三者の場合、更に特定の終助詞を伴って表されている時には、過去形の許容度が上がるという判断をする人もいると主張している。

人称の制限についても、(38a)のように、一人称以外で用いることはできないし、(38b)のように、否定形で用いられることもできないと述べている。



- (38) a. #わしに代わって、この者がおまえを退治してくれるわ<sup>103</sup>。  
b. \*そんな風に私に逆らうんだったら、おまえなんかもう面倒みてくれない。

#### 4.2.1.3.2.2 求心的非恩恵型テクレル

次に、求心的非恩恵型テクレルについて考察している。山田(2004)は、求心的非恩恵型テクレルに関して重要なのは、「方向性という観察からは恩恵型と際だった違いが見られないこの用法が、どのような場合に非恩恵という読みがなされるのか」という点であると述べ、先行研究を踏まえて非恩恵のあり方について検討している。まず、非恩恵型テクレルには、次のような三つの用法があるとし、(39a)を「非恩恵明示型テクレル文」、(39b)を「非恩恵暗示型テクレル文」、(39c)を「受影表示型テクレル文」と呼んで、それぞれの文の特徴について考察している(山田 2004: 214)。

- (39) a. やい、くそおやじ、よくもあんなフザケタ所に連れていってくれたな。  
b. (五択に失敗した安田に向かって、今まで弟子になりたいと言っていた)ラファーがわが耳を疑うようなことを言ってくれた。  
c. 佐竹「天才の名を忝にした M. ブルーノも完璧な人間ではなかったことですか」ブルーノ「若僧…言ってくれるじゃないか」

#### 「非恩恵明示型テクレル文」

非恩恵明示型テクレル文として、次のような例を挙げている。

- (40) a. とんだことをしてくれたなあ。  
b. 取りかえしのつかないことをしてくれましたね。  
c. よくもひとの顔に泥を塗ってくれたな。  
d. やい、くそおやじ、よくもあんなフザケタ所に連れて行ってくれたな。  
e. とんでもないものを食べさせてくれたものだ。

(40)の文について、山田(2004)は、「二重下線を引いた箇所が何らかの被害を表現しており、これらのテクレル文が恩恵を表さないタイプであることが分かる」と述べている。

非恩恵的なテクレルの生産性について、まったく制限がないわけではなく、例えば、過去形で用いられることが多いと言っている。場合によっては(41a)のように非過去形式で使われる時もあるが、(41b)や(41c)の文のように非過去形で使われると許容度が下がるようである。

- (41) a. まったく、とんでもないことをしてくれるよなあ。  
b. ?まったく、田中は明日、とんでもないことをしてくれるなあ。

<sup>103</sup> (38a)は恩恵的な求心的用法の読みの場合は文法的になる(山田 2004: 213)。

- c. # (天気予報を聞いて) 大きな台風が来てくれるらしいぞ<sup>104</sup>。

これに関して、山田 (2004) は、非恩恵型テヤルが未実現の非恩恵的事態に対する意志を表すのと好対照であると述べている<sup>105</sup>。

「非恩恵暗示型テクレル文」

次は、非恩恵暗示型のテクレル文である。

- (42) a. (五択に失敗した安田に向かって、今まで弟子になりたいと言っていた)  
ラファーがわが耳を疑うようなことを言ってくれた。  
b. (川崎ヴェルディ柱谷選手がカズのサッカーワールドカップ日本代表落ちを聞いてのコメント) : (岡田監督は、カズの)プライドをずたずたにしたわけですからね。よくやってくれたって感じですよ。  
c. この欄で前回「富士の風を感じたい」と書いた。それなのに富士の空は、春風ではなく雨で迎えてくれました。

非恩恵暗示型テクレル文は、恩恵型か非恩恵型かを区別することが難しいようである。山田によれば、文脈や言語外情報といった語用論的な要因から恩恵型になるか非恩恵型になるかが決まる。

ここで重要な問題になるのは「なぜテクレル文が使われるのか」、つまり「なぜ恩恵を表さない場合にテクレルが用いられ得るのか」という点である。この点について山田 (2004) は、大江 (1977: 26) の「皮肉」という観点を取り上げている。

- (43) a. 部屋をずいぶんきれいにしてくれたね。  
b. 部屋をひどく汚してくれたね。

山田は (43a) が (43b) と同様の内容を表わすことについての大江 (1977) の次のような説明を引用している。

命題内容「君が部屋をきれいにしてくれた」の全体、あるいはその一部「きれいにしてくれた」の条件が不成立である。そして文字どおりの (二次的) 発話行為「感謝」の PC (筆者注: Searle の言う「予備条件」) と SC (筆者注: 同じく「誠実条件」)

<sup>104</sup> (41c) の文が恩恵的なテクレル文であれば文法的である (山田 2004: 217)。

<sup>105</sup> 山田 (2004) よると、以下のように、明らかに未来の事態が予測される場合にはテクレル文を用いることができる。

- i) (せっかく片づけた部屋で子どもがブロック遊びを始めようとしているのを見て)  
あーあ、こうやってまた散らかしてくれるんだね。

の不成立と相まって、一時的発話行為が「きみが部屋をきれいにしなかった／汚した」を命題内容とする「非難」となる。(大江 1977: 26)

即ち、「部屋がきれいではない」ことを知っていながら「部屋がきれいであることから恩恵を受けている」と表現することによって、皮肉という意味が生じると言っている<sup>106</sup>。

「受影表示型テクレル文」

最後に、受影表示型テクレル文について以下の例を挙げている。

- (44) a. 佐竹「天才の名を忝にした M. ブルーノも完璧な人間ではなかったってことですか」  
 ブルーノ「若僧…言ってくれるじゃないか」  
 b. タラちゃん：カツオに「いちゃん、明日のテスト、がんばってください。」  
 カツオくん：言ってくれるねえ。(由井 1996: 31)  
 c. 愛人でいいのと歌う歌手がいて言ってくれるじゃないのと思う。

これらの例に対して、「これらは反発を感じながらも受け入れており、プラスとかマイナスとか決めがたく、恩恵とは限らない。むしろ行為の影響が自分にかかっていることを表している」という由井(1996)の指摘を取り上げて説明している。

## 4.2.2 韓国語の場合

### 4.2.2.1 イム パルヨン(林八龍)(1980)

イム パルヨン(1980)は、日本語と韓国語の受給表現の比較を行っている。彼は、韓国語の受給動詞の「주다 juda・받다 badda」と日本語の受給動詞である「やる・くれる・もらう」の対応関係を以下のように示している。

やる	くれる	もらう	
주다[juda]		받다[badda]	달라[dalla] <sup>107</sup>

表 1 日・韓受給動詞の対応関係

表 1 のように、日本語の「やる／くれる」に「주다 juda」が、「もらう」には

<sup>106</sup> 山田(2004)は、逆に「部屋がきれいである」ことを知っていながら「汚してくれたね」と言った場合も、汚くすることが話し手の意図したところであれば同様の効果が得られると述べている(山田 2004: 220)が、実生活で、そのような場面が想定できるかどうかは疑問である。

<sup>107</sup> 달라[dalla]は、自分に何かをくれるようにと相手に要求するか、または願う命令の意を表す無活用詞である(イム パルヨン 1980: 114)。

「받다 badda」が対応している。また、日・韓両言語にはこれらの動詞の待遇表現を持っており、以下の表1のようにまとめられている。

	謙讓語	尊敬語
やる	あげる さしあげる	おやりになる (やられる)
くれる		くださる
주다 juda	드리다 deulida	받으시다 bad-eusida

表2 日・韓受給動詞の待遇表現

表2のように、「やる」は謙讓語の「あげる／さしあげる」、尊敬語の「おやりになる(やられる)」を持っており、「くれる」は尊敬語の「くださる」だけを持っている。一方、「주다 juda」は、謙讓語の「드리다 deulida」、尊敬語の「받으시다 bad-eusida」を持っている。

以上は、イム パルヨン(1980)が分析した本動詞の対応関係について見てきたが、ここからは、補助動詞用法の分析についてである。

日	～てやる	～てくれる	～てもらう	
韓	～어[아]주다 eo[a]juda	×～어[아]받다 eo[a]badda <sup>108</sup>	～어[아]달라 eo[a]dalla <sup>109</sup>	

表3 日・韓受給動詞の補助動詞用法の対応関係

表3において、実際、対応関係が見られるのは、「～てやる／くれる」と「～어[아]주다 eo[a]juda」の対応のみであり、イム パルヨン(1980)は、この対応関係に焦点を当てて論を進めている。イム パルヨン(1980)は、「～어[아]주다 eo[a]juda」と「～てやる／てくれる」には、実際の物の移動が伴う場合と、実際の物の移動とは無関係に、行為だけの移動を表す場合があるとし、「～てやる／てくれる」の「自己の意志の顕示・強調」または、「実際、話し手とは無関係の一方的な主観的表現」と言われる後者の場合の日・韓の対応関係について述べている。

(45) a. 매력적인 건물이었다. 낭만을 돌구어주는듯-. (dodgu-eojuneundeus)

(魅力的な 建物であった。浪漫を わきたたせてくれる ような)

b. 3년동안이나 그의 체중을 견디어내준 그의 검정색 구두는 이제 더 이상 참아낼 힘이 없다는듯… gyeondi-eonaejun

<sup>108</sup> イム(1980)によると、「～てもらう」に対応する「～어[아]받다 eo[a]badda」の言い方は、少なくとも現代韓国語では、実際、成り立たない言い方である。

<sup>109</sup> イム(1980)では、「～어[아]달라 eo[a]dalla」について、「一方的な願望・命令の意を表す用法」であると述べ、対応する日本語のところが空欄になっているが、「～てくれ」に対応する表現であると考えられる。

(三年もの間、彼の体重に 堪えてくれた、彼の 黒い 靴は、もうこれ以上 たえきる 力が なさそうに…)

- c. 재주가 괜찮아주기만 한다면 공을 친다는 일따위는 없을것이고 어찌면…  
gwaenchanh-ajugiman handamyeon

(運が よくなってさえ くれれば、仕事に あぶれる ことなんて はないだろうし、もしかしたら…)

- d. 형광등 불빛에 비해 그 붉으스름한 잡화상의 전등 불빛은 따뜻한 가라앉음을 느끼게 해주었다(neukkige haeju-eosdda).

(蛍光灯の 光に比べて、その 赤っぽい 雑貨屋の 電灯の光は、温かい やすらぎと 落ち着きを 感じさせて くれた。)

- e. 커다란 고목이 그늘을 펼쳐주기까지 했다(pyeolcheojugikkaji haessda).  
(でっかい老木は陰を広げて くれ さえ した。)

- f. 바다에서 불어오는 상쾌한 바람과, 그가 걸음을 옮길 때마다 사각사각 밝히는 모래의 촉감이 그의 마음을 어느 정도 풀어주고 있었다.

pul-eojugo iss-eosdda

(海から 吹いて来る 爽やかな風と、 足どりを 運ぶ たびに サクサクと 踏まれる 砂の 触感が、 彼の心を ある程度 ほぐして くれて いた。)

(45)の各文は、行為の主体がいわゆる「事物」((45a)~(45d))や「自然物」((45e)~(45f))になっている。(45)の各文における行為に対して林(1980)は、「『自己』とは無関係なものであり、勿論『自己』に対して行われたわけでもないが、それをあたかも『自己』のために、あるいは『自己』に向かって行われたかのように受け取って、その上で表現する『自己』側の主観的な表現である」と述べている(イム パルヨン 1980: 119)。

次に、(46)を見られたい。

- (46) a. 병호는 상대를 한대 갈겨주고 싶은 충동을 가까스로 참았다.  
galgyeojugosip-eun

(「ピョンホ」は 相手を 一発 ぶんなぐって やりたい 衝動を かりうじて こらえた)

- b. 바른대로 안대면 죽여줄 테다.  
jug-yeojul teda

(本当のことを しゃべらんと、殺して やる。)

- c. 그 걷는 모양을 보고 있노라면 정모를 벗겨주고 싶은 마음이 생길 정도였다.  
beosgyeojugosip-eun

(その 歩き方を見てると、制帽を ぬがして やりたい 思いに かれるほど であった)

- d. … 우유배달은 하루 한번씩 배달해주고나면 그만이야.  
baedalhaejugonamyeon

(牛乳の配達は 一日 一遍ずつ 配達して やったら それきりだ。)

イム パルヨン (1980: 119) は、(46)の各文に用いられている「~어/아 주다 eo/a juda」に対しては、「それぞれ、文のなかで対象に対する働きかけの作用はしているが、なくても、別に意味上何の変化もなく、ただ、主語の強い意志の顕示であり、もとになる動詞を強める機能をしている」と説明している。

最後に、イム パルヨン(1980: 120)は、

「やる・くれる・もらう」を中心とした受給表現は、韓国語においては考慮に入れなくてもいい、「話者の立つ側」の配慮あるいは、「話者の関与」という点が大きな意味を持ち、実質動詞としての用法にしる、補助動詞としての用法にしる、常に尾を引いている。

と述べ、「日本語の最も特徴的な所として、受給動詞の補助動詞としての用法があり、なかには、韓国語の複合動詞『~어/아 주다 eo/a juda』の用法で、かなり一致するような面も見せている反面、『~てもらう』に対応する『~어/아 받다 eo/a badda』という言い方がないなど、かなりの制限がある」と述べている。

#### 4.2.2.2 ファン スンファ(黄順花)(1991)

ファン スンファ(1991)は、日・韓両言語における寄與態<sup>110</sup>の対応関係を考察することによって、文法的なカテゴリーとしての寄與態の本質を明らかにすると同時に日本語の寄與態の特殊性を究明しようとしている。

まず、寄與態の基本用法として、以下の三つを挙げている。

- (47) a. 少女が椅子を踏台にして高い箇所を飾り、わたしは少女に飾りを手渡してやったり、下の枝にサンタ・クロースや鐘をゆっくり結び付けた。  
b. それを聞くと、康子はもう勉強がちっともあたまにはいらず、とんでいってヤッチャンをおばさんの手から救い出してやりたいと思いました。
- (48) a. 「君こそ少し気をつけるがいい」と自分は三沢にしっぺいがえしを喰わしてやった。  
b. 美しいお千代さんの束ねた髪に、白く埃がつもっているのを見ると、街の華やかな、一切のものに、私は火をつけてやりたいようなコウフンを感じてくる。
- (49) a. 彼女はこの抽象的な問題を、どこかで自分の思い通りいかしてやろうと決心した。  
b. そんなら、ひとつこの鳥小屋をまわってやろう。

<sup>110</sup> ファン スンファ(1991)では、「~シテヤル/~シテクレル」を総称して「寄與態」と呼んでいる。

(47a)と(47b)は、「与え手/話し手」が「受け手/聞き手」のために何かをする場合で、(48a)と(48b)の文は、アイロニー的用法で、「与え手/話し手」が「受け手/聞き手」に不利益を与える場合、(49a)と(49b)は、強い意志を含んだ「与え手/聞き手」の積極的な動作を表す場合である。

ファン スンファ(1991)によると、韓国語の場合も(48)～(49)の各文に対応し、寄與態における基本用法は日・韓両言語間で著しい相違点は見られないという。

#### 4.2.2.2.1 恩恵を与えるためにする動作ではないテヤリ態

次に、ファン スンファ(1991)は「恩恵を与えるためにする動作ではないテヤリ態<sup>111</sup>」について述べているが、テヤリ態の「アイロニー的用法」と「強い意志」が韓国語にどう対応しているのかを考察している。

まず、テヤリ態の「アイロニー的用法」であるが、以下の例を挙げている。

(50) a. あすは札幌の高木っていうヤツのところに行って、とっちめてやりますよ。

b. 내일은 삿뽀로의 다가끼란 자에게 가서 혼내 주겠습니다.

honnae jugess-seubnida

(明日は 札幌の 高木って やつに行って とっちめてやりますよ)

(51) a. ゆき子は若い医者が富岡に、余計なことをいってくれなければよいがと思った。

b. 유끼꼬는 젊은 의사가, 富岡에게, 쓸데없는 것을 말해 주지 않으면 좋으련만이라고 생각했다.

malhae juji anh-eumyeon

(ゆき子は 若い医者が 富岡に 余計なことを いってくれなければ よいと 思った)

(52) a. どんな男か、あのホームまで行って、窓からのぞいてやるわ。

b. 어떤 남잔가, 저 홈까지 가서, 창으로 들여다 봐 줄꺼야.

deul-yeoda bwa julkkeo-ya

(どんな男か、あの ホームまで 行って、窓から のぞいてやるわ)

(ファン スンファ 1991: 96 一部改変)

次は、「強い意志を内包した話者の積極的な動作を表現する」場合である。

(53) a. こんな時に遠慮するのはつまらない話だ、よしんば自分の望通りにならなかったって元々損は行かないのだから、思い切って朝飯の催促をしてやろう、…

b. …, …, 내친 김에 아침밥 재촉을 하자(jaechog-eul haja).

(思い切って 朝飯の 催促を しよう)

<sup>111</sup>ファン スンファ(1991: 95)を参照。

- (54) a. 落ち着いて、今度こそは必要なことをすっかり、女から聞き出してやろう。  
 b. 침착하게, 이번만은 꼭 필요한 말을 죄다 여인한테서 들어 뒤야지...

deul-eo dwo-yaji

(落ち着いて、今度こそは 必ず 必要なことを すっかり 女から 聞いて おこう)

- (55) a. … 己はどうしても引き返してやるから!  
 b. … 나는 어떻게 해서든지 다시 나오미를 데려오고야 말 테다!

delyeo-ogo-ya mal teda

(己は どうしても 再び なおみを 連れてくるぞ)

- (56) a. 「この壁が邪魔だ、この壁を打っ壊してやりたいもんだ。」  
 b. 「이 벽이 방해야, 이 벽을 부셔버리고 싶군.」

busyobeoligo sipgun

(この壁が 邪魔だ。この 壁を 打っ壊して やりたい) (ibid: 97 一部改変)

「強い意志を内包した話者の積極的な動作を表現する」場合を表す(53)～(56)の各文の対応関係から、韓国語とは対応していないのが見て取れる<sup>112</sup>。

ファン スンファ(1991)はこのように、日本語のテヤリ態には「アイロニー的用法」と「強い意志の表現用法」が存在すると述べているが、一方、以下の例のように、その境界線が曖昧な時があるとしている。

- (57) a. 「これだ。これでイノシシをしばってやろう。」…  
 b. … だれひとり、では、そのりゅうを見つけてやろう、などと、じょうだん 半分にも、いいだすものではありません。  
 c. …、私はありったけのぼろ屑を出して部屋にばらまいてやった。

(ibid:98-99、一部改変)

ファン スンファ(1991)は、(57)の各文を韓国語に翻訳するのは難しいと述べている<sup>113</sup>。

以上のことに加えて、ファン スンファ(1991)は「韓国語の寄與態の限界」について述べているが、以下の(58)で用いられている「倒してやる」、「たたきつけてやる」は、話者の一種の報復心理(うっぶんばらし)から来るものであって、この場合韓国語寄與態を使うことができないとしている。

<sup>112</sup> しかし、このような翻訳の問題で「一概に対応しない」とは言い切れない。強い意志を表す用法が反映された例も見られるからである。結局これは、韓国語における、強調と強い意志の境界線の曖昧さから引き起こされる現象であると考えられる。(53b)～(56b)の文に「～어 주다 eo juda」が付いても大して悪くはない理由はそのことに起因する。

<sup>113</sup> ファン スンファ(1991)は、このような例をどう翻訳するかを韓国人に尋ねると、きっと判断のゆれが見られると予想し、翻訳できるといっても、「強い意志」というよりは「アイロニー的用法」と理解しているのだと述べている。



(58) a. 痛かったから勘太郎を垣根へ押しつけて置いて、足搦をかけて向へ倒して  
やった。

b. あんまり腹が立ったから、手にあった飛車を眉間へたたきつけてやった。

#### 4.2.2.2.2 恩恵を与えるためにする動作ではないシテクレ態

ファン スンファ(1991)は、「恩恵を与えるためにする動作ではないシテクレ態」にも「アイロニー的な用法」と「強い意志を表す用法」の用法が存在するとしている。

まず、「アイロニー的な用法」である。以下の例を見られたい。

(59) a. 持主は柵の横木を隔てて、その鼻面を撫でてみたり、咽喉の下を摩ってやったりして、「わりや (汝は) 飛んでもねえことを為てくれたなあ」

b. …「너는 엉뚱한 일을 했다 (haessda)」

(おまえは とんでもない ことを した)

(60) a. 「…僕が欧州ミッションの出張中に起こった田淵幹事長の件だが、不見識なことをしてくれたものだねえ」

b. 「…내가 유럽출장중에 일어난 다부치 간사장의 건인데 상식에 어긋나는 일을 했군 (haessgun) 그래.」

(僕が 欧州出張中に 起こった 田淵 幹事長の 件だが、常識に そぐわない ことを した ものだね)

ファン スンファ(1991)自身は、(59)および(60)の例が「アイロニー的な用法」であって、なぜ韓国語とは対応していないかについて疑問を抱いている。最終的には、「とんでもねえことをしてくれたなあ」や「怒ってくれてはいけない」「考えのないことをしてくれてはいけない」という文が表面的には「アイロニー的な用法」に見えるが、実際は一種の「強い意志」ではないかと主張している。また、「とんでもねえことをしてくれたなあ」「怒ってくれてはいけない」「考えのないことをしてくれてはいけないのよ」などの下線部は、意志を表すための特殊なムード表現であり、そのようなムードの形式が加えられて一種の強い意志を表現していると述べている<sup>114</sup>。

この他にも、(61)～(63)のような「客観的なことを評価するテクレ態」と(64)のような「儀礼的に使用されるテクレ態」を挙げている。

(61) 山田君が病気で欠席してくれて、ちょうど人数が 9 人になって、うまくいった。

(62) a. 「暫くだね、兵頭君、今、帰り？」 「ええ、接待の相手が、急に風邪で寝込

<sup>114</sup> しかし、これらの文における「意志」とは誰の「意志」なのかが問題になる。つまり、「くれる」は普通「無意志動詞」であり、それゆえ、誘いかける形(\*くれよう)、マイ形(\*くれるまい)や疑問形(\*くれるか)などができない(堀口 1987 参照)。テヤリ態では、「与え手/話し手」の意志で何らかの働きかけをするということが想定できるが、「テクレル」文における「意志」を主語から求められるかどうかポイントになると思う。

んでくれたので、このところ続いている宴会も今夜はなく、…」

- b. 「어, 효도 군, 지금 나가나?」「네, 접대 상대가 갑자기 감기에 걸려 누워 버린(nu-wobeolin) 덕분에 요즘 늘 계속되던 연회도 오늘 밤은 없어서, …」  
(兵頭君、今、帰り?) (ええ、接待の相手が急に風邪を引いて寝込んでしまった) おかげで、このところ続いている宴会も今夜は なく…)

- (63) a. …、ただ殿さまが、別にどうしようとも思わず毎日松の木のでっぺんをあぼんと眺めていてくれたからというだけのことである。  
b. …、단지 전하께서 뭘 어떻게 하려고도 생각지 않고 매일 소나무 꼭대기를 멍청히 바라보고 있었기 때문이라는 것 뿐입니다.

balabogo iss-eossgi

(ただ 殿様が 別に どうしようとも 思わず 毎日 松の木の てっぺんを あぼんと 眺めていた から という だけの ことである)

- (64) a. 「君、今日ぼくの留守に来てくれたんだってね。何か用事だった?」  
b. 「자네가 오늘 내가 없을 때 집에 왔더라고요(wassdeolago-yo)? …?」  
(君が、 今日 僕が いない時に 家に 来たってね)

(ibid:103-107、一部改変)

しかし、ここで言う、「客観的なこと」というのは、(61)の「山田が病気で欠席した」こと、(62)の「風邪で寝込んだ」こと、(63)の「毎日松の木のでっぺんをあぼんと眺めていた」ことに他ならない。その客観的なことに「てくれる」がついて、(61)では「人数が余るところだった」状況が「ちょうど 9 人になって」話し手側にとって好都合となり、(62)では、「接待の相手が急に風邪で寝込んだ」おかげで、溜まっていた仕事のできたのである。(63)はむしろファン スンファ(1991)が言うアイロニー的用法に属するもので、殿さまが「別にどうしようとも思わず毎日松の木のでっぺんをあぼんと眺めていた」せいであることを反語的に表わした文であると考えられる。(64)は、留守中に「君」が話し手の家に訪ねてきたことに対して、「わざわざ来てくれたのに留守だったことに対する申し訳ない気持ち」と尋ねてきた理由はともかく「わざわざ家まで来てくれたことに対するありがたい気持ち」が合わさって「来てくれたんだってね」という発言しているのだと考えられる。

#### 4.2.2.2.3 授受動詞と寄與態

ファン スンファ(1991)は、動詞の中には例えば「与える」、「捧げる」などの「授受動詞」というグループがあって、日本語は、このような「授受動詞」に寄與態が使用されることができると、韓国語は使用できないと述べている。

- (65) a. 主人は事もなげに「君に捧げてやろうか」と聴くと……。  
b. 주인은 어렵지 않다는 듯 「자네에게 바칠까(bachilkka)?」 하니까…….  
(主人は 難しく なさそうに 「君に 捧げようか」 したら)

- (66) a. 私に踏切る力を与えてくれたのは柏木だと思つと、…。  
 b. 나에게 내디딜 힘을 준 것은 (jun geos-eun) 카시와기라고 생각하니…。  
 (私に 踏切る 力を 与えてくれたのは 柏木だと思つと)

(ファン スンファ 1991: 108 一部改変)

この外にも「書く」や「誘う」「売る」「教育する」などの動詞の例を挙げ、韓国語においては、これらの動詞に寄與態を使うことができないと主張している。

- (67) a. 校長は狸、教頭は赤シャツ、英語の教師はうらなり、数学は山嵐、画学は  
 だいこ、今に色々なことを書いてやる。  
 b. … 교장은 너구리, 교감은 빨강셔츠, 영어 교사는 막물, 수학은 멧돼지,  
 미술은 엉터리 어릿광대, 이제 더 자세히 써 보내리다 (sseo bonaelida).  
 (校長は 狸、 教頭は 赤シャツ、 英語の教師は うらなり、 数学は 猪、  
 画学は だいこ、 今に もっと 仔細に 書いて 送る)

- (68) a. こんなことを清に書いてやったら定めて驚くだろう。  
 b. 이런 일을 기요한테 적어보내면 (jeog-eobonaemyeon) 필시 놀랄 것이다.  
 (こんな ことを 清に 書いて 送ったら 定めて 驚くだろう)  
 (ibid: 109 一部改変)

ファンによると、「まだおさないせいか、手紙をかけないというので、代わりに私が書いてやった」のように、「『手紙を書く相手』とその手紙を書く動作によって恩恵を受ける人物が異なる場合」は「써(적어)주다 sseo(jeog-eo)juda(書いてやる)」が使用できるようである。

- (69) a. …. ここにお座敷があつたからいいようなものの、お友だちが帰りにお湯へ  
 でも誘ってくれて、私が家にいなかったから、あんまりだわ。  
 b. … 좌성이 여기서 벌어진니까 망정이지 동무가 돌아가다가 목욕이라도  
가자고(gajago) 집에 왔다가 제가 없으면 미안하잖아요?  
 (お座敷が ここに あつたから いいようなものの、 友達が 帰りに 銭湯でも  
行こうと 家に 来て 私が いなかったら すまないじゃない ですか)
- (70) a. …. 肉を切り売りしてやる。欲しければどこでも買え。耳でも、鼻でも、乳  
 でも、股でも、どこでも売ってやる。  
 b. … 원한다면 어디든지 사란 말이다. 귀든지, 코든지, 젖이든지, 넙적다리  
 든지, 어디든지 떼어 팔겠다 (palgessda).

(ほしければ どこでも 買えってことだ。 耳でも 鼻でも 乳でも 股でも  
 どこでも 切つて 売ろう)

- (71) a. ですから最初の私の計画は、とにかくこの児を引き取つて世話をしてやろう。  
 そして望みがありそうなら、大いに教育してやつて、…。

- b. 그래서 최초의 나의 계획은, 어쨌든 이 소녀를 데려다가 길러보자(gilleoboja).  
그리고 가능성이 보인다면 공부를(gongbuleul) 많이 시켜서(sikyeoseo) …..

(ですから 最初の 私の 計画は とにかく この 少女を 連れて 行って 育てて みよう  
そして 可能性が 見えるなら 勉強を 大いに させて)

(ibid: 113-115 一部改変、二重下線筆者)

ファン(1991)は、(69a)に用いられている「誘う」は直接対応する動詞がない理由で寄與態を使うことができず、また(70a)の「売る」、(71a)の「教育する」は、「팔다 palda」と「교육하다 gyo-yughada」という対応する動詞があるにも関わらず、寄與態を使用することはできないと述べている。しかし、(69a)は「誘う」という動詞の問題ではないと考えられるし、(70)においても「教育する」に対応する「교육하다 gyo-yughada」や(71)の「売る」に対応する「팔다 palda」という動詞に限られるとはとても思えない。まず(69)においては、日本語の「お湯へでも誘った」の文自体が翻訳しにくいし、(70)においても、二重下線の「世話をしてやろう」を見て分かるように、「話し手の強い意志・決心」を表す「테यर」の問題であって、個別の動詞の問題とは考えられない。(71)に関しては「팔아주겠다/주마/주리라 pal-ajugessda/juma/julila(売ってやる)」で表現しても別に差し支えはない。

#### 4.2.2.3 その他の研究

本節では、対照研究ではなく韓国語の「주다 juda」動詞を対象にした先行研究の中で、非恩惠的用法だけをまとめて紹介する。

##### 4.2.2.3.1バン ウンギョ(1994)

バン ウンギョ(1994)は「주다 juda」動詞の意味特性を「中心的意味」と「周边的意味」に分けて考察している。非恩惠的な用法は「周边的意味」に入るものであるが、その「周边的意味」をさらに「期待充足」「親近感」「強調」とに分類している。

[期待充足]

- (72) a. 아이는 마음뿐이지 몸이 따라 주지 않았다.

a-ineun ma-eumppun-iji mom-i ttala juji anh-assda

(子どもは 心だけで 体が 付いて くれなかった)

- b. 애기를 쉽게 순산해 주었다.

aegileul swibge sunsanhae ju-eosda

(赤ちゃんを 難なく 安産して くれた)

- c. 분재용 은행나무가 잘 자라 준다.

bunjae-yong eunhaengnamuga jal jala junda

(盆栽用の イチョウの木が よく 育ってくれる)

[親近感]

- (73) a. 오는 봄에 나무끝을 쓰다듬어 주는 작은 바람으로 돌아온다면  
 oneun bom-e namukkeut-eul sseudadeum-eo juneun jag-eun balam-eulo dol-a-ondamyeon  
 (来る春、木の端を 撫で下ろしてくれる 小さい 風で 帰ってくれば)
- b. 왜 생명을 덮어 주는 언어가 빙판위를 서성이는가  
 wae saengmyeong-eul deop-eo juneun eon-eoga bingpan-wileul seoseong-ineunga  
 (なぜ 命を 覆ってくれる 言語が 凍りついた 路面の上を 彷徨っているのか)
- c. 내가 그의 이름을 불러 주었을 때 그는 나에게로 와서 꽃이 되었다.  
 naega geu-ui ileum-eul bulleo ju-eoss-eul ttae geuneun na-egelo waso kkoch-i doe-eosdda  
 (私が 彼の 名を 呼んでやった時、彼は 私のところに来て 花になった)

[強調]

- (74) a. 한대 꽤 주니까 그제서야 자리를 내 주더군.  
 handae pae junikka geujeseo-ya jalileul nae judeogun  
 (一発 殴ってやったら、やっと 席を 譲ってくれたんだ)
- b. 오늘은 우리가 끓려 주자.  
 oneul-eun uliga golhlyeo juja  
 (今日は 俺たちが 苛めてやろう)
- c. 그 놈을 좀 두들겨 주었지.  
 geu nom-eul jom dudeulgyeo ju-eossji  
 (彼を ちょっと 殴りつけてやった んだ)
- d. 자네 그 여자를 또 괴롭혀 줄 작정인가?  
 jane geu yeojaleul tto goelobhyeo jul jagjeong-inga  
 (君、その 女を また 苛めてやる つもりなのか)

#### 4.2.2.3.2 ク ヒョンジョン(2003)

ク ヒョンジョン(2003)は補助動詞の「주다 juda」の基本的な意味的特性を「他人のために何かをする」ことであると設定している。その中には、「肯定的な恩恵」と「否定的な恩恵」が共存している(ク 2003: 10)。

- (75) a. 그는 직원들의 등을 두들겨 주었다<sup>115</sup>.  
 geuneun jig-wondeul-ui deung-eul dudeulgyeo ju-eosdda  
 (彼は 職員たちの 背中を 叩いてやった)
- b. 한국을 찾은 외국인에게 불편을 끼쳐 주게 된다.  
 hangug-eul chaj-eun oegug-in-ege bulpyeon-eul kkichyeo juge doenda

<sup>115</sup> 「두들겨 주다 dudeulgyeo juda」には「殴る」の意味と「激励する」の意味とがある。

(韓國を 訪ねた 外国人に 不便を かけて やる ことになる)

それに加えて、「恩恵」の意味が薄くなるかなくなり、「影響」の意味だけが残る以下のような例を「強調用法」と呼んでいる。

- (76) a. 나는 그 뒤통수를 갈겨 주고 싶은 충동을 겨우 참았다.  
naneun geu dwitongsuleul galgyeo jugo sip-eun chungdong-eul gyeo-u cham-assda  
(私は 彼の 後頭部を ひっぱたいて やりたい 衝動を 辛うじて 堪えた)
- b. 네놈의 머리통을 박살내 주겠다.  
nenom-ui meolitong-eul bagsalnae jugessda  
(おまえの 頭を 打ち砕いて やる)

#### 4.2.2.3.3 호 그ァンス(2007)

호 그ァンス(2007)は「「주다 juda」の意味—機能的變化」の中で、談話論的な考察を行っている。彼女は談話上の「주다 juda」の意味を以下のように分類している。

[奉仕]

- (77) a. 그가 나에게 책을 읽어 주었다.  
geuga na-ege chaeg-eul ilg-eo ju-eosssda  
(彼が 私に 本を 読んでくれた)
- b. 누가 너 같은 여자를 데려가 주겠니?  
nuga neo gat-eun yeojaleul delyeoga jugessni  
(誰が おまえ みたいな 女を 連れて行って くれる だろうか)

[期待に沿うこと]

- (78) a. 마침 바람이 불어 주었다.  
machim balam-i bul-eo ju-eosssda  
(ちょうど、風が 吹いてくれた)
- b. 좀처럼 마음만 앞서지 몸이 제대로 따라주질 않는다.  
jomcheoleom ma-eumman apseoji mom-i jedaelo ttalaju-jil anhneunda  
(なかなか 心だけが 先立って、体が ろくに ついてくれを しない)
- c. 부모 없이도 잘 자라주어 대견하다. (bumo eobs-ido jal jalaju-eo daegyeonhada)  
(親が いなくても よく 育てて くれて 感心だ)

[強調]

- (79) a. 맛이 끝내 준다. (lit. \*味が 終らせて くれる (味がうまい) )  
mas-i kkeutnae junda
- b. 경치가 죽여주던데. (lit. \*景色が 殺して くれる (景色がすごい) )  
gyeongchiga jug-yeojudeonde

- c. 내가 그 놈을 죽도록 꽤 주었지.  
 naega geu nom-eul jugdolog pae ju-eossji  
 (俺が あいつを 死ぬまで 叩き潰して やった んだ)

[対面調節<sup>116</sup>]

- (80) a. 내가 좀 도와 줄까?(naega jom do-wajulkka)  
 (私が 少し 手伝って やろうか)
- b. 힘들겠다. 설거지 내가 해 줄게.  
 himdeulgessda. seolgeoji naega hae julge  
 (大変だね。 後片付け 私がしてやる)
- c. 혼자 가면 위험할텐데 내가 같이 가 줄까?  
 honja gamyeon wiheomhaltende naega gat-i ga julkka  
 (一人で 行くと 危ないから、 私が 一緒に 行って あげようか)

#### 4.2.2.3.4 Mok Jyonsu(睦正洙)(2008)

Mok Jyonsu(2008)は、「補助動詞「~어 주다 eo juda」の統語的特性と機能の中で、一般的な「~어 주다 eo juda」構文は、「-zero、-을/를(を)、-에게(に)、-을/를 위하여(のために)」という名詞句を伴うのであるが、以下のように、そうでない例文を見かけると述べている。この用法は、井島(1999)のいう「テヤル」の「配慮・気配り」用法や、本章でいう「説明言語 (instructional language) (p. 166 を参照)」に類似している。

- (81) a. 그 실리카겔이 습기를 뽑아 주는 거죠?(ppob-a juneun geojyo)  
 (その シリカゲルが 湿気を 取ってくれる のですね)
- b. 어느 정도 달여 줘야 (dal-yeo jwo-ya) 되는 거예요. 몽글하게요?  
 (どれくらい 煎じ詰めて やれば いいですか。…)
- c. 이걸 넣으면은 냄새를 없애 준다(eobs-ae junda) 그러니까 될 수 있으면 구하  
 셔가지고 넣으면은 향긋하게 또 냄새를 없애 주니까 참 좋을 것 같네요.  
 (これを 入れると 臭いを なくしてくれる だから できる 限り 手に入れて  
 入れると 香ばしく、また 臭いを なくしてくれる から すごく よさ そうですね)
- d. 자 이젠 이 밥을 골고루 섞어주면 되는데 아저씨가 한번 섞어보세요.  
 seokk-eojumyeon  
 (では、次は この ご飯を 満遍なく 混ぜて やると いいが、おじさんが 一度 混ぜて  
 みて ください)

<sup>116</sup> 「対面調節」に関してホ グァンス(2007)は次のように説明している。

補助動詞「주다 juda」の「対面調節」の機能は、本動詞の行為が「恩恵」になるだろうという判断でやったことが、もしかすると否定的な結果に繋がるのではないかということに対する話し手の心理的態度を指す(ホ グァンス 2007:229-230、訳文は筆者による)。

### 4.2.3 4.2 節のまとめ

4.2 節では、いわゆる非恩恵的な「テヤル・テクレル」と「~어 주다 eo juda」の先行研究を概観した。まず、日本語に関する研究としては、松下(1930)、豊田(1974)、山田(2004)の内容を紹介した。松下(1930)は、授受表現の視点と行為、利益に関連して「自行他利態」「自行自利態」「他行他利態」「自行自利的他行自利態」などに分類している。豊田(1974)は「『やりもらい』の補助動詞はそのもとになる動詞の動作がだれの利益のために行われるかをあらわすものである」とし、この「やりもらい」の補助動詞を伴うことによって表現されるものがどこまで広がっていくかについて、「やりもらい」の基本的用法、意志を表す補助動詞「やる」、方向を表す補助動詞「やる」という項目を立てて説明している。最後に、山田(2004)は「テヤル」と「テクレル」の非恩恵用法を分類している。「テヤル」については「受影者の存在する型」と「受影者の存在しない型」とにわけて分類を行っており、「テクレル」については、まず「遠心的なテクレル」と「求心的なテクレル」とにわけて考察を行い、さらに、「求心的なテクレル」を「非恩恵明示型テクレル文」と「非恩恵暗示型テクレル文」とに分けて説明している。

次は、韓国語（もしくは日本語との対照）についての研究である。イム パルヨン(1980) スンファは、「~어[아]주다 eo[a]juda」と「~てやる/てくれる」には、実際の物の移動が伴う場合と、実際の物の移動とは無関係に行為だけの移動を表わす場合があるとし、「~てやる/てくれる」の「自己の意志の顕示・強調」または、「実際、話し手とは無関係の一方向的な主観的表現」と言われる後者の場合の日・韓の対応関係について述べている。ファン スンファ(1991)は、日・韓両言語における寄與態の対応関係を考察することによって、文法的なカテゴリーとしての寄與態の本質を明らかにすると同時に日本語の寄與態の特殊性を究明しようとしている。彼女は「恩恵を与えるためにする動作ではないテヤリ態・テクレ態」の用法である「アイロニー」と「強い意志」用法が、韓国語とどう対応しているかについて述べている。その他の韓国語の研究として、バン ウンギョ(1994)、ク ヒョンジョン(2003)、ホ クァンス(2007)、モク ジョンス(2008)を紹介した。バン ウンギョ(1994)は、補助動詞の「주다 juda」動詞の意味特性を「中心的意味」と「周辺的意味」に分け、非恩恵的な用法は「周辺的意味」に入るものであると述べている。その「周辺的意味」をさらに「期待充足」「親近感」「強調」とに分類している。ク ヒョンジョン(2003)は、補助動詞の「주다 juda」の基本的な意味的特性を「他人のために何かをする」ことであると設定している。その中には、「肯定的な恩恵」と「否定的な恩恵」が共存している。ホ クァンス(2007)は、「주다 juda」の意味機能を「奉仕」「期待に沿うこと」「強調」「対面調節」に分類し、それぞれについての談話的な分析を行っている。モク ジョンス(2011)は、一般に「-zero、-을/를(を)、-에게(に)、-을/를 위하여(のために)」という名詞句を伴う「~어 주다 eo juda」構文に対して、そうではない例文を提示している。



### 4.3 与え手 [話し手] に関わる非恩恵用法

4.2 節で概観した先行研究では、主に「テヤル」と「テクレル」を個別的な用法で分類している。「テヤル」と「テクレル」の出来事の方角の違いから見ると、そのような分類法は自然な方法であるとは思われるが、本章では(4.3 節、4.4 節)、「テヤル」と「テクレル」の分類よりも、「与え手 [話し手] に関わる用法」と「受け手 [聞き手] に関わる用法」という分類に焦点を当てている。そうすることによって、誰の利益(不利益)になるかが容易に把握できるし、「テヤル」と「テクレル」の区別のない韓国語の「~어 주다 eo juda」との比較の観点から見ても有意義な方法であると考えられる。

まず、「与え手 [話し手] に関わる非恩恵用法」であるが、具体的に「強い意志」「否定の命令形」「非難の意を表す用法」を表わす文を中心に見ていく。

#### 4.3.1 強い意志

「テヤル/テクレル」と「~어 주다 eo juda」文における「強い意志」を表わす文とは、以下のような文を指す。先行研究では、(82)のように、韓国語は日本語の「強い意志」を表す用法を持たないと主張されている。

- (82) a. えらくなってやる! (山田 2011: 10)  
b. \*홀륭해지게 준다. (hullyunghaejige junda)

山田(2011)は、(82)の例を挙げ、日本語と韓国語の対応関係を提示している。彼は、「韓国語においては、juda は恩恵を表わし、『えらくなってやる!』の意味で juda を用いることはできない」と述べている。しかし、(82b)の文に用いられた「주다 juda」は「준다 junda」という単純現在形で用いられている。日本語の文(82a)における「ヤル」が現在を表わすのではなく、未来のことに対する強い意志を表出していることを考えれば、韓国語もそれに相応する語形に変化させる必要があると思われる。それに、「주다 juda」自体には「意図や意志」が強くは入っていないので、「意図や意志」を表わす接辞をつけて表現しなければならない。次の(83)は、(82b)にそれぞれ「-마 ma<sup>117</sup>」と「-겠-gess<sup>118</sup>」を

117 終声のない動詞の語幹について目下の者に進んでするという意志を表わす終結語尾…してやる、しよう(エッセンス辞典、民衆書林)。

i) 오후에 가마. (午後行く) / 내가 뒤에서 밀마. (僕が後ろで押す)  
ohu-e gama naega dwi-eseo milma (標準国語大辞典)

118 i) 未来のことや予測を表わす。ii) 話者の意志を表わす。

i) 지금 떠나면 새벽에 도착하겠구나. (今 出発すると 明け方に 着くだろうな) →予測  
jigeum tteonamyeon saebyeog-e dochaghagessgona

ii) 이 정도의 고통은 내 힘으로 이겨 내겠다.

i jeongdo-ui gotong-eun nae him-eulo igyeo naegessda

(これ くらいの 苦痛は 自分の 力で 乗り越えよう) →意志

(標準国語大辞典)

つけて表現したものであるが、いずれも正文になっている。

(83) 훌륭한 사람이 되어 주마 (되겠다).

hullyunghan salam-i doe-eo juma doegessda

(えらい 人に なってやる)

次に、ファンスンファ(1991)が出した例について見てみよう。

(84) a. 落ち着いて、今度こそは必要なことをすっかり、女から聞き出してやろう。

b. …, 이번만은 꼭 필요한 말을 죄다 여인한테서 들어 뒤야지 (deul-eo dwo-yaji).

(今度こそ 必ず必要な 言葉を すっかり 女から 聞きだして おこう) (= (54))

(85) a. 己はどうしても引き返してやるから!

b. …, 나는 어떻게 해서든지 다시 나오미를 데려오고야 말 테다!

delyeo-ogo-ya mal teda (= (55))

(俺は どう して でも 再び なおみを 連れて くるぞ)

ファンスンファ(1991)は、(84)の「聞き出してやろう」が「들어 뒤야지 deul-eo dwo-yaji (聞いておこう)」に、(85)の「引き返してやるから」が「데려오고야 말 테다 delyeo-ogo-ya mal teda! (引き返すから)」に翻訳されていることを理由に、韓国語には強い意志を表わす用法がないと主張している。ところが、(84)を「캐물어서 알아내 줘야지 kaemul-oseo al-anae jwo-yaji (聞き出してやろう)」に、(85)を「데려와 주고야 말 테다 delyeo-wa jugo-ya mal teda」のように、「~어 주다 juda」をつけて表現することも十分可能である。以下、日本語と韓国語における「強い意志」用法が対応している例を出しておく。

(86) a. 今度こそ試験に合格してやる。 (部田 2011: 16)

b. 이번이야 말로 시험에 합격해 주겠다[주마] (habgyeoghae jugessda[juma]).

(今度こそ 試験に 合格して やる)

(87) a. 勝手の方から廻って直接祖母の部屋に行ってやろうかしらとかん

がえた。 (豊田 1974: 85)

b. 부엌 쪽으로 돌아 직접 할머니 방으로 가 줄까 (ga julkka)도 생각했다.

(勝手の法から 廻って直接 祖母の 部屋に 行って やろう と思った)

(88) a. ぼくは、ボロージャよりも、もっと高く登ってやるぞ。 (豊田 1974: 85)

b. 나는, 보로자보다도 더 높이 올라가 줄 거야(줄 테야<sup>119</sup>).

ollaga jul geoda (jul te-ya)

(僕は ボロージャより もっと 高く 登って やるぞ)

119 ((語尾、「~을/를 eul/leul(を)」の後ろに用いられて))「予定」「推測」「意志」の意味を表わす(標準国語大辞典)。

- (89) a. 畜生、この仇はきつととってやる。(豊田 1974: 87)  
 b. 제기랄, 이 원수는 반드시 갚아 주겠다(gap-a jugessda).  
 (畜生 この仇は 必ず 返してやる)
- (90) a. 「そんなにあたしが邪魔なら死んでやる!」 《理由 599》  
 b. “그렇게 꼴 보기가 싫으면 내가 죽어 주마(jug-eo juma)!” 《이유 583》  
 (そんなに 面 見たく なかったら 私が 死んでやる)
- (91) a. …。いつかは見返してやる、という思いを消さないためだった。…  
 あの男にも歯が立たない事件を起こしてやる。 《ガリレオ 373》  
 b. …。언젠가는 복수해 주마(bogsuhae juma), 라는 생각을…。  
 그 놈이 감당할 수 없는 사건을 일으켜 주리라<sup>120</sup>(il-eukyeo julila).  
 (いつかは 復讐してやる という思いを…  
 あの男が 堪えられない 事件を 起こしてやる)
- (92) a. いい加減になんとかしてくれ。でないと、ここでぶっ倒れてやる。  
 《ピクニック 211》  
 b. 적당히 좀 하라고. 그렇지 않으면 여기서 꽂 쓰러져줄 거야.  
 sseuleojyeojul geo-ya 《피크닉 226》  
 (適当に 少し しろってば。でないと ここで ぶっ倒れてやる)

(86)～(92)の各文は、日本語の「テヤル」の「強い意志」を表わす用法に韓国語の「～어 주다 eo juda」が対応していることを示している。

以上、「テヤル」の非恩恵用法の一つである、「強い意志」を表わす用法と、「～어 주다 eo juda」との対応関係について検討した。先行研究からの指摘とは違って、多くの場合「テヤル」に「～어 주다 eo juda」が対応していることが確認できた。ただし、ここで注目すべきことがある。それは、「テヤル」は語形変化(テヤロウ)や接辞の添加などに依存しないで、「テヤル」だけで非恩恵的意味の一つの強い意志が表わせる半面、韓国語の「～어 주다 eo juda」は、何もついていないニュートラルな形では、強い意志を表わすことはできないということである。強い意志を表わすためには、(86b)(89b)のように「-겠 gess-」のような未来の推測や意志を表わす接辞をつけるか、「-마 ma((84)(86b)(90b)(91b))」「-테다 teda((88b))」「-으리라 lila ((91b))」「ㄷ 거야 1 geo-ya ((88b)(92b))」のような、意志を表わす語形に変化させなければならないということを指摘しておきたい。

#### 4.3.2 否定の命令形

否定の命令を表わす「～動詞+な」は、韓国語の「動詞+지 마 jima<sup>121</sup>」に相当するも

<sup>120</sup> 으리라 : 「ㄷ」以外の終声のある語幹について、推量、未来の意志を表わす終結語尾 ; …(する)だろう (エッセンス日韓辞典、民衆書林)。

ので、例えば以下のように対応している。

- (93) a. 行くな/来るな/笑うな/泣くな… (自動詞類)  
b. するな/作るな/壊すな/させるな… (他動詞類)
- (94) 가지 마/오지 마/웃지 마/울지 마…  
gaji ma /oji ma /usji ma /ulji ma
- (95) 하지 마/만들지 마/ 부수지 마/ 시키지 마  
haji ma /mandeulji ma/ busuji ma/ sikiji ma

(93)の日本語と(94)(95)の韓国語の各文は自動詞から他動詞まで幅広い対応関係を見せている。それでは、「テクレル」と「~어 주다 eo juda」の場合はどうなるであろうか。本節では「否定の命令形」の場合の対応関係を考察する。「否定の命令」を表わす方法としては、たとえば、「言わないでくれ」と「言ってくれるな」という二つの方法があると言われているが、ここでは、後者の「~てくれるな」だけを対象にして見ていくことにする。次の例を見られたい。

- (96) a. 互いに声を張り上げての非難の応酬の結果、二度とうちには来てくれるな  
という静子の罵声に送られ、貴子は小糸家を飛び出した。 《理由 80》
- b. … 다시는 우리 집에 오지말라는 시즈코의 악담에 떠밀려 다카코는  
고이토의 집을 뛰쳐나왔다. oji malla 《이유 79》  
(二度と うちに 来るな という 静子の 罵声に 送られ 貴子は  
小糸の 家を 飛び出した)
- (97) a. 「いいところに気がつきましたね。さすが、今西さんですよ」  
「まあ、そう言ってくれるな」 《砂 389》
- b. “그렇게 말하지 마(geuleohge malhaji ma).” 《모래 495》  
(そう 言うな)
- (98) a. まじ、ヤバイ感じだ。やめてくれよ、そんな目をしてくれるなよと言いたく  
なった。 《ウツボカヅラの夢 234》
- b. … 그만해, 그런 눈으로 보지마(geuleon nun-eulo bojima), 라고 말하고 싶었다.  
(やめろ そんな 目で 見るな と 言いたかった)
- (99) a. けれど、そんじょそこらの二十八歳とは違う。一緒にしてくれるな。  
《肩ごしの恋人 232》
- b. … 그들과 똑 같은 취급하지 마라(ttog gat-eun chwigeubhaji mala) .  
(彼らと 一緒の 扱いをするな)
- (100) a. わざわざ来ておいて、「かまってくれるな」というのも失礼な話だ。

121 ((動詞の後ろで「-지 말다 ji malda」の形で))先行動詞が意味する行動をさせないようにする(標準国語大辞典)、否定命令を表わす。

- b. 원해서 와 놓고서는 “상관하지 마 (sanggwanhaji ma).” 라고 말하는 것은 무슨 경우인가.

(わざわざ 来て おいては「かまうな」 というのは 何の 場合だ)

(96)～(100)の各文は、「テクレル」と「～어 주다 eo juda」の否定の命令用法における対応関係を表わしているが、(96a)～(100a)の日本語文においては「テクレル」が用いられているのに対し、(96b)～(100b)の韓国語文には「テクレル」に相当する「～어 주다 eo juda」が用いられていない。もっとも、日本語の場合も「～てくれるな」という表現は、やや古い表現と認識されていて、その代わりに「～ないでくれ」の方が好まれてはいるものの、小説の会話文や地の文などには依然として用いられている表現である。

それでは、なぜ「テクレル」の否定命令形が韓国語の「～아/어 주지마 a/eo jujima」とは対応しないのであろうか。基本的には「～어 주다 eo juda」は「利益」を表わし、その利益には「+利益」の場合と「-利益」の場合がある。「+利益」は字義通りに何かを「あげたり、もらったりする」こと、また何かの行動を「してやったり、してもらったり」することで発生する「利益」を指し、「-利益」とはよくない（もしくは、好ましくない）影響を指す。しかし「+利益」と「-利益」の対比は、話し手（与え手）から離れていく遠心的な行動（「テヤル」と似ている）にだけ当てはまるもので、話し手（与え手）に向かってくる求心的な行動（「テクレル」と似ている）に関しては当てはまらず、「-利益」を表わすことはできない。これは、次節の「非難の意を表わす」用法が韓国語には一般的には存在しないことにもつながっていると考えられる。

### 4.3.3 非難の意を表わす用法

#### 4.3.3.1 非難の意を表わす用法

「話し手（与え手）に関わる非恩恵用法」の三つ目としては、「テクレル」の「非難の意を表わす用法」が挙げられる<sup>122</sup>。まず、次の例を見てみよう。

- (101) a. 「それにしても、なんて間の悪いときに間の悪いことをしてくれるんだと、冷や汗が出るような思いでした」 《理由 44》  
 b. …, 하필 그 시간에 그런 못된 짓을 한달 (geuleon mosdoen jis-eul handam), … (よりによって その時に そんな悪いことをするんだ) 《이유 43》
- (102) a. 先ほど、あのバカ教師、寺田がやってきました。そして、とんでもないことをしてくれました。玄関先で、ご近所中に響き渡るような大きな声で、直樹

<sup>122</sup> ファン スンファ(1991)は、これを「アイロニー的用法」として分類しているが、ファン スンファ(1991)の(59)～(64) (p. 147～148)の文は、普通の意味のアイロニー的用法には当てはまらないと思われるので、「非難の意を表わす用法」という別の用語を使うことにする。

- が学校に行っていないことを言いふらしてくれたのです。 《告白 162》
- b. 방금 전, 그 멍청한 교사 데라다가 찾아왔습니다. 그리고 말도 안 되는 짓을 했습니다(maldo an doeneun jis-eul haess-seubnida). 현관 앞에서 이웃에 전부 들릴 만큼 큰 소리로 나오기가 학교에 가지 않고 있다는 사실을 떠벌린 짓입니다(tteobeollin geos-ibnida). 《고백 145》
- (先ほど、あの 馬鹿な 教師 寺だが 訪ねて きました。そして 話に ならない こと を しました。 玄関の 前で 隣りに 全部 聞こえる ほどの 大きな 声で 直樹が 学校に 行かずに いる ことを いいふらした のです)
- (103) a. 「この餓鬼が、ようも舐めた真似さらしてくれたな!」 《硝子 399》
- b. “이 새끼가 감히 나를 깔봐(i saekkiga gamhi naleul kkalbwa)!” 《유리망치 315》  
(この 餓鬼が よくも 俺を なめたな)
- (104) a. 「これから人と会うと言ってなかったか」  
「覚えてたの?それでも、ブラウ스에 皺をつけてくれたのね」  
《ウェイト・オブ・ノット 90》
- b. … “기억하고 있었어? 그런데도, 블라우스에 주름을 지게 한 거고?”  
juleum-eul jige han geogo  
(憶えて いたの? それでも、ブラウ스에 皺を つけさせた のね)
- (105) a. 猪野オ。てめえ、ハッターかましてくれたな。… 《空中ブランコ 113》
- b. 猪野, 너 이놈, 나를 감쪽같이 속였군(sog-yeossgun).  
(狩野 てめえ, 俺を まんまと 騙したな)
- (106) a. 「編集の奴も困ったことをしてくれましたね。」 《空白の意匠 13》
- b. “편집장도 참 글치아픈 일을 저질렀군요(golchi-apeun il-eul jeojilleossgun-yo).”  
(編集長も 実に 困った こと를 しちゃいましたね)

(101a)～(106a)の各文は、非難の意を表わす用法である。これは日本語の「テクレル」の独特な用法で、迷惑な場면을非難する効果を持っているといえる。(101b)～(106b)で示されているように、韓国語にはこのような用法が存在しない。これについてのファン スンファ(1991)の説明が興味深い。

- (107) a. お前がいっしょけんめいにしようとしたことはわかるけど、結果的には飛んでもないことをしてくれたのよ。
- b. …, 결과적으로 엉뚱한 일 해 준(haejun) 거야.  
(結果的に とんでもない こと を してくれた のよ)  
(ファン スンファ 1991: 102、一部改変)

ファン スンファ(1991)は「このようなシテクレ態用法は、韓国語としては寄與態を使えない」と述べ、実際の文学作品にも「寄與態にはなっていない」例を挙げてはいるものの、



- b. そんな 些細な ことで自ら 電話まで して 下さるとは… 時間が 本当に  
たくさん あるようですね…
- (114) a. 하찮은 저까지 초대해 주시다니, 몸둘바를 모르겠네요 (chodaehae jusidani).  
b. つまらない 私まで ご招待 くださるとは、身の 置き所が わかりません。
- (115) a. “이거 위로의 말씀까지 해주시다니. …”  
wilo-ui malsseumkkaji haejusidani 《죽인소녀 241》  
b. 「気休めを 言ってくれる じゃないか。…」 《殺した少女 222》

(108)～(115)の各文は、韓国語におけるアイロニー的な非恩恵用法である。その例を見てみると、(108)が「お越しく下さるとは」、(109)が「お考え下さるとは」、(110)が「お任せくださるとは」、(111)が「気を使ってくださるとは」、(112)が「リプライして下さるとは」、(113)が「電話までして下さるとは」、(114)が「ご招待くださるとは」、最後に(115)が「慰めの言葉までして下さるとは」というふうに、普通の常識的な場面では、相手の行為に対する感謝の気持ちや畏まる感情を込めて発話する文である。しかし、韓国語の文脈はそうとは限らない。上記の(108)～(115)の各文は、相手の行為に対し、皮肉を込めて非難する気持ちまで入っている。しかも、丁寧な言葉遣いで、皮肉の意味が倍増する効果も含まれている。日本語にも(108b)～(114b)、(115a)のように、このような非恩恵的な用法は存在する。これらの表現が、前述の(101)～(107)の各文と違うところは、後者が、文の中にすでに皮肉の意味が入っている反面、前者には、表面的な文の意味では、そのような皮肉さを読み取ることができないという点である。すなわち、(101)～(107)の文中には、「悪いことをした(101)」「とんでもないことをした(102)」「ようも舐めた真似をした(103)」「(ブラウス)に皺をつけた(104)」「ハッターかました(105)」「困ったことをした(106)」のような迷惑や被害を表わす言葉が含まれている。それとは対照的に、(108)～(115)の文中には、それぞれ、「お越しく下さる(108)」「お考え下さる(109)」「お任せくださる(110)」「気を遣ってくださる(111)」「(コメントを)付けてくださる(112)」「お電話まで下さる(113)」「お招きくださる(114)」「慰めの言葉を施して下さる(115)」のような、普通の表現では、目上の人や偉い人物が何らかの恩恵を施してくれる場面で使われそうな意味をなしている。このような皮肉った表現は日・韓両言語に共通の非恩恵的な用法であるということが出来る。

以上、与え手〔話し手〕に関わる非恩恵的な用法について検討してきた。それを簡単にまとめると、次の表のようになる。



	日本語	韓国語
強い意志	✓	✓*
否定の命令形	✓	✗
非難の意を表わす用法	✓	✗
アイロニー的用法	✓	✓

表4 与え手[話し手]に関わる非恩恵用法における日本語と韓国語の対応関係

\*ただし、動詞に一定の接辞、または、終結語尾を付加する必要がある。

日本語では「強い意志」「否定の命令形」「非難の意を表わす用法」「アイロニー的用法」ともに成立するのに対し、韓国語においては、完全に日本語と対応しているのは「アイロニー的用法」のみで、「否定の命令形」や「非難の意を表わす用法」においては対応関係を見せていない。一方「強い意志」を表わす用法については、まず、意志を表わす接辞、例えば「-ㄹ-gess」などが入るか、終結語尾、例えば「-마 ma、-테다 teda、-리라 lila」などがついていない基本形では「強い意志」を表わすことができない。また、日本語の「テヤル」のように生産的に成立するのではなく、文脈などの語用論的な要因に影響されやすい点を持っていることが日本語との相違点であるといえることができる。

#### 4.4 受け手 [聞き手] に関わる非恩恵

本節では、受け手 [聞き手] に関わる非恩恵的用法について見ていく。その項目として「強調」「『テヤル』と『テクレル』の『配慮』」「説明言語 (instructional language)<sup>123</sup>」について検討する。

##### 4.4.1 強調

「テヤル」と「~어 주다 eo juda」の強調用法は、以下のように、日本語と韓国語とで共通する用法の一つである。韓国語においては、前述の「強い意志」用法と混同しやすいところが全くないとは言えないが(ファン スンファ 1991: 99)、「強い意志」用法は、「+利益」や「-利益」を受ける対象が存在しなくても良いのに対し、「強調」には、主に「-利益」を被る対象が存在するということが一つの特徴になる。もっとも、「強調」用法の「テヤル」や「~어 주다 eo juda」には、当然ながら「意志性」が入っているはずだから、広い意味では、「強い意志」用法の領域に属するといっても大きな間違いではないと考えられる。それでは、以下の例を通して、「テヤル」と「~어 주다 eo juda」の「強

<sup>123</sup> 説明言語(instructional language)とは、例えば、調理法やあるいは製品の使用説明書などで使われる、一定の文体を持った言語のことで Quirk et al. (1985)の「instructional writing」という用語がもとになっている。

調」用法を比べてみよう。

- (116) a. 結城、おまえの脳味噌を吹き飛ばしてやる！ 《殺した少女 321》  
b. 유키 네 머리통을 날려주마(nallyeojuma)! 《죽인소녀 349》  
(結城 おまえの 頭を 吹き飛ばして やる)
- (117) a. そうだ、あの馬鹿どもに仕返しをしてやろう。 《告白 272》  
b. 그렇다, 그 바보들에게 복수해주자(bogsuhaejuja). 《고백 242》  
(そうだ、あの 馬鹿どもに 復讐して やろう)
- (118) a. 邪魔しやがって、ここを覗きにきたことを後悔させてやる、… 《告白 246》  
b. …, 이 사이트를 보러 왔다는 걸 후회하게 해주마. …  
huhoeage haejuma 《고백 218》  
(この サイトを 見に 来た ことを 後悔させて やる)
- (119) a. 「暴力行為で必ず出場取り消しにしてやる」 《殺した少女 338》  
b. “폭력 행위로 시합 출장도 못하게 만들어주마.”  
sihab chuljangdo moshage mandeul-eojuma 《죽인소녀 368》  
(暴力 行為で 試合の 出場も できない ように して やる)

(116)～(119)の各文は、「テヤル」と「～어 주다 eo juda」が強調用法として用いられた文である。この用法の特徴としては、普通の「授受表現」では、概ね「二格名詞句」である「受け手（聞き手）」が「+利益」を受けるのに対し、「強調」用法では、「-利益」を受ける場合が多いということが挙げられる。その上、「-利益」を被る対象が文中に現れている場合が多い。例えば(116)では「結城」が、(117)では「馬鹿ども」が、(118)では「(そのサイトを覗いて多くの)人びと」が、(119)では「おまえ」がそれぞれ、「-利益」の受け手になっているのである。(116b)～(119b)の文で示されているように、韓国語の場合も日本語と同様の対応関係を見せている。

#### 4.4.2 「配慮・気配り<sup>124</sup>」と「事態改善のための条件<sup>125</sup>」

次は、「配慮・気配り」や「事態改善」を表わす非利益的な用法について見ていく。先行研究では、主に「テヤル」に対する「配慮・気配り」「事態改善」と呼ばれる表現だけが紹介されてきたが、本論文では、「テクレル」にもそのような用法が存在することを提示する。

<sup>124</sup> 「配慮・気配り」という用語は井島(1999)から借用したものである。

<sup>125</sup> 「事態改善」という用語は山田(2001、2009)の用語であるが、ここでは、「事態改善のための条件」という用語を使うことにする。

#### 4.4.2.1 「テヤル／テアゲル」と「～어 주다 eo juda」の配慮・気配り

##### 4.4.2.1.1 事態改善のための条件

山田 (2001: 96-97) は、条件文で用いられる「テヤル」を「事態改善」用法の「テヤル」と名づけ、何らかの事態の改善が示される点で恩恵的な用法に近い意味であるとし、この用法は基本的に条件節などに現れると述べ、以下のような例を出している。

- (120) a. (鼻腔)の空気の通り道がふさがれている場合には、通り道を作ってあげれば嗅覚がもどる。  
b. 安全な車を作ろうとすれば、車のつぶれる部分をどんどん増やしてやればよい。  
c. (電子レンジのエッジランナウェイという現象について)これをふせぐには、(料理の) 細かいところにアルミ箔をまいてやれば OK。  
d. 行動圏の面積に生息密度を掛けてやれば、行動圏内に何匹の同種の動物が住んでいるかを計算する式が作れる。

(120)の各文は、山田(2001)が主張している「事態改善」を表わす「テアゲル／テヤル」の用例を示した文である。山田(2001・2009)によると、「テヤル／テアゲル」がつくことによって、事態が改善する。このような「テヤル／テアゲル」が単に対人的配慮を表わす<sup>126</sup>、丁寧語あるいは丁寧語的な意味をもっているのであれば<sup>127</sup>、非意志的な自動詞や話し手を主語としない出来事全般に拡散されてもいい。しかし、(121)のように、実際にはそのような用例はあり得ないと述べている。

- (121) (中華粥作り)大地魚の豊かな味、ナツメのなまめかしい味と香り。  
全体を陳皮が引き締めて(\*引き締めてやって(あげて))力のある味  
わいに仕上げる。 (山田 2009: 41)

山田(2009)は、恩恵授与とは、有情の受益者の状態を改善することであり、その基本は事態改善用法と共通しているとし、異なるのは有情の受益者存在を想定しやすいか否かであると述べている。それでは、山田(2009)が主張している「事態改善」ということについて考えてみよう。字義通りに、「事態改善」というのはある「事態」が「好ましい方向に改善する」ということである。(120)の各例は、まさによくない状態から(もしくは今の状態より)いい状態になっていくのを示している。しかし、「事態改善」になる理由は必ずしも「テヤル・テアゲル」が用いられたからではない。(120)の各文から「テヤル・テアゲル」を省略しても、文の成立には何の影響も生じないし、しかも「事態改善」している。

<sup>126</sup> 井島(1999)における、「素材対象に対する配慮・気配り」を指す。

<sup>127</sup> 村田(1994)における、「乱暴な感じを避け、言葉の丁寧さをひたすら追求した表現」を指す。

(120a)から順番に見ると「通り道を作れば、嗅覚がよくなる」「車のつぶれる部分をどんどん増やせばよい(120b)」「(料理の)細かいところにアルミ箔をまけば OK(120c)」「行動圏の面積に生息密度を掛ければ、行動圏内に何匹の同種の動物が住んでいるかを計算する式が作れる(120d)」ということはもうすでに、事態改善の意味を漂わせている。これらの例文で、本当の意味での「事態改善」を表わすのは、「よくなる(120a)」「よい(120b)」「OK(120c)」、「…作れる(120d)」という主節であると考えられる。事態改善と呼ばれている従属節は、事態改善のための条件を表わしているのである。これは、次のような例を見るとはっきりすると思われる。

- (122) a. 「ははあ、なるほど。これは結構難しいな。ええと、これはまず  $x$  の二乗イコール  $t$  と置いて、 $t$  を  $x$  について微分してやるとどうなるかな——」  
b. 45 に 45 を足してやると 90 になるだろう？

(122a)の「微分してやる」、(122b)の「足してやる」という条件節自体は特に事態改善の意味を伴っているとは思われない。むしろ、従属節の行為の結果、文脈上問題になっている何らかの事態が改善に向かうことが含意されているだけである。

#### 4.4.2.1.2 instructional language (説明言語)

井島(1999: 32)は、本節で扱う「テヤル・テアゲル」の配慮・気配りの用法について次のように述べている。

近年、料理・手芸・ガーデニングなど、相対的に小さな対象を作ったり手入れをしたりするような場合に、テレビや週刊誌でしばしば目や耳にするのが、表題<sup>128</sup>に掲げたような「てあげる」または「てやる」である。眉をしかめて、何かをし「てあげる・てやる」相手は人間、少なくとも生物であって、モノに何かをし「てあげる・てやる」などということは言語道断だ、などと杓子定規に切って捨てる前に、このような表現が近年増えてきた経緯について考えてみたい。

井島(1999: 33)は、このような表現は、「人によってまったく用いない人、たまに用いる人、頻用する人」があり、「新しい言葉遣いに敏感な人が、他者に何ごとかを教えるような場面で、特に注意を喚起したいところに出てきやすい傾向がある」と述べ、以下のような例を出している。

- (123) a. 酢で濡らした ふきんで きれいに 拭いてやるといいんですよ。  
b. 식초를 뿌린 행주로 깨끗하게 닦아 주면(dakk-a jumyeon) 됩니다.

<sup>128</sup> 井島(1999)「魚は三枚におろしてあげます—<配慮・気配り>を表わすテヤル・テクレル—」『日本語学』18-12

- (124) a. (指を) こう ぐっと ほぐしてあげてください。 いいです)  
 b. (손을) 이렇게 꼭 눌러 풀어 주세요 (pul-eo juse-yo).  
 ((手を) こう ぐっと 押して ほぐして ください)
- (125) a. 鮭は 三枚におろし、骨を 抜いてやります。  
 b. 연어는 삼등분 하여 뼈를 발라 줍니다 (balla jubnida).  
 (鮭は 三等分 して 骨を 抜いて やります)

(123)～(125)の文は、「テヤル／テアゲル」を使わなくても成立する。井島(1999)は、「テヤル／アゲル」を用いた場合と用いていない場合とをあえて比べてみると、素材対象に対する<配慮>、<気配り>の細やかさが感じられ、いかにも丁寧な仕事をしているという印象があると述べている。このような例は、料理番組や通販、日曜大工、園芸などで、不特定多数の人のために一種の美化語として用いられると考えられる。本研究のアンケートからは、「テヤル／テアゲル」がないと直接的な感じがし、「テヤル／テアゲル」を用いることによって、迂言的な(間接的な)ニュアンスが生じ、かつ丁寧な感じが与えられるという意見も得られた。

一方、韓国語においては、直接言及された例は少ないが、実生活では難なく見つけることができる。

- (126) a. どれくらい 煎じ詰めてやればいいですか。べつとりとなるまでですか?  
 b. 어느 정도 달여 쥐야 (dal-yeo jwo-ya) 되는 거예요. 몽글하게요?  
 (127) a. では、この ご飯を 満遍なく 混ぜてやるといいですが…  
 b. 자 이젠 이 밥을 골고루 섞어주면 되는데…

seokk-eojumyeon (モク ジョンス 2008: 81)

モク ジョンス(2008: 81)は、補助動詞「～어 주다 eo juda」の統語的特性と機能の中で、一般的な「～어 주다 eo juda」構文においては、「-zero、-을/를(を)、-에게(に)、-을/를 위하여 (のために)」という名詞句が必要になるのであるが、(126b)および(127b)の文の場合は、それを設定できないと述べている。彼のこのような説明は、井島(1999)の言っていることと広い枠組では共通していると思われる。確かに、「テヤル／テクレル／～어 주다 eo juda」が用いられると、若干丁寧な感じがし、直接的な言い方に対して迂言的な言い方で雰囲気や和らげる(または暈す)効果があるのは事実である。ところが、このような例文における日本語と韓国語の違いは、次のように、「もの」に対して、あるいは「話し手自身」に対して「テヤル／クレル」と「～어 주다 eo juda」を用いられるかどうかである。

- (128) a. A: エンジンオイルは何キロに一回交換してやったほうがいいですか。  
 B: 4千キロに一回は交換してやったほうがいいですね。

- b. A: 엔진오일은 몇킬로에 한 번 갈아주는(gal-ajuneun) 것이 좋습니까?  
(엔진オイルは 何キロに 1回 交換して やった ほうが いいですか)
- B: 4천킬로에 한 번씩은 갈아주는(gal-ajuneun) 게 좋습니다.  
(4千キロに 一回は ずつは 交換して やった ほうが いいです)
- (129) a. A: (テニスラケットの)ガットはどれくらいで張り替えてやった ほうがいいですか。  
B: 3ヶ月に一回は張り替えてあげたほうがいいと思いますが…
- b. A: (테니스라켓) 줄은 얼마 만에 한번씩 갈아주는 것이 좋나요?  
(テニスラケットの)ガットは どれくらいで 1回 変えて やった ほうが いいですか)
- B: 3개월에 한 번은 갈아 주는 것이 좋습니다.  
(3ヶ月に 一回は 変えて やった ほうが いいです)

(128)と(129)の各文は、店員と客の会話で、客が意見を訊ねて店員がアドバイスのような言葉を発する場面であるが、「テヤル/テクレル」と「~어 주다 eo juda」の対象になるものが「車」や「テニスラケット」などのものである場合は、日本語と韓国語とで対応関係を見せている。ここでの「テヤル/アゲル/~어 주다 eo juda」は、いわば、井島(1999)が言っている「素材対象に対する<配慮>、<気配り>」の役割をしているかもしれない。しかし、次のような例では日本語と韓国語とで許容度の違いが見られる。

- (130) a. A: ??最近、ちょっと体がだるいんですが、ビタミン剤を飲んでやったほうが いいですか。  
B: ??そんな時は総合ビタミン剤を飲んであげたほうがいいですね。  
うがいですね。
- b. A: 요즘 몸이 좀 나쁜데, 비타민제를 먹어주는 게 좋을까요?  
meog-eojuneun  
(最近 体が 少し だるいが、ビタミン剤を 飲んで やった ほうが いいですか)
- B: 네, 그럴 땐 종합비타민제를 드시 주시는<sup>129</sup> 게 좋습니다.  
deusyeo jusineun  
(はい、そんな時は 総合ビタミン剤を 飲んで さしあげた ほうが いいです)
- (131) a. ??私は季節ごとに必ず保養食<sup>130</sup>を食べてやります。  
b. 저는 철마다 꼭 보양식을 먹어줍니다(meog-eojubnida).  
(私は 季節ごとに 必ず 保養食を 食べて やります)
- (132) a. ??私は健康のために毎日2時間ずつ歩いてやります。

<sup>129</sup> 「드시다 deusida(召し上がる)」は「먹다/마시다 meogda/masida(食べる/飲む)」の尊敬語である。

<sup>130</sup> 保養食というのは、例えば、夏ばてしないように、または、栄養を補充する為に食べる鰻などの食べ物を指す言葉である。日本語には対応する言葉がないため、韓国語の漢字のままを記しておく。

- b. 저는 건강을 위해 매일 2시간씩 걸어줍니다(geol-eojubnida).  
(私は 健康の ため 毎日 2時間ずつ 歩いて やります)

(130)～(132)の各文は、(123)～(127)の文のような配慮・気配り用法の一種であるが、日本語と韓国語とでその許容度が異なっている。両方とも「素材対象に対する配慮・気配り」として認められるのだが、一つだけ違うところがある。それは、(123)～(127)が「話し手」以外の人に向かって呼びかけたり、丁寧に説明したりする感じがする半面、(130)～(132)の文が語っているのは、「話し手」自らのことであって、結局「テヤル/テクレル」と「～어 주다 eo juda」が「話し手」自身に用いられているような構造になっているということである。日本語においては、「テヤル/テクレル」がつくことによって丁寧さが増し、会話を和らげる効果があり、ビタミン剤や保養食などの「素材対象に対する配慮・気配り」も充分想定できるにもかかわらず、不自然な文になっている。日本語においては「話し手」に対して敬語を使ったり丁寧な言い方をしたりするのは許されないゆえに、不自然な文になってしまっているのである。それに比べて韓国語は、そのような制限が日本語ほどには働いておらず、正文として用いられている。ただし、この表現の出現は、最近のことであり、しかも話し言葉に限っているということではあるが、このような表現が存在するという事は、「テヤル/テクレル」と「～어 주다 eo juda」が、中心的な意味から周辺的な意味への文法化していく様子の度合いを端的に見せてくれるものであると考えられる。

日本語では上記の(123)～(127)のような文、すなわち本章で「instructional language (説明言語)」と名づけたもの、までは「テヤル」を用いて表現できるが、(130)～(132)の文のように「テヤル」が「話し手」自身に向けて用いられると許されないことを示した。ところが、韓国語には(130)～(132)の文よりさらに「～어 주다 eo juda」の原型の意味から抽象化したものが存在する。以下の例を見られたい。

- (133) a. 지금까지 일본에서 꼭 먹어줘야 하는 음식을 소개했어요.  
(ここまで 日本で ぜひ 食べて やる べき 食べ物を 紹介しました)  
b. ここまで、日本でぜひ{食べなければならぬ/\*食べてやらなければならぬ}食べ物を紹介しました。 <http://cafe.daum.net/reformnews/>
- (134) a. 30 대 여성이 신어줘야 할 구두 브랜드  
(30代の 女性が 履いて やる べき 靴ブランド)  
b. 30代の女性が{履かなければ/\*履いてやらなければ}ならぬ最高の靴ブランド <http://luckytiming.tistory.com/213>
- (135) a. 레고 마니아라면 입어줘야 하는 티셔츠 <http://www.neoeary.net/2463476>  
(レゴマニアならば 着て やる べき Tシャツ)  
b. 레고マニアならば{着なければ/\*着てやらなければ}ならぬTシャツ
- (136) a. 연말 모임에서는 고기를 뜯어줘야 제맛! <http://atonal.egloos.com/3531279>

(年末の 集まりでは 肉を かじってやるのが 持ち味)

b. 年末の集まりでは、肉を{かじる/\*かじってやる}に限る！

(137) a. 오토바이는 이 정도는 타줘야~~

(バイクは これくらいは 乗ってやらないと)

b. 오토바이는これくらいは{乗らなきゃ/\*乗ってやらない}…

<http://www.bobaedream.co.kr/board/bulletin/view.php?code=bike&No=52117>

(138) a. 더울땀 이걸 꼭 마셔줘야해. <http://www.82cook.com/entiz/read.php?num=192480>

(暑い時は これを 必ず 飲んでやる べきだ)

b.暑い時はこれを必ず{飲まないと/\*飲んでやらないと}いけない。

(139) a. 튀김은 떡볶이 국물에 찍어먹어줘야 제맛~ [blog.naver.com/hsunspeedz/110128126563](http://blog.naver.com/hsunspeedz/110128126563)

(揚げ物は トッポキの ソースに つけて食べてやる ことが 持ち味)

b.揚げ物は、トッポキのソースに{つけて食べる/\*つけて食べてやる}に限る！

(140) a. 역시 눈오면 들어줘야 하는 음악 -하얀 겨울.

(やはり 雪が降ると 聞いてやる べき 音楽 -白い 冬-)

b.やはり雪が降ると{聞かなければ/\*聞いてやらなければ}ならない音楽

-白い冬-

<http://crazia.tistory.com/659>

(141) a. 뉴욕에선 뉴요커처럼 별다방 하나 들어줘야 하고…

그래도 버릇처럼, 일본에 가면 모스버거 꼭 한 번은 들려줘야 할 것 같은  
기분이 듭니다.

(ニューヨークでは ニューヨーカーのように スターバックス 一杯 持ってやる べき  
で… それでも 癖のように 日本に 行ったら モスバーガー ぜひ 一度は 立ち寄っ  
てやる べき という 気が します)

b. 뉴욕에서는ニューヨーカーのようにスターバックス(のコーヒー)を1  
つ{持たなければ/\*持ってやらなければ}いけなくて…… それでも癖のよう  
に、日本に行ったらモスバーガーをぜひ1度は{立ち寄らなければ/\*立ち寄  
ってやらなければ}ならないという気がします。

<http://valley.egloos.com/viewer/?url=http://hajime0901.egloos.com/5262574>

(142) a. 계란을 먹어줘야 하는 이유. [cafe.daum.net/mu51cw0rld/D7AD/970](http://cafe.daum.net/mu51cw0rld/D7AD/970)

(卵を 食べてやる べき 理由)

b. たまごを{食べない/\*食べてやらない}といけない理由

(143) a. 지금 꼭 입어줘야 하는 스타일? 마린룩!

(今 ぜひ 着てやる べき 스타일? 마린룩!)

b. 이제{着なければ/\*着てやらなければ}いけない스타일?まさ  
にマリン룩!

<http://cafe.daum.net/Juumakeupartist/BOAa/2?docid=1034098787&q=%C1%F6%B1%DD%20%B2% C0%20% C0%D4%BE%EE% C1% E0%BE%DF%20% C7%CF%B4% C2%20%BD%BA% C5%B8% C0%CF&re=1>

(144) a. 가끔씩 이렇게 밤을 새줘야 아직 내가 젊다는 느낌을 받는다우^^.



- (たまには こう 徹夜して やってこそ まだ 私は 若いって 感じを 受けるの)
- b. たまにはこうやって{徹夜して/\*徹夜してやって}こそ、まだ私は若いって感じがする。

<http://cafe.daum.net/02CSA2/2FQz/251?docid=2660247697&q=%B0%A1%B2%FB%BE%BF%20%B9%E3%C0%BB%20%BB%F5%C1%E0%BE%DF&re=1>

(133a)～(144a)の韓国語文は、利益の移動も不明であれば、特に素材対象に対する配慮・気配りの感じもしないけれども、「～어 주다 eo juda」が用いられている。それに対応する日本語文は非文になっている。このような例文は、実例ではなくても簡単に作ることができる。

- (145) a. 날씨도 좋은데 테니스 한판 쳐줘야지? (chyeojwo-yaji)  
(天気も 良いが テニス 1回 打って やらないと)
- b. いい天気だなあ。テニスでも{しなきゃ/\*してやらない}ね。
- (146) a. 날씨도 좋지 않은데 한 잔 해주는 게 (haejuneun ge) 어때?  
(天気も良くないが 一杯 やってやるのは どうだ)
- b. 天気もいまいちだから、いっぱい{やるのは/\*やってやるのは}どうだ。
- (147) a. 가끔은 고기도 먹어줘야하지 (meog-eojwo-yahaji) 않겠어?  
(たまには 肉も 食べてやるべき ではないの?)
- b. たまには、お肉でも{食べなきゃ/\*食べてやらない}いけないでしょ。

それでは、(133a)～(147a)の韓国語文をどう説明すればいいのだろうか。まず、このような文の特徴を考えてみよう。一つは、「～어 주다 eo juda」が用いられても用いられなくても文の意味はほとんど変わらないということである。二番目に、典型的な「授受表現」では、「～어 주다 eo juda」によって利益や恩恵などが移動する。当然、その利益や恩恵を施す側（与え手）と受ける側（受け手）が存在する。しかし、(133a)～(147a)の文は、少なくとも文の中にはそのような存在を把握することは難しい。本論文では、このような、「～어 주다 eo juda」を「意志を持った積極的な働きかけの～어 주다 eo juda」と名づけることにする。「意志を持った積極的な働きかけの～어 주다 eo juda」を用いることで、「instructional language」や「事態改善のための条件」、また(128)～(132)の文のような物に対する「配慮・気配り」を表わす文、および(133)～(147)の文のような日本語文とは対応しない文に至るまで説明可能になると考えられる。つまり、これらの文に「～어 주다 eo juda」を用いることによって、「instructional language」では、説明する話し手の指示通りに真似することを促したり勧めたりする効果があり、モノに対する「配慮・気配り」を表わす文には、そのモノに対して何か行動を積極的に施すことで、モノへの愛着心（あるいはそのモノの持ち主への丁寧な気持ち）のようなものを表出している。(133)～(147)のような文においても、「履く(133)」「着る(134)」「かじる(135)」「乗る(136)」「飲む

(137)」「つけて食べる(138)」「聞く(139)」「持つ・寄る(140)」などの行動を時には促したり、時には呼びかけたり、勧める働きをしているのである。もちろん「~어 주다 eo juda」が用いられていない文にもそのような意味は入ってはいるが、「~어 주다 eo juda」が入ることでより積極的なニュアンスで誘いかける効果が得られるのである。日本語の場合についても、この「意志を持った積極的な働きかけ」という概念で大概は説明できるであろう。ただし、日本語の「テヤル/テアゲル」には村田(1994)の言っているように、「乱暴な感じを避け、ことばの丁寧さをひたすら追求した表現」という意味がかなり多く入っており、それが(130)~(132)のように自分自身に対して「テヤル/テアゲル」を用いたり、何に対して「テヤル/テアゲル」を用いるのかが不明な(133)~(147)のような場合に用いられると違和感が生じてしまう一つの原因になるかもしれない。これと関連して、山田(2009: 40)は、「(黒豆作り)二、三十分ほど経って沸騰した頃に、水を入れてやる。これをビックリ水と言うんだ」という例を挙げているが、この文から、「強くなってやる！」の文からの強い意志の現れは感じられず、話し手が何らかの影響を与えようとしている様だけが現れていると述べている。しかし、山田(2009)がこれらの文を「強い意志」を表わす文として積極的に主張できなかった理由は、前述のように、「テヤル」の強い意志を表わす用法の中には、「話し手自身に向ける行為」、例えば「今度こそ合格してやる！」などの文が成立すること、それに「早く直ってやる！」のような自動詞文に用いることができるのに対して、村田(1994)の「乱暴な感じを避け、言葉の丁寧さをひたすら追求した表現」、井島(1999)の「配慮・気配りの表現」、それに山田(2009)が主張している「事態改善を表わす用法」には、このような表現が欠けているからにほかならない。

#### 4.4.2.2 「~てくれる」の配慮

本節では「~てくれる」文の配慮用法について見ていくことにする。多くの先行研究では、「テヤル」文に関する「配慮・気配り」用法が紹介されているが、本論文では、「テクレル」文においても場合によっては、相手の人間を配慮する文が存在することを提示し、そのような文になる条件について考えてみることにする。

##### 4.4.2.2.1 「~ても結構だ」「~て(も)いい」「~といい」などの許可を表す文と結合した「テクレル」

「~ても結構だ」「~て(も)いい」「~といい」などの許可を表す文に「てくれる」がつくことによって、ニュアンスを和らげる効果、相手が「あなたの行動は、迷惑ではなく、私の利益になりますよ」という安堵感を与える効果があると考えられる。

以下に挙げている用例には「テクレル」が用いられているが、話し手が恩恵や利益を受けるのとは程遠く、むしろ話し手にとって被害や迷惑にもなり得る場面で用いられる「テクレル」文である。これこそ、相手の人が話し手に向かって心置きなくお願いできるように、また迷惑がられないように気を配っている表現であると考えられる。

- (148) a. 「別に気を悪くしているわけじゃない。それが君の仕事なんだから、  
僕のことも何でも調べてくれて結構だ」 《容疑者 X の献身 347》  
b. “... 나에 대해서 뭐든 조사해도 상관없어.”  
josahaedo  
(僕について 何でも 調べても 結構だ)
- (149) a. 「だって、なんて送るの? 元気出してね? なんでも相談して  
ね? うちに来てくれてもいいよ...」 《夜行 191》  
b. “... 우리 집에 와도 돼? ...” 《야행 195》  
wado dwae  
(家に 来てもいい)
- (150) a. もちろん、まだ何か希望があるというのなら、遠慮なくいってくれていい。 《聖女 8》  
b. 아니, 아직도 원하는 게 있다면 주저 없이 말하라고 (jujeo eobs-i malhalago).  
(いや、まだ 希望が あれば 躊躇なく 言って) 《성녀 10》
- (151) a. もちろん、刑事さんたちも一緒にいてくださって結構です。 《聖女 73》  
b. (물론 형사님들도) 같이 있어도 난 상관없어요.  
gat-i iss-eodo nan sanggwan-eobs-eo-yo 《성녀 82》  
(もちろん 刑事さんたちも) 一緒に いても 私は 構いません)
- (152) a. 岸谷を残していきますから、何かあれば遠慮なくおっしゃってくださ  
い。雑用をいつけてくださっても結構です。 《聖女 96》  
b. ... 잡다한 일을 시켜도 괜찮습니다.  
sikyeodo gwaenchanhseubnida 《성녀 105》  
(雑多な ことを させても 結構です)
- (153) a. 栄養不足だと思ったら、遊びに来てくれてもいいからね。 《秘密 418》  
b. 영양이 부족하다고 생각하면 우리 집으로 달려오게.  
dallyeo-oge  
(栄養が 足りないと 思ったら 我が 家に 走って 来い) 《비밀 450》
- (154) a. 今日はもう、疲れたでしょ。ゆっくり休みなさい。よかったら、うちに  
泊まってくれてもいいのよ。 《夜行 316》  
b. “... 괜찮으면 우리 집에 묵어도 돼 (mug-eodo dwae).” 《야행 317》  
(よかったら 我が 家に 泊まっても いい)
- (155) a. 「さっき近くの店で、カップラーメンを買ってきた。その袋の中だ。  
食べたいなら、食べてくれていい。」 《怪しい人びと 63》  
b. “... 그 봉지 안에 있다. 먹고 싶으면 먹어도 돼.”  
meoggo sip-eumyeon meog-eodo dwae  
(その 袋の 中にある。 食べたい なら、食べても いい)

- (156) a. 何も怪しげなものを差し入れしようというわけじゃありません。  
十分に調べてくれて結構なんです。 《密やかな結晶 149》
- b. …, 충분히 살펴 보셔도 상관없어요.  
salpyeo bosyeodo sanggwan-eobs-eo-yo  
(十分に 調べて みても 結構です)
- (157) a. おまえさえよければ、一週間でも二週間でも滞在してくれて結構だ。  
《ガリレオの苦悩 186》
- b. …, 일주일이고 이주일이고 지내다 가도 돼.  
jinaeda gado dwae  
(一週間でも 二週間でも 滞在して 行って いい)
- (158) a. あなたが都合の悪い時は、断ってくれていいの。 《肩ごしの恋人 192》
- b. 당신이 사정이 안 좋을 때는 거절해도 돼요 (geojeolhaedo dwae-yo).  
(あなたが 都合の 悪い 時は 断っても いいよ)
- (159) a. そういう気になったら、俺のところへ来てくれればいい。 《秘密 118》
- b. 재혼할 생각이 생기면 주저하지 말고 나에게 오게. 알겠지?  
oge 《비밀 128》  
(再婚する 考えが できれば 躊躇せずに 俺に 来い。 わかった)
- (160) a. それくらいのことでバッグを買ってもらえるのなら、何度デートしてくれてもいい。 《肩ごしの恋人 136-137》
- b. 그 정도의 일로 백을 받을 수 있다면, 몇 번이고 데이트 해도 좋다.  
de-iteu haedo johda  
(それくらいの ことで バッグを もらえる なら、 何度も デートしても いい)
- (161) a. 彼女にはすでに合鍵を渡してあり、いつでも自由に出入りしてくれていい  
とあってあった。 《怪しい人びと 129》
- b. …, 언제든지 자유롭게 출입해도 괜찮다고 말해 두었다.  
chul-ibhaedo gwaenchanhdago  
(いつでも 自由に 出入りしても いいと 言って おいた)

(148)～(161)の文では、「テクレル」が利益や恩恵というよりは、「相手の人への配慮や気配り」の意味機能で用いられている。「テクレル」があるのとないのとで、文のニュアンスは変わる。つまり、「テクレル」が用いられることで、直接的な許可を避け、文の調子が柔らかく、かつ、穏やかになり、丁寧な感じまでを与えられるのである。それによって、相手の人が心の負担なく行動ができるように話し手が気を配っている雰囲気は漂っているのであろう。一方、(148b)～(161b)の韓国語文は、このような場面では「テクレル」に当たる「～어 주다 eo juda」を用いることはできず、それぞれの相手の人の行動に対して、単に許可を与えるような文になっている。

#### 4.4.2.2 依頼の「～てくれる（くださる）よう」

依頼を表わす表現には様々な言い方が存在するのだが、本節では、「テクレル（クダサル）ヨウ」について見ていくことにする。依頼を表わす「テクレル（クダサル）ヨウ」という表現は、相手の人に何らかの行動をするよう依頼する（お願いする）場面で用いられる言い方で、ある意味では恩恵的な「授受表現」に入り得ると考えられるが、多くの場合、話し手の積極的な利益や恩恵を得る為に発する表現ではなく、不特定多数の人に対して何かの行動をするように、依頼（お願い）する場面で用いられる場面が多いので、本章では、非恩恵的な授受表現の項目として扱うことにする。さて、依頼を表わす「テクレル（クダサル）ヨウ」というのは、次のような用例を指す。

(162) a. 里子は伊沢に、建物の裏手の来園者用駐車場に停めてくれるよう指示した。  
《理由 474》

b. … 건물 뒤 방문객용 주차장에 세우라고 일렀다. 《이유 459》  
se-ulago

(建物の 裏の 訪問客用 駐車場に とめるように と 指示した)

(163) a. 通いと言っても、路地の端から端までの距離である。帳場のカウンターにはインタフォンを付けておき、何か急用の折にはボタンを押してくれるよう、客には説明しておく。《理由 99》

b. …, 급한 용무가 있으면 버튼을 누르라고 손님들에게 설명해둔다. 《이유 97》  
nuleulago

(急な 用務が あれば ボタンを 押すように と 客たちに 説明しておく)

(164) a. あすか園では、入園者専用の身分証明書兼緊急連絡先票のようなカードを発行して、高齢者に対しては、外出するとき、必ずこれを携帯してくれるようにと指導している。《理由 542》

b. … 반드시 휴대하도록 지도하고 있다. 《이유 527》  
hyudaehadolog

(必ず 携帯するよう 指導している)

(165) a. ご迷惑だったのなら、ドアフォンを鳴らしてくださればよかったのに。  
《夜行 265》

b. 폐가 되었다면 도어폰을 누르셨으면 됐는데. 《야행 267》  
nuleusyeoss-eumyeon dwaessneunde

(迷惑に なりましたら ドアフォンを 押されたら よかったのに)

(162)～(165)の各文から、依頼を表わす「テクレル（クダサル）ヨウ」と「어 주다 eo juda」の対応関係を見て取ることができる。(162a)～(165a)の日本語文には「テクレル（クダサル）ヨウ」が用いられているのに対して、(162b)～(165b)の韓国語文には「～어

주다 eo juda」が用いられていない<sup>131</sup>。このような、文は、実際の利益や恩恵を求めているのではなく、相手の人に対するある行動への呼びかけの機能を持っており、かつ、依頼される側に対してより丁寧な言い方として用いられている。この点、相手の人に対する「配慮・気配り」の用法の一つとして位置づけることができると考えられる。一方、このような場面で「~어 주다 eo juda」は依頼を表わすことができない。これは日・韓両言語の「授受表現」における相違点の一つであると言うことができる。

#### 4.4.3 その他

##### 4.4.3.1 共感（第三者から見た恩恵）

本節は「共感(Empathy)」という観点から「ヤル／クレル」と「주다 juda」の比較を行う。これらの表現は、特に三人称小説などからの視点の展開に重点が置かれる。日本語は、どちらを最良にするかによって「くれる」「やる(あげる)」「もらう」などを使い分ける。それに比べて韓国語は、「~어 주다 eo juda」があってもいいが、なくても何の差支えもない。そのため、日本語は感情が移入された主観的なストーリーの展開が多く見られるのに対して、韓国語においては、第三者が客観的に見ているような淡々とした展開がよく見られる。

- (166) a. 父はなかなか信子の言うことを理解してくれなかった。 《理由 608》  
 b. … 좀처럼 얼른 이해하지 못했다(ihaehaji moshaessda). 《이유 593》  
 (なかなか すぐ 理解することができなかった)
- (167) a. 一人です、と草薙が答えると、ウェストレスは笑顔を維持したまま彼を席に 案内してくれた。 《聖女 225》  
 b. 그런데요, 하고 대답하자 그녀는 웃는 얼굴로 구사나기를 자리에 안내했다.  
 annaehaessda  
 (そうですが、と 答えると 彼女は 笑顔で 草薙を 席に 案内した) 《성녀 244》
- (168) a. どうぞ、と彼女はドアを大きく開き、彼を招き入れてくれた。 《聖女 337》  
 b. 그녀는 문을 활짝 열고 그를 안으로 들였다(deul-yeosdda). 《성녀 363》  
 (彼女は ドアを 大きく 開き 彼を 中へ 招き入れた)
- (169) a. …、彼女も今西の人柄に好感をもってくれているようだった。 《砂下 463》

<sup>131</sup> 韓国語には「달다 dalda（「クレル」に相当する）」という視点動詞が存在し、以下のように用いられることができる。

- i) 나에게 자유를 달라(na-ege ja-yuleul dalla)!  
 (私に 自由を くれ!)  
 ii) 타로가 하나코에게 수학을 가르쳐달라고 부탁했다.  
 taloga hanako-ege suhag-eul galeuchyeodallago butag haessda  
 (太郎が 花子に 数学を 教えて くれ っ て (くれるよう) 頼んだ。)

上記の(162b)～(165b)の文に「달다 dalda」を用いることも不可能ではないが、何となく利益を求めているような感じがする上に、くどいニュアンスが醸し出されるため、用いられにくい傾向がある。

b. …, 그녀는 이마니시의 인품에 호감을 가진 모양이었다. 《모래 538》

hogam-eul gajin mo-yang-i-eosdda

(彼女は 今西の 人柄に 好感をもった ようだった)

(170) a. 十人以上の同級生が、降りしきる雨の中、傘を差して『ケンスケくん』を  
一緒に探してくれた. 《番長 92》

b. … ‘켄스케 군’ 을 찾고 있었다 (chajgo iss-eosdda). 《반장 82》

((켄스케君)을 探していた)

(171) a. 正面では、ボランティアで来てくれている父兄が、豚汁やみかん、  
キャラメルなどを配っていた。 《ピクニック 114》

b. 정면에는 자원봉사로 와 있는 (wa issneun) 학부모들이 돈지루(잘게 썬 돼지  
고기를 넣어 끓인 된장국)와 꿀, 캐러멜 등을 나눠주고 있었다.

(正面では ボランティアで 来て いる 父母たちが 豚汁(挽肉の豚肉を入れて  
煮た味噌汁) や みかん、キャラメルなどを 配って くれて いた) 《피크닉 124》

(166)～(171)の各文は、日本語と韓国語における「共感」の違いを端的に示している。  
(166a)～(171a)の日本語の文は、その登場人物に共感し、まるで話し手〔語り手〕がある  
行為(の利益)を受けているような話し方で書かれている。それに比べて、(166b)～  
(171b)の韓国語の文は、「이해하지 못했다 ihaehaji moshhaessda(理解できなかった)(166b)」「  
안내했다 annaehaessda(案内した)(167b)」「들였다 deul-yeosdda(招き入れた)(168b)」「  
호감을 가진 모양이었다 hogam-eul gajin mo-yang-i-eosdda(好感を持っているようだっ  
た)(169b)」「찾고 있었다 chajgo iss-eosdda(探していた)(170b)」「와 있는 wa issneun(来て  
いる)(171b)」のように、第三者の語り手〔話し手〕がどちらの視点も取らず、遠くから観  
察しているような、客観的な描写になっているのが特徴的である。

#### 4.4.3.2 丁寧な依頼

「くれる／くださる」と「주다 juda／주시다 jusida」には以下のような、依頼や命令の語  
法において、依頼をする場面での丁寧な言い方として用いられる場合がある。

(172) a. 그렇게 서 있지만 말고 와서 이 가방 좀 들어주세요 (deul-eojuseyo).

(そう 立っていないで 来て この カバン 持ってください)

b. 참석자 여러분, 다 오셨으면 이제 자리에 좀 앉아주세요 (anj-ajuse-yo).

(参席者 の皆さん 皆 来られたら もう 席に 少し 座ってください)

c. 아주머니, 바닥 좀 닦아주세요 (dakk-ajuse-yo).

(おばさん、床 少し 拭いてください)

(a, b, c いずれもチョン 2006: 204)

(173) a. 한 번이라도 그런 생각하셨으면 놀러주세요 (nulleojuse-yo).

(1回 でも そんな お考えでしたら 押してください)

b. 마이크 받아 주시고요 (ma-ikeu bad-a jusigo-yo).

(マイク 受け取ってください)

c. 마이크 좀 넘겨주세요 (ma-ikeu jom neomgyeojuse-yo).

(マイク 渡して下さい)

(a、b、c いずれもモク ジョンス 2008)

d. 백일섭-박근형-신구, '꽃보다 할배' 대만편 기대해주세요 (gidaehaejuse-yo) ~

(ペクイルソプ-パククンヒョン-シング、「鼻より お爺さん」台湾編 期待してください)

<http://news.sportsseoul.com/read/photomovie/1213885.htm>

(172a)~(172c)および(173a)~(173d)の各文において、「~어 주다 eo juda」があるのとな  
いのとで、文の丁寧さが変わる。これらの表現は、相手の人間に実際の利益や恩恵を求め  
ているのではなく、相手の人間、あるいは、不特定多数の人間に丁寧な言い方で依頼する  
場面で用いられる。これは、日本語の「テクレル (クダサル)」をもって丁寧に依頼する  
言い方と対応している<sup>132</sup>。

#### 4.4.3.3 被害を与えたり迷惑をかける場面

さらに、「~어 주다 eo juda」は、被害を与えたり迷惑をかける際に、「~어 주다 eo  
juda」の謙譲語である「~어 드리다 eo deulida (さしあげる)」を用いて、丁寧に詫げる場面  
でも使われる。

(174) a. 괴롭혀 드려서 죄송합니다.

goelobhyeo deulyeoseo joesonghabnida

(苛めて 差し上げて すみません)

(お手を煩わせて、lit. お手を煩わせてさしあげて)

b. 번거롭게 해드려 죄송합니다.

beongeolobge haedeulyeo joesonghabnida

(煩わしくして 差し上げて すみません)

(面倒をおかけして、lit. 面倒をかけてさしあげて)

(a、b いずれも、ク ヒョンジョン 2003)

c. 이거 놀라게 해드려 죄송합니다.

igeo nollage haedeulyeo joesonghabnida

(驚かせて 差し上げて すみません)

<sup>132</sup> 本節における「丁寧に依頼」は4.4.2.2.2における「依頼のテクレル(クダサル)」との意味的な区別  
はないが、本節の「丁寧に依頼」は、「クレル(クダサル)」で終わる文末形式として用いられているもの  
を対象としており、4.4.2.2.2における「依頼のテクレル(テクダサル)」は主に「~よう」などがついて  
文中に現われているものを対象としている点で異なっている。



(驚かせてしまって、lit. 驚かせてさしあげて)

(民衆書林韓日辞典)

- d. 걱정을 끼쳐 드려 죄송합니다.

geogjeong-eul kkichyeo deulyeoseo joesonghabnida

(心配を かけて 差し上げて すみません)

(心配をおかけして、lit. 心配をかけてさしあげて)

- e. 감옥에서 썩기 싫으시면.. 어떻게 죽여 드릴까? 송례문처럼 태워드릴까?  
...방화범씨 원하시는 고문으로 해드릴테니 말씀해주세요~

gam-og-eseo sseoggi silh-eusimyeon.. eotteohge jug-yeo deuilikka? sunglyemuncheoleom tae-wo deuilikka? tss banghwabeomssi wonhasineun gomun-eulo haedeuil teni malsseumhaejuse-yo

(監獄で 腐りたくなければ...どうやって 殺して 差し上げようか、崇礼門のように 燃やして 差し上げようか、放火犯さんの ほしい 拷問で やっ て 差し上げるから おっしゃってください)

(lit. 殺して さしあげようか、殺してやろうか) (lit. 燃やして さしあげようか、燃やしてやろうか) (lit. して さしあげるから、してやろうか)

<http://blog.naver.com/PostView.nhn?blogId=jawoohyuk&logNo=100047326541>

- f. 살려는 드릴게.

(映画『新世界』)

sallyeoneun deuilge

(lit. 生かしては さしあげるよ、生かしてはやるよ)

- g. (불량배에게 둘러싸여) 자, 누구부터 상대해드릴까.

(bullyangbae-ege dulleossa-yeo) ja, nugubuteo sangdaehaedeuilikka

((不良たちに 囲まれて) さあ、誰から 相手して さしあげようか)

(相手にしてやろうか、lit. 相手にしてさしあげようか)

(174a)～(174d)の各文は、被害を与えたり迷惑をかけたりする際に、用いられた「～어 드리다(さしあげる)」で、(174e)～(174g)の各文は、丁寧な謙讓語を用いることによって、相手の人を凄んだり、脅かしたりする際に使われた用例である。この(174a)～(174g)の各文は、話し手から相手の人に向かって遠心的に用いられるもので、話し手に求心的に向かってくる意味で使うことはできない。(174a)～(174g)の各文で分かるように、日本語の「テヤル (アゲル) /クレル」はこのような用法を持たない故に、韓国語との対応関係は成立しない。

#### 4.4.4 4.4 節のまとめ

以上、4.4 節で、「与え手 [話し手] に関わる非恩恵」と「その他の非恩恵」について論じてきた内容をまとめると、次の表5のようになる。

用 法			日	韓
強 調			✓	✓
配慮 ・ 気配 り	テヤル (アゲル)	事態改善のための条件	✓	✓
		説明言語(instructional language)	✓	✓
そ の 他	テクレル	許可を表わす文	✓	✗
		依頼を表わす文	✓	✗
そ の 他	共感(第三者から見た恩恵)		✗	✓
	丁寧な依頼		✓	✓
	被害を与えたり迷惑をかける場面		✗	✓

表5 与え手[話し手]に関わる非恩恵とその他の非恩恵用法

「与え手 [話し手] に関わる非恩恵」用法は、表 5 のように、「強調」「配慮・気配り」「その他」に大きく分けることができる。「配慮・気配り」はさらに「テヤル (アゲル) の配慮・気配り」と「テクレルの配慮・気配り」用法に分けられる。「テヤル (アゲル) の配慮・気配り」用法には、「事態改善のための条件」と「説明言語 (instructional language)」が属しており、「テクレルの配慮・気配り」には「許可を表わす文」と「依頼を表わす文」とが属する。それぞれの成立可否と日本語と韓国語の対照比較については表 5 に示されている通りである。

#### 4.5 日本語と韓国語の対応関係がずれる場合

4.3 節の表 4 (p. 163) と前節の表 5 を見ると分かるように、用法に基づく分類の比較対照において、日本語と韓国語が対応している場合が多く見られる。その一方で、そうでない場合も見られる。例えば、「否定の命令」「非難の意を表す用法」「テクレル」の配慮・気配り」などが、それに当たる。

以下では、対応関係が成立しない他の事例をさらに提示する。

##### 4.5.1 動詞自体の方向性の意味の有無

- (175) a. 「彼を家まで届ける」 《殺した少女 379》  
 b. “애를 집에 데려다주겠어 (delyeodajugess-eo).” 《죽인소녀 413》  
 (彼を 家に 届けて やる)
- (176) a. 紙皿に入れた食事を部屋に届けても、ドアの前に置いといてくれと言って、  
 姿を見せようとしません。 《告白 151》

- b. 종이 접시에 담은 식사를 방으로 가져다주어도 문 앞에 두라며 모습을 보  
이려 하지 않습니다. gajyeodaju-eodo 《고백 136》  
(紙皿に入れた 食事を 部屋に 届けて やっても ドアの 前に 置く ようにと  
姿を見せようと しません)
- (177) a. 「その時、真柴さんは、その場にいらっしゃったのですか」  
「いました。何度もいったじゃないですか。彼のコーヒーの入れ  
方を教えたって」 《聖女 162》
- b. … “있었어요. 몇 번이나 말했잖아요. 그에게 커피 끓이는 법을 가르쳐  
주었다고 (galeuchyeo ju-eossdago).” 《성녀 175》  
(いました。何度も いった じゃない ですか。彼に コーヒーの 作り方を 教え  
て やった って)
- (178) a. 罪のない犯罪者の子どもを守る、という法律はないのだろうか。 《少女 277》
- b. 죄 없는 범죄자의 자식을 지켜주는 법률은 어디 없나?  
jikyoeojuneun 《소녀 293》  
(罪の ない 犯罪者 の 子どもを 守って くれる 法律は どこか ない かな)
- (179) a. 駅まで送ろうか、どころか、おっさんは一言も口をきいてくれない。 《少女 95》
- b. 역까지 데려다줄까 (delyeodajulkka) 어디서 내려줄까, 아저씨는 한마디도  
묻지 않았다. 《소녀 103》  
(駅まで 送って やろうか どこで 下ろして やろうか おっさんは 一言も  
聞かなかった)
- (180) a. 世羅をかばって、一緒に悪口をいわれたりいじめられるのなら、我慢できたと  
思う。…。世羅をかばった途端、矛先が自分に向くのが怖かった。たとえ、  
わたしが世羅をかばっても、世羅はわたしをかばってくれない ようなきが  
した。 《少女 278》
- b. 세라를 방어해 주고 (bangeohae jugo) 같이 욕을 먹고 괴롭힘 당하는 것 정도  
는 참을 수 있었을 거라 생각한다. …  
(世羅を 庇って やって 一緒に 悪口を 喰われたり 苛められること 位  
は 我慢できると 思う)  
세라를 보호해 주자 (bohohae juja) 마자 그 화살이 내게 쏠릴 것이 무서웠다.  
(世羅を 庇って やった 途端、その 矛先が 私に 向く の가 怖かった)  
내가 세라를 감싸 줘도, 세라가 나를 감싸 줄 것 같지 않았다  
gamssa jul geos gatji anh-assda 《소녀 294》  
(私が 世羅を 庇って やっても 世羅가 私を 庇って くれ そうでは なかった)
- (181) a. おっさんを守りたい。おっさんの命を狙う敵から、… 《少女 220》
- b. 아저씨를 지켜주고 싶어요. 아저씨를 해치려는 적에게서 제가 지켜줄게요.  
jikyoeojugo sip-eo-yo 《소녀 234》  
(おっさんを 守って やりたい。おっさんを 狙う 敵から 私が 守って やります)

(182) a. 正面では、ボランティアで来てくれている父兄が、豚汁やみかん、キャラメルなどを配っていた。… 貴子と千秋は弁当を配る列に並んだ。

《ピクニック 114-115》

b. 정면에는 자원봉사로 와 있는 학부모들이 돈지루(잘게 썬 돼지고기를 넣어 끓인 된장국)와 꿀, 캐러멜 등을 나눠주고 있었다(nanwojugo iss-eosdda). … 다카코와 치아키는 도시락을 나눠주는(nanwojuneun) 줄에 섰다.

(正面では ボランティアで 来ている 父母たちが 豚汁(挽肉の豚肉を入れて煮た味噌汁) と みかん、キャラメルなどを 配って やって いた。…

貴子と 千秋は 弁当を 配って やる 列に 並んだ) 《피크닉 124-125》

(175a)~(182a)の日本語の文は「やる」や「くれる」なしに文が成立しているのに対し、(175b)~(182b)の韓国語の文には「주다 juda」が入っている。しかも、「주다 juda」を省略するとおかしい文になってしまう。この対比の原因としては、以下のことが考えられる。日本語の「届ける(175)(176)」「教える(177)」「守る(178)~(181)」「送る(179)」「かばう(180)」「配る(182)」などの動詞は、潜在的意味として「方向性」を持っているため、「やる」や「くれる」がなくても足りる。それに対して、対応する韓国語では「데려다주다 delyeoda juda(175)(179)」「가져다주다 gajyeodajuda(176)」「가르쳐주다 galeuchyeojuda(177)」「지켜주다 jikyeojuda(178)(181)」「방어해주다 bang-eohaejuda(180)」「보호해주다 bohohaejuda(180)」「감싸주다 gamssajuda(180)」「나눠주다 nanwojuda(182)」の下線部のように、「주다 juda」がついていることが必要である。この中には、「데려다주다 delyeodajuda(175)(181)」「가져다주다 gajyeodajuda(176)」のように、単独では用いられない(複合動詞化されている)場合もある。これらの動詞は、日本語と違って潜在的な意味として方向性を持っていないため、上記の(175)~(184)の文脈では、「주다 juda」なしでは用いることができないのである<sup>133</sup>。

#### 4.6 おわりに

本章では、日本語の「やる/くれる」と韓国語の「주다 juda」におけるさまざまな用法の中で、本来の「利益(移動)」や「恩恵」を表わす用法ではなく、「利益」や「恩恵」とはある意味で相反するような、いわゆる「非恩恵用法」について考察を行った。非恩恵

<sup>133</sup> (175)~(182)における動詞が単独に用いられた場合の例文を挙げておく。

- 그는 그녀에게 운전을 가르쳤다(galeuchyeosdda). (彼は 彼女に 運転を 教えた)
- 실수를 감싸다(gamssada). (過ちを 庇う)
- 전력을 다해 방어하다(bangeohada). (全力を 尽くして 守る)
- 어린이를 보호하다(bohohada). (子どもを 守る)
- 부모님의 유산을 지키다(jikida). (親の 遺産を 守る)
- 이익금을 모두에게 공정하게 나누다(nanuda). (利益金を みんなに 公平に 配る)

的用法を大きく、「与え手 [話し手] に関わる非恩恵」、「受け手 [聞き手] に関わる非恩恵」に分けて日本語と韓国語の対応関係を調べた。まず、「与え手 [話し手] に関わる非恩恵的な用法」には、「強い意志」「否定の命令」「非難の意を表わす用法」「アイロニ的用法」という項目を立てて対応関係を比較分析した。次に、「受け手 [話し手] に関わる非恩恵的な用法」を「強調」「配慮・気配り」「その他」の用法に分けて考察した。「配慮・気配り」用法は、「テヤル」と「テクレル」に関わる用法に下位区分されることを提示し、それぞれの対応関係を調べた。「その他の用法」には、「共感（第三者から見た恩恵）」「丁寧な依頼」「被害を与えたり、迷惑をかける場面」という項目を設定し、それぞれの対応関係について考察した。最後に、以上の非恩恵的な用法には含まれないものの、日本語と韓国語で差が見られる事例として「動詞そのものの方向性の意味の有無」を提示して記述した。

従来の日・韓の「授受表現」に関する研究は、主に視点の違いや「利益」「恩恵」などの対応関係についてのものが主流だったが、本研究は、「視点」「利益」「恩恵」とまったく無関係とは言えないまでも、本来の「授受表現」の意味特徴である「利益」や「恩恵」などの用法とは少しかけ離れている、いわゆる「非恩恵的な用法」の「テヤル/クレル」と「주다 juda」を、従来の研究における意味特徴とは少し違った観点からの考察を試みた。以上の内容をまとめると以下の表6のようになる。

		用 法		日	韓
与え手 [話し手] に関わる 非恩恵	強い意志			✓	△
	否定の命令			✓	X
	非難の意を表わす用法			✓	X
	アイロニ的用法			✓	✓
受け手 [聞き手] に関わる 非恩恵	強 調			✓	✓
	配慮 ・ 気配 り	テヤル (アゲル)	事態改善のための条件文	✓	✓
			説明言語 (instructional language)	✓	✓
	テクレル	許可を表わす文	✓	X	
依頼を表わす文		✓	X		
そ の 他	共感（第三者から見た恩恵）			✓	X
	丁寧な依頼			✓	✓
	被害を与えたり迷惑をかける場面			X	✓

表6 日本語・韓国語における非恩恵的な用法の比較対照

表6から、日本語と韓国語における非恩恵的な用法の対応関係が見て取れる。日本語は、「与え手 [話し手] に関わる用法」・「受け手 [聞き手] に関わる用法」に関係なく非恩

恵的な用法を持っているのに対し、韓国語は「与え手〔話し手〕に関わる用法」のうち、「否定の命令」と「非難の意を表す用法」が欠けている。一方、「強い意志」を表わす用法においては、日本語は動詞の基本形（やる）で表わすことができるのに対し、韓国語は基本形を持って表現することができず、「주다 juda」に「意志」を表わす接辞をつけて表わす体系になっている。許容範囲においては日本語に比べて若干制約されている。次に、「受け手〔聞き手〕に関わる用法」においても、日本語は制限なく用いられているのに対し、韓国語は「『やる』の配慮・気配り用法」は日本語と対応している反面、「『くれる』の配慮・気配りの用法」には対応していない。その他の用法のうちの「共感（第三者から見た恩恵）用法」においても、韓国語は、日本語に比べて「주다 juda」を用いずに淡々とした展開のほうを好む傾向を見せている。最後に、韓国語には「迷惑をかける」や「被害を与える」場面で「주다 juda」の謙讓語である「드리다 duelida（「差し上げる」に当たる）」を使って丁寧に謝る用法が存在するが、日本語はそのような用法を持たないということが確認できた。

## 第5章 「授受表現」における視点と意志性について

### 5.1 はじめに

次の(1)は授受動詞の本動詞用法で、(2)は授受動詞の補助動詞用法である。前者はモノに対する「受給表現」、後者はコトに対する「恩恵表現」というふうと呼ばれるものであり、これらは、意味的・統語的観点から、授受動詞（または受給動詞・やりもらい動詞）という一つの枠組の中に入れて研究されてきている。

- (1) a. 太郎が花子にプレゼントをやった。  
b. 太郎が私にプレゼントをくれた。  
(2) a. 太郎が花子にプレゼントを買ってやった。  
b. 太郎が私にプレゼントを買ってくれた。

しかし、堀口(1987)は、次のように、「誘いかける形」にすることによって、これらの文法的性質は同じではないことを主張している。

- (3) a. テレホンカードをやろう。  
b. テレホンカードをくれよう。 (堀口 1987: 116)

堀口(1987)によると、(3a)は意志または誘いかけを表わし、(3b)は推量を表わす<sup>134</sup>。すなわち、「やる」は誘いかける形を本来の意味で用いることができるのに対し、「くれる」は誘いかける形の本来の意味では用いることができないのである(堀口 1987: 116)。ところが、これだけではない。(3)は、意味が異なる対の例であるが、次のように、対を成す形式を持たない場合も存在する。

- (4) a. 私は彼女を助けてやりたかった。  
b. \*彼女は私を助けてくれたかった。  
(5) a. 私は彼女を助けてやれなかった。

<sup>134</sup> 鈴木(1972: 316)や久野(1972: 87)、吉川(1974: 71-72)も同様の内容を扱っている。ただ、久野(1972)は、「意志性」の代わりに「自制的性」という概念を提示し、以下のように、「マイ」が「+自制的性」動詞に接続する場合は「決心」を表わし、「-自制的性」動作に接続する場合は、「推量」を表わすと述べている。

- i) オレハ、何モスルマイ。 [決心] [+自制的]  
ii) オレハ、何モ解ルマイ。 [推量] [-自制的]

- b. \*彼女は私を助けてくれられなかった。

(4)は「願望」を表わす「たい」が言えるかどうかで「やる」と「くれる」とに差が見られる。(5)は「可能形」が作られるかをテストした例で、「やる」は「可能形」で表わすことができるのに対し、「くれる」は「可能形」を用いることができない。このように、「授受動詞」という同じ枠内に入っている動詞が違う振る舞いを見せているのは、どう説明すればいいだろうか。本章では、これらの現象が生じる原因を動詞の「意志性」の違いに求める。さらに、日本語と韓国語の比較を通して、「やる／くれる」と「주다 juda」における「意志性」に関する類似点や相違点を探り、その類似点や相違点が様々な言語表現形式にどのような影響を与えているのかを明らかにする。そのためには、日本語が「やる／くれる」を視点によって使い分けているのに対して、韓国語は「주다 juda」一つを用いるという違いを、まず観察しておく必要があると考えられる。

- (6) a. 私は花子にプレゼントを やったが、彼女は 何も くれなかった。  
 b. 나는 하나코에게 선물을 주었는데, 그녀는 아무것도 주지 않았다.  
 naneun hanako-ege seonmul-eul ju-eossneunde, geunyeoneun amugeosdo juji anh-assda  
 (私は 花子に プレゼントを やったが、彼女は 何も やらなかった)

(6)の文において、日本語は「やる」と「くれる」が視点によって使い分けられているのに対し、韓国語は「주다 juda」一つが使われている。「視点」に関して日・韓両言語が異なっていることが(6)の文を通して分かるであろう。この現象は、本動詞だけではなく、補助動詞用法にも受け継がれていて、しかも、上記の(4)および(5)における日本語の文の非対称性が、韓国語では見られない。

- (7) a. 私は彼女を助けてやりたかった。  
 b. \*彼女は私を助けてくれたかった。  
 (8) a. 나는 그녀를 도와주고 싶었다.  
 naneun geunyeoleul do-wajugo sip-eosdda  
 (私は 彼女を 助けてやりたかった)  
 b. 그녀는 나를 도와주고 싶어 했다.  
 geunyeoneun naleul do-wajugo sip-eo haessda  
 (彼女は 私を 助けてやりたがっていた)  
 (9) a. 私は花子に何もしてやれなかった。  
 b. \*花子は私に何もしてくれられなかった。  
 (10) a. 나는 하나코에게 아무것도 해 줄 수 없었다.  
 naneun hanako-ege amugeosdo hae jul su eobs-eosdda  
 (私は 花子に 何も してやれなかった)



b. 하나코는 나에게 아무것도 해 줄 수 없었다.

hanakoneun na-ege amugeosdo hae jul su eobs-eosdda

(花子は 僕に 何も して くれられなかった)

(7)と(8)は、「願望」を表わす「たい／たがる」とそれに対応する韓国語の「고 싶다/싶어 하다 go sipda/sip-eo hada」の現われ方の違いを示している。(9)と(10)の文は、「可能形」が作られるかどうかにおける日本語と韓国語の違いを表わしている。(7)～(10)の各文で分かるように、日本語の「くれる」文は非文になっているのに対し、対応する韓国語の文はいずれも正文になっている。これは何を意味するのであろうか。本章では、「やる／くれる」と「주다 juda」の「意志性」の違いについて見ていくのであるが、その前にまず、「意志性」の違いが生じる原因について考えてみる必要があると思われる。その原因となるものは、「視点」に他ならない。それゆえ、5.2 節では、日本語と韓国語の視点の違いについてさらに詳しく見ていく。5.3 節では、「意志性」の定義に関して、先行研究を概観する。5.4 節では、その「意志性」の違いが、さまざまな表現形式にどのように反映されるかを検証する。最終的に、「やる／くれる」と「주다 juda」の意志性における性質の違いを明らかにすることを目標とする。

## 5.2 視点

本節では、日本語と韓国語の授受動詞における視点についてみていく。主に久野(1978)を参考に、韓国語との比較を行うことにする。

久野(1978)は、「従来、『ヤル』と『クレル』の使い分けの分析は、一般に、話し手と与える人と、受け取る人との人間関係（特に近親関係）に基づいて行われて来たために、日本語固有の問題に留まり、他の諸言語の種々の特徴と結び付かず、又一般文法原理の問題として浮かび上がって来ない」と述べ、「ヤル／クレル」を視点の問題として捉えることによって、視点に関するどの様な一般原則がたてられるかを考察し、その一般原則を日本語の他の構文法特徴、他の諸言語、特に英語の諸特徴に適用するための基礎固めをすることとすると記述している(久野 1978 : 141)。

久野(1978)によると、「太郎ガ花子ニお金ヲクレタ」と「太郎ガ花子ニお金ヲヤッタ」の二文は、論理的内容を同じくする。両者の違いは、話し手の視点の違いにあり、授受動詞文には以下のような視点の制約があると述べている。

(11) **授受動詞の視点制約** 「クレル」は、話し手の視点が、主語（与える人）よりも与格目的語（受け取る人）寄りの時にのみ用いられる。「ヤル」は、話し手の視点が主語寄りか、中立の時にのみ用いられる。

クレル E(与格目的語) > E(主語)

ヤル E(主語) ≥ E(与格目的語)

(Eは Empathy (共感) の意味)

(久野 1978 : 141-142)

久野(1978 : 134)は、「共感(Empathy)度」という基準を導入して視点を捉えようとし、次のように定義している。

- (12) **共感度** 文中の名詞句の x 指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感(Empathy)と呼び、その度合い、即ち共感度を E(x) で表わす。共感度は値 0 (客観描写) から値 1 (完全な同一視化) 迄の連続体である。

このように、日本語の「ヤル/クレル」は、一般に、視点動詞として扱われてきたが、韓国語にはそのような制約はないと言われている。以下の例を見られたい。

- (13) a. 花子が 太郎に 本を あげた。  
a'. 하나코가 타로에게 책을 주었다.  
hanakkoga talo-ege chaeg-eul ju-eosdda  
b. 花子が 太郎に 本を くれた。  
b'. 하나코가 타로에게 책을 주었다.  
hanakoga talo-ege chaeg-eul ju-eosdda  
c. \*私が 花子に 本を くれた。  
c'. 내가 하나코에게 책을 주었다.  
nega hanako-ege chaeg-eul ju-eosdda

(13)の各文のように、日本語は視点や「話し手」と与える人(以下「与え手」)・受ける人(以下「受け手」)が誰か(内・外関係や近親関係など)によって後ろに来る動詞の種類が違って来る(「やる/あげる」と「くれる」)。一方、韓国語ではそのような視点や内・外(近親)の関係における制限がなく、一つの動詞「주다 juda」が使われる。このような違いは補助動詞用法にもそのままつながっている。

- (14) a. ??太郎が花子にクリスマスプレゼントを買ってやったのに、花子は彼に何も  
買ってやらなかった。(久野 1978 : 153 一部改変)  
b. 타로가 하나코에게 크리스마스선물을 사 주었는데, 하나코는 그에게 아무 것도 사 주지 않았다.  
taloga hanako-ege keuliseumaseuseonmul-eul sa ju-eosneunde, hanakoneun geu-ege amugeosdo sa juji anh-assda.

(太郎が 花子に クリスマスプレゼントを 買ってやったが 花子は 彼に 何も 買ってやらなかった)

- (15) a. \*太郎が花子にクリスマスプレゼントを 買ってくれたのに、花子は太郎に何も 買ってくれなかった。(久野 1978 : 156)
- b. 타로가 하나코에게 크리스마스선물을 사 주었는데, 하나코는 타로에게 아무것도 사 주지 않았다.
- taloga hanako-ege keuliseumaseuseonmul-eul sa ju-eossneunde, hanakoneuntalo-ege amugeosdo sa juji anh-assda
- (太郎が 花子に クリスマスプレゼントを 買ってやったが 花子は 太郎に何も 買ってやらなかった)

(14)と(15)の文のように、日本語の「～てあげる／くれる」は視点がどこに置かれるかによって正文になったり、非文になったりするのに対して、韓国語の「～어 주다 eo juda」は補助動詞構文においても、久野(1978)の言う視点の制約には影響されない。

これに関連して久野(1978 : 156)は、以下のような「補助動詞「ヤル／クレル」の視点制約」を提案している。

(16) 補助動詞「クレル・ヤル」の視点制約

……テクレル E(非主語) > E(主語)

……テヤル E(主語) > E(非主語)

- (17) a. 太郎は、花子が貸してやった自動車を修繕してくれた。
- a'. 타로는, 하나코가 빌려 준 자동차를 수리해 주었다.
- taloneun, hanakoga billyeo jun jadongchaleul sulihae ju-eosdda
- (太郎は 花子が 貸してやった 自動車を 修理してくれた)
- b. \*太郎は、花子が貸してくれた自動車を修繕してくれた。
- b'. 타로는, 하나코가 빌려 준 자동차를 수리해 주었다.
- taloneun, hanakoga billyeo jun jadongchaleul sulihae ju-eosdda
- (太郎は 花子が 貸してやった 自動車を 修理してやった)
- (18) a. ??太郎は、花子が貸してやった自動車を修繕してやった。
- a'. 타로는, 하나코가 빌려 준 자동차를 수리해 주었다.
- taloneun, hanakoga billyeo jun jadongchaleul sulihae ju-eosdda
- (太郎は 花子が 貸してやった 自動車を 修理してやった)
- b. 太郎は、花子が貸してくれた自動車を修繕してやった。
- b'. 타로는, 하나코가 빌려 준 자동차를 수리해 주었다.
- taloneun, hanakoga billyeo jun jadongchaleul sulihae ju-eosdda
- (太郎は 花子が 貸してやった 自動車を 修理してやった)

久野(1978 : 136)は (16) に基づいて、(17a) (17b)と(18a) (18b)の許容度の違いが以下のような「視点の一貫性」に矛盾することからきているものであると述べている。

(19) 視点の一貫性 単一の文は、共感度関係に論理的矛盾を含んではいけない。

それに比べて、韓国語の(17a'b')と(18a'b')は視点の影響を受けないので、いずれも正文になっている。したがって、少なくとも韓国語の「주다 juda」は(19)のような視点の一貫性という制約には影響されていないとすることができる。

以上のように、日本語は視点や内外(親近)関係によって「ヤル」と「クレル」などの授受動詞が使い分けられている。日本語の授受動詞が視点や内外(親近)関係に敏感であることは、以下の例のように、授受動詞が複数回使われること、つまり、授受動詞同士の結合が可能な例文からも垣間見ることができる。

- (20) a. 明日の今頃まで、私を警察に連れていくのを待ってくれませんか。一日だけ、待ってやってくれませんか。… 《理由 637》
- b. “…내일 이맘때까지 기다려줄 수 있겠습니까?” 하고 이시다는 물었다.  
gidalyeojul su issgeess-seubnikka  
“딱 하루만 기다려주실 수 없나요(gidalyeojusil su eobsna-yo)?” 《이유》  
〔「明日の今頃まで 待ってくれることができますか」と石田は聞いた。  
「一日だけ 待ってくれることはできないでしょうか)〕
- (21) a. 「ねえ、にいさん。今度ばかりは見舞いに行ってやってくれないか。頼むよ」 《地下鉄 134》
- b. “형, 이번만은 병문안 가주지 않겠어(gajuji anhgess-eo)? 부탁이야.”  
(兄さん、今度ばだけは見舞い 行って やらないか。 頼むよ) 《지하철》
- (22) a. 遅刻の言いわけはいいから、先週の水曜日と木曜日のぼくのスケジュールをできるだけ詳しく正確に、この人に教えてあげてくれ。 《殺した少女 105》
- b. 지각에 대한 변명은 됐고, 지난 주 수요일과 목요일의 내 스케줄을 될 수 있으면 자세하고 정확하게 이 사람에게 가르쳐 주어.  
galeuchyeo jwo 《죽인 소녀》  
(遅刻についての言い訳はいいから、先週の水曜日と木曜日の僕のスケジュールをできるだけ詳しく正確にこの人に 教えて やって)
- (23) a. そしてクラス替えはありませんので、みんなは決して二人を除外しようとせず温かい目で見守ってあげてください。 《告白 60》
- b. 그리고 학급 교체는 없으니 모두들 결코 두 사람을 몰아내지 말고 따스한 눈길로 지켜봐 주세요(jikyeobwa juse-yo). 《고백》  
(そしてクラス替えはないので 皆 決して二人を 除外しようと せず 温かい目で 見守って ください)
- (24) a. お願いします。今から、一緒に病院に行つて、息子さんに会つてあげてください。 《少女 230》

- b. 부탁드립니다. 지금부터 저랑 같이 병원으로 가서 아드님을 만나  
 주세요 (manna juse-yo). 《소녀 243》  
 (お願いします。今から 私と 一緒に 病院に 行って 息子さんを 会って ください)

(20)～(24)の各文は「やる／くれる／もらう」という授受動詞同士が連続して用いられている文である。日本語の場合、第三者にも利益が及ぼされ（「待ってやってくれませんか・行ってやってくれないか・教えてあげてくれ・見守ってあげてください・会ってあげてください」の下線のところ）、話し手にも利益や感謝の気持ちがある（「待ってやってくれませんか・行ってやってくれないか・教えてあげてくれ・見守ってあげてください・会ってあげてください」の下線のところ）構造になっている。これと関連して堀口(1987)は、授受動詞同士の結合について、以下の表のようにまとめている。

補助動詞 主動詞	ヤ ル	ク レ ル	モ ラ ウ
ヤ ッ テ	○	○	○
ク レ テ	× <sup>135</sup>	×	×
モ ラ ッ テ	○	○	○

表 1 授受動詞同士の結合

表 1 のように、日本語は視点によって使い分けられている授受動詞同士が互いに結合することができる<sup>136</sup>。堀口(1987)は、「『ヤル・クレル・モラウ』が補助動詞になる時、『ヤル』と『モラウ』は主動詞になれるが、『クレル』は主動詞になれない」と言い、このような現象は無意志動詞に見られる現象と共通していると述べている。それに比べて韓国語の「주다 juda」動詞は、視点や利益などの方向を基本的に一つしか持たないので、一般に第三者の方に利益や行為の方向が向けられる（「기다려 줄 수 없나요 gidalyeo jul su eobsna-yo (待ってあげられませんか)」「가 주지 않겠어 ga juji anhgess-eo (行ってあげませんか)」「가르쳐 줘 galeuchyeo jwo (教えてあげて)」「지켜봐 주세요 jikyeobwa juse-yo (見守ってあげなさい)」「만나 주세요 manna juse-yo (会ってあげなさい)」)。すなわち、以下のように「주다 juda」を二回以上使うことができないのである。

- (25) \*기다려 줘 줄(jwo jul)수 없나요. (待って やって くれませんか)  
 \*가 줘 주지(jwo juji)않겠어. (行って やって くれないか)  
 \*가르쳐 줘 줘(jwo jwo). (教えて あげて くれ)

<sup>135</sup> 「おまえにくれてやる」は成立するが、「\*おまえに教えてくれてやる」などのように、先行動詞と結合する用法は持たない。

<sup>136</sup> 堀口(1987)では、「\*子犬をくれてやる。」「\*子犬をくれてくれる。」「\*子犬をくれてもらう。」のように、「くれる」が先行する場合には非文になると述べられている。

\*지켜봐 줘 줘 (jwo jwo). (見守って あげてください)

\*만나 줘 주세요 (jwo juse-yo). (会って あげてください)

これは、同じ意味を表わす「주다 juda」を重ねて使うのを憚る理由からであるかもしれないが、それより、韓国語の「주다 juda」は、(20)~(24)のように、第三者と話者に同時に利益を与えるような用法、つまり、「対象の移動」や「受益(利益)」の方向を複数的に表わす用法を持っていないということが一つの原因ではないかと思われる。これこそ、日本語の「やる／くれる」のような視点の分化がされていないということの一つの裏づけになり得ると考えられる。

ところで、興味深いことに、一見それに反しているかのような、韓国語の例が存在する。以下の(26)~(32)を見られたい。

- (26) “고모가 멀리 있어 내일 할아버지, 할머니 뵈러 못 갈 거 같아, 그러니까 장원이가 꽃 달아드리고 고모대신 사랑합니다. 하고 꼭 안아드려 줄래 (anadeulyeo jullae)?”

(おばさんが 遠くに いる。明日 お祖父ちゃん、お祖母ちゃん 会いに 行けなさそうだ。だから (チャンウォンが 花 付けて さしあげて おばさんの 代わりに 愛しますと 言って ぎゅっと 抱きしめて さしあげて くれる)

<http://blog.daum.net/remakequeen/49>

- (27) 그리고 마지막 부탁이 있어. 얼마 남지 않은 우리 아버지, 네가 있는 그 곳에 가시면 낫설지 않게 손이라도 잡아 드려 줄래 (jab-a deulyeo jullae)? (そして 最後の お願いが ある。あまり 残って いない お父さん、君が いる そっちに行かれたら 不慣れに ならない ように 手でも 握って 差し上げて くれる?)

<http://bbs.miznet.daum.net/gaia/do/miztalk/ages/life04/default/read?bbsId=MT020&articleId=225466>

- (28) 이제 학교 왔다. 아직 모든 게 어색한데 잘해봐야지. 윤성아 적어서 부모님 갖다 드려 줄래 (gajda deulyeo jullae). 잘 도착했다고 말씀 드리고…

(今 学校 来た。まだ 全てのことが 気づまり だけど よく やって みるよ。ユンソン、書いて 親に 持って 差し上げて くれる。よく 着いたって 伝えて 差し上げて…)

<http://cafe.daum.net/timelessfriends/CEX4/242?docid=2242752721&q=%B0%AE%B4%D9%20%B5%E5%B7%C1%C1%D9%B7%A1&re=1>

- (29) 얼마전에 너희 어머니 생신은 잘보냈니?? 내가 있었으면 좋았는데… 늦게나마 어머니한테 생신 진심으로 축하한다고 전해 드려 줄래 (jeonhae deulyeo jullae)??

(この前 あなたの お母さんの お誕生日は よく 過ごしたの? 私が いれば よかったのに 遅ればせながら お母さんに お誕生日 おめでとう って 伝えて 差し上げて くれる?)

[http://k.daum.net/qna/view.html?category\\_id=QNE001&qid=3YAMI&q=%EC%A0%84%ED%95%B4%20%EB%93%9C%EB%A0%A4%EC%A4%84%EB%9E%98&srchid=NKS3YAMI](http://k.daum.net/qna/view.html?category_id=QNE001&qid=3YAMI&q=%EC%A0%84%ED%95%B4%20%EB%93%9C%EB%A0%A4%EC%A4%84%EB%9E%98&srchid=NKS3YAMI)

- (30) 인희야~ 신안수 집사님 등급 업 해 드려줄래 (hae deulyeojullae)?? ^^;

(인히, 싱안스 執事さん 레벨업 して 差し上げて くれる?)

<http://cafe.daum.net/ssteenage/JyoP/9?docid=2925692673&q=%C7%D8%B5%E5%B7%C1%20%C1%D9%B7%A1&re=1>

- (31) 또 아빠가 출근하실 때는 울먹울먹하며 아빠의 품을 그리워하는 모습도 보여드리고 영금영금 기어가서 아빠 퇴근을 맞이해드리고 아장아장 걸어서 아빠를 반갑게 맞아 주고...그렇게 아빠 많이 기쁘게 해드려 줄래 (gippeuge haedeulyeo jullae)?

(また パパが 出勤する ときは 涙ぐみながら パパの 懐を 懐かしがる 姿も 見せて 差し上げ、のそのそと 這って 行って パパの 退勤を 迎えて差し上げて よちよち 歩いて パパを 嬉しく 迎えて やって... そう パパ たくさん 喜ばせて 差し上げて くれる?)

<http://blog.naver.com/PostView.nhn?blogId=mioyn25&logNo=30149731533>

- (32) P.S: 경화랑 은미야 울집에 종종 전화 짬 해드려줄래.

jeonhwa haedeulyeojullae

(キョンファ、ウンミ、私の 家に たまに 電話して 差し上げて くれる)

<http://cafe.daum.net/yangsanbbs/15C/814?docid=1308584324&q=%C7%D8%B5%E5%B7%C1%20%C1%D9%B7%A1&re=1>

上記の(26)～(32)が何を意味するか、また、どういう状況の下で使われるかを見ていく前に、まず、以下の表1を参照されたい。

韓国語	日本語
주다(juda)	くれる
주시다(jusida)	くださる
주다(juda)	やる
	あげる
드리다(deulida)	さしあげる
받다(batta)	もらう
	いただく

表2 韓国語・日本語の授受動詞の対応関係 (=第2章の表1、p. 12)

韓国語の「주다 juda」は日本語の「やる／くれる」と対応し、その尊敬語に当たる「주시다 jusida(くださる)」と謙譲語に当たる「드리다 deulida(さしあげる)」を持っている。その用法は日本語の「くださる」と「さしあげる」に各々対応しており、例えば

- (33) a. 선생님께서 나에게 책을 주셨다.  
seonsaengnimkkeseo na-ege chaeg-eul jusy eosdda  
(先生が 私に 本を くださった)

- b. 내가 선생님께 책을 드렸다.  
naega seonsaengnimkke chaeg-eul deulyeossda  
(私が 先生に 本を さしあげた)

のように用いられる。(26)～(32)は「드리다 *deulida*(さしあげる)」と「주다 *juda*」が組み合わされた「드리주다 *deulyeojuda* (さしあげて [あげて] くれる)」の形で用いられた実例である。数は少数で、掲示板やブログなどのいわゆる口語体ではあるものの、まるで韓国語の授受動詞も「視点」や内外(親近)関係によって授受動詞が使い分けられているかのような用法が見られるということは注目に値することである。確かに、韓国語の「文法」の観点から見れば、誤用として扱われる可能性も否めないものの、今後、日本語で見られているような、授受動詞間の他の組み合わせである「해 줘 주다 *hae jwo juda* (～てやってくれる)」や「해 드리 주시다 *hae deulyeo jusida* (～てさしあげて/あげてくださる)」などの使い方が実現する可能性も十分に示唆していると考えられる。

### 5.3 「意志性」に関する先行研究

本節は、日本語の「やる/くれる」と韓国語の「주다 *juda*」における視点の違いについて論じた 5.2 節の内容を踏まえて、視点の分化が見られる「やる/くれる」と視点の制約に影響されない「주다 *juda*」が「意志性」においてはどのような違いを見せているのかについて考察する。さらに、「意志性」を取り扱っている先行研究を概観することにする。

#### 5.3.1 「意志性」の定義

それでは、まず「意志性」とは何かという問題について先行研究を概観する。

堀口(1987)は、「動詞には同じ活用でありながら異なる現象が見られる場合がある」とし、同じ誘いかける形でありながら、「食べヨウ」と「降ロウ」とで、表わす意味が違いと述べている。つまり、「食べヨウ」は話し手の意志や相手に対する誘いかけを表わすのに対し、「(雨が)降ロウ」は推量を表わすのである。また、「行ク」は命令形が作れるのに対し、「呆レル」には命令形が存在しない(堀口 1987:115)。さらに考えられるのは、「来イ」という命令形とは対照的に、「光レ」は命令の意味ではなく、相手に対する願望を表わす(吉川 1974: 71)ということである。

このような現象の原因を探ろうとして、先行研究では、あらゆる動詞を「意志動詞」と「無意志動詞」とに分ける作業が行われてきた。

宮島(1972)は、動詞が表す動作を、意志的な動作を表わすかどうかという観点から、「(A)有情物の意志的動作(よむ、はしる、わらうなど)」、「(B)有情物の無意志動作(あわてる、気づく、おどろく、こまるなど)」、「(C)非情物の動き(ながれる、もえる、おとろえるなど)」とに分けている。



鈴木(1972)は、「さそいかける形」と「命令する形」が、本来の意味で用いられる場合、話し手が相手に動作を働きかけるものであるとし、したがって、この形を本来の意味で用いることのできる動詞は、人間の意志的な動作（人間の意志によって左右することのできる動作）をあらわすものにかざられると述べている。彼は、「さそいかける形」と「命令する形」を本来の意味でもちいることのできる動詞を意志動詞とし、この意味で用いることのできない動詞を無意志動詞としている。無意志動詞には、自然現象など非情物の動き・状態を表わす動作や、人間の動作の中でも、生理的な現象やある種の心理的な現象を表わす動詞、可能動詞（できるたちばの動詞をふくむ）などが含まれると述べ、以下のような動詞を挙げている。

意志動詞……よむ、かく、いく、かえる、つくる、こわす、たべる、のむ…

無意志動詞…(非情物の動き・状態) ある、ながれる、ひかる、こおる、と

ける、こわれる、(雨が) ふる、(風が) ふく……

(人間の生理現象) しびれる、いたむ、ほてる、むせる、老いる、わかがえる…

(人間の心理現象) あきる、あきれる、このむ、こりる、こまる、はにかむ…

(可能) できる、およげる、うかる、たすかる、もうかる…

鈴木(1972: 319)

久野(1973)は動詞の意味的特徴の一つとして[自制的] (self-controllable) という概念を提案している。例えば「話す、読む、来る」など、自分の意志で制御できる動詞は[+自制的]であり、「落ちる、出会う、急死する」などは[-自制的]であると主張している。この[自制的]という概念と関連付けて、まず、「使役の接辞『セル』」の付加について論じている。彼によると、以下のように、使役の接辞「セル」は[+自制的]動詞にしか付加できないという。

(34) a. 太郎ハ花子ニ本ヲ読マセタ。

b. \*太郎ハ花子ヲガケカラ落チサセタ。

次に、「読マレル」「食ベラレル」のような受身形は[-自制的]であるため、使役形を付加することができず、「\*読マレサセル」「\*食ベラレサセル」は非文法的であると述べている。可能形の「読メル」「食ベラレル」も[-自制的]であるため、「\*読メサセル」「\*食ベラレサセル」も非文法的であると説明している。これについて、「派生動詞形成上、使役の接辞『セル』が受身、可能の接辞『ラレ、レ』の後に現われ得ないという、衆知の事実、AがBに行わせ得る動作は、Bの意志によって制御できる動作、すなわち[+自制的]動作でなければならないという意味的理由に由来している」と述べている。

一方、マイは、以下のように[+自制的]動詞に接続する場合は「決心」を表わし、[-自制的]動作に接続する場合は、「推量」を表わす。

- (35) a. オレハ、何モスルマイ。[決心] [+自制的]  
 b. オレハ、何モ解ルマイ。[推量] [-自制的]

最後に、命令形については、[+自制的]動詞にのみ可能であるとし、「…シヨウト」のような目的を表わす表現も、[+自制的]動詞にのみ許されると述べている。

- (36) a. コノ本ヲ読メ。  
 b. 学校ニ行ケ。  
 c. 手紙ヲ書コウトシタ。  
 d. 勉強ヲシヨウト思ッタ。  
 (37) a. \*太郎ニ出会エ。  
 b. \*崖カラ落チロ。  
 c. \*日本語が出来ロ。  
 d. \*太郎ニ出会オウトシタ。  
 e. \*日本語ガ話セヨウト、日本ニ行ッタ。

### 5.3.2 堀口(1987)

堀口(1987)は、「授受動詞」という一つの枠でくくられている「やる／くれる／もらう」が「意志動詞・無意志動詞」の観点からみると異なる振る舞いを示すと述べ、「意志動詞・無意志動詞の定義から見た『くれる』」「助詞・助動詞との結合」「補助動詞との結合」「他の語との結合」という項目を立てて検証を行っている。それでは、その具体的な現象について概観する。

#### 5.3.2.1 意志動詞・無意志動詞の定義から見た「くれる」

堀口(1987)は、意志動詞・無意志動詞の定義から見た「くれる」について検討する際に、「誘いかける形」「命令形」という下位項目を立てている。まず、「誘いかける形」についてである。

- (38) a. 昼ごはんを一緒に食べよう。  
 b. この気温だと雪もとけよう。

(38a)の「食べよう」は誘いかける意味で用いることができ、(38b)の「とけよう」はそうはできないことを理由に、「食べる」は「意志動詞」、「とける」は「無意志動詞」であるという鈴木(1972)の説明を引用し、「くれる」は以下のように「推量」の意味を表わすと述べている。

- (39) a. 生徒を志望校に合格させれば、親がウイスキーの一本位はくれよう。  
b. 心のダイヤル 110 番は 24 時間受け付けているので、いつでも相談にのってくれよう。

しかしながら、「これなら彼も食べよう」の文においては意志動詞である「食べよう」が「推量」を表わすことから、「くれ」の誘いかける形が本来の誘いかけの意味を表わさないということは直ちに「くれる」が無意志動詞であることにはならないので、「くれる」の主語に限定があるという点から考えるべきであると説明している。

次に、「命令形」についてであるが、堀口(1987)は、「命令形を命令の意味で用いることができるかどうかを意志動詞・無意志動詞を分ける一つの基準になる」という鈴木(1972)の以下のような例を引用している。

- (40) a. ボールをよく見てしっかり打て。  
b. スキーをやるんだからもっと降れ。

(40a)の「打て」は命令の意味で用いることができ、(40b)の「降れ」は命令の意味で用いることができないので「打つ」は意志動詞、「降る」は無意志動詞であるというのが引用の内容である。それを利用して「くれる」の命令形を検討している。

- (41) a. たばこを一本くれ。  
b. おれの立場も考えてくれ。  
c. 特に辛くしてくれと頼んだ。  
(42) a. おれの立場も考えてくれと頼んだ。  
b. \*特に辛くしてくれと命じた。  
c. \*おれの立場も考えてくれと命じた。

堀口(1987)は、「くれる」も(41)のように「命令」を表すが、「頼む」が続く(41c)と(42a)は自然なのに、「命令する」がつく(42b)および(42c)は不自然だということから、「クレ」が命令より依頼の意味に近いと述べている。しかし、命令か依頼かというのは強さの違いであり、相手にある行為をするように働きかけるという点では変わりなく、「くれる」の命令形は本来の意味で用いることができると付け加えている。ところが、次のような例は命令でも依頼でもないと主張する。

- (43) a. 志望校に受かってくれ。  
b. 早くやんでくれ。  
c. 息子よ、弱いおやじを許してくれ。

- d. 娘よ、早くいい人を見つけてくれ。

堀口(1987)によると、(43a)～(43d)における「くれ」の意味は「願望」を表わし、これは、同じ授受動詞でも「やれ」や「もらえ」には見られない現象である。

以上のように、「くれる」の命令形は普通は命令を表わすという「意志動詞」の性質を持っており、その補助動詞用法の命令形は「願望」を表わすこともあると堀口(1987)は述べている。

### 5.3.2.2 助詞・助動詞との結合

次に、助詞・助動詞との結合についてである。堀口(1987)は「マイ形」「テ形」「疑問形」「可能形」について論じているが、ここでは特に本章と直接関連のある「可能形」について見ていくことにする。

#### 5.3.2.2.1 可能形

- (44) a. この店では各地の酒が飲める。  
b. やきそばなら私も作れる。  
c. \*雨が降れる。  
d. \*大きな音に驚ける。  
e. \*チョコレートをくれられる。  
f. \*英語を教えてくれられる。

堀口(1987)は、(44a)と(44b)のように、意志動詞は可能形を付けて使えるが、(44c)と(44d)のように、無意志動詞はそれができないと述べ、一方「くれる」は(44e)(44f)のようにこの形を持たないから、「無意志動詞」に似た性質を持つと論じている。

なお、「くれる」は「もらえる」と同じように使える場合があるという。

- (45) a. 一つ位ならくれるだろう。  
b. 一つ位ならもらえるだろう。  
(46) a. その仕事は山田さんがやるだろう。  
b. その仕事は山田さんにやってもらえるだろう。

堀口(1987)は、「くれる」が可能形「もらえる」に変換できるということと、可能動詞は無意志動詞であるということを考え合わせると、「くれる」に無意志動詞と共通のいくつかの現象が見られるのも不自然ではないと述べている。

### 5.3.2.3 補助動詞との結合

#### 5.3.2.3.1 授受動詞との結合

堀口(1987)は、「授受動詞ヤル・クレル・モラウが補助動詞として使われる時、その前に来る主動詞は原則として意志動詞である」という鈴木(1972)の主張に基づいて詳しい事例を検討している。

- (47) a. 絵本を読んでやる。  
 b. 分かりやすく説明してくれる。  
 c. \*役員が決まってやる。  
 d. \*まじめにやっではかどってもらう。

堀口(1987)は、原則として言ったのは、主動詞に無意志動詞が使える場合もあるからであると述べ、以下のような例を出している。

- (48) a. 私の言うことは分かってくれる。  
 b. システムがいくつか売れてくれた。  
 c. あまりたくさん降ってもらうと困る。  
 d. そんなに照ってもらっては困る。

次に、主動詞が授受動詞である場合を検討しており、次のようにまとめている。

補助動詞 主動詞	ヤル	クレル	モラウ
ヤッテ	○	○	○
クレテ	×	×	×
モラッテ	○	○	○

表3 授受動詞同士の結合 (=表1)

堀口(1987)によると、「やる／くれる／もらう」が補助動詞になる時に、「やる」と「もらう」は主動詞になれるが、「くれる」は主動詞になれない。この現象は無意志動詞に見られる現象と共通しているのである。

#### 5.3.2.3.2 「みる・みせる・おく」との結合

堀口(1987)は、「ミル・ミセル・オクの補助動詞用法を『もくろみ動詞』と呼んでおり、その前の主動詞としては意志動詞しか使えないという鈴木(1972)の主張に従い、「くれる」との結合を検討している。

- (49) a. ファミコンをやってみる。  
 b. あしたは5時に起きてみせる。  
 c. 予習をしておく。  
 d. \*雨が降ってみる。  
 e. \*月が輝いてみる。  
 f. \*ファミコンにあきしておく。
- (50) a. \*チョコレートをくれてみた。  
 b. \*卒業祝いをくれてみせた。  
 c. \*小遣いを先にくれておいた。

堀口(1987)は、もくろみ動詞の主動詞として使えないという無意志動詞に見られる現象が「くれる」にも見られると述べ、「くれる」がもくろみ動詞の主動詞になれない理由は、常に話し手が主体の行為を受ける側に立っているという「くれる」の語彙的特徴によっているものであると述べている。

この他にも、「タメニ」、「ニチガイナイ」との結合についても検討している。

以上の内容を、堀口(1987)は以下のようにまとめている。

	文法事項	文法現象
1. 意志動詞と同じ	命令形	命令
	疑問形	相手の意志を問う
	～タメ(ニ)	目的、原因・理由
2. 無意志動詞と同じ 主体が第三者の場合 の意志動詞と同じ	誘いかける形	推量
	マイ形	否定推量
	疑問形	聞き手の判断を問う
	可能形	なし
	～ヤル・～クレル・～モラウ	使えない
	～ミル・～ミセル・～オク	使えない
	～タメニ	原因・理由
～ニチガイナイ	確信	
3. 「クレル」のみに 見られる	テ形	なし
	疑問形	依頼

表4 堀口(1987)の分類表

これによると、「くれる」に見られる文法現象で意志動詞に共通するのは3点、無意志動詞と共通なのは8点である。「くれる」が「人間の意志によって左右することのできる動

作」であるにもかかわらず、無意志動詞との共通点が多いのは何を意味するのか。堀口(1987)は、次のように述べている。

無意志動詞と共通な 8 点について考えてみると、「くれる」は話し手が主体にならないということ、無意志動詞は話し手の意志的な行為を表わさないということに起因している現象が多い。言いかえると、「くれる」は話し手が主体になることがないために無意志動詞と同じような現象を見せるのであって、無意志動詞だから無意志動詞的性質を持っているというのではない。このことは、意志動詞であっても主体が第三者の場合には無意志動詞や「くれる」と同じ文法現象を見せるということとも通じる。したがって、「くれる」は無意志動詞と多くの共通点を持っているが、だからといって無意志動詞であるとはいえないのである。

堀口(1987)によると、「くれる」に意志動詞的性質があまり見られないのは、その主体に限定があることによっている場合が多いからである。つまり、意志動詞においては主体が話し手であるかそれ以外であるかということが文法的性質に大きく影響するという事である。

以上のように、意志性に関してはいろいろな説があることが示された。ここでは、その中で堀口(1987)の考え方を基本的に踏襲することにしたい。

#### 5.4 「やる／くれる」と「주다 juda」の意志性

本節では、5.3 節で見た「意志性」の定義と、鈴木(1972)と堀口(1987)の分類の基準のいくつかに基づいて、「やる／くれる」と「주다 juda」を「意志性」の観点から分析していく。なお、「やる／くれる」については 5.3 節の議論と重複する所があるが、新たな考察も加えられている。

検討する項目として取り上げるのは、一般に「意志性」を検証するテストとしてよく用いられている「う／よう」「命令形」と、日・韓で差が見られると予測される「否定の命令形」「たい／たがる」「可能形」「しなければならない(いけない)」「てみる」である。

##### 5.4.1 「～う／よう」

動詞の「～う／よう」形は、一般に「誘いかける形」と呼ばれている。鈴木(1972)は、「誘いかける形」はいっしょに動作をするように相手にはたらきかけるときに使われると述べ、意志(自分でなにかをしようとする気持)を言い表す時にも誘いかける形が使われると記述している(鈴木 1972: 316)。たとえば、以下のように用いられる。

- (51) a. きみ、夜になったら、蛍狩りに行こう。

b. この本は、あなたにあげましょう。

(鈴木 1972: 316 一部改変)

一方、(52)のような無意志動詞では、さそいかける形は、おしはかり (推量) の意味になる (鈴木 1972: 318、堀口 1987:116)。

- (52) a. そんなこともあろう。 }  
b. あすは雨がふりましよう。 } (鈴木 1972: 318)  
c. この気温だと雪もとけよう。 (堀口 1987: 116)

それでは、「やる／くれる」のさそいかける形はどうなるであろうか。以下の例を見られたい。

- (53) a. テレホンカードをやろう。 (堀口 1987: 116)  
b. 君にも教えてやろう。  
(54) a. 生徒を志望校に合格させれば、親がウイスキーの一本位はくれよう。  
b. 心のダイヤル 110 番は 24 時間受け付けているので、いつでも相談に乗って  
くれよう。

(53ab)は、「やる」のさそいかけ形であるが、「やろう」が本動詞および補助動詞として用いられた時は「意志」を言い表わす。それに比べて、「くれる」が用いられた(54ab)は「意志」や「さそいかけ」を表わすのではなく、推量 (おしはかり) の意味を表わす。堀口(1987)は、(54)の文における「くれよう」の意味が推量の意味を表わすということは、推量の副詞「タブン」と希望や依頼のような意志的な表現と呼応する副詞「ゼヒ」を入れてみるとすぐ判断できると述べている。(54ab)ともに、「タブン」とは共起できるのに対し、「ゼヒ」とは共起できないことから、「くれよう」が推量を表わすということの証拠になるということである。

それでは、韓国語の「주다 juda」の場合はどうであろうか。(53)および(54)の各文を韓国語にすると以下のようなになる。

- (55) a. 전화카드를 줄게 (julge).  
(テレホンカードを あげよう)  
b. 너한테도 알려 줄게 (allyeo julge julge).  
(君にも 教えて あげよう)  
(56) a. 학생을 지망학교에 합격시키면, 부모가 위스키 한 병 정도는 주겠지 (jugessji).  
(学生を 志望校に 合格させれば、親が ウイスキー 一本位は くれる だろう)  
b. 마음의 다이얼 110 번은 24 시간 접수를 받으니까, 언제든지 상담에  
응해 주겠지 (eunghae jugessji).



(心のダイヤル 110番は 24時間 受付を 受けるから いつでも 相談に  
応じてくれる だろう)

(55)において、「주다 juda」は「意志」を持つ動詞として用いられているのに対し、(56)では、「意志」を持ってさそいかけるという意味よりは、やはり、日本語と同様、「推量」の意味を表わしている。

堀口(1987)は、「これなら彼も食べよう」のような文において、意志動詞の「食べる」のさそいかけ形である「食べよう」形が誘いかけの意味を表わさないということは、「無意志動詞と『くれる』」だけではなく、意志動詞であっても主語が話し手以外の場合にはみられる」とし、「したがって、『くれる』の誘いかけ形が本来の意味を表わさないということは直ちに無意志動詞の定義と結び付くのではなく、『くれる』の主語に限定があるという点から考えるべき」であると述べている。

このような現象は、日本語の誘いかける形と推量形が同じであるため生じるもので、韓国語は(55)および(56)から分かるように、誘いかける形と推量形の形式が違うため、そのような困難は生じない<sup>137</sup>。

以上の内容をまとめると、「やる」の場合は「誘いかけ形」は本動詞でも補助動詞でも「意志」を表わす。それから、「くれる」の「誘いかけ形」は意志は表わさず、推量だけを表わす。一方、韓国語の場合、「やる」の意味の「주다 juda」は日本語と同じく意志を表わすが、「くれる」の意味の場合は、日本語と同じく意志の意味は表わせない。日本語と韓国語の違うところは、日本語では「くれる」の「誘いかけ形」が推量の意味を表わすことができるのに対して、「주다 juda」の誘いかけ形は誘いかけの意味しか表わせないというところにある。

#### 5.4.2 「命令形」

仁田(1988)は、次の(61a)と(61b)とで、命じられていることが違うと主張する。

- (61) a. もういい、あっちへ行け。  
b. まあ、落ちつけよ。

彼によると、(61a)では、「行く」という動きの達成・成立そのものが命じられているのに対し、(61b)の場合は、聞き手が話し手から命じられて行うことができるのは、「落ち着く」という(心的な)動きの達成・成立そのモノではない。すなわち、「落ち着くようにする」こと、「落ち着くように努める」ことである。鈴木(1972)も命令形を命令の意味で

<sup>137</sup> 「これなら彼は食べよう」が意志の意味を表わさないのは、普通は話し手には発話現在の他人の意志が分からないからではないかと考えられる。「くれよう」が意志の意味にならないのも同じ理由によると考えられる。

用いることができるかどうかで、意志動詞・無意志動詞を分ける一つの基準になると述べている。

- (62) a. はやく手紙をかけ。  
b. お正月はやくこい。

(鈴木 1972: 319-320)

鈴木(1972)は、命令形は無意志動詞には一般に使われないが、(62b)のように話し手のねがいを表わす場合には用いることができると述べている。

それでは、「やる」と「くれる」と「주다 juda」の命令形はどうなるのだろうか。

- (63) a. 彼にも一つやれ。  
b. 彼にも教えてやれ。  
(64) a. たばこを一本くれ。  
b. おれの立場も考えてくれ。  
c. 特に辛くしてくれと頼んだ。

(堀口 1987: 119)

堀口(1987)は、意志動詞の命令形は命令を意味し、「くれ」も(64)のように、命令を表わすとし、ただ、「頼む」が続く(64c)は自然であるが、それを「命じた」にすると不自然になるということから、(命令か依頼かというのは強さの違いであって)「くれ」が命令より依頼に近いと述べている。ところで、「くれる」の主体は常に聞き手が第三者であるから、命令形の場合はそのうちの聞き手が主体となって、「くれ」が命令を表わすことができる(堀口 1987:119)。例えば「志望校に受かってくれ」や「早くやんでくれ」は聞き手に向かっての発話ではなく、したがって命令でも依頼でもない。これは、「話し手が独白的に第三者に対する願望を述べた文」である。

- (65) a. 息子よ、弱いおやじを許してくれ。  
b. 娘よ、早くいい人を見つけてくれ。

堀口(1987)によると、補助動詞用法で願望を表すという用法は、「やる」や「もらう」には見られない。また、命令形が願望の意を表わすというのは、主に無意志動詞で見られる現象であるが、意志動詞にもないわけではないという。「打った。大きいぞ。ホームランになるか。入れ」のような文は「入ってくれ」のように「くれ」をつけて願望の意を表すのである。一方、無意志動詞の命令形は、「合図をしたらあわてろ」のような演技する場面<sup>138</sup>や「スキーをやるんだからもっと降れ」のようにして願望の意味を表わすということ

<sup>138</sup> 吉川(1974)は、命令形について次のような公式がなりたつと述べている。  
意志動詞の命令形→命令

になる。

それでは、「주다 juda」の場合はどうなっているのだろうか。(61)～(65)の各文を韓国語にすると以下のようなになる。

- (66) a. 됐어. 저리 가.  
dwaess-eo. jeoli ga  
(いい。 あっち 行け)
- b. 진정해.  
jinjeonghae  
(落ち着け)
- (67) a. 빨리 편지 써.  
ppalli pyeonji sseo  
(早く 手紙 書け)
- b. 설날 빨리 와라.  
seolnal ppalli wala  
(お正月 早く 来い)
- (68) a. 담배 한대 만 줘(다오).  
dambae han daeman jwo(da-o)  
(煙草 一本 だけ くれ)
- b. 내 입장도 생각해 줘(다오).  
nae ibjangdo saenggaghae jwo(da-o)  
(私の 立場も 考えてくれ)
- c. 특별히 맵게 해달라고<sup>139</sup> 부탁했다.  
teugbyeolhi maebge haedallago butaghaessda  
(特別に 辛く してくれと 頼んだ)
- (69) a. 아들이, 연약한 아버지를 용서해 줘(다오).  
adeul-a, yeon-yaghan abileul yongseohae jwo(da-o)  
(息子よ、軟弱な 父を 許してくれ)
- b. 딸아, 빨리 좋은 상대를 찾아 줘(다오).  
ttal-a, ppalli joh-eun sangdaeleul chaj-a jwo(da-o)  
(娘よ 早く いい 相手を 見つけてくれ)

(66)～(69)の韓国語の文は、基本的に日本語の「くれる」と対応している。(66)および(67)の各文のように、意志動詞や無意志動詞の命令形を作ることができるし、(68)のような授受動詞においても、日本語の「(て)くれ」や「(て)ください」と対応している。特に、(68c)および(69a)、(69b)の文においては、「주다 juda」の代わりに「달다 dalda」が用いられており、命令や願望の意味を表わしている。

---

無意志動詞の命令形

[非情物の動き][自然現象][可能動詞] → 願望

[人間の生理的な現象][人間の心理的な現象] → 願望

演技として行うことの命令

<sup>139</sup> 「달다 dalda」という動詞は、日本語の「くれる」のような視点の制約を受ける授受動詞の一つで、現代語では(68c)のような間接引用文や(69a)(69b)のように命令形で用いられるが、基本形を含む他の形式では用いられないのが特徴である。

一般に「命令」というと、意志表明の最高段階の発動と考えられやすいが、実際の内容は、ある動詞の動きの達成・成立そのものが命じられている場合もあれば、ある種の状態を命じる（上記の願望）場合もある（仁田 1988、杉本 1996）。このように、形は命令形でも意味は命令に限定される訳ではない<sup>140</sup>。日本語における以上のような事実は、韓国語にも当てはまり、両言語に共通するところである。

### 5.4.3 「否定の命令形」

本節は、「否定の命令形」に関してみていく。杉本(1996)によると、動詞に関しては、状態動詞のみが禁止命令形を持たない。彼によると、「落ち着くな」は不自然であるが、「ほっとするな」「安心するな」などは可能で、「なめられるな」「叱られるな」「笑われるな」などのような受身形からも否定の命令形を作ることができる(当然語用論上の制約が働く)(杉本 1996: 52)。否定の命令形(禁止命令形)というのは、次のようなものである。

- |  |   |               |
|--|---|---------------|
| <p>(70) a. 飲んだら乗るな。<br/>         b. そんなにべらべら喋るな。<br/>         c. まごまごするな。(無意志動詞)<br/>         d. 台風よ来るな。(無生物主体、事態願望)</p> | } | (杉本 1996: 52) |
|--|---|---------------|

以下、「やる／くれる」と「주다 juda」の否定の命令形の可否を先に検討し、それから日本語と韓国語でどのような類似点と相違点が見られるかについて見ていくことにする。

まず、「やる」の否定命令形であるが、「くれる」の否定の命令形よりは自由に用いられている。たとえば

- (71) a. 真珠を豚に投げてやるな。(マタイ福音書 7 章 6 節)
- b. 敗者には何もくれてやるな。  
<http://yasgreenrecipes.seesaa.net/article/117774991.html>
- c. かわいそうなこと、言ってやるなよ。  
[blog.livedoor.jp/pegasus2011/archives/5292791.html](http://blog.livedoor.jp/pegasus2011/archives/5292791.html)
- d. 「おうよ、カツポー、やつが口を閉じるまで 1 ペニーたりとも 払ってやるな」ってな。  
<http://ejje.weblio.jp/sentence/content/%22%E3%82%84%E3%82%8B%E3%81%AA%22>

のように、比較的広い範囲で使われている。ただ、実際の用例が多く収集できないのは、

<sup>140</sup> 杉本(1996)は、「失敗しろ」「間違えろ」「怪我しろ」「びくびくしろ」などの否定的評価を伴う動詞を用いた命令文の意味は、「命令」というよりは「呪詛」というべきであるとのべている(杉本 1996: 52)

「テヤル」に伴う恩着せがましきや押し付けがましきからくるものと、「～な」というぶっきらぼうな禁止の言い方からくる違和感とが作用するのではないかと思われる。

次に、「くれる」の否定の命令形について見ていく。以下の(72)～(77)の例を見られたい(佐藤 1992 : 138)。

(72) 「おれはこれでもおまえより学問もよけいたつもりだ。見識も普通の人間より持っているとはばかり今日まで考えてきた。ところが、あんな子供らしいことをつい口にしてしまった。まことに面目ない。どうぞ兄を軽蔑してくれるな」

(73) お父さんはこう言われるのだ——もう生涯代助には逢わない。どこへ行って、何をしようと当人の勝手だ。その代わり、以来子としても取り扱わない。また親とも思ってくれるな。

(74) 「本当にもう帰ってくれ。その顔を二度とふたたび見せてくれるな」

(75) 「言いわるいことでも、僕だからいいでしょう。」 「うん、おれはお前を信用しているから話すよ。しかし、驚いてくれるな」

(76) 「お疲れのようですね」

を平気で口にする人も少なくない。いたわりのつもりだろうが、聞く方は、疲れたなどと思っていないことが多く、よけいなことを言ってくれるな、と内心、反発することが少なくない。 『日本語の作法 : 111』

(77) 「ずいぶん遅かったわネ」と言って、ケンカのようになることもある。子にしてみれば好きで遅くなったのではない。うるさいことを言ってくれるな、という気持ちだから、素直になれない。 『日本語の作法 : 112』

(72)～(77)の文は、禁止の命令として「シテクレルナ」が用いられた文である。佐藤(1992)は、「禁止」の表現には「してくれるな」という形もあるが、用例の数から見ると、現代標準語では、「テクレルナ」を用いるのはまれであり、「禁止」の主流は「しないでくれ」の形であると述べている。本論文で収集した用例の中でも「シテクレルナ」が用いられているのは数少ない。以下にそれを挙げる。韓国語との比較・対照のため、対訳本の韓国語の例文もつけておく。

(78) a. 隣の住人が心配して様子を見にくるほどだったという。互いに声を張り上げての非難の応酬の結果、二度とうちには来てくれるなという静子の罵声に送られ、貴子は小糸家を飛び出した。 《理由 80》

b. …, 서로 소리소리 지르며 비난을 주고받다가 결국은 다시는 우리 집에 오지 말라 (oji malla) 는 시즈코의 악담에 떠밀려… 《이유 79》

(お互い 声声 出して 非難を やって もらって 結局 二度と わが 家に 来るな という 静子の 罵声に 押され…)

(79) a. 吉村も共感した。こんどの捜索で一番気をつかっているのは、この若い同僚

だった。

「いいところに気がつきましたね。さすが、今西さんですよ」

「まあ、そう言ってくれるな」 《砂 389》

- b. “정말 그렇군요. 좋은 점에 착안하셨습니다. 과연 이마니시 씨이십니다.”  
요시무라도 공감했다. 이번 수사에서 제일 마음을 쓰는 사람이 이 젊은 동료였다. “그렇게 말하지 마(geuleohge malhaji ma). ….” 《모래 495》

(「本当に そうですね. いい 点に 着眼しました. さすが 今西さん ですね」

吉村も 共感した. 今回の 捜査で 一番 気を 使う 人が この 若い 同僚だった. 「そう 言うな」

- (80) a. 「だから、鹿島田が？」 「お母さん。鹿嶋田さんの」

心臓がぎゅうっと縮こまった。同時に顔も熱くなってきたみたいだ。母さんの視線がピリピリと感じられる。まじ、ヤバイ感じだ。やめてくれよ。そんな目をしてくれるなよと言いたくなった。 《ウツボカヅラの夢 234》

- b. “그러니까, 鹿島田가?” “어머니. 鹿島田씨의…”

심장이 쪼그라들었다. 동시에 얼굴도 뜨거워진 것 같다. 어머니의 시선이 따라왔다. 정말, 큰일이다. 그만해, 그런 눈으로 보지마, 라고 말하고 싶었다.

geuleon nun-eulo bojima

(「だから、鹿島田が？」 「お母さん。鹿嶋田さんの…」

心臓が 縮こまった. 同時に 顔も くなったみたいだ. 母さんの 視線が ピリピリした. まじ やばい. やめて, そんな目で見るな, と 言いたかった)

- (81) a. あんな小娘に、おばさん扱いされたことが許せなかった。確かにもう二十八歳になる。けれど、そんじょそらの二十八歳とは違う。一緒にしてくれるな。年齢が何だ。 《肩ごしの恋人 232》

- b. 그런 어린애한테 아줌마 취급을 당하는 것이 참을 수 없었다. 벌써 28 살이 되는 건 사실이지만. 그래도, 이 근방의 28 살과는 다르단 말이다. 그들과 똑 같은 취급하지 마라(ttog gat-eun chwigeubhaji mala).

(あんな こどもに おばさん 扱いを される のが 堪えられなかった. もう 28 歳になるのは 事実だけど. それでも, この あたりの 28 歳とは 違うって. 彼らと 一緒の 扱いを するな.)

- (82) a. わざわざ来ておいて、「かまってくれるな」というのも失礼な話だ。

《パーク・ライフ 39》

- b. 원해서 와 놓고서는 “상관하지 마.” 라고 말하는 것은 무슨 경우인가.

sanggwanhaji ma

(ほしくて 来て おいて 「構うな」 と 言うのは 何の 場合だ)

(78)～(82)の各文で分かるように、日本語は「～テクレルナ」形が用いられているのに対し、韓国語には「주다 juda」が抜けている。前述のように、日本語においても「～テク

レルナ」を用いるのはまれで、「禁止」表現の主流は「しないでくれ」の形である（佐藤 1992 参照）。とはいうものの、「～テクレルナ」が文法上間違っているのではなく、ただ、古めかしい表現の一つであるため（また、強い語感のため）広く用いられてはいないのである。(78b)～(82b)を見る限りでは、韓国語には、「해 주지마(シテクレルナ)」という表現が欠けていると思われがちである。確かに(72)～(77)の日本語の文を韓国語に訳しても、「\*경멸해 주지 마 gyeongmyeolhae juji ma (72)」「\*생각해 주지 마 saenggaghae juji ma(73)」「\*보여 주지 마 bo-yeo juji ma(74)」「\*놀라 주지 마 nolla juji ma (75)」「\*말해 주지 마 malhae juji ma (76)(77)」のように、よい結果は得られていない。しかしながら、以下のような例は十分言えるのではないかと思われる。

- (83) a. (답) 아직 가르쳐 주지 마.  
 (dab) ajig galeuchyeo juji ma  
 ((答え) まだ 教えてくれる な)
- b. 나한테 너무 잘해 주지 마.  
 nahante neomu jalhae juji ma  
 (私に あまり 優しくしてくれる な)
- c. 봐 주지 마.  
 bwa juji ma  
 (まけてくれる な)

(83a)は、数学の問題を出した友人が、あまり解けそうにない話し手に答えを教えようとしている場面での発話である。この時にはむしろ「가르치지 마 galeuchiji ma (教えるな)」は不自然になる。(83b)は日本の漫画『優しくしないで』が「잘해 주지 마 jalhae juji ma (優しくしてくれるな)」に翻訳された影響もあるだろうが、「나한테 너무 잘해 주지 마, 다쳐 nahante neomu jalhae juji ma, dachyeo (私にあまり優しくしてくれるな。傷つくから)」というふうに、ドラマや CM など用いられている表現である。(83c)の「봐 주다 bwa juda」は、試合の前に相手の人に全力を尽くせという念押しで発話されたものである。この「봐 주다 bwa juda」という動詞は「大目に見てやる」、「負けてやる」という意味の複合動詞で、「주다 juda」を取った「보지 마 boji ma」という形は「見るな」という別の意味を表わす。これらのほかにも、わざと滑稽な場면을演出するためとか、冗談めいた口調などで言うことはできる。ただし、日本語と違うところは、やはり生産性が低いということである。

以上、日本語の「やる／くれる」と「주다 juda」の否定命令形について見てきたが、「やる／くれる」は否定命令形が自由に作れるということで意志動詞的な振る舞いを見せている。一方、「주다 juda」は日本語の「やる」に当たる場合は否定命令形が比較的自由に用いることができるが、「くれる」に当たる場合においては、一部の動詞を除いては生成することができなかった。その理由としては、意志性という要素の他に、(不)利益とい

う要素が深く関わっていると考えられる。韓国語の「주다 juda」は、基本的に利益や恩恵の意味と関わっており、不利益を表わす意味では用いられにくい性質を持っている。これは「よくも俺の顔に泥を塗ってくれたな」や「とんでもないことをしてくれたなあ」などの「テクレル」を韓国語の「주다 juda」で表わすことができないことと関連付けて考えることができる。「禁止」を表わす言葉は、勿論、相手に禁止することによって、話し手に何らかの利益を与えることもあるであろうが、一般には、「禁止」を表わす命令形という言葉と相手の恩恵に対するありがたさを表わす「주다 juda」の本来の意味とが相反するため、「주다 juda」が否定命令形を使うような場面で普通に用いられることはできないのである。

#### 5.4.4 「～たい／たがる」

杉本(1996)によると、「たい(です)。」と言いつ切る形は一人称主体の場合(疑問文では二人称)のみである。人の願望を表わすので、当然、原則的には意志動詞とのみ共起するはずだが、例外的な現象が数多く見られるということである。

- (84) a. たまにはウナギでも食べたい。  
 b. 太郎がディズニーランドへ行きたい。(三人称主体)  
 c. できれば老衰で死にたい。(無意志動詞)  
 d. 一度でいいから社長に褒められたい。  
 e. 私はいつも美しくありたい。  
 f. 我々はいつまでも健やかでありたい。  
 g. \*たまにはあの人みたいにお金の使い途に困りたい。

杉本(1996)は、(84c)のように、純然たる無意志動詞とも共起し、(84d)のように、動詞の受身形に下接したり、(84e)(84f)のように、形容詞とも共起できるところを見ると、意志表現というより、意志化表現というべきであると述べている。(84g)の例でも、「～てみたい」とすれば成立することから、「～たい」は願望の対象であれば、意志動詞に限らず、無意志の状態表現でも可能なのである(杉本 1996:51)。

井島(1997)も以下のように、「意志性」のある動詞は、タイと承接することができるかと述べている。

- (85) a. その本を花子にやりたい／あげたい。  
 b. \*その本を僕にくれたい。  
 c. その本を太郎にもらいたい。

(85a)と(85c)のように、意志性を持っている「やる／あげる」と「もらう」は「～たい」をつけることができるのに対し、意志性を持っていない(とされる)「くれる」には、



「～たい」をつけることができない。ところが、「くれる」に「～たい」がまったく接続できないとは言い切れない。次の例を見られたい。

- (86) a. (子供に向かって) そのお菓子、僕にくれたいの?  
b. (宝石屋で一つの指輪をじっと見つめているボーイフレンドに)  
え、その指輪、わたしに買ってくれたいの?

アンケートの全員が OK を出したわけではないが、(86a)および(86b)の状況では、「十分に言える」や「ちょっと引っ掛かるけど、他に言いようがないから OK」、「意味は分かるが、やっぱりちょっと引っ掛かる」まで幅広い範囲の答えが得られた<sup>141</sup>。これが、以下のような文になると、許容度がぐんと上がる。

- (87) a. 彼女は僕にいつもおいしい料理を作ってくれたがっている。  
b. 彼は僕に何でも買ってくれたがっている。

「～たい」が一人称専用の希望や願望を表わす接尾辞であれば、「～たがる」は、自分以外の者がある事柄を望んでいる意を表わす接尾語で<sup>142</sup>、一般に、「行きたがる」や「読みたがる」などの意志動詞につく。確かに、「\*木の実が落ちたがっている」や「\*雨が止みたがっている」などの表現は不自然な文として捉えられる<sup>143</sup>。(87a)および(87b)が言えるというのは、「くれる」が「意志性」を持っている動詞であることを裏付けることになると考えられる。数が圧倒的に多いとは言えないまでも、ネット上で遭遇した「～てくれたがる」の用例を以下に出しておく。

- (88) a. お雛様より先に羽子板を出す、などの風習は、まあいいかと思っているのですが、せっかく実家の母も買ってくれたがっているので、来年はほしいなあ、と思っています。  
<http://oshiete1.watch.impress.co.jp/qa6431460.html>  
b. 私たちの体にいる、まほうの小人たちも子供です。子供の気持ちになってみませんか。彼らがやさしくしてくれたがっていることに気づけます。  
<http://neko-no-heya.cocolog-nifty.com/blog/2012/07/post-1e0e.html>  
c. 両親は私のことをいろいろ助けてくれたがっているので、親孝行をかねて、頼めることをみつけてお願いしようと思っています。

<sup>141</sup> 16人中、[OK]が1人、[?]が4人、[??]が5人、[\*]が6人という結果となった。

<sup>142</sup> (希望の助動詞タシの語幹タに接尾語ガルが結合したもので、動詞などの連用形に接続して五段活用の動詞をつくる) 自分以外の者がある事柄を望んでいる意を表す。宇治拾遺五「御見参に入りたがり候といへば」。「行きたがる」(広辞苑第六版 2011)

<sup>143</sup> 「たがる」に関しては無意志動詞と考えられる「驚く」「落ちる」「育つ」などと結び付くことができる。意志動詞・無意志動詞を区別するのに本当に有効か検証が必要である。

<http://ameblo.jp/megumi-sai/entry-11410724259.html>

- d. 補遺・絶望してんのは「店は自分に裏を返してくれたがっている客を当たり前に引き合わせてくれる」という点についてで、自分たちを店が人間としてではなく商品なら商品として見ていてくれて結構、なのだがその商品を店がわざわざ損なうような真似をすればいまだに腹を立てはする。

<http://d.hatena.ne.jp/ntakamura/20070306/1173196867>

- e. 今月は結婚記念日の月なので主人は記念に何か買ってくれたがっているんだけど渴望するほどのものがなくてー。

<http://aya0nekotabe.blog73.fc2.com/blog-date-20130512.html>

- f. 既に成人した息子が居ると言うから、ワタシには一寸年上過ぎる気もするが、ワタシの事を随分気に入ってご馳走してくれたがっているようなので、じゃあ今度メールを送りますと一応答える。

<http://www.enpitu.ne.jp/usr10/bin/day?id=102471&pg=20050805>

- g. ジュエリーにあまり興味のない者です。ただ、彼はジュエリーを贈ってくれたがっているので、買う可能性もあるなあと思ひ、色々調べています。

<http://www.mwed.jp/ques/5866.html>

次に、韓国語の場合を検討する。上記の(86)と(87)を韓国語にすると以下のようなになる。

(89) a. (아이에게)

그 과자, 나한테 주고 싶은 거야(jugo sip-eun geo-ya)?

(そのお菓子、私に やりたいの?)

b. (보석상에서 반지 하나를 계속 보고 있는 남자친구에게)

그 반지, 나한테 사주고 싶은 거야(sajugo sip-eun geo-ya)?

(宝石屋で 指輪 一つを ずっと 見ている ボーイフレンドに)

(その指輪、私に 買ってやりたいの?)

(90) a. 그녀는 나에게 늘 맛있는 음식을 만들어 주고 싶어 한다.

mandeul-eo jugo sip-eo handa

(彼女は 私に いつもおいしい料理を 作ってやりたがる)

b. 그는 나에게 무엇이든 사주고 싶어 한다(sajugo sip-eo handa).

(彼は 私に 何でも 買ってやりたがる)

(89ab)は、「주다 juda」の願望形「~주고 싶다 jugo sipda」が日本語の場合と違って、話し手に向かっても用いられることを示している。さらに、(90ab)は話し手以外の者の願望を表わす「~주고 싶어 하다 jugo sip-eo hada (「~てくれたがる」に相当)」が日本語とは違って用いられることを示している。その違いの原因は、日本語が「やる」と「くれる」に分化しているのに対して、韓国語はそうではないということにあると考えられる。

#### 5.4.5 「可能形」

次は、「可能形」が言えるかどうかについて検討する。

- (91) a. この店では各地の酒が飲める。  
 b. やきそばなら私も作れる。  
 c. \*雨が降れる。  
 d. \*大きな音に驚ける。
- (堀口 1987: 124)

堀口(1987)は、意志動詞は(91a)と(91b)のように可能の助動詞を付けて使えるが、無意志動詞は(91c)と(91d)のように可能の助動詞を付けて使うことができないと述べている。

「くれる」に関しても、可能の助動詞のついた「\*くれられる」の形は使わないという点から無意志動詞の性質と同じであるという。

- (92) a. \*チョコレートがくれられる。  
 b. \*英語を教えてくれられる。
- (堀口 1987: 124)

本論文のアンケート<sup>144</sup>でも「(て)くれられる」の許容度はかなり低かったのであるが、例えば「??そのお菓子、僕にくれられる？」や「?そのお菓子、僕に買ってくれられる？」とで、本動詞として用いられた前者よりは、補助動詞として使われている後の方が若干でありながらも、許容度が上がっている。それでは、「やる／あげる」の可能形である「や(ら)れる／あげられる」はどうであろうか。以下の例を見られたい。

- (93) a. 直接は無理。だから、子どもで張り合ってたんじゃない？ パパのためにどっちが、優れた子、パパを喜ばせてあげられる子を産んだかって。 《夜行 323》  
 b. 직접적으로는 불가능하지. 그래서 아이로 경쟁했던 게 아닐까? 아빠를 위해 어느 쪽이 뛰어난 아이, 아빠를 기쁘게 해드릴 수 있는 아이를 낳았는지 말아야. gippeuge haedeulil su issneun  
 (直接的には 不可能だ。それで 子どもで 競争したのではないですか。パパのために どっちが 優れた子、パパを 喜ばせて あげられる 子どもを 産んだのかを だ) 《야행 323》

- (94) a. 今年のうちには入札が終わって、買受人が決まるだろうけど、その買受人が、あんまり大きな不動産業者じゃなくて、割と筋のいいところだったら、なんとかしてあげられる可能性はたくさんあるって、社長さんは言うんですよ。…そしたらね、この土地建物は手放してもらうことになるけど、旦那さんの借金をチャラにして、そのうえで二、三百万円のお金を作ってあげられるよ

<sup>144</sup> 16人中、[OK]が0人、[?]が3人、[??]が1人、[\*]が12人という結果となった。

って、こういうわけです。

《理由 281》

- b. 올해 안에 입찰이 끝나고 매수인이 정해지겠지만, 그 매수인이 그다지 큰 부동산업자가 아니고, 비교적 양전한 곳이라면, 어떻게 해 볼 수 있는 가능성이 높다고 사장님이 말했습니다. …

haebol su issneun

(今年の 内に 入札が 終って 買収人が 決まる だろうけど、その 買収人が あまり 大きな 不動産業者ではなく、割と おとなしい 所だったら、なんとか して やれる 可能性が 高いと 社長が 言いました)

어떻게 해보다니, 그게 뭐니까? 그랬더니 이 땅과 건물은 결국 내주어야 하지만, 그 전에 아저씨 빚을 다 없애고 거기다가 2, 3 백만 엔의 현금을 만들어드릴 수 있습니다, 하는 거예요.

mandeul-eodeulil su iss-seubnida

《이유 270-271》

(どうにか やって みるってそれが 何ですか。そしたら この 土地と 建物は 結局 手放さないと いけないが、その 前に おじさんの 借金を 全部 なくして そこに 2,3 百万円の 現金を 作って やれるって、言うのです)

- (95) a. そうしますと、あの時点では、ご両親があなた方ご家族にしてあげられることとしては、住まいを提供することぐらいしかなかったということになりますか。

《理由 239》

- b. 그러면 그 시점에서는 부모가 당신 가족에게 해 줄 수 있는 것으로는 살 집

haejul su issneun

을 빌려주는 것 정도 밖에 없었다는 얘기가 되는군요? 《이유 230》

(そうすると あの 時点では、ご両親が あなたの家族に して あげられる ことは 住む 家を 貸してくれる こと くらい しかなかった という 話しに なりますよね)

- (96) a. 何とかしてやれたんじゃないかって思うんですよね。私がぼんやりしていなかったら、あの子の悩みにも気づいてやれたんじゃないかって」洋子の声が震えた。

《聖女 359》

- b. 어떻게든 해 줄 수 있는 방법이 있었을 텐데, 어미가 명칭해서…

hae jul su issneun

《성녀 386》

(なんとか して やれる 方法が あった だろうに、母が 愚かなので)

- (97) a. 少年は自分の周囲に張りめぐらされた見えない垣根から、外へ出ようと必死にもがいているようだった。手を貸してやれるものなら、そうしてやりたかった。だが、それはできなかった。

《殺した少女 358》

- b. 소년은 자기 주위에 둘러진 보이지 않는 울타리에서 벗어나려고 발버둥치고 있는 모양이었다. 도와줄 수만 있다면 그러고 싶었다. …

do-wajul suman issda

《죽인소녀 391》

(少年は 自分の 周囲に 張りめぐらされた 見えない 垣根から 離れようと もがいて いる ようだった。 助けて やれる ものなら そう したかった)

- (98) a. もう、私の愛した直樹はいないので。人間としての心を失い、殺人者として開

- き直る息子に、母親の私がしてやれることは一つしかありません。《告白 165》
- b. … 인간을 마음을 잃고, 당당하게 구는 살인자 아들에게 어미인 제  
가 해줄 수 있는(haejul su issneun) 일은 하나밖에 없습니다. 《고백 147》  
(人間の心を失い、堂々と振舞う殺人者の息子に母親の私が して  
やれる ことは一つしかありません)
- (99) a. もしこれが悪い夢であっても、母に語って聞かせてやれるように、できることなら  
絵にでも描いてやれるように、真次はまじまじと少年の顔を見つめた。  
《地下鉄 65-66》
- b. 만약 이것이 악몽이라 해도 어머니에게 들려줄 수 있도록, 할 수 있다면  
deullyeojul su iss  
그림으로라도 그려줄 수 있도록 신지는 소년의 얼굴을 뚫어지게 보았다.  
geulyeojul su iss 《지하철 63》  
(もしこれが悪夢であっても 母に 聞かせてやれる ように できるなら  
絵にでも 描いてやれる ように 真次は 少年の 顔を まじまじと 見た)
- (100) a.社員に十分なことをしてやれぬ引け目というより、それは岡村の変な礼儀正  
しさである。《地下鉄 76》
- b. … 그것은 사원에게 충분한 것을 해줄 수 없다(haejul su eobsda)는 열등감이  
라기보다 오카무라 특유의 이상한 겸손함이었다. 《지하철 74》  
(それは 社員に 充分な ことを してやれない という 劣等感が  
という より 岡村 特有の 変な 謙遜さだった)
- (101) a. これ以上私のしてあげられることは、もう何もないけど、大好きな真次さん  
にあげられるものは、何も持っていないけどー。《地下鉄 274》
- b. 더 이상 내가 해줄 수 있는 건 아무것도 없지만, 사랑하는 신지씨에게 줄  
haejul su issneun  
수 있는 건 아무것도 갖고 있지 않지만……. jul su issneun 《지하철 263》  
(これ以上 私が してあげられる ことは 何も ないけど、愛する 真次さんに あ  
げられる ものは 何も 持っていない けど)

(93a)～(101a)は、「やる／あげる」が補助動詞の可能形として用いられている文を含んでいる。それに対応する(93b)～(101b)の韓国語においても「주다 juda」の可能形である「줄 수 있다 jul su issda」が使われている。(93a)～(101a)の例から、「やる／あげる」の可能形である「や(ら)れる／あげられる」は「くれる」の可能形である「\*くれられる」に比べて、制限なく用いられていることが分かる。一方、同じ可能の意味を表わす形として、「V-ることができる」というのがある。

- (102) a. アラビア語を話すことができますか。

- b. あの人は、ゆっくりなら 20km でも 30km でも泳ぐことができるそうだよ。
- c. 残念ですが、ご要望におこたえすることはできません。
- d. その社会や階級の構成員を「再生産」するという観点から、「教育」というものをとらえ直してみることもできるだろう。

『日本語文形辞典 1998: 115、下線筆者』

『日本語文形辞典』によると、「V-ることができる」は、(102a)と(102b)のような「能力」、(102c)と(102d)のような「可能性」の有無を表わし、「話せる」「泳げる」のように可能を表わす「V-れる」で言いかえることもできるが、あらたまった場面やかたい文章では(特に可能性を表わす場合は)「ことができる」のほうがやや好まれる傾向がある。さて、前述のように、「くれる」の可能形である「\*くれられる」が言えなかったのだが、「くれることができる」の場合はどうであろうか。本論文におけるアンケートでは、次のように、完全な文法性を持っているものとしては捉えられなかった。

- (103) a. (?)そのお菓子、僕に買ってくれることができる？
- b. (?)ちょっと、お金貸してくれることができる？
- c. (?)ねえ、ご飯作ってくれることができる？

(103)の各文は、「完全に非文ではないが、何かちょっとおかしい」という判断が多かった。その代わり「~てもらえる」を用いて表現したほうが自然であるという意見もあった。堀口(1987)も「くれる」はそれと意味的に対照の関係にある「もらう」の可能形「もらえる」と同じように使える場合があると述べている(堀口 1987: 124)。

- (104) a. 一つ位ならくれるだろう。
- b. 一つ位ならもらえるだろう。
- (105) a. その仕事は山田さんがやってくれるだろう。
- b. その仕事は山田さんにやってもらえるだろう。
- (106) a. 二つあるなら、一つくれるか。
- b. 二つあるなら、一つもらえるか。
- (107) a. 一緒に行ってくれるか。
- b. 一緒に行ってもらえるか。

しかし、文法的に合っているかどうかと実際に使われるかどうかは別のものである。次の例を見られたい。

- (108) 裁判官との面接と言うだけで緊張している中で、落ち着いてお話しすることは難しいのに、裁判官が法律用語などを使って意味の分からない言葉を使われた

- りするとパニックに陥っている人が多いようですが、弁護士が代わりに説明してくれることができます。 <http://www.kk.ij4u.or.jp/~kamosaki/hasan.html>
- (109) また求人専門の回線を引いていることも多いんじゃないでしょうか？そんな時は自分の求人ダイヤルに電話代行サービスを使えば簡単に自分の電話代行をしてくれることができますよね。ひとまず求人は任せられたら更に、業務に集中出来ます。簡単な受付を代行してくれるサービスもあるんです。イベントやセミナー等の受付を行なってくれるので、短期的に集中する電話も対応してくれることができます。 <http://pictureandtype.com/klihonn/>
- (110) 眼科は基本的に注射など痛みを伴う処置をするところではないので、慣れてくると嫌がらずに検査を受けてくれることができ、視力検査などがうまくできるとうれしそうな表情を見せてくれ、こちらもうれしくなることがあったことが印象に残っています。 <http://www.f-eye.jp/guide.html>
- (111) ママ雨蛙は本当に病気になってしまいました。「ママは長く生きることができない。」「心配しないでください。僕は一人で生活することができます。」「そう、それでこそ。」「それでは私が死んだら山に間わずに川辺りに埋めてくれてね」こんなに言うと息子雨蛙が反対に山に埋めてくれることができてママ雨蛙は涙を流しながら頼みました。 <http://www.ccmc.ac.jp/douwa/8.html>
- (112) ニキビを早く落ち着かせてくれることができます。  
<http://www.aiko-hifuka-clinic.com/symptom/acne-scar.html>
- (113) 喜んでくれることができました！！ <http://kanreki.info/blog/voice/2013/04/post-356.html>
- (114) 歴史のことを訳すんだったらその国の歴史を深く学んでいないといけません。例えば日本でも文明開化や鎖国などがどんなものかというのを理解していなければ、いくら日本語が得意でもそれを正しく表現することはできません。ですが、翻訳を行なっている業者ではこうした歴史関係の文章まで幅広く対応してくれることができます。 <http://www.organixfoodlounge.com/speed/broad.php>
- (115) プラセンタには優れた効果があります。そして私達は日常に生活をしていると、頭痛や、肩こりが酷かったり、疲れがたまってぐったりしたり、寝付けなかったりと沢山の障害が出てきます。それらを防いでくれる事や改善してくれることができます。 <http://www.genesis-path.com/Headache.html>
- (116) 中学校のころの夢は学校の先生。すごくナイーブに悩んでいた時期に何名かの先生とたくさん話をさせて頂いて、価値観形成に関わる大人の存在の大きさを知ったのがきっかけです。自分が子どもたちに何かを伝えることで良い視点をもって世の中を見てくれる人が増えて、それぞれの分野でその視点をもって働いてくれることができたなら私の目の前の子どもたちがきっかけで、少しずつ世の中が変わっていくかもしれない。 <http://storys.jp/story/2232>
- (117) 1日6粒の摂取量で、普段日常生活でつらかった膝や腰などの関節痛を緩和してくれることができ、より快適に日常生活をすごすことができます。アサヒの

グルコサミンはカニやエビ由来の甲殻類のエキスからとられており、このグルコサミンによって、毎日の食生活では補いきれない成分を体に効率よく与えてくれることができます。

<http://www.dynamicgoldmindstrategies.com/glucosamine/hikaku02.php>

- (118) 実はボウリング大会の十日ほど前、申込みをしてからだけど、お母さんは右の肩から指先まで激痛で腕を動かさなくなってしまっていたんだ。当日は、それまで腕をずっと休ませてきたことと、みんながやるのを見ていてやっぱり投げたくなつたので、少し投げていたけど、ぼくとしては本当に心配だったんだ。お母さんがぼくを抱っこしてくれることができなくなったら、ぼくはまったく生活できなくなってしまうんだもの。 <http://plaza.across.or.jp/~sugino/hagemi2.html>

(108)～(118)の文は、「くれる」に可能の意味を付与した形である「くれることができる」が用いられている実例である。これらの例は、ネット上で検索できた例の中の一部にすぎないが、これほど使われているということは文法的におかしいとは言い切れないのではないかと思われる。それでは、同じ可能の意味を表わす「くれられる」と「くれることができる」とで、許容度の差が生じる理由は何であろうか。実は、「くれることができる」が可能の意味として用いられる範囲が動詞の可能形で表わせる範囲より広いことから起因するものである。例えば、

- (119) 空想の世界にひたることで、現在の問題から逃れようとし、夢見る未来の世界に住んでいるのです。たいてい過剰なほどよく眠る傾向があり、いつでもどこでも眠りにおちることができます。 [http://www.fairdew.com/flower\\_essence/AIN\\_009.html](http://www.fairdew.com/flower_essence/AIN_009.html)

- (120) 土壌では、必須元素を含む無機イオンが土壌中の水分に溶けており、植物はその無機イオンを吸収して育ちます。また、腐食物を多く含む土壌には団粒構造があり、空気が多く含まれています。作物が育ちやすい土とは、つまりは植物にとってバランスよく無機イオンが溶けた水を含み、また空気を多く含んでいる土、ということになります。そのような環境では、作物は健康に育つことができます。

<http://plantfactory.info/plantfactory...>

のように、意志性を持っているとは考えがたい「おちる」や「そだつ」などの動詞でも用いることができる。(119)および(120)のような例の判断にはゆれが見られないのに対して、上記の(103)および(108)～(118)の各文の判断にはゆれが見られるということは「くれる」という動詞の「意志性」における特殊さを示している興味深いところである。

一方、韓国語の「주다 juda」の場合は、次のように、日本語の「やる」と「くれる」の区別がなく、どちらも「주다 juda」が使われる。

- (121) a. 타로에게 과자를 (사) 주었다(talo-ege gwajaleul (sa) ju-eossda).



- b. 太郎に お菓子を(買って)あげた。  
 (122) a. 타로가 나에게 과자를 (사) 주었다(taloga na-ege gwajaleul (sa) ju-eosdda).  
 b. 太郎が 僕に お菓子を (買って)くれた。

疑問文を作る際は、次のように二通りの聞き方ができる。

- (123) a. 타로에게 과자(를) 사 줄래(talo-ege gwaja(leul) sa jullae)?  
 (太郎に お菓子を 買ってあげる?)  
 b. 타로에게 과자(를) 사 줄 수 있어(talo-ege gwaja(leul) sa jul su iss-eo)?  
 (太郎に お菓子を 買ってあげられる?)  
 (124) a. 나에게(한테) 과자 사 줄래(na-ege(hante) gwaja sa jullae)?  
 (僕に お菓子 買ってくれる?)  
 b. 나에게(한테) 과자 사 줄 수 있어(na-ege(hante) gwaja sa jul su iss-eo)?  
 (僕に お菓子 買ってこれられる?)

(123)および(124)の各文は、「주다 juda」が日本語の「やる(あげる)」が使われる環境でも「くれる(くださる)」が使われる環境でも用いることができるということを示している。すなわち、「くれる」における制約が「주다 juda」には見当たらないということである。

ところで、上記の(104)～(107)の例において、「くれる」を「もらえる」に変えることができたことを思い出してほしい。特に「～てくれる」を「～てもらえる」に変えられることに注目されたい。韓国語には普通「～てもらう」文が成立しないため、多くの場合、「～てもらえる」文を「주다 juda」の可能形である「줄 수 있다 jul su issda」として訳している。以下の例を見られたい。

- (125) a. こんにちは。こちらが、先ほどお電話でお話した、防犯コンサルタントの榎本さんです。早速ですが、社長室を見せていただけますか。 《硝子 97》  
 b. … 좀 빠르지만 사장실을 보여주실 수 있을까요?  
 bo-yeojusil su iss-eulkka-yo 《유리 77》  
 (ちょっと早いが社長室を 見せて くれる ことが できますか/くれられますか)  
 (126) a. それでは、電話して、アレンジしておきます。……だけど、その、本命じゃないかっていう方法の、ヒントだけでも教えてもらえない? 《硝子 121》  
 b. … …그런데 그 유력 후보가 아닐까 하고 생각하시는 것, 힌트만 이라도 가르쳐 주실 수 없어요(galeuchyeo jusil su eobs-eo-yo)? 《유리 95》  
 (だけど その 有力な 候補じゃないかって 考えられる こと、ヒントだけでも 教えて くれる ことが できないですか/くれられますか)  
 (127) a. 必要な場合、裁判で証言していただけますか? 《硝子 153》  
 b. 필요한 경우 재판에서 증언해 줄 수 있겠어요?

jeung-eonhae jul su issgeess-eo-yo

《유리 120》

(必要な 場合 裁判で 証言して くれる ことが できますか/くれられますか)

(128) a. わずかな量でかまわないのです。分けていただけませんか。

《硝子 492》

b. 소량이라도 상관없습니다. 나누어 주실 수는 없겠는지요.

nanu-eo jusil suneun eobsgessneunji-yo

《유리 387》

(少量でも かまいません。分けて くれる ことが できませんか/くれられますか)

(129) a. 本当に内緒にしていただけますか?

《聖女 82》

b. 정말 비밀로 해 줄 수 있나요(hae jul su issna-yo)?

《성녀 91》

(本当に 秘密に して くれる ことが できませんか/くれられますか)

(130) a. 自身ありげだね。その根拠を聞かせてもらおうか。

《聖女 149》

b. 자신만만하군. 그 근거를 말해 줄 수 있겠나? …

malhae jul su issgeessna

《성녀 162》

(自信满满だね。その 根拠を 言って くれる ことが できるか/くれられるか)

(131) a. 一週間前、自室で音楽を聴いていた比奈子に、模試の前日は友だちの家に行  
ってもらえないか、と言ってきたのは慎司だった。

《夜行 55》

b. …, 방에서 음악을 듣고 있던 히나코에게 모의고사 전날은 친구네 집에  
가줄 수 없겠냐(gajul su eobsgessnya)고 부탁한 것은 신지였다.

《야행 60》

(部屋で 音楽を 聴いていた 比奈子に 模擬テスト 前日は 友達の 家  
行ってくれる ことが できないかと/くれられるかと)

(132) a. …もしも、その前後で、両親の会話や物音なんか聞いていたら、僕  
たちに教えていただけませんか。

《夜行 308》

b. …, 혹시 그 전후에 부모님의 대화나 무슨 소리를 들으셨다면  
알려주실 수 있겠습니까(allyeojusil su issgeess-seubnikka)?

《야행 309》

(もしも その 前後に 両親の 会話や 何かの 音を 聞きましたら  
知らせて くれる ことが できますか/くれられますか)

(125)～(132)の例で、可能形が使われている「～もらえる(いただける)」文を「주다 juda」の可能形である「줄 수 있다 jul su issda」を使って表現していることが分かる。

以上、「やる/くれる」と「주다 juda」の可能形の成立可否を検討し、それが「意志性」とどう関係しているかについて、例文を通した検証を行った。日本語は授受行為を行う際に、「やる」と「くれる」という授受動詞が使い分けられているのに対し、韓国語は「주다 juda」動詞一つが用いられる。日本語は視点の違いによって役割が分担されていることから「やる」は言えるのに「くれる」は言えない状況が生じるのであるが、その一つが可能形の成立可否の事例である。「(て) やれる」や「(て) あげられる」が言えることに対して「\*くれられる」は言えない。これに関して、堀口(1987)は、「くれる」に無意志動詞と共通のいくつかの現象が見られることも不自然なことではない、と述べている。

次に、同じ「可能」の意味を持っているとされている「～ことができる」と「～할 수 있다 hal su issda」が「やる／くれる」と「주다 juda」と結合できるかどうかについて検討した。結果、「やる」と「주다 juda」は比較的自由に結合することができたのに比べて、「くれる」は、「\*くれられる」よりは許容度が上がっているものの、「やる」と「주다 juda」の許容度よりは低かった。「\*くれられる」より「くれることができる」の方が許容度が高い理由は、「ことができる」の方が前接する動詞の意志性に影響されないからであって、例えば「落ちることができる」や「育つことができる」のように、意志性を想定できない動詞であっても文が成立するのと関連があると考えられる。最後に、「주다 juda」が「や(ら)れる」の意味でも「\*くれられる」の意味でも使われることが、韓国語には欠けている「～てもらえる」文を補う働きをしていることを提示した。

#### 5.4.6 「～なければならない／なければいけない」

本節は、強制的な義務を表わす表現である「～なければならない／なければいけない」と「やる／くれる」、「～야 한다 ya handa」と「주다 juda」の結合可能性について見ることとする。杉本(1996)は、これに関して、「表現としては強制的な義務を表すので、意志動詞との深い関わりを予想させるが、現実には不承不承の承諾や、ある種の状態に対する義務も含まれるので、無意志動詞、受身形もよく使われる」と述べている。

- (133) a. 志望校に入るためには、每晚遅くまで勉強しなければならない。  
 b. 会社の再建は諦めなければならない。 (無意志動詞)  
 c. この人の名前を思い出さなければならない。 (無意志動詞)  
 d. 何とかして代表に選ばれなければならない。 (受身形)

(杉本 1996: 53)

それでは、「やる／くれる」と「주다 juda」の結合はどうなるのだろうか。

- (134) a. 明日までには 必ず やってあげなければならない。  
 b. %明日までには 必ず やってくれなければならない。  
 c. 내일까지는 반드시 해 줘야 해(hae jwo-ya hae).  
 (135) a. 来週までには その本、必ず 返してあげなければならない。  
 b. %来週までには その本、必ず 返してくれなければならない。  
 c. 다음주까지 그 책 꼭 돌려 줘야 해(dollyeo jwo-ya hae).

(134)および(135)の各文において、日本語の「やる(あげる)」と韓国語の「주다 juda」は問題なく「なければならない(いけない)」と結合できるが、「くれる」に関しては、意見が分かれている。実際の調査では数多くの用例を見かけることができた。その

内のいくつかを以下に提示する。

- (136) 人間の偉大さと惨めさとはこんなにも明らかであるから、真の宗教はどうしてもわれわれに、人間のなかには何らかの偉大さの大きな原理が存在し、また惨めさの大きな原理が存在することを教えてくれなければならない。

<http://james.3zoku.com/kojintekina.com/pascal/pascal430.html>

- (137) 営業マンが営業でどしどし成績をあげてくれても、施工する人がいい成績をあげてくれなければならない。 <http://www.tonamikogyo.co.jp/outline/syatyoumesseeji200711.html>

- (138) この壮大な転換期において社会の安定を確実なものにするには、既存の組織が生き残り、繁栄してくれなければならない。

<http://www.iot.ac.jp/manu/ueda/column/051231-060107.html>

- (139) 鬼崎選手はもっとベンチの意図を読まなければならなかった。経験のない若手選手ではないのだから、もっと若手にはできないプレーを見せてくれなければならない。 <http://daily-lions.com/sp/2013/09/game20130907.php>

- (140) 知識労働者の生産物は、それだけでは役に立たない。それらのものが意味をもつためには、他の知識労働者がインプットとして使い、何らかのアウトプットを生み出してくれなければならない。

(『経営者の条件』上田惇生編訳) <http://dojou.mentoragent.org/2011/07/Ability-1.html>

- (141) 紀伊長島という決して良いとは言えない立地で美鈴のようなサービス業を営むするには、一度利用してくれた客に繰り返し来てもらわなければならない。また一度利用した人が周りの人に薦めてくれなければならない。だが、それは簡単なことではない。 <http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20130212/243598/?rt=nocnt>

- (142) 腰の骨を折られても、かたわにされても離さないのです。死んでも離さないのです。それを見た天使が「どうすれば離してくれるか」と言った時、「祝福してくれなければならない」とヤコブが言うのです。

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~w-net/mikotoba/hd8.html>

ネット上などでの調査では、(136)～(142)のようなものの他にも多くの用例が見つけられたが、アンケートの調査ではやはり意見が分かれている<sup>145</sup>。その原因としては、文法上の正否の問題というより、二重に押し付けがましい感じがするというような語用論的な要因が働いている可能性も考えられる。「くれなければならない」という表現は、受け手の側からの義務表現を交えた強い願望や要望を表す表現である。判断にばらつきが見られる原因は、一つは「くれる」という動詞があくまでも受け手が受身の立場であることを表わすことと、もう一つは「くれなければならない」という表現が相手の義務を表わしているということである。これらが押し付けがましいという感じのもとになっているので、この表

<sup>145</sup> 10人中、[OK]が4人、[?]が3人、[??]が2人、[\*]が1人という結果となった。

現を嫌う人がいるのではないかと思われる。

#### 5.4.7 「～てみる」

次は、一般に「もくろみ<sup>146</sup>動詞」と呼ばれる動詞の一つである「～てみる」について見ていく<sup>147</sup>。杉本(1996)では、「てみる」について、「一、二、三人称の意志的試行を表わす表現であり、基本的に無意志動詞との共起は非常に難しい」と述べられている。

- (143) a. 僕は何度も電話を掛けてみた。  
b. 君はもうあの店に行ってみた？  
c. 太郎は恐る恐るラクダの尻に触ってみた。  
d. \*去年別れた女房のことを忘れてみる。(無意志動詞)  
e. \*あいつのことは諦めてみる。(無意志動詞) (杉本 1996: 52)

堀口(1987)も、次のような例を挙げ、無意志動詞は「～てみる」の前には用いることができないと述べている。

- (144) a. ファミコンをやってみる。(意志動詞)  
b. \*雨が降ってみる。(無意志動詞)

続けて、「くれる」の場合の例も挙げている。

- (145) \*チョコレートをくれてみた。

堀口(1987)は、もくろみ動詞の主動詞として使えないという無意志動詞に見られる現象が「くれる」にも見られると述べている。しかしながら、無意志動詞が「～てみる」の主動詞として使えない理由は、「くれる」が「～てみる」の主動詞として使えない理由とは違うところから求めなければならないと主張する。彼女は「もくろみ動詞は、主体が主動詞で表わされた行為を何かもくろみを持って行うということを表わすのであるから、主体の

146 「もくろみ動詞」について鈴木(1972: 397)は以下のように述べている。

…その動作がなんのために(どんなもくろみをもって)おこなわれるかをあらわす文法カテゴリーを「もくろみ」とよぶ。もくろみは、動詞の第二なかどめとたすける動詞「みる」「みせる」「おく」とのくみあわせによってあらわされる。もくろみをあらわすこうした二単語のくみあわせがもくろみ動詞である。

147 普通もくろみ動詞と呼ばれるのは「てみる」「てみせる」「ておく」などがあるが、その中で「てみる」だけを選んだ理由は、「てみる」においてだけ日・韓の差が見られたからである。「てみせる」と「ておく」はそれに当たる韓国語の「해 보이다 hae bo-ida」「해놓다(두다) haenoh da(duda)」と共に、「くれる」「주다 juda」との結合が不可能だったからである。

意志と強く結び付いているわけである」と述べ、「くれる」は主体の意志によって左右される行為であるから、もくろみ動詞の主動詞になれない理由は、常に話し手が主体の行為を受ける側に立っているという「くれる」の語彙的特徴によるということから求めている。

しかしながら、堀口(1987)による「主体の意志によって左右される行為である」という「『くれる』の性質から見る」とすると、次のような文が成立しない理由はどこに求めるべきだろうか。

- (146) a. \*そのチョコレート僕にくれてみる?  
 b. \*僕にその本、ちょっと読んでくれてみる?  
 (147) a. \*そのチョコレート僕にくれてみろ。  
 b. \*その本僕に、ちょっと読んでくれてみろ。

(146)は「～てみる」を疑問文化して、相手の意志を尋ねる場面であり、(147)は「～てみる」を命令形にした文である。「～てみる」の主動詞が意志動詞の場合は、「やってみる?」や「やってみろ」のように文が成立するのは対照的に、「くれる」が主動詞になった場合は文が成立していない。

一方、韓国語の場合は、

- (148) a. \*초코렛을 (나에게) 줘 보았다.  
 chokoles-eul (na-ege) jwo bo-assda  
 (チョコレートを(僕に) くれて みた)  
 b. \*그녀가 (나에게) 책을 읽어 줘 보았다.  
 geunyeoga (na-ege) chaeg-eul ilg-eo jwo bo-assda  
 (彼女が (僕に) 本を 読んで くれて みた)

のように、常に話し手が主体の行為を受ける側に立つという「주다 juda」の語彙的特徴によって、(148ab)ともに非文になっているが、

- (149) a. 그 초코렛 나한테 줘 볼래?  
 geu chokoles nahante jwo bollae  
 (そのチョコレート、僕に くれて みる?)  
 b. 그 책 나한테 읽어 줘 볼래?  
 geu chaeg nahante ilg-eo jwo bollae  
 (その本 僕に、 読んで くれて みる?)  
 (150) a. 초콜릿 나한테 줘 봐.  
 chokollis nahante jwo bwa  
 (チョコレート 僕に くれて みろ)

b. 그 책 나한테 읽어 줘 봐.  
 geu chaeg nahante ilg-eo jwo bwa  
 (その本 僕に 読んで くれて みる)

のように、相手の意志を尋ねる(149)の「～てみる？」や(150)の命令形「～てみる」は成立している。これらの事実は、「～어 주다 eo juda」が「意志動詞」のように用いられている証拠になり得ると考えられる。

### 5.5 おわりに

第5章では、日本語の「やる／くれる」と韓国語の「주다 juda」における、視点という概念との関係と意志性という概念との関係について、日本語と韓国語を対比させながら考察した。日本語は「やる」と「くれる」という動詞が授受動詞の役割を分担している。つまり、話者(与え手)から離れていく行為には「やる」を、聞き手(受け手)に向かってくる行為には「くれる」を使って区別しているのが特徴である。一方、韓国語においては、そのような区別がなく、「주다 juda」動詞一つで両方の役割を担当している。本章では、命令形の「やれ」と「くれ」が並行的に用いることができるのに対し、願望形の「たい」と可能形の「(ら)れる」においては、「やりたい」と「やられる」はいえる半面、「\*くれない」と「\*くれられる」は言えないということに着目し、その他の様々な表現形式との結合関係を調べ、その結果と「주다 juda」の場合との比較を試みた。まず、5.3章の先行研究の内容と5.4章の検証で明らかになった対応関係を表5のようにまとめることができる。

言語 表現形式	日本語		韓国語
	やる	くれる	주다 juda
授受動詞間の結合	✓	✓ <sup>1)</sup>	✗ <sup>2)</sup>
よう／う	✓	✓ <sup>3)</sup>	✗ <sup>4)</sup>
命令形	✓	✓	✓
否定命令形	✓	✓	✓
可能形	✓	✗ <sup>5)</sup>	✓ <sup>6)</sup>
願望形	✓	✗ <sup>7)</sup>	✓ <sup>8)</sup>
しなければならない／いけない	✓	✓	✓
てみる	✓	✗	✓ <sup>9)</sup>

表5 「やる／くれる」と「주다 juda」の結合関係

表5から読み取れることを、表に添えた番号を用いながら以下に述べる。

まず、授受動詞間の結合は、「やる」「くれる」は可能で、「주다 juda」は不可能であ

る。ただし、

1) 「くれる」が最後のところに位置しなければならない。「\*くれてやる」「\*くれてくれる」「\*くれてもらう」「\*やってくれてもらう」「\*もらってくれてやる」など。

2) 「주다 juda」は「やる」と「くれる」のような区別がない。しかし、「주다 juda」の尊敬語の「주시다 jusida（「くださる」に当たる）や謙讓語の「드리다 deulida（「差し上げる」に当たる）」と「주다 juda」の組み合わせである「드려 주다 deulyeo juda（さしあげてあげる）」「드려 주시다 deulyeo jusida（さしあげてくださる）」などは検索の結果、部分的に見かけることもある。

3) 4) 日本語は「誘いかける形」と「推量」を表わす形式が同じ「よう／う」である反面、韓国語はその形式が区別されている。

5) 可能形に関しては、「やれる／あげられる」は言えるのに対し、「\*くれられる」は言えない。一方、「くれることができる」は（一部ではあるが）許容されていることが確認できた。これは一般に、「能力」だけの意味を持つ動詞の可能形と「可能性」までも含む「～ことができる」の方が許容範囲において広い様相を見せていることと関係していると思われる。

6) 韓国語の「주다 juda」の可能形「줄 수 있다 jul su issda」は平叙文では用いることができないが、相手の意志を問う疑問文では日本語の「～てもらえないか」の意味で使うことができる。

7) 願望形「たい」は「やりたい／あげたい」は言えるのに対し、「\*くれたい」は言えない。これは、「意志性・無意志性」という理由より、「たい」が一人称主語を求める特徴から起因するものであると考えられる。一方、三人称の願望形である「～たがる」については、「くれたがる」が実際のアンケートでは許容度が低かったものの、ネット上などではかなり広い範囲で使われていることが確認できた。

8) 日本語も韓国語も主語や人称などから限定されて「\*くれたい」「\*くれられる」「\*くれてみる」などが用いられないということは共通の事実である。しかし、それらを疑問文にした場合、相手の意志を問う場面では、日・韓で差が見られた。すなわち、日本語は「\*くれたい?」「\*くれられる?」「\*くれてみる?」になっても依然として許容されにくい傾向を見せているのに対し、韓国語は「주고 싶어 jugo sip-eo(くれたい?)」「줄 수 있어 jul su iss-eo(くれられる?)」「줘 볼래 jwo bollae(くれてみる?)」が問題なく用いられているのである。ということは、主語や人称の限定などだけではなく、やはり、動詞の「意志性」の違いから生じる現象であるという可能性も残されているのではないかと考えられる。

9) 最後に、もくろみ動詞の一種である「～てみる」との結合における日・韓の違いについてである。「～てみる」は「～たい」や「可能形」の場合と同様な様相を示す。例えば「\*彼女は僕にプレゼントをくれてみた」「\*그녀가 나에게 선물을 줘 보았다 geunyeoga na-ege seonmul-eul jwo bo-assda」という文が非文になっているのは、日・韓両言語の共通しているところである。しかし、相手の意志を問う場面、つまり疑問文の場合には、日本語



は許容されないのに対し、韓国語は問題なく許容されている。しかも、「～てみる」の場合は、「命令形」にした場合にも、日本語は許容されない反面、韓国語は一般的に用いられているということが分かる。

以上のことを総合的に考えてみると、「やる（あげる）」は常に「意志動詞」として用いられているのに対し、「くれる」は基本的には「与え手」を主語とする「意志動詞」として使われるが、一見「無意志動詞」的な振る舞いを見せているように見える場合もある。しかしながら、それは主語の限定などで無意志動詞的な振る舞いを見せているように思われる場合があるだけであって、実は無意志動詞そのものではない。意志動詞が無意志動詞的に用いられるということはそれほど珍しいことではない。宮島(1972)が指摘しているように、同じ動詞が両用されることがある。以下の対照表を参考にしてもらいたい。

意志動詞	無意志動詞
「はやく <b>行け</b> 。」初年兵係は言った。	演奏は申し分なく <b>行</b> った。
「悪いやつだ。こっちへ <b>来</b> い。」	妊娠からくる食欲不振と脚気とで、
ここの看板のある事務所へ安吉に <b>移</b> れという。	サルにしかう <b>つらぬ</b> 病気がある。
義ちゃんが肩車をするから、 <b>登</b> れ登れっていったんで、	負傷者もすでにかなりの数に上 <b>つ</b> てゐる。
「よし、 <b>通</b> れ。」	厳格で <b>通</b> つてゐる米国人の老校長に、
伸子は、「そつち向いて、そつち向いて」と	彼は、運動部に <b>向</b> かないばかりでなく、

## 第6章 まとめと結論

本論文では、日本語と韓国語の「授受表現」について比較・対照研究を行った。これまでの日・韓両言語の対照研究では、視点の問題や「やる（あげる）／くれる」と「주다 juda」との対応関係の問題、敬語の問題、「～てもらう」構文が韓国語でどういうふうに対応しているかの問題など、広範囲に渡る研究がなされてきた。しかしながら、例えば「やる（あげる）／くれる」と「주다 juda」が対応しているかのような文においても実際の意味が異なっていたり、指している内容にずれがあるということにまでは目が向けられてこなかったことが事実である。本論文は、一見すると対応しているかのように見える日・韓両言語の「授受表現」における差異の面に注目しながら、主に対訳の小説などから収集した用例を中心に事実関係を調べ、そこから得られた共通点や相違点が生じる原因について考察を行った。以下、各章ごとに考察した内容をまとめて提示しておく。

第2章では、日本語と韓国語の「授受表現」における「ニ格」「에게 ege 格」助詞の表示と対象物の移動に関して考察した。主な先行研究である Shibatani(1994)、三宅(1996)、加賀(1997)、山田(2004)で議論された内容を概観し、それらの研究から明らかになった事実を基に、韓国語との比較対照の観点から考察した。まず、「授受表現」における「ニ格」「에게 ege 格」助詞の表示の問題の結果について述べる。最初に、日・韓両言語において、格表示が見られたのは「作成・入手動詞類（「作る」「買う」など）」である。それから、両言語で一貫して格表示が見られなかったのは「自動詞類（「行く」「来る」など）」であった。問題になっているのは「状態変化を引き起こす他動詞類（「洗う」「磨く」「直す」など）」であって、日本語に比べて韓国語の方が格表示の可能性が高かった。もう一つ、「授受表現」における「授受動詞」の「やる／くれる」と「주다 juda」の省略可能性についても日・韓両言語で差が見られた<sup>148</sup>。この現象に関しては、日本語の先行研究の間でも意見が分かれていて、判断のゆれが見られた。そのような判断のゆれが生じる原因を、「『ニ格』の捉え方の違いによるもの」、「名詞によるもの」、「『授与者』と『受益者』の種類によるもの」に分けて考えてみた。これについて、Shibatani(1994)が敬語化ができないということに認めていないなど、多くの先行研究では非文法として扱われているが、山田(2004)および本論文での調査では、広い範囲で用いられていることが確認できた。しかしながら、疑問文にした場合の不適合性の上昇や、名詞の種類による判断のゆれが見られる点、敬語化および謙譲語化が難しいこと、さらに、書き言葉としては用いられにくいということなどから総合的に考えると、まだ非文法的な要素を多く包含している表現であるということとは否定できない。一方、韓国語における判断は一貫して非文法的であり日本語のような問題は生じない。これは、「ニ格」助詞が「～てやる（あげる）／くれ

<sup>148</sup> ごく一部の例を除けば、韓国語の判断は一貫して「\*」を示している。

」からも、主動詞からも付与され得るという日本語とは違って、「에게 ege 格」助詞はもっぱら「~어 주다 eo juda」から付与されるものであるからである。

二つ目の問題は、「授受表現」を表わす文における対象物の移動に関する日・韓の違いである。まず、主動詞が「作成・入手動詞類」が用いられた「授受表現」における対象物の「二格・에게 ege 格」への移動において、日本語と韓国語で差が見られた。日本語は発話時に対象物が「二格」のところに移動していなくてもいいが、韓国語は発話時に「에게 ege 格」に移動済みでないといけない。なお、主動詞が「状態変化を引き起こす他動詞」の場合も、対象物の移動が想定される文脈であれば韓国語においては「에게 ege 格」が表示されやすい傾向を見せている<sup>149</sup>。「持ち主受益文」においても、韓国語では、人と人の接触を「移動」の一種として捉え、「에게 ege 格」が表示されることが可能であった。本論文では、以上のような日・韓の違いが見られる理由を、授受表現における解釈の違い（「授受表現」の文構造の違い）、すなわち、韓国語は「에게 ege 格」の着点の読みが強い反面、日本語は「二格」の「受益者」の読みが強いという相違にあると考えた。最後に、以上のような現象が、「二格」「에게 ege 格」助詞が表示される「授受表現」にだけでなく、「授受表現」全般に適用される事実であることを示した。すなわち、「주다 juda」が用いられる時点で、受け手〔聞き手〕（または、与え手〔話し手〕）がその事実を承知していなければならないということである<sup>150</sup>。この点は、韓国語における移動の範囲が「対象物の移動」から「行為の移動」にまで拡大されているということを示していると言することができる。最後に、以上のような内容を次の表1のようにまとめた。

言語	「二格・에게 ege 格」助詞の表示					授受動詞の省略可能性	対象物の移動（過去形の場合）
	作成/入手動詞類	移行動詞	状態変化を引き起こす他動詞類	自動詞類	持ち主		
	作る・買うなど	歌う・読むなど	削る・洗うなど	行く・来るなど	受益文		
日本語	✓	✓	X または △	X	X	✓ 作成・入手動詞のみ可能	✓ 最終的に移動
韓国語	✓	✓	△	X	△	X	✓ 発話時に移動済み

表1 「授受表現」における「二格・에게 ege 格」助詞の表示

<sup>149</sup> 例えば、「花子に服を洗ってやった」はOKで、「花子に家を洗ってやった」は「\*」になるということを示している。

<sup>150</sup> これらの現象は例えば、「お弁当、作ってくれた？（作成・入手動詞）」「（私の代わりに）走ってくれた？（移動動詞）」「私の服洗ってくれた？（状態変化を引き起こす他動詞）」などの文が成立するのに対し、韓国語では、一貫して成立していないところから読み取ることができる。

第3章では、日本語と韓国語の「授受表現」におけるアスペクト性の問題について考察を行った。先行研究として山田(1997)、高見・久野(2002)、澤田(2005)を概観し、その内容を踏まえた上で、韓国語との比較を行った。まず、「～ていてやる(あげる)／くれる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」がどのような動詞と組み合わせるかを調べた(対応関係I)。次の表2は、問題になっている表現の相特性に基づいた分類と、それぞれの類における日韓の可能性を示している。

言語	日本語	韓国語
テイル表現の相特性	～ていてくれる／やる	～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda
継続(走っているなど)	✓	✗
結果残存(解いているなど)	?	✗
持続(座っているなど)	✓	✓
単純状態(聳えているなど) <sup>151</sup>	✓	?
心理状態(期待しているなど)	✓	✗

表2 「～ていてくれる(やる)」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」の比較

- (1) a. 太郎は私の代わりに走っていてくれた。  
 b. ??타로는 내 대신 뛰고 있어 주었다.  
 taloneun nae daesin ttwigo iss-eo ju-eosdda  
 (太郎は 私の 代わりに 走って いて くれた)
- (2) a. ?太郎が子供時分のわだかまりを解いていてくれた。 (山田 1997: 133、一部改変)  
 b. \*타로가 어린 시절의 응어리를 풀고 있어 주었다.  
 taloga eolin sijeol-ui eung-eolileul pulgo iss-eo ju-eosdda  
 (太郎が 幼い 時節の わだかまりを 解いて いて くれた)
- (3) a. 太郎が僕のそばに座っていてくれた。  
 b. 타로가 내 옆에 앉아 있어 주었다.  
 taloga nae yeop-e anj-a iss-eo ju-eosdda  
 (太郎が 私の 側に 座って いて くれた)
- (4) a. 筑波山はいつもそこに聳えていてくれた。  
 b. ?츠크바산은 언제나 거기에 솟아 있어 주었다.  
 cheukubasan-eun eonjena geogi-e sos-a iss-eo ju-eosdda  
 (筑波山は いつも そこに 聳えて いて くれた)
- (5) a. どこかでまだわたしを期待していてくれるという喜びで… (山田 1997: 134)  
 b. \*어디선가 아직 나를 기대하고 있어 준다는 기쁨에…  
 eodiseonga ajig naleul gidaehago iss-eo jundaneun gippeum-e

<sup>151</sup> 「くれる」の代わりに「やる」がくるとおかしくなるのであるが、それは、「やる」は普通人主語を必要とすることによるものと考えられる。韓国語も「やる」の意味の「주다 juda」になると非文になる。

(どこかで まだ 私を 期待して いて くれる という 喜びで…)

表 1 から、「～ていてくれる／やる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文の成立可否における差が見られる。本論文ではその原因を、まず、日・韓両言語の「アスペクト性」の違いから求めている。「～ていてくれる／やる」と「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文の主動詞の種類やその動詞の「アスペクト性」の違いによって、日本語は比較的自由に「～ていてくれる／やる」構文を作れるのに対して、韓国語は「～고/아 있어 주다 go/a iss-eo juda」構文を作ることができない。韓国語の場合、例えば、(1b)が示すように、動作継続を表わす動詞の場合、「～고 있다 go issda(ている)」がつくとおかしくなる。この場合は、次の(6a)のように「～고 있다 go issda(ている)」ではなく、「現在単純形」を使う。この点が、日・韓両言語のアスペクト性における大きな違いになるわけである。

- (6) a. 타로가 내 대신 뛰어 주었다.      b. 타로가 내 옆에 앉아 주었다.  
taloga nae daesin    ttwi-eo ju-eosdda      taloga nae yeop-e    anj-a ju-eosdda  
(太郎が 私の 代わりに 走って くれた)      (太郎が 私の 側に 座って くれた)

一方、(3b)のように、「座る」などの動詞は、もう一つのアスペクト形式である「～아 있다 a issda(ている)」を使って結果継続(持続)を表わす。この場合、「現在単純形」では「結果継続(持続)」を表わすことができないので、「～아 있다 a issda」を用いて表現するしか方法がない。(6b)は、「座っている」という持続を表わすのではなく、今「座った」という完了の意味だけを表わす。行為の持続を表わすためには、「～아 있다 a issda」に「주다 juda」を付けた形の「～아 있어 주다 a iss-eo juda(ていてやる／くれる)」を用いるしかないのである<sup>152</sup>。

次は、二つ目の原因である「授受動詞」の性質による制限である。「動作継続」を表わす「～ている」・「～아 있다 a issda」に「～てあげる／くれる」・「～어 주다 eo juda」が付く際に、日本語には「動作が完了しているかどうか」ということはあまり問題にならない。一方、韓国語の場合は、「動作が完了しているかどうか(主動詞が「作成・入手動詞」の場合は作成された対象物が「ニ格・에게 ege 格」に移動しているかどうか)」ということが「～어 주다 eo juda」構文を作る際に重要な要素として作用する。言い換えると、明確な「動作継続」を表わす「～고 있다 go issda」と「～어 주다 eo juda」は結合しにくいところがあるということである。「～고 있다 go issda」がついて「動作継続」を表わす動詞の場合、その動作が完了していない(継続している)。つまり、「～어 주다 eo juda」構文を作る際の必要な条件である「動作の完了」が満たされていないゆえ、「～고 있어 주다 go iss-eo juda」構文を作ることができないのである。一方、「結果持続」を表わす「～아 있다 a issda」に「～어 주다 eo juda」が付く際には、動作も完了しているので、「～아

<sup>152</sup> 「30 분간 뛰어 주었다 30bungan ttwi-eo ju-eosdda (30分間走ってくれた)」は言えるが、「\*30 분간 앉아 주었다 30bungan anj-a ju-eosdda (30分間座ってくれた)」は言えない。

있어 주다 a iss-eo juda」構文を作ることが可能になるわけである。

次に、「～てくれて(あげて)いる」と「～어 주고 있다 eo jugo issda」とに関して動詞との結合の可能性を調べ比較した(対応関係Ⅱ)。その結果は表 3 のようにまとめることができる。

「くれる(やる)」に 前接する動詞の相特性	言語	日本語	韓国語
		～てくれて/ やっている	～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda
活動・達成(走る、作るなど)		✓	✓
到達(解くなど)		✓	✗
到達(座る、立つなど)		✓	✗
単純状態(聳えるなど)		✗	✗
心理状態(期待するなど)		✓	✗

表 3 「～てくれて/やっている」と「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」の比較

- (7) a. 太郎は私の代わりにグラウンドを走ってくれていた。  
 b. 타로는 내 대신 운동장을 뛰어 주고 있었다.  
 (太郎は 私の代わりに 運動場を 走ってくれていた)  
 taloneun nae daesin undongjang-eul ttwi-eo jugo iss-eosdda
- (8) a. 太郎は子供時分のわだかまりを解いてくれていた。  
 b. \*타로는 어린 시절의 응어리를 풀어 주고 있었다.  
 taloneun eolin sijeol-ui eung-eolileul pul-eo jugo iss-eosdda  
 (太郎は 幼い 時節の わだかまりを 解いてくれていた)
- (9) a. 太郎は私のそばに座ってくれていた。  
 b. \*타로는 내 옆에 앉아 주고 있었다 (taloneun nae yeop-e anj-a jugo iss-eosdda).  
 (太郎は 私の 側に 座ってくれていた)
- (10) a. \*筑波山はいつもそこに聳えてくれている。  
 b. \*츠쿠바산은 항상 거기에 솟아 주고 있다.  
 cheukubasan-eun hangsang geogi-e sos-a jugo issda  
 (筑波山は いつも そこに 聳えてくれている)
- (11) a. どこかでまだわたしを期待してくれているという喜びで…  
 b. \*어디선가 아직 나를 기대해 주고 있다는 기쁨에…  
 eodiseonga ajig naleul gidaehae jugo issdaneun gippeum-e  
 (どこかで まだ 私を 期待してくれている という 喜びで)

表 3 と (7)～(11) の例のように、「～てくれて/やっている」は先行動詞が「単純状態」を表わす場合を除けば自由に成立する反面、「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」は先行動詞が「活動と達成」を表わす場合だけが可能である。それは、アスペクト性の観点から見て

「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」における「～고 있다 go issda」が、一般に「動作継続」を表わす言語形式であるからである。日本語の「～ていてくれる(やる)」は先行動詞の相特性によって、前段階を表わしたり、中間段階を表わしたり、結果状態を表わしたりするが、韓国語の「～어/아 주고 있다 eo/a jugo issda」では活動達成しか生じないので、中間段階のみ表わすということになる。

二番目の原因として、「授受動詞」の違いについて述べた(3.5.3 節)。日本語の「授受動詞」には「意志を表わす用法(豊田 1974: 85ff)」や「動作の方向性を表わす用法(同: 89ff)」の「テヤル」、「方向性を強調した表現」<sup>153154</sup>などが存在するが、韓国語の「授受動詞」である「～어 주다 eo juda」はそのような用法が日本語ほど発達していないと言われてきている。それゆえ、元の文自体が作れないからそこに「～고 있다 go issda」をつけられるかどうかということは、はじめから問題にならない。

最後に、「～어 주고 있다 eo jugo issda (～てくれて/やっている)」の成立条件について考察した。「～어 주고 있다 eo jugo issda」が成立する環境は、まず澤田(2005)が言う「目の前の現象」の条件が必要である。ただし、韓国語の場合、この条件の適用範囲が日本語のそれよりも狭いことが分かる。すなわち、「現象」は今現在目の前に見えている場面を指すが、日本語では、動作中の「現象」(「微笑んでくれている」「面倒を見てくれている」など)と、結果の状態を表わす「現象」(「落ちてくれている」「咲いてくれている」「来てくれている」など)との両方が含まれている。一方、韓国語における「目の前の現象」というのは、何らかの動作そのものが継続している場合に限定される。「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などは一度きりの出来事の場合は「～어 주고 있다 eo jugo issda」文が不可能である。このことは動作の結果が継続している(結果継続)意味の場合は、日本語と違って現象の条件を満たしていないと理解することができる。ただし、「落ちてくれている」「咲いてくれている」「座ってくれている」「来てくれている」などが「反復[繰り返し]」や「習慣」として用いられると、ある期間中に動作そのものが繰り返して[反復して]生じている、ある意味、継続していると見なすことができるので、「～어 주고 있다 eo jugo issda」文は許される。

以上、本論文の第3章では、上記の日・韓の対応関係[I]と[II]を中心に、そこから見えてくる両言語の類似点や相違点を提示し、その原因を明らかにするための考察を行った。「授受動詞」という同じ枠に入っていて、類似した表現形式として用いられている「～てやる(あげる)/くれる」と「～어 주다 eo juda」構文は表2と表3で示したような違いを見せており、その原因は両言語の「アスペクト性」や「授受動詞の特性」の相違からくるものであることを、明らかにすることができたと考えられる。

第4章では、日本語と韓国語の「授受表現」における、いわゆる「非恩恵的な用法」に

<sup>153</sup> 山田(1997:138)を参照。

<sup>154</sup> この種類の表現はいわゆる「非恩恵的な授受表現」として呼ばれているが、本論文の第4章を参照されたい。

ついて考察した。本論文では、非恩恵的用法を大きく「与え手 [話し手] に関わる非恩恵」「受け手 [聞き手] に関わる非恩恵」に分けて日本語と韓国語の対応関係を調べてみた。まず、「与え手 [話し手] に関わる非恩恵的な用法」の事例として、「強い意志」「否定の命令」「非難の意を表わす用法」「アイロニー的用法」という下位項目を立てて対応関係を比較・分析した。次に、「受け手 [話し手] に関わる非恩恵的な用法」を「強調」「配慮・気配り」「その他」の用法に分けて考察した。「配慮・気配り」に関しては、「テヤル」と「テクレル」が関わる場合に下位区分し、それぞれの対応関係を調べた。「その他の用法」には、「共感(第三者から見た恩恵)」「丁寧な依頼」「被害を与えたり、迷惑をかける場面」という項目を設定し、それぞれの対応関係について考察した。最後に、以上の非恩恵的な用法には含まれないものの、日本語と韓国語で差が見られる事例として「動詞そのものの方向性の意味の有無」を提示して記述した。

従来の日・韓の「授受表現」に関する研究は、主に視点の違いや利益、恩恵などの対応関係に関するものが主流だったが、本論文は、視点、利益、恩恵とまったく無関係とは言えないまでも、本来の「授受表現」の意味特徴である利益や恩恵などの用法とは少しかけ離れている、いわゆる「非恩恵的な用法」の「テヤル/クレル」と「주다 juda」を、従来の研究とは少し違った観点から考察することを目指した。その結果を以下の表 4 のようにまとめた。

		用 法		日	韓
与え手 [話し手] に関わる 非恩恵	強い意志			✓	△
	否定の命令			✓	×
	非難の意を表わす用法			✓	×
	アイロニー的用法			✓	✓
受け手 [聞き手] に関わる 非恩恵	強 調			✓	✓
	配慮 ・ 気配 り	テヤル (アゲル)	事態改善のための条件文	✓	✓
			説明言語 (instructional language)	✓	✓
	気配 り	テクレル	許可を表わす文	✓	×
依頼を表わす文			✓	×	
そ の 他	共感 (第三者から見た恩恵)			✓	×
	丁寧な依頼			✓	✓
	被害を与えたり迷惑をかける場面			×	✓

表 4 日本語・韓国語における非恩恵的な用法の比較対照

表 4 から、日本語と韓国語における非恩恵的な用法の対応関係が見て取れる。日本語は、「与え手 [話し手] に関わる用法」・「受け手 [聞き手] に関わる用法」に関係なく非恩恵的な用法を持っているのに対し、韓国語は「与え手 [話し手] に関わる用法」のうち、



「否定の命令」と「非難の意を表す用法」が欠けている。一方、「強い意志」を表わす用法においては、日本語は動詞の基本形（やる）で表わすことができるのに対し、韓国語は基本形を持って表現することができず、「주다 juda」に「意志」を表わす接辞をつけて表わす体系になっている。許容範囲においては日本語に比べて若干制約されている。次に、「受け手〔聞き手〕に関わる用法」においても、日本語は制限なく用いられているのに対し、韓国語は「『やる』の配慮・気配り用法」は日本語とほぼ対応関係を成している反面、「『くれる』の配慮・気配りの用法」においては対応していない。その他の用法のうちの「共感（第三者から見た恩恵）用法」においても、韓国語は、日本語に比べて「주다 juda」を用いずに淡々とした展開のほうを好む傾向を見せている。最後に、韓国語には「迷惑をかける」や「被害を与える」場面で「주다 juda」の謙讓語である「드리다 *duelida*（「差し上げる」に当たる）」を使って丁寧に謝る用法が存在するが、日本語はそのような用法を持たないということが確認できた。

第 5 章では、日本語と韓国語の「授受表現」における「視点」と「意志性」について考察を行った。日本語は「やる」と「くれる」という動詞が授受動詞の役割を分担している。つまり、話者（与え手）から離れていく行為には「やる」を、聞き手（受け手）に向かってくる行為には「くれる」を使って区別している一方、韓国語においては、そのような区別がなく、「주다 juda」動詞一つで両方の役割を担っている。第 5 章は、命令形の「やれ」と「くれ」が並行的に用いられるのに対し、願望形の「やりたい」や可能形の「や（ら）れる」は言えるけれども「\*くれない」や「\*くれない」は言えないことに着目し、「やる」と「くれる」と分けられていることによって引き起こされる現象について、様々な表現形式との結合関係を調べ、その結果と韓国語の「주다 juda」との比較を試みたものである。まず、5.3 節の先行研究の内容と 5.4 節の検証による対応関係を表 5 のようにまとめることができる。

言語 表現形式	日本語		韓国語
	やる	くれる	주다 juda
授受動詞間の結合	✓	✓ <sup>1)</sup>	✗ <sup>2)</sup>
よう／う	✓	✓ <sup>3)</sup>	✗ <sup>4)</sup>
命令形	✓	✓	✓
否定命令形	✓	✓	✓
可能形	✓	✗ <sup>5)</sup>	✓ <sup>6)</sup>
願望形	✓	✗ <sup>7)</sup>	✓ <sup>8)</sup>
しなければならない／いけない	✓	✓	✓
てみる	✓	✗	✓ <sup>9)</sup>

表 5 「やる／くれる」と「주다 juda」の結合関係

表5から読み取れることを、表に添えた番号を用いながら以下に述べる。

まず、授受動詞間の結合は、「やる」と「くれる」は可能で、「주다 juda」は不可能である。ただし、

- 1) 「くれる」が最後のところに位置しなければならない。「\*くれてやる」「\*くれてくれる」「\*くれてもらう」「\*やってくれてもらう」「\*もらってくれてやる」など。
- 2) 「주다 juda」は「やる」と「くれる」のような区別がない。しかし、「주다 juda」の尊敬語の「주시다 jusida（「くださる」に当たる）や謙讓語の「드리다 deulida（「差し上げる」に当たる）」と「주다 juda」の組み合わせである「드려 주다 deulyeo juda（さしあげてあげる）」「드려 주시다 deulyeo jusida（さしあげてくださる）」などは検索の結果、部分的に見かけることもある。
- 3) 4) 日本語は「誘いかける形」と「推量」を表わす形式が同じ「よう／う」である反面、韓国語はその形式が区別されている。
- 5) 可能形に関しては、「やれる」と「あげられる」は言えるのに対し、「\*くれられる」は言えない。一方、「くれることができる」は（一部ではあるが）許容されていることが確認できた。これは一般に、「能力」だけの意味を持つ動詞の可能形と「可能性」までも含む「～ことができる」の方が許容範囲において広い様相を見せていることと関係していると思われる。
- 6) 韓国語の「주다 juda」の可能形「줄 수 있다 jul su issda」は平叙文では用いることができないが、相手の意志を問う疑問文では日本語の「～てもらえないか」の意味で使うことができる。
- 7) 願望形「たい」は「やりたい／あげたい」は言えるのに対し、「\*くれたたい」は言えない。これは、「意志性・無意志性」という理由より、「たい」が一人称主語を求める特徴から起因するものであると考えられる。一方、三人称の願望形である「～たがる」については、「くれたがる」が実際のアンケートでは許容度が低かったものの、ネット上などでの使用現実はかなり広い範囲で使われていることが確認できた。
- 8) 日本語も韓国語も主語や人称などから限定されて「\*くれたたい」「\*くれられる」「\*くれてみる」などが用いられないということは共通の事実である。しかし、それらを疑問文に用いた場合、相手の意志を問う場面では、日・韓で差が見られた。すなわち、日本語は「\*くれたたい?」「\*くれられる?」「\*くれてみる?」になっても依然として許容されにくい傾向を見せているのに対し、韓国語は「주고 싶어 jugo sip-eo(くれたたい?)」「줄 수 있어 jul su iss-eo(くれられる?)」「줘 볼래 jwo bollae(くれてみる?)」が問題なく用いられているのである。ということは、主語や人称の限定などだけではなく、やはり、動詞の「意志性」の違いから生じる現象であるという可能性も残されているのではないかと考えられる。
- 9) 最後に、もくろみ動詞の一種である「～てみる」との結合における日・韓の違いについてである。「～てみる」は「～たい」や「可能形」の場合と同様の様相を示す。例

例えば「\*彼女は僕にプレゼントをくれてみた」「\*그녀가 나에게 선물을 줘 보았다 geunyeoga na-ege seonmul-eul jwo bo-assda 」という文が非文になっているのは、日・韓両言語の共通しているところである。しかし、相手の意志を問う場面、つまり疑問文の場合には、日本語は許容されないのに対し、韓国語は問題なく許容される。さらに、「～てみる」を「命令形」にした場合も、日本語は許容されない反面、韓国語は一般的に用いられる。

本研究によって、これまであまり注目されてこなかったと思われる「やる（あげる）／くれる」と「주다 juda」との間の差異の側面が、第2章から第5章までの分析によって明らかにされたと思う。その違いは、日・韓両言語における、「授受表現における移動の違い」「アスペクト性の違い」「恩恵に対する認識の違い」「意志性の違い」などによって引き起こされていることが明らかに出来たと考えられる。

## 参考文献

- アン ピョンホ(安平鎬)(2003) 「静止動作を表わす『シテイル』と『하고 있다』  
『해있다』をめぐって」『日本学報』57
- 青木ひろみ(1997) 「自動詞における《可能》の表現形式と意味—コントロールの概念と  
主体の意志性—」『日本語教育』93
- 庵功雄(2011) 「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』30-11
- 池上嘉彦(2006) 「〈主観的把握〉とは何か—日本語話者における〈好まれる言い回し〉  
(特集 「いま」と「ここ」の言語学—ことばの〈主観性〉をめぐって)」『月刊言語』  
35-5
- 池上嘉彦・守屋三千代編(2009) 『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて—』ひつじ書房
- 石丸晶子(1985) 「文章における視点」『日本語学』4-12
- 井島博正(1997) 「授受動詞文の多層的分析」『成蹊大学文学部紀要』32
- (1999) 「魚は三枚におろしてあげます—〈配慮・気配り〉を表わすテヤル・テア  
ゲル—」『日本語学』18-12
- 井上優(2011) 「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」」『日本語学』30-11
- 今井文男(1985) 「私の視点論」『日本語学』4-12
- イム パルヨン(林八龍)(1980) 「日本語・韓国語の授受表現の対照研究」『日本語教育』40
- 上野田鶴子(1978) 「授受動詞と敬語」『日本語教育』50
- 大江三郎(1975) 『日英の比較研究』南雲堂
- 大崎志保(2005) 「日本語の自動詞による可能表現—動詞制約を中心に—」『日本語文法』  
5-1
- 大曾美恵子(1980) 「授受動詞構文に関する一考察」『日本語教育』40
- (1983) 「授受動詞文と二名詞句」『日本語教育』50
- 大堀壽夫(2002) 『認知言語学』東京大学出版会
- (2004) 「文法化のひろがりと問題点」『月刊言語』33-4
- 岡本真一郎(2001) 「行動指示表現の状況的使い分け—受益対象と話し手の関与の影響—」  
『日本語教育』109
- 岡野喜美子(1971) 「授受表現の扱い方」『講座日本語教育』8 早稲田大学日本語研究  
教育センター
- 荻野千砂子(2007) 「授受動詞の視点と成立」『日本語の研究』3-3
- 奥津敬一郎(1979) 「日本語の授受動詞文—英語・朝鮮語と比較して—」『人文学報』132
- (1983) 「授受表現の対象研究—日・韓・中・英の比較—」『日本語学』2-4
- (1986) 「やりもらい動詞」『国文学解釈と鑑賞』51-1
- 生越直樹(2002) 「日本語の『に』と朝鮮語の助詞『에게』をめぐって」『日本語学と言  
語学』玉村文郎編 明治書院

- 生越まり子(1995) 「依頼表現の対照研究—朝鮮語の依頼表現—」 『日本語学』 14-10
- 尾崎奈津(2007) 「日本語の否定命令文をめぐって—『スルナ』を述語とする文の特性と機能—」 『日本語の研究』 3-1
- 小野良美(1995) 「日本語の他動性—意志性を中心に—」 『英米文学研究』 31
- 加賀信広(1997) 「日英語の受益構文と意味役割」 筑波大学現代言語学研究会編『ヴォイスに関する比較言語学的研究』 三修社
- 影山太郎(1996) 『動詞意味論—言語と意味の接点』 くろしお出版
- 神尾昭雄(1985) 「談話における視点」 『日本語学』 4-12
- キム ギョンジュ(金慶珠) (2001) 「談話構成における母語話者と学習者の視点—日韓両言語における主語と動詞の使い方を中心に—」 『日本語教育』 109
- キム ミンス(金珉秀) (1999) 「『もらう』と『得る』の意味分析」 『筑波応用言語学研究』 6  
 ----- (2004) 「『もらう』『受け取る』『受ける』と『받다(badda)』の対照研究」 『筑波応用言語学研究』 11
- キム オクヨン(金玉英) (1996) 「韓国語動詞の分類」 『言語学論叢』 14
- 木村新太郎(1983) 「迂言的な受身表現」 『研究報告集』 (国立国語研究所報告 74) 秀英出版
- 金水敏(1989) 「日本語における心的空間と名詞句の指示について」 『女子大文学・国文編』 39
- 久野暉(1978) 『談話の文法』 大修館書店
- 熊井浩子(1989) 「待遇表現指導の一視点—『ほしい・たい』を中心に—」 『日本語学校論集』 16
- 黒田成幸(2005) 『日本語からみた生成文法』 岩波書店
- 小泉保(2007) 『日本語の格と文型—結合価理論にもとづく新提案—』 大修館書店
- コヘスク(高恩淑) (2012) 「『動詞の意志性』を問う—可能形式との関わりを中心に—」 『日本語文法』 12-2
- 小松寿雄(1964) 「ゆれている文法」 『口語文法講座』 3
- 斉木美知世(2006) 「被動性をめぐる比較文法論的考察—構文の連続性と離散性に関する事例研究—」 筑波大学博士学位論文
- 佐久間鼎(1936) 『現代日本語の表現と語法』 厚生閣 (くろしお出版より 1983 再版)
- 佐藤里美(1992) 「依頼文—してくれ、してください—」 『ことばの科学』 5 むぎ書房
- 佐藤琢三(1993) 「三項動詞の語彙的対応」 『言語学論叢』 12
- 澤田淳(2005) 「日本語の受益構文と『主体化』—『～てくれる』構文と『～てやる』構文の比較—」 『日本語認知言語学論集』 5  
 ----- (2005) 「授受構文における否定性・アスペクト性の『浸透現象』」 『早稲田日本語研究』 13、早稲田大学日本語学会  
 ----- (2007) 「日本語の受益構文の格表示と物の授受性—認知言語学的アプローチ—」 『言語科学論集』 13

- 鈴木丹士郎(1972) 「動詞の問題点」 『品詞別日本文法講座 3 動詞』 明治出版
- 柴谷方良(1978) 『日本語の分析』 大修館書店
- しみずやすゆき(1977) 「所有の移動をあらわす動詞と格の枠組」 『一村松明教授還暦記念—国語学と国語史』 明治書院
- 菅井三実(2004) 「格の体系的意味分析と文節機能」 『認知言語学論考』 4 ひつじ書房
- 杉本和之(1996) 「意志動詞と無意志動詞の研究—その 1」 『愛媛大学教養部紀要』 28-3
- 杉本武(1986) 「第三章格助詞」 『いわゆる日本語助詞の研究』 凡人社
- 鈴木睦(1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にして成り立つか—」 『日本語学』 8-2
- 鈴木重幸(1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
- 砂川有里子(1984) 「『に』と『から』の使い分けと動詞の意味構造について」 『日本語・日本文化』 12 大阪外国語大学研究留学生別科
- 副島健作(2003) 「シテアルとスルーシテイルとの関係について」 琉球大学留学生センター紀要『留学生教育』 1 高橋太郎(2003) 『動詞 九章』 ひつじ書房
- 高見健一(2000) 「被害受動文と『～に V てもらう』構文」 『日本語学』 19-5
- (2003) 「受益二重目的語構文の動詞と適格性条件」 『英語青年』 148-11
- (2003) 「受益表現の新展開 2」 『月刊言語』 32-2
- 高見・久野(2002) 『日英語の自動詞構文』 研究社
- 滝浦真人(2001) 「敬語の理論と授受の理論—『聞き手中心性』と『話し手中心性』を軸として—」 『月刊言語』 30-5
- 田窪行則(1992) 「言語行動と視点一人称詞を中心に—」 『日本語学』 11-8
- 竹沢幸一(1995) 「『に』の二面性」 『月刊言語』 24-11
- 竹林一志(2007) 『「を」と「に」の謎を解く』 笠間書院
- 谷口秀治(2000) 「『～ておく』に関する一考察—終結性を持つ用法を中心に—」 『日本語教育』 104
- チョン ヘソン(鄭恵先) (2002) 「日本語と韓国語の人称詞の使用頻度—対訳資料から見た頻度差とその原因—」 『日本語教育』 114
- 角田太作(1991) 『世界の言語と日本語—言語類型論から見た日本語—』 くろしお出版
- 寺村秀夫(1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版
- (1982) 『日本語のシンタクスと意味 II』 くろしお出版
- 豊田豊子(1974) 「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」 『日本語学校論集』 1
- 部田和美(2009) 「授受動詞『ヤル・クレル・モラウ』の文の意味分析—抽象的対象物を含む授受動詞文を中心に—」 『言語学論叢』 28
- (2011) 「テヤルの意味分析—非恩恵を表すとされるテヤルを中心に—」 『言語学論叢』 30
- 中村嗣郎(2001) 「日本語と韓国語の格助詞の比較：空間の『に』と e/ge を中心に」 『コミュニケーション科学』 14

- 鍋島弘治朗(2011) 『日本語のメタファー』 くろしお出版
- 西川真理子(1995) 「『てくれる』についての一考察—『てやる/もらう』との比較から—」 『言語文化研究』 21
- 仁田義雄(1988) 「意志動詞と無意志動詞」 『月刊言語』 17-5
- (1989) 「『行こうか戻ろうか』—意志表現の疑問化—をめぐって」 『月刊言語』 8-8
- (1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
- (2004) 「意志性から見た主語」 『月刊言語』 33-2
- 沼田善子(1999) 「授受動詞文と対人認知」 『日本語学』 18-9
- 野田尚史(2004) 「見えない主語を考える」 『月刊言語』 33-2
- 橋元義明(2001) 「授受表現の語用論」 『月刊言語』 30-5
- パク ヨンマン(朴用萬) (2009) 「日本語の『～てあげる・くれる』について」 『日本学報』 79
- 長谷川ユリ(1997) 「テアルの意味と用法」 『大阪教育大学紀要』 第一部門 46-1
- 原田登美(2006) 「恩恵・利益を表す<授受表現>と<敬意表現>の関わり—特に『てくれる』を中心として文法側面と社会言語学的側面から見—」 『言語と文化』 10
- ハンギョンア(韓京娥) (2008) 「日本語の『～てあげる・くれる』と韓国語の『～아/어 주다-a/e cwuta』の意味機能」 『日本語教育』 136
- ハンナムス(韓南洙) (1979) 「現代朝鮮語における格助詞～에게 (～ege) について」 『言語の研究』 国語学研究会編 むぎ書房
- 日高水穂(2007) 『授与動詞の対照方言学的研究』 ひつじ書房
- 廣瀬幸生(2001) 「授受動詞と人称」 『月刊言語』 30-5
- 藤井正(1966) 「『動詞』+ているの意味」 『国語研究室』 (東京大学) (『日本語動詞のアスペクト』 金田一春彦編 むぎ書房に所収)
- 堀口純子(1984) 「授受表現にかかわる誤りの分析」 『日本語教育』 52
- (1987) 「『～テクレル』『～テモラウ』の互換性とムード的意味」 『日本語学』 4-6
- (1987) 「意志動詞と無意志動詞の意味に関する一考察—『クレル』を中心—to—」 『文藝言語研究・言語篇』 12
- 前田富祺(2001) 「『あげる』『くれる』の成立の謎—『やる』『くださる』などとの関わりで」 『月刊言語』 30-5
- 牧野成一(1996) 『ウチとソトの言語文化学—文法を分化で切る—』 アルク
- 益岡隆志(1987) 「ケース7 受給・受益の表現」 『ケーススタディ日本文法』 おうふう
- (1987) 『命題の文法—日本語文法序説—』 くろしお出版
- (2000) 『日本語文法の諸相』 くろしお出版
- 升川潔(1978) 「意味の成分分析」 『月刊言語』 7-12
- 松下大三郎(1924) 『標準日本語文法』 紀元社
- 松本曜(2000) 「『教わる/教える』などの他動詞/二重他動詞ペアの意味的性質」 『日本

語意味と文法の風景—国広哲弥教授古希記念論文集—』ひつじ書房

- 三宅知宏(1996) 「日本語の受益構文について」『国語学』186
- 宮坂豊夫(1978) 「場の理論」『月刊言語』7-12
- 宮地裕(1965) 「『やる・くれる・もらう』を述語とする文の構造について」『国語学』63
- 村田美穂子(1994) 「『やる・してやる』と『あげる・してあげる』」『国文学解釈と鑑賞』59-7
- 村上三寿(1986) 「やりもらい構造の文」『教育国語』84
- 森田芳夫(1980) 「韓国人学生の日本語学習における誤用例—動詞—」『日本語教育』43
- 森田良行(1977) 『基礎日本語』角川書店
- (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 森雄一編(2008) 『ことばのダイナミズム』くろしお出版
- 森山卓郎(1988) 『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- (1994) 「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2
- 山岡政紀(1989) 「授受補助動詞と依頼行為」『文芸言語研究 言語篇』17 筑波大学文芸・言語学系
- (1993) 「授受構文における動作主と受益者」『小松英雄博士退官記念日本語学論集』三省堂
- 山田純(1985) 「文における視点」『日本語学』4-12
- 山田敏弘(1997) 「『テイル』とベネファクティブ」『日本語教育』92
- (2001) 「日本語におけるベネファクティブの記述的研究第6回非恩恵ベネファクティブ」『日本語学』20-4
- (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』明治書院
- (2009) 「新しいベネファクティブ表現(文法・文体の変化)」『日本語学』28-14
- (2011) 「類型論的に見た日本語の『やりもらい』表現」『日本語学』30-11
- 山田仁子(1997) 「補助動詞やりもらい文における助詞について」『言語文化研究』4
- 山橋幸子(1999) 「『てくれる』の意味機能—『てあげる』との対比において—」『日本語教育』103
- 山本裕子(2000) 「『くる』の多義構造—『くる』と『～てくる』の意味のつながり—」『日本語教育』105
- 吉川武時(1974) 「日本語の動詞に関する一考察」『日本語学校論集』1
- (1979) 「『しててください』の意味—『待って下さい』と『待っていて下さい』の使い分け—」『日本語学校論集』6
- (1982) 「外国人の日本語 誤用分析 1、2」『日本語学』1-11、1-12
- (1983) 「外国人の日本語 誤用分析 3～6」『日本語学』2-1～2-4
- 呂雷寧(2008) 「無意志自動詞の可能表現に関わる要因の分析—意志性・主体性・事態の



性質を中心に— 『言葉と文化』 9

鷲尾龍一・三原健一(1997) 『ヴォイスとアスペクト』 研究社

- アン ミョン Chol(안명철) (1990) “보조동사,” 『국어연구 어디까지 왔나』 동아출판사.
- イ イクソップ(이익섭)・임홍빈(임홍빈) (1983) 『국어 문법론』 학연사.
- イ ギウ(이기우) 訳 (1994) 『인지의미론』 한국문화사.
- イ ギドン(이기동) (1979) “‘주다’의 문법,” 『한글』 (한글학회) 166.
- イ サン옥(이상억) (1999) 『국어의 사동·피동구문 연구』 집문당.
- イ ジョン스(이정순) (1986) “일본어 ‘주다 :やる, 주다 :くれる, 받다 :もらう’와 한
- イ スリョン(이수련) (2005) “이동체의 특성으로 본 ‘받다’ 월 연구,” 『새얼 語文論集』 17.
- イ ソン운(이선웅) (1991) “현대 국어의 보조용언 연구,” 『국어연구』 133, 서울대국어연구회.
- イ ソン하(이성하) (1998) 『문법화의 이해』 한국문화사.
- (2006) 『한국어 소유 표현 연구』 도서출판 박이정.
- イ ナム스(이남순) (1998) 『격과 격표지』 도서출판 월인.
- 국어 ‘주다, 받다’의 비교연구,” 『언어과학연구』 4 권.
- イム 지리ョン(임지룡) (1997) 『인지의미론』 탐출판사.
- ウ インへ(우인혜) (1997) 『우리말 피동연구』 한신문화사.
- オク テ곤(옥태권) (1988) “국어 상-조동사의 의미 연구,” 부산대학교 국어국문학과 박사학위논문.
- カン ヒョン파(강현화) (1998) 『국어의 동사연결 구성에 대한 연구』 한국문화사.
- (1998) 『한국어 통사론』 민음사.
- キム 키호크(김기혁) (1987) “국어 보조동사 연구,” 연세대학교 국어국문학과 박사학위논문.
- キム ジョンド(김종도) (2005) 『은유의 세계』 경진문화사.
- キム 진へ(김진혜) (2000) 『언어연구』 한국문화사.
- キム 차기윤(김차균) (1999) 『우리말의 시제 구조와 상 인식』 태학사.
- キム 찬소ップ(김창섭) (1981) “현대국어의 복합동사 연구,” 『국어연구』 47.
- キム ミョン비(김명희) (1988) “국어 동사구 구성에 나타나는 의미관계 연구(보조동사에 의한 복합구조를 중심으로),” 『논문집』 27.
- (1996) “문법화의 틀에서 보는 보조동사구문,” 『담화와 인지』 2
- キム 미ョン(김미영) (1998) 『국어 용언의 접어화』 한국문화사.
- キム ヨンス(김용석) (1983) “한국어 보조동사 연구,” 『배달말』 8.
- クオン ジェ일(권재일) (1985) 『국어의 복합문 구성 연구』 집문당.
- ク ヒョンジョン(구현정) (2003) “한국어 ‘주다’ 류 동사의 문법화 양상,” 『언어학』 37.
- コ ヨン근(고영근) (2001) 『한국의 언어연구』 도서출판 영락.
- シン ヒョン스(신현숙) (1986) 『의미 분석의 방법과 실제』 한신문화사.
- ソ ジョンス(서정수) (1978) “국어의 보조동사,” 『언어』 3-2.

- (1996) 『국어문법』 뿌리깊은 나무
- (1996) 『현대 한국어 문법 연구의 개관』 한국문화사
- ソン グァンス(성광수) (1999) 『격표현과 조사의 의미』 도서출판 월인.
- ソン セモドル(손세모들) (1991) “보조동사 ‘주다’ 의 결합 제약과 의미,” 『한국학논집』 19.
- (1992) “국어 보조동사의 특성,” 『한양어문』 10.
- (1993) “보조용언의 형성에 대한 고찰,” 『한양어문』 11.
- (1996) 『국어 보조용언 연구』 한국문화사.
- チョ ギョンスン(조경순) (2008) “국어 수여동사 연구-소유의 변화를 중심으로-,” 『한국어 의미학』 27
- チェ スクイ(崔淑伊) (2009) 『日本語の授受補助動詞文の意味用法に関する研究』 韓国外国語大学博士学位論文.
- (2011) 「韓国語との比較から見た『てやる』文の意志性」 『日語日文学研究』 78.
- チェ ヒョン베(최현배) (1971) 『우리말본』 정음사.
- ナム 기신(남기심) (1978) 『국어 문법의 시제 문제에 관한 연구』 탑출판사.
- ナム 미へ(남미혜) (1995) “국어의 연속동사 연구,” 서울대 박사학위논문.
- ハン ソン히(한선희) (1997) “「~てもらう」に関する考察—韓国語の表現を中心に—,” 『어문학 연구』 7.
- (1998) “수수표현에 대해서,” 『어문학연구』 8.
- バン ウンギ유(방운규) (1994) “보조동사 ‘주다’ 에 관한 연구” 『건국어문학』 17, 18.
- パク 겐츨온(박재권) (1997) 『현대일본어·한국어의 격조사비교연구』 勉誠社.
- パク 슌윤(박승윤) (2003) “국어 수혜격 구문의 문법화,” 『담화와 인지』 10-1.
- パク 송옥(박선옥) (2005) 『국어 보조동사의 통사와 의미 연구』 도서출판 역락.
- パク 히온익(박형익) (1989) “동사 ‘주다’ 의 세가지 용법,” 『한글』 (한글학회) 186.
- (1991) “여격동사,” 『국어의 이해와 인식』 한국문화사.
- ファン 슌파(황순화) (1991) “日本語의 寄与態(「-シテヤル」・「-シテクル」)에 관한 韓国語와의 對照研究,” 『일어일문학연구』 19.
- (1994) 「日本語의 補助動詞『てもらう』에 관한 한국어와의 대조연구(1) —우리말 『-해받다』의 사용範圍를 중심으로—」 『日本學報』 33.
- ホ 인스(허인순) (1985) “授受表現の問題点をめぐって,” 『日本學報』 15.
- ホ 그ァンス(호광수) (2003) 『국어 보조용언 구성 연구』 영락출판사.
- ホ 윤스(허윤숙) (2007) “‘주다’ 의 의미-기능적 변화: 담화-전략적 관점” 『한국사회언어학회·담화인지언어학회 공동학술대회』 .
- ホン 겐성(홍재성) (1987) 『현대 한국어 동사구문의 연구』 탑출판사.
- モク 죠스(睦正洙) (2008) “보조동사 ‘-(어)주다’ 의 統辭的 特性과 機能—與格標識으로서의 분석 가능성—」 『語文研究』 36-4.
- ヤン 죠스(양정석) (1995) 『국어 동사의 의미 분석과 연결 이론』 박이정.
- リュウ 그산(류구상) 외 (2001) 『한국어의 목적어』 월인.

リュウ シジョン(류시중) (1995) “한국어 ‘-어 주다’ 구문에 대한 연구,” 『언어학』 17.  
 ----- (1995) 『국어 보조용언 범주 연구』 서울대 박사학위논문.  
 문화관광부 한국어 세계화 추진위원회(文化觀光部韓國語世界化推進委員會) (2000) 『한국어  
 교육을 위한 의미빈도 사전의 개발』 한국어 세계화 사업보고서.

- Akashi, H (2004) “Some Remarks on the Benefactive Ditransitive Construction,” *Tsukuba English Studies* 22: 3-18.
- Goldberg, A. E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- Jackendoff, R. S. (1990) *Semantic Structures*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Langacker, R. W. (1990) “Subjectification,” *Cognitive Linguistics* 1-1: 5-38.
- Levin, B. (1993) *English Verb Classes and Alternations: A Preliminary Investigation*. The University of Chicago Press.
- Pinker, S. (1989) *Learnability and Cognition: The Acquisition of Argument Structure*. The MIT Press.
- Quirk, R., S. Greenberg, G. Leech, and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Shibatani, M. (1979) “Where Analogical Patterning Fails,” *In Papers in Japanese Linguistics* 6. Los Angeles: Japanese Linguistics Workshop, Univ. of Southern California.
- (1994) “Benefactive Constructions: A Japanese-Korean Comparative Perspective,” *Japanese/Korean Linguistics* 4. 39-74.
- (2000) “Japanese Benefactive Constructions: Their Cognitive Bases and Autonomy,” in Takami, K., A. Kamio, and J. Whitman (eds.) *Syntactic and Functional Explorations: In Honor of Susumu Kuno*, 185-205. Tokyo: Kurosio Publishers.
- Washio, R. (1993) When Causitives Mean Passive: A Cross-linguistic Perspective. *Journal of East Asian Linguistics* 2: 45-90.

## 用例出典 (対訳)

- 浅田次郎『地下鉄に乗って』講談社文庫 1999 《地下鉄》  
정태원訳『지하철』문학동네 2007 《지하철》  
恩田陸『夜のピクニック』新潮社 2004 《夜》  
권남희訳『밤의 피크닉』북폴리오 2005 《밤》  
貴志祐介『硝子のハンマー』角川文庫 2007 《硝子》  
육은숙訳『유리망치』영림카디널 2010 《유리》  
重松清『くちぶえ番長』新潮文庫 2007 《番長》  
김은진訳『휘파람 반장』양철북 2009 《반장》  
原寮『私が殺した少女』角川書房 1996 《殺した少女》  
권일영訳『내가 죽인 소녀』비채 2009 《죽인소녀》  
東野圭吾『秘密』文春文庫 2001 《秘密》  
이선희訳『비밀』창해 2008 《비밀》  
東野圭吾『聖女の救済』文春文庫 2008 《聖女》  
김난주訳『성녀의 구제』재인 2009 《성녀》  
松本清張『砂の器上・下』新潮文庫 1973 《砂》  
허문순訳『모래그릇』동서문화사 2009 《모래》  
道尾秀介『向日葵の咲かない夏』新潮文庫 2008 《向日葵》  
김윤수訳『해바라기가 피지 않는 여름』들녘 2011 《해바라기》  
湊かなえ『告白』双葉文庫 2008 《告白》  
김선영訳『고백』비채 2009 《고백》  
湊かなえ『少女』早川書房 2009 《少女》  
오유리訳『소녀』은행나무 2009 《소녀》  
湊かなえ『夜行観覧車』双葉社 2010 《観覧車》  
김선영訳『야행관람차』비채 2011 《관람차》  
宮部みゆき『理由』新潮文庫 2004 《理由》  
이규원訳『이유』청어람미디어 2005 《이유》  
村上春樹『海辺のカフカ上・下』講談社文庫 2003 《海辺》  
김춘미訳『해변의 카프카』문학사상 2004 《해변》

## 用例出典 (日本語)

- 青木和雄・吉富多美『ハッピーバースデー』金の星社 2006  
青山七恵『ひとり日和』河出書房新社 2007  
青山七恵『かけら』新潮社 2009  
朝井リョウ『何者』新潮社 2012

朝吹真理子『きことわ』新潮社 2011  
阿刀田高『ナポレオン狂』講談社文庫 1982  
阿刀田高『青い罌』集英社文庫 2008  
阿部和重『グランドフィナーレ』講談社 2005  
伊岡瞬『いつか、虹の向こうへ』角川文庫 2008  
池井戸潤『下町ロケット』小学館 2010  
池井戸潤『ようこそ、わが家へ』小学館文庫 2013  
伊坂幸太郎『重力ピエロ』新潮文庫 2006  
伊坂幸太郎『アルキング』徳間書店 2009  
伊坂幸太郎『ゴールデンランバー』新潮文庫 2010  
伊坂幸太郎『SOSの猿』中央公論新社 2009  
伊坂幸太郎『モダンタイムズ上・下』講談社文庫 2011  
伊坂幸太郎『オーファザー』新潮文庫 2013  
石田衣良『4 TEEN』新潮社 2003  
石田衣良『娼年』集英社文庫 2006  
絲山秋子『沖で待つ』文藝春秋 2006  
井上荒野『切り羽へ』新潮社 2008  
伊藤たかみ『八月の路上に捨てる』文藝春秋 2006  
伊藤たかみ『指輪をはめたい』文春文庫 2006  
江國香織『号泣する準備はできていた』新潮文庫 2006  
江國香織『ぬるい眠り』新潮文庫 2007  
江國香織『赤い長靴』文春文庫 2010  
江國香織『真昼なのに昏い部屋』講談社文庫 2013  
逢坂剛『恩はあだで返せ』集英社文庫 2007  
大村友貴美『存在しなかった男』角川書店 2011  
大道珠貴『しょっぱいドライブ』文藝春秋 2003  
大道珠貴『ミルク』中公文庫 2007  
小川洋子『密やかな結晶』講談社 2004  
荻野アンナ『背負い水』文藝春秋 1991  
荻原浩『明日の記憶』光文社 2007  
奥田英朗『空中ブランコ』文春文庫 2008  
角田光代『空中庭園』文春文庫 2005  
角田光代『ロック母』講談社文庫 2010  
角田光代『八日目の蟬』中央公論新社 2011  
川上弘美『蛇を踏む』文春文庫 1999  
川上弘美『夜の公園』中公文庫 2009  
川上未映子『ヘブン』講談社 2009

貴志祐介『黒い家』角川ホラー文庫 1998  
貴志祐介『青い炎』角川文庫 1999  
京極夏彦『魍魎の匣』講談社文庫 1999  
京極夏彦『死ねばいいのに』講談社文庫 2012  
窪美澄『ふがいない僕は空を見た』新潮社 2010  
小松江里子『ガッコの先生』角川書店 2001  
孔枝泳『愛の後に来るもの』幻冬舎 2009  
桜木紫乃『ホテルローヤル』集英社 2013  
桜庭一樹『私の男』文春文庫 2010  
佐藤多佳子『聖夜』文藝春秋 2011  
朱川湊人『かたみ歌』新潮文庫 2010  
重松清『先生』新潮文庫 2011  
重松清『とんび』角川文庫 2011  
鈴木清剛『ラジオデイズ』河出文庫 2000  
瀬尾まいこ『卵の緒』マガジンハウス 2004  
高村薫『マークスの山上・下』講談社文庫 2003  
田中慎弥『共食い』集英社文庫 2013  
外山滋比古『ことばの教養』中公文庫 2008  
外山滋比古『日本語の作法』新潮文庫 2010  
南木佳士『ダイヤモンドダスト』文藝春秋 1989  
中村京子『小さなおうち』文藝春秋 2010  
中村文則『土の中の子供』新潮社 2005  
夏樹静子『てのひらのメモ』文春文庫 2012  
辻村深月『ぼくのメジャースプーン』講談社文庫 2009  
辻村深月『鍵のない夢を見る』文藝春秋 2012  
辻村深月『光待つ場所へ』講談社 2013  
津村記久子『ポトスライムの舟』講談社 2011  
津村記久子『ワーカーズ・ダイジェスト』集英社 2011  
西村賢太郎『苦役列車』新潮社 2011  
沼田まほかる『九月が永遠に続ければ』新潮文庫 2011  
中山七里『さよならドビュッシー』宝島社 2010  
貫井徳郎『殺人症候群』双葉文庫 2005  
野島伸司『高校教師』幻冬舎 2003  
乃南アサ『凍える牙』新潮文庫 2000  
乃南アサ『自白』文藝春秋 2010  
乃南アサ『ウツボカヅラの夢』双葉文庫 2011  
花村萬月『浄夜』双葉文庫 2008

林真理子『みんなの秘密』講談社文庫 2001  
東野圭吾『あの頃の誰か』光文社文庫 2011  
東野圭吾『怪しい人びと』光文社文庫 1998  
東野圭吾『探偵ガリレオ』文春文庫 2002  
東野圭吾『手紙』文春文庫 2006  
東野圭吾『ダイイング・アイ』光文社 2007  
東野圭吾『容疑者Xの献身』文春文庫 2008  
東野圭吾『新参者』講談社 2009  
東野圭吾『嘘をもう一つだけ』講談社 2009  
東野圭吾『赤い指』講談社 2009  
東野圭吾『ガリレオの苦悩』文春文庫 2011  
東野圭吾『カッコウの卵は誰のもの』光文社文庫 2013  
百田尚樹『永遠の0戦』講談社 2009  
藤野可織『爪と目』新潮社 2013  
辺見庸『自動起床装置』文藝春秋 1991  
堀江敏幸『熊の敷石』講談社 2001  
松本清張『空白の意匠』光文社文庫 2009  
松本清張『ゼロの焦点』新潮文庫 1971  
松本清張『不安な演奏』文春文庫 2012  
三崎亜紀『失われた町』集英社 2006  
三田誠広『僕って何』河出文庫 1980  
湊かなえ『贖罪』双葉文庫 2012  
宮部みゆき『返事はらない』新潮文庫 1994  
宮部みゆき『小倉写真館上・下』講談社 2013  
村上春樹『ノルウェイの森』講談社文庫 2004  
村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス 上・下』講談社文庫 2004  
村上春樹『アフタダーク』講談社 2006  
村上春樹『1Q84 I・II・III』新潮社 2009  
村上春樹『パン屋再襲撃』文春文庫 1989  
村上春樹『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』文藝春秋 2013  
村山由佳『星々の舟』文藝文庫 2006  
目取真俊『水滴』文藝春秋  
森村誠一『サランヘヨ北の国よ』光文社 2011  
森禮子『モッキングバードのいる町』新潮社 1980  
山本文緒『プラナリア』文春文庫 2005  
山本文緒『アカペラ』新潮文庫 2011  
唯川恵『燃えつきるまで』幻冬舎 2005

唯川恵『肩ごしの恋人』集英社文庫 2004  
吉田修一『パークライフ』文藝春秋 2002  
吉田修一『パレード』幻冬舎文庫 2008  
吉田修一『日曜日たち』講談社文庫 2011  
吉田修一『静かな爆弾』中公文庫 2011  
吉村萬壺『ハリガネムシ』文藝春秋 2003  
綿矢りさ『蹴りたい背中』河出書房出版 2003  
渡辺淳一『あじさい日記』講談社 2007  
『Lovers』祥伝社 2003  
『短編工場』集英社文庫 2012

## 辞書類

『広辞苑 第六版』岩波書店  
『日本語教育研究大辞典』国語教育研究所編  
『日本語文形辞典』グループ・ジャマシイ(編)(1998) くろしお出版  
『Weblio 辞書』 <http://www.weblio.jp>  
『朝鮮語文章表現辞典』白帝社 1991  
『연세국어대사전』 연대언어정보개발연구소 두산동아 2002  
『표준국어대사전』 국립국어원 <http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp>  
『카이스트』 <http://morph.kaist.ac.kr/kcp/>  
『21 세기 세종계획 말뭉치』 세종기획 <http://www.sejong.or.kr/>  
『네이버일본어사전(옛센스 일한・한일사전)』 민중서림 2013  
<http://jpdic.naver.com/main.nhn>  
『다음일본어사전(뉴에이스 일한・한일사전)』 금성출판사 2009  
<http://dic.daum.net/index.do?dic=jp>